

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5832470号
(P5832470)

(45) 発行日 平成27年12月16日(2015.12.16)

(24) 登録日 平成27年11月6日(2015.11.6)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 3 (全 132 頁)

(21) 出願番号	特願2013-72898 (P2013-72898)	(73) 特許権者	000144153
(22) 出願日	平成25年3月29日 (2013.3.29)		株式会社三共
(65) 公開番号	特開2014-195573 (P2014-195573A)		東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
(43) 公開日	平成26年10月16日 (2014.10.16)	(74) 代理人	100103090
審査請求日	平成26年7月9日 (2014.7.9)		弁理士 岩壁 冬樹
		(74) 代理人	100124501
			弁理士 塩川 誠人
		(74) 代理人	100135161
			弁理士 眞野 修二
		(72) 発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
			式会社三共内
		審査官	足立 俊彦
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技媒体が始動領域を進入した後に、可変表示の開始条件が成立したことにもとづいて可変表示を行い、当該可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御する遊技機であって、

光を透過可能な透光性を有する導光板と、

前記導光板の端面から光を入射可能に設けられた発光体と、

遊技媒体が所定領域を進入したことにもとづいて、可変入賞装置を遊技媒体が進入しやすい状態に制御する可変入賞装置制御手段と、

前記始動領域を遊技媒体が進入したが未だ前記開始条件が成立していない可変表示について、保留記憶として記憶する保留記憶手段と、

前記開始条件が成立したときに、前記保留記憶手段に記憶されている保留記憶にもとづいて、可変表示を行う可変表示手段に導出表示される表示結果を前記特定表示結果にするか否かを決定する開始条件成立時決定手段と、

前記開始条件成立時決定手段による決定前に、前記保留記憶手段に記憶されている保留記憶にもとづいて、前記可変表示手段に導出表示される表示結果が前記特定表示結果となるか否かを判定する開始条件成立前判定手段と、

前記可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否か、または可変表示において可変表示の表示結果が前記特定表示結果になる可能性を報知する所定演出を実行する所定演出実行手段と、

10

20

前記開始条件成立前判定手段による判定にもとづいて、当該判定の対象となった可変表示が実行される前に開始される可変表示で予告演出を実行するか否かを決定する予告演出決定手段と、

前記予告演出決定手段の決定にもとづいて前記予告演出を実行する予告演出実行手段とを備え、

前記導光板は、前記発光体によって該導光板の端面から該導光板の内部に入射された光を反射して該遊技機の前面に出射させる反射部が設けられ、

前記所定演出実行手段は、前記予告演出が実行されたときには、該予告演出が実行されないときに比べて、高い割合で前記所定演出を実行し、

前記予告演出実行手段は、前記予告演出として、前記発光体を発光させることにより前記導光板に設けられた前記反射部から該遊技機の前面に光を出射させる発光演出を実行する

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技媒体が始動領域を進入した後に、可変表示の開始条件が成立したことにもとづいて可変表示を行い、当該可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御する遊技機であって、

光を透過可能な透光性を有する導光板と、

前記導光板の端面から光を入射可能に設けられた発光体と、

遊技媒体が所定領域を進入したことにもとづいて、可変入賞装置を遊技媒体が進入しやすい状態に制御する可変入賞装置制御手段と、

特定演出を繰り返し実行可能な特定演出実行手段と、

前記可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否か、または可変表示において可変表示の表示結果が前記特定表示結果になる可能性を報知する所定演出を実行する所定演出実行手段とを備え、

前記導光板は、前記発光体によって該導光板の端面から該導光板の内部に入射された光を反射して該遊技機の前面に出射させる反射部が設けられ、

前記所定演出実行手段は、前記特定演出が繰り返し実行されるときには、前記特定演出が繰り返し実行されないときに比べて、高い割合で前記所定演出を実行し、

前記特定演出実行手段は、前記特定演出として、前記発光体を発光させることにより前記導光板に設けられた前記反射部から該遊技機の前面に光を出射させる発光演出を実行する

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

可変表示が行われていないときの所定期間において所定演出の実行を制限する所定演出制限手段を備えた

請求項 1 または請求項 2 記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技媒体が始動領域を進入した後に、可変表示の開始条件が成立したことにもとづいて可変表示を行い、当該可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示された場合に遊技者にとって有利な有利状態に制御するパチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機として、遊技媒体である遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技球が入賞すると、所定個の賞球が遊技者に払い出されるものがある。さらに、識別情報を可変表示（「変動」ともいう。）可能な可変表示装置が設けられ、可変表示装置において識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に与えるように構成されたものがある。

【0003】

遊技価値とは、遊技機の遊技領域に設けられた特別可変入賞球装置の状態が打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態になることや、遊技者にとって有利な状態になるための権利を発生させたりすることや、賞球払出の条件が成立しやすくなる状態になることである。

【0004】

パチンコ遊技機では、特定表示結果が導出表示された場合に特定遊技状態（例えば、大当り遊技状態）に制御される。なお、導出表示とは、識別情報（図柄）を最終的に停止表示させることである。特定遊技状態では、特別可変入賞装置（大入賞口）が所定回数開放して遊技球が入賞しやすい状態になる。そして、各開放期間において、所定個（例えば10個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。以下、各々の大入賞口の開放している期間をラウンドということがある。

10

【0005】

また、遊技機として、遊技領域に設けられている所定の通過領域を遊技球が通過すると、普通図柄可変表示装置において普通識別情報の変動を開始し、普通識別情報の表示結果（停止識別情報）が所定の表示結果（例えば、当り図柄）である場合には、可変入賞装置を、遊技球が入賞しやすい状態に制御するものがある。さらに、普通識別情報の表示結果が導出表示される前に、可変入賞装置が遊技球が入賞しやすい状態に制御されるか否かを事前に予告するように構成された遊技機がある。

【0006】

20

そのような遊技機において、可変入賞装置が遊技球が入賞しやすい状態に制御されるか否かを事前に予告する演出と、実行中の識別情報の期待度（停止識別情報が特定表示結果になる可能性）を示唆する演出とを、1つの演出態様（以下、所定演出ともいう。）によって実現するように構成された遊技機がある。例えば、特許文献1に記載された遊技機では、液晶表示装置の第1表示領域にキャラクタが登場すると第2表示領域においてルーレットがスクロール表示されるとともに、所定時間経過後に所定の図柄が停止表示されて抽選結果が報知される。この場合に、「団子」を模した図柄が停止表示されると可変入賞装置が長開放されることが報知され、「×」を模した図柄が停止表示されると可変入賞装置が短開放されることがまたはハズレであることが報知され、「激熱」という文字図柄が停止表示されるとリーチAまたはリーチBとなり大当りの期待度が高いことが報知され、「チェンジ」という文字図柄が停止表示されると短当りまたは小当りとなってチャンス演出が実行されることが報知される。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献1】特開2012-010805号公報（段落0332-0336、図44-46）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

40

特許文献1に記載された遊技機では、識別情報の期待度を示唆する演出と可変入賞装置が遊技球が入賞しやすい状態に制御されるか否かを事前に予告する演出とが所定演出で実行されるが、所定演出は常に実行される訳ではなく、所定演出が実行されていないときの遊技の興趣が十分に図られていないという課題がある。

【0009】

そこで、本発明は、所定演出が実行されていないときの遊技の興趣をより向上させることのできる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

（1）本発明による遊技機は、遊技媒体（例えば、遊技球）が始動領域（例えば、第1始

50

動口13や第2始動口14)を進入した後に、可変表示の開始条件が成立したことにもとづいて可変表示を行い、当該可変表示の表示結果として特定表示結果(例えば、大当り図柄)が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り柚木状態)に制御する遊技機であって、光を透過可能な透光性を有する導光板(例えば、前導光板505a、後導光板505b)と、導光板の端面から光を入射可能に設けられた発光体(例えば、表示用LED62a, 62b)と、遊技媒体が所定領域を進入したことにもとづいて、可変入賞装置(例えば、可変入賞球装置15)を遊技媒体が進入しやすい状態に制御する可変入賞装置制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS404の処理を実行する部分)と、始動領域を遊技媒体が進入したが未だ開始条件が成立していない可変表示について、保留記憶として記憶する保留記憶手段(例えば、合算保留記憶数カウンタ)と、開始条件が成立したときに、保留記憶手段に記憶されている保留記憶にもとづいて、可変表示を行う可変表示手段に導出表示される表示結果を特定表示結果にするか否かを決定する開始条件成立時決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS61の処理を実行する部分)と、開始条件成立時決定手段による決定前に、保留記憶手段に記憶されている保留記憶にもとづいて、可変表示手段に導出表示される表示結果が特定表示結果となるか否かを判定する開始条件成立前判定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS220, S222の処理を実行する部分)と、可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否か、または可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出を実行する所定演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS5211, S5213, S5214, S8029, S8030, S848~S851の処理を実行する部分)と、開始条件成立前判定手段による判定にもとづいて、判定の対象となった可変表示が実行される前に開始される可変表示で予告演出(例えば、先読み予告演出)を実行するか否かを決定する予告演出決定手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS6011~S6014の処理を実行する部分)と、予告演出決定手段の決定にもとづいて予告演出を実行する予告演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8032, S848~S851の処理を実行する部分)とを備え、導光板は、発光体によって該導光板の端面から該導光板の内部に入射された光を反射して該遊技機の前面に出射させる反射部(例えば、反射部510a~510c, 511)が設けられ、所定演出実行手段は、予告演出が実行されたときには、予告演出が実行されないときに比べて、高い割合で所定演出を実行し(図71参照)、予告演出実行手段は、予告演出として、発光体を発光させることにより導光板に設けられた反射部から該遊技機の前面に光を出射させる発光演出(例えば、導光板演出)を実行する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8032の処理を実行する部分)ことを特徴とする。

そのような構成によれば、所定演出が実行されていないときの遊技の興趣をより向上させることができる。

【0011】

(2) 本発明による他の態様の遊技機は、遊技媒体(例えば、遊技球)が始動領域(例えば、第1始動口13や第2始動口14)を進入した後に、可変表示の開始条件が成立したことにもとづいて可変表示を行い、当該可変表示の表示結果として特定表示結果(例えば、大当り図柄)が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り柚木状態)に制御する遊技機であって、光を透過可能な透光性を有する導光板(例えば、前導光板505a、後導光板505b)と、導光板の端面から光を入射可能に設けられた発光体(例えば、表示用LED62a, 62b)と、遊技媒体が所定領域を進入したことにもとづいて、可変入賞装置(例えば、可変入賞球装置15)を遊技媒体が進入しやすい状態に制御する可変入賞装置制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS404の処理を実行する部分)と、特定演出(例えば、擬似連中予告演出、擬似連の再変動)を繰り返し実行可能な特定演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8023B, S8032A, S848~S

10

20

30

40

50

851の処理を実行する部分や、ステップS8032A、S848～S851の処理を実行する部分)と、可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否か、または可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出を実行する所定演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS5211、S5213、S5214、S8029、S8030、S848～S851の処理を実行する部分)とを備え、導光板は、発光体によって該導光板の端面から該導光板の内部に入射された光を反射して該遊技機の前面に出射させる反射部(例えば、反射部510a～510c、511)が設けられ、所定演出実行手段は、特定演出が繰り返し実行されるときには、特定演出が繰り返し実行されないときに比べて、高い割合で所定演出を実行し(図87参照)、特定演出実行手段は、特定演出として、発光体を発光させることにより導光板に設けられた反射部から該遊技機の前面に光を出射させる発光演出(例えば、導光板演出)を実行する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS864の処理を実行する部分)ことを特徴とする。

10

そのような構成によれば、所定演出が実行されていないときの遊技の興趣をより向上させることができる。

また、可変表示が行われていないときの所定期間において所定演出の実行を制限する所定演出制限手段を備えるように構成されていてもよい。

【0012】

(3)上記の(1)の遊技機において、開始条件成立前判定手段は、可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出が実行されることに対応する保留記憶が保留記憶手段に記憶されているか否か判定し(例えば、ステップS232、S233の処理を実行)、予告演出実行手段は、開始条件成立前判定手段により所定演出が実行されると判定された保留記憶(例えば、スーパーリーチ大当りに対応する保留記憶)にもとづいて開始される可変表示よりも前に実行される可変表示において予告演出を実行する(図67参照)ように構成されていてもよい。

20

そのような構成によれば、所定演出が実行されていないときに、予告演出によって遊技者の所定演出に対する期待感を高めることができる。

【0013】

(4)上記の(1)または(3)の遊技機において、所定演出実行手段は、所定演出を実行することに決定した後に予告演出が開始された場合には、実行することに決定された所定演出が終了するまで、他の所定演出を開始しない(ステップS5211の処理で、あらためて第2所定演出を実行することに決定され、かつ、実行することが既に決定されている第2所定演出の態様と異なる態様の第2所定演出を実行することに決定されたときには、決定結果を「第2所定演出を実行しない」に変更したり、あらためて決定された方の第2所定演出の態様を、実行することが既に決定されている第2所定演出の態様に変更する変形例に相当)ように構成されていてもよい。

30

そのような構成によれば、予告演出がいずれの所定演出に対応して実行されているのか把握できない状況になることを防止できる。

【0014】

(5)上記の(1)、(3)または(4)の遊技機において、可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出が実行されることに対応する保留記憶が保留記憶手段に記憶されている場合には、保留記憶にもとづく所定演出が終了するまで、可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否かを報知する所定演出の実行を禁止する所定演出実行禁止手段(図62～図64に示す第1所定演出処理において、始動入賞時コマンド格納領域に大当りまたは小当りに対応する図柄確定コマンドが存在するか否か確認し、存在する場合には、直ちに第1所定演出処理を終了する変形例における演出制御用マイクロコンピュータ100に相当)を備えていてもよい。

40

そのような構成によれば、遊技者は、可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出が実行されていることを認識しやすくなる。

【0015】

50

(6) 上記の(2)の遊技機において、可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに仮停止させた後に可変表示を再度実行する再可変表示が1回または複数回実行される再可変表示パターン(例えば、擬似連演出を伴う変動パターン)により可変表示を実行する再可変表示実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8032A, S848~S851の処理を実行する部分)と、再可変表示パターンにより可変表示が実行されているときに、所定演出が開始されるタイミングよりも前に開始される可変表示で示唆演出(例えば、擬似連中予告演出)を実行する示唆演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8023B, S8032A, S848~S851の処理を実行する部分)とを備え、再可変表示実行手段が再可変表示を複数回実行する場合に、所定演出実行手段は、最後に仮停止した後に実行される可変表示において所定演出を実行し、示唆演出実行手段は、最後に仮停止する前に示唆演出を実行する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100が、リーチ態様になる前に擬似連中予告演出を実行し、リーチ態様になった後に第2所定演出を実行する)ように構成されていてもよい。

10

そのような構成によれば、所定演出が実行されていないときに、再可変表示中の示唆演出によって遊技者の所定演出に対する期待感を高めることができる。

【0016】

(7) 上記の(2)または(6)の遊技機において、可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに仮停止させた後に可変表示を再度実行する再可変表示が1回または複数回実行される再可変表示パターン(例えば、擬似連演出を伴う変動パターン)により可変表示を実行する再可変表示実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8032A, S848~S851の処理を実行する部分)と、再可変表示パターンにより可変表示が実行されているときに、所定演出が開始されるタイミングよりも前に開始される可変表示で示唆演出(例えば、擬似連中予告演出)を実行する示唆演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8023B, S8032A, S848~S851の処理を実行する部分)とを備え、所定演出実行手段は、可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否かを報知する第1所定演出、または可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する第2所定演出を実行することに決定した後に、示唆演出が開始された場合には、第1所定演出と第2所定演出のうち実行することに決定された方の所定演出が終了するまで、他方の所定演出を開始しない(図62~図64に示す第1所定演出処理において、第2所定演出実行フラグ(第2所定演出を実行することに決定されていることを示すフラグ)がセットされている場合には直ちに第1所定演出処理を終了するように構成され、また、図66に示す第2所定演出処理で、第1所定演出実行フラグ(第1所定演出を実行することに決定されていることを示すフラグ)がセットされている場合には直ちに第2所定演出処理を終了するように構成される変形例に相当)ように構成されていてもよい。

20

30

そのような構成によれば、示唆演出がいずれの所定演出に対応して実行されているのか把握できない状況になることを防止できる。

【0017】

(8) 上記の(2)、(6)または(7)の遊技機において、始動領域を遊技媒体が進入したときに、数値データを抽出する数値データ抽出手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS1216, S1227の処理を実行する部分)と、始動領域を遊技媒体が進入したが未だ可変表示の開始条件が成立していない可変表示について、所定の上限数を限度に、数値データ抽出手段が抽出した数値データを保留記憶として記憶する保留記憶手段(例えば、合算保留記憶数カウンタ)と、可変表示において可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出が実行されることに対応する保留記憶が保留記憶手段に記憶されている場合には、保留記憶にもとづく当該所定演出が終了するまで、可変入賞装置が遊技媒体が進入しやすい状態に制御されるか否かを報知する所定演出の実行を禁止する所定演出実行禁止手段(図62~図64に示す第1所定演出処理において、始動入賞時コマンド格納領域に大当たりまたは小当たりに対応する図柄確

40

50

定コマンドが存在するか否か確認し、存在する場合には、直ちに第 1 所定演出処理を終了する変形例における演出制御用マイクロコンピュータ 100 に相当)とを備えていてもよい。

そのような構成によれば、遊技者は、可変表示の表示結果が特定表示結果になる可能性を報知する所定演出が実行されていることを認識しやすくなる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図 1】パチンコ遊技機を正面からみた正面図である。

【図 2】スティックコントローラの構成例を示す側面図である。

【図 3】(a) は表示ユニットを斜め前方から見た状態を示す斜視図、(b) は斜め後方から見た状態を示す斜視図である。 10

【図 4】表示ユニットの内部構造を示す分解斜視図である。

【図 5】(a) は前導光板、(b) は後導光板、(c) はドットパターンを示す要部拡大図、(d) はドットパターンを示す拡大断面図である。

【図 6】上フレームの内部構造を示す分解斜視図である。

【図 7】(a) は集光レンズの平面図、(b) は集光レンズの正面図、(c) は(a)の A-A 断面図、(d) は(a)の B-B 断面図である。

【図 8】(a) は上フレームを示す要部拡大平面図、(b) は(a)の C-C 断面図、(c) は(a)の D-D 断面図である。

【図 9】表示ユニットを示す縦断面図である。 20

【図 10】図 9 の要部拡大断面図である。

【図 11】図 9 の E-E 断面図である。

【図 12】遊技制御基板(主基板)の回路構成例を示すブロック図である。

【図 13】演出制御基板、ランプドライバ基板および音声出力基板の回路構成例を示すブロック図である。

【図 14】主基板における CPU が実行するメイン処理を示すフローチャートである。

【図 15】4ms タイマ割込処理を示すフローチャートである。

【図 16】あらかじめ用意された飾り図柄の変動パターンを示す説明図である。

【図 17】各乱数を示す説明図である。

【図 18】大当たり判定テーブル、小当たり判定テーブルおよび大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。 30

【図 19】大当たり用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 20】はずれ用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 21】当たり変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 22】はずれ変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 23】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 24】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 25】図柄指定コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 26】変動カテゴリコマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 27】変動カテゴリコマンドの内容の一例を示す説明図である。 40

【図 28】普通図柄プロセス処理を示すフローチャートである。

【図 29】普通図柄当たり決定テーブルを示す説明図である。

【図 30】ゲートスイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【図 31】普通図柄変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図 32】普通図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図 33】普通図柄停止時処理を示すフローチャートである。

【図 34】特別図柄プロセス処理のプログラムの一例を示すフローチャートである。

【図 35】始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【図 36】保留特定領域および保留パuffersの構成例を示す説明図である。

【図 37】入賞時判定処理を示すフローチャートである。 50

- 【図 3 8】 特別図柄通常処理を示すフローチャートである。
【図 3 9】 特別図柄通常処理を示すフローチャートである。
【図 4 0】 変動パターン設定処理を示すフローチャートである。
【図 4 1】 表示結果指定コマンド送信処理を示すフローチャートである。
【図 4 2】 特別図柄変動中処理を示すフローチャートである。
【図 4 3】 特別図柄停止処理を示すフローチャートである。
【図 4 4】 大当たり終了処理を示すフローチャートである。
【図 4 5】 演出制御用 C P U が実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである

。

- 【図 4 6】 コマンド解析処理を示すフローチャートである。 10
【図 4 7】 コマンド解析処理を示すフローチャートである。
【図 4 8】 コマンド解析処理を示すフローチャートである。
【図 4 9】 コマンド解析処理を示すフローチャートである。
【図 5 0】 始動入賞時コマンド格納領域の具体例を示す説明図である。
【図 5 1】 演出制御用マイクロコンピュータが用いる乱数を示す説明図である。
【図 5 2】 演出制御プロセス処理を示すフローチャートである。
【図 5 3】 所定演出の実行区間の一例を示す説明図である。
【図 5 4】 所定演出の一例を示す説明図である。
【図 5 5】 所定演出の一例を示す説明図である。
【図 5 6】 所定演出の一例を示す説明図である。 20
【図 5 7】 特定演出（リーチ演出）が実行されることを報知する前に、はずれの報知結果を報知する所定演出が実行される場合の具体例を示す説明図である。
【図 5 8】 役物作動演出におけるボタン操作の有効期間とボタン操作示唆表示の表示期間を示す説明図である。

- 【図 5 9】 役物作動演出の一例を示す説明図である。
【図 6 0】 役物作動演出の他の例を示す説明図である。
【図 6 1】 役物作動演出における役物作動の実行タイミングを示す説明図である。
【図 6 2】 第 1 所定演出処理を示すフローチャートである。
【図 6 3】 第 1 所定演出処理を示すフローチャートである。
【図 6 4】 第 1 所定演出処理を示すフローチャートである。 30
【図 6 5】 第 1 所定演出決定テーブルを示す説明図である。
【図 6 6】 第 2 所定演出処理を示すフローチャートである。
【図 6 7】 第 2 所定演出決定テーブルを示す説明図である。
【図 6 8】 先読み予告決定処理を示すフローチャートである。
【図 6 9】 先読み予告決定処理を示すフローチャートである。
【図 7 0】 先読み予告決定処理を示すフローチャートである。
【図 7 1】 先読み予告演出決定テーブルを示す説明図である。
【図 7 2】 先読み予告演出の一例を示す説明図である。
【図 7 3】 変動パターンコマンド受信待ち処理を示すフローチャートである。

- 【図 7 4】 飾り図柄変動開始処理を示すフローチャートである。 40
【図 7 5】 飾り図柄変動開始処理を示すフローチャートである。
【図 7 6】 予告演出決定処理を示すフローチャートである。
【図 7 7】 予告演出決定テーブルを示す説明図である。
【図 7 8】 飾り図柄の停止図柄の一例を示す説明図である。
【図 7 9】 プロセスデータの構成例を示す説明図である。
【図 8 0】 飾り図柄変動中処理を示すフローチャートである。
【図 8 1】 飾り図柄変動停止処理を示すフローチャートである。
【図 8 2】 擬似連演出の一例を示す説明図である。
【図 8 3】 第 2 の実施の形態における飾り図柄変動開始処理を示すフローチャートである

。

【図 8 4】第 2 の実施の形態における第 2 所定演出処理を示すフローチャートである。

【図 8 5】第 2 の実施の形態における第 2 所定演出決定テーブルを示す説明図である。

【図 8 6】擬似連中予告演出決定処理を示すフローチャートである。

【図 8 7】擬似連中予告演出決定テーブルを示す説明図である。

【図 8 8】第 2 の実施の形態における飾り図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0019】

実施の形態 1.

以下、本発明の第 1 の実施の形態を、図面を参照して説明する。まず、遊技機の一例であるパチンコ遊技機 1 の全体の構成について説明する。図 1 はパチンコ遊技機 1 を正面からみた正面図である。

10

【0020】

パチンコ遊技機 1 は、縦長の方形状に形成された外枠（図示せず）と、外枠の内側に開閉可能に取り付けられた遊技枠とで構成される。また、パチンコ遊技機 1 は、遊技枠に開閉可能に設けられている額縁状に形成されたガラス扉枠 2 を有する。遊技枠は、外枠に対して開閉自在に設置される前面枠（図示せず）と、機構部品等が取り付けられる機構板（図示せず）と、それらに取り付けられる種々の部品（後述する遊技盤 6 を除く）とを含む構造体である。

【0021】

ガラス扉枠 2 の下部表面には打球供給皿（上皿） 3 がある。打球供給皿 3 の下部には、打球供給皿 3 に収容しきれない遊技球を貯留する余剰球受皿 4 や、打球を発射する打球操作ハンドル（操作ノブ） 5 が設けられている。また、ガラス扉枠 2 の背面には、遊技盤 6 が着脱可能に取り付けられている。なお、遊技盤 6 は、それを構成する板状体と、その板状体に取り付けられた種々の部品とを含む構造体である。また、遊技盤 6 の前面には、打ち込まれた遊技球が流下可能な遊技領域 7 が形成されている。

20

【0022】

余剰球受皿（下皿） 4 を形成する部材における例えば上面における手前側の所定位置（例えば下皿の中央部分）などに、スティック形状（棒形状）に構成され、遊技者が把持して複数方向（前後左右）に傾倒操作が可能なスティックコントローラ 122 が取り付けられている。

30

【0023】

図 2 は、スティックコントローラ 122 の構成例を示す側面図である。スティックコントローラ 122 は、遊技者が把持する操作桿 122A を含み、操作桿 122A の所定位置（例えば遊技者が操作桿 122A を把持したときに操作手の人差し指が掛かる位置など）には、トリガボタン 121 が設けられている。トリガボタン 121 は、遊技者がスティックコントローラ 122 の操作桿 122A を操作手（例えば左手など）で把持した状態で所定の操作指（例えば人差し指など）で押引操作することによって所定の指示操作ができるように構成されている。

【0024】

操作桿 122A の内部には、トリガボタン 121 に対する押引操作等による所定の指示操作を検知するトリガセンサ 125（図 13 を参照）が内蔵されている。スティックコントローラ 122 の下部における下皿の本体内部には、操作桿 122A に対する傾倒操作を検知する傾倒方向センサユニット 123 が設けられている。例えば、傾倒方向センサユニット 123 は、パチンコ遊技機 1 と正対する遊技者の側からみて操作桿 122A の中心位置よりも左側で遊技盤 2 の盤面と平行に配置された 2 つの透過形フォトセンサ（平行センサ対）と、この遊技者の側からみて操作桿 122A の中心位置よりも右側で遊技盤 6 の盤面と垂直に配置された 2 つの透過形フォトセンサ（垂直センサ対）とを組み合わせた 4 つの透過形フォトセンサを含んで構成されている。

40

【0025】

なお、下皿におけるスティックコントローラ 122 の取付位置は、下皿の中央部分に限

50

られず、左右のいずれかに寄せた位置であってもよい。

【0026】

打球供給皿（上皿）3を形成する部材には、例えば上皿本体の上面における手前側の所定位置（例えばスティックコントローラ122の上方）に、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン120が設けられている。プッシュボタン120は、遊技者からの押下操作などによる所定の指示操作を、機械的、電氣的、または電磁的に検出できるように構成される。プッシュボタン120の設置位置における上皿の本体内部には、プッシュボタン120に対してなされた遊技者の操作行為を検知するプッシュセンサ124（図13を参照）が設けられている。図1に示す構成例では、プッシュボタン120とスティックコントローラ122の取付位置が、上皿および下皿の中央部分において上下の位置関係にあるが、上下の位置関係を保ったまま、プッシュボタン120およびスティックコントローラ122の取付位置を、上皿および下皿において左右のいずれかに寄せた位置としてもよい。また、プッシュボタン120とスティックコントローラ122の取付位置の位置関係が上下ではなく、例えば左右の位置関係であってもよい。

10

【0027】

スティックコントローラ122に設けられたトリガボタン121は、遊技者がスティックコントローラ122の操作桿122Aを操作手で把持した状態において、操作指で押引操作することなどにより指示操作ができるように構成されている。プッシュボタン120は、スティックコントローラ122とは別個に上皿を形成するガラス扉枠2の所定位置に設けられ、遊技者がスティックコントローラ122の操作桿122Aを把持しない状態でも、操作手で押下操作することなどによって指示操作ができるように構成されている。従って、プッシュボタン120に比べて、トリガボタン121に対して、連続的な指示操作となる連打操作がなされることは困難である。

20

【0028】

また、スティックコントローラ122には、スティックコントローラ122を振動動作させるためのバイブレータ用モータ126が内蔵されている。この実施の形態では、例えば、バイブレータ用モータ126の軸の重心を偏らせたり軸に重りを取り付け、演出制御用マイクロコンピュータ100によりバイブレータ用モータ126を回転制御することによって振動を生じさせ、スティックコントローラ122を振動動作させるように制御される。

30

【0029】

演出表示装置9の右方には、識別情報としての第1特別図柄を可変表示する第1特別図柄表示器（第1可変表示部）8aが設けられている。この実施の形態では、第1特別図柄表示器8aは、0～9の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器（例えば7セグメントLED）で実現されている。すなわち、第1特別図柄表示器8aは、0～9の数字（または、記号）を可変表示するように構成されている。また、演出表示装置9の右方（第1特別図柄表示器8aの右隣）には、識別情報としての第2特別図柄を可変表示する第2特別図柄表示器（第2可変表示部）8bも設けられている。第2特別図柄表示器8bは、0～9の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器（例えば7セグメントLED）で実現されている。すなわち、第2特別図柄表示器8bは、0～9の数字（または、記号）を可変表示するように構成されている。

40

【0030】

小型の表示器は、例えば方形状に形成されている。また、この実施の形態では、第1特別図柄の種類と第2特別図柄の種類とは同じ（例えば、ともに0～9の数字）であるが、種類が異なってもよい。また、第1特別図柄表示器8aおよび第2特別図柄表示器8bは、それぞれ、例えば、00～99の数字（または、2桁の記号）を可変表示するように構成されていてもよい。

【0031】

以下、第1特別図柄と第2特別図柄とを特別図柄と総称することがあり、第1特別図柄表示器8aと第2特別図柄表示器8bとを特別図柄表示器（可変表示部）と総称すること

50

がある。

【0032】

なお、この実施の形態の遊技機は、2つの特別図柄表示器8a、8bを備えているが、遊技機は、特別図柄表示器を1つのみ備えていてもよい。

【0033】

第1特別図柄または第2特別図柄の可変表示は、可変表示の実行条件である第1始動条件または第2始動条件が成立（例えば、遊技球が第1始動入賞口13または第2始動入賞口14を通過（入賞を含む）したこと）した後、可変表示の開始条件（例えば、保留記憶数が0でない場合であって、第1特別図柄および第2特別図柄の可変表示が実行されていない状態であり、かつ、大当たり遊技が実行されていない状態）が成立したことにもとづいて開始され、可変表示時間（変動時間）が経過すると表示結果（停止図柄）を導出表示する。なお、遊技球が通過するとは、入賞口やゲートなどのあらかじめ入賞領域として定められている領域を遊技球が通過したことであり、入賞口に遊技球が入った（入賞した）ことを含む概念である。また、表示結果を導出表示するとは、図柄（識別情報の例）を最終的に停止表示させることである。

10

【0034】

また、遊技領域7の中央付近には、表示ユニット550が設けられている。また、表示ユニット550内には、液晶表示装置（LCD）で構成された演出表示装置9が設けられている。演出表示装置9は、飾り図柄の可変表示を行う可変表示装置に相当する。飾り図柄表示領域には、例えば「左」、「中」、「右」の3つの装飾用（演出用）の飾り図柄を可変表示する図柄表示エリアがある。図柄表示エリアには「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリアがあるが、図柄表示エリアの位置は、演出表示装置9の表示画面において固定的でなくてもよいし、図柄表示エリアの3つ領域が離れてもよい。演出表示装置9は、演出制御基板に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータによって制御される。演出制御用マイクロコンピュータが、第1特別図柄表示器8aで第1特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置9で演出表示を実行させ、第2特別図柄表示器8bで第2特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置9で演出表示を実行させるので、遊技の進行状況を把握しやすくすることができる。

20

【0035】

第1特別図柄表示器8aにおける第1特別図柄の可変表示と、演出表示装置9における飾り図柄の可変表示とは同期している。また、第2特別図柄表示器8bにおける第2特別図柄の可変表示と、演出表示装置9における飾り図柄の可変表示とは同期している。同期とは、可変表示の開始時点および終了時点がほぼ同じ（全く同じでもよい。）であって、可変表示の期間がほぼ同じ（全く同じでもよい。）であることをいう。また、第1特別図柄表示器8aにおいて大当たり図柄が停止表示されるときと、第2特別図柄表示器8bにおいて大当たり図柄が停止表示されるときには、演出表示装置9において大当たりを想起させるような飾り図柄の組み合わせが停止表示される。

30

【0036】

また、演出表示装置9において、最終停止図柄（例えば左右中図柄のうち中図柄）となる図柄以外の図柄が、所定時間継続して、大当たり図柄（例えば左中右の図柄が同じ図柄で揃った図柄の組み合わせ）と一致している状態で停止、揺動、拡大縮小もしくは変形している状態、または、複数の図柄が同一図柄で同期して変動したり、表示図柄の位置が入れ替わっていたりして、最終結果が表示される前で大当たり発生の可能性が継続している状態（以下、これらの状態をリーチ状態という。）において行われる演出をリーチ演出という。また、リーチ状態やその様子をリーチ態様という。さらに、リーチ演出を含む可変表示をリーチ可変表示という。そして、演出表示装置9に変動表示される図柄の表示結果が大当たり図柄でない場合には「はずれ」となり、変動表示状態は終了する。遊技者は、大当たりをいかにして発生させるかを楽しみつつ遊技を行う。

40

【0037】

50

なお、この実施の形態では、演出表示装置 9 における液晶表示の演出として飾り図柄の変動表示が行われるが、演出表示装置 9 では、例えば、キャラクタ画像を用いる演出や、大当たり判定や変動パターンの決定結果にもとづいて報知画像を表示するような演出も実行される。

【0038】

また、第 1 特別図柄表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b および演出表示装置 9 にはずれ図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態にならずに、リーチにならない所定の飾り図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような飾り図柄の可変表示態様を、可変表示結果がはずれ図柄になる場合における「非リーチ」（「通常はずれ」ともいう）の可変表示態様という。

10

【0039】

第 1 特別図柄表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b および演出表示装置 9 にはずれ図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後にリーチ演出が実行され、最終的に大当たり図柄とはならない所定の飾り図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような飾り図柄の可変表示結果を、可変表示結果が「はずれ」となる場合における「リーチ」（「リーチはずれ」ともいう）の可変表示態様という。

【0040】

この実施の形態では、第 1 特別図柄表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b に大当たり図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態になった後にリーチ演出が実行され、最終的に演出表示装置 9 における「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリア 9 L、9 C、9 R に、飾り図柄が揃って停止表示される。

20

【0041】

演出表示装置 9 の右方には、可動部材である演出用役物 1 2 7 が設けられている。演出用役物 1 2 7 は、可動部材用モータ 1 2 8 の回転軸に取り付けられ、可動部材用モータ 1 2 8 が回転すると移動する。演出表示装置 9 を用いた演出を行う場合、演出用役物 1 2 7 等の可動物が画面上の全部または一部を遮蔽するような演出が行われることがある。

【0042】

演出表示装置 9 の下方には、第 1 始動入賞口 1 3 を有する入賞装置が設けられている。第 1 始動入賞口 1 3 に入賞した遊技球は、遊技盤 6 の背面に導かれ、第 1 始動口スイッチ 1 3 a によって検出される。

30

【0043】

また、第 1 始動入賞口（第 1 始動口）1 3 を有する入賞装置の下方には、遊技球が入賞可能な第 2 始動入賞口 1 4 を有する可変入賞球装置 1 5 が設けられている。第 2 始動入賞口（第 2 始動口）1 4 に入賞した遊技球は、遊技盤 6 の背面に導かれ、第 2 始動口スイッチ 1 4 a によって検出される。可変入賞球装置 1 5 は、ソレノイド 1 6 によって開状態とされる。可変入賞球装置 1 5 が開状態になることによって、遊技球が第 2 始動入賞口 1 4 に入賞可能になり（始動入賞し易くなり）、遊技者にとって有利な状態になる。可変入賞球装置 1 5 が開状態になっている状態では、第 1 始動入賞口 1 3 よりも、第 2 始動入賞口 1 4 に遊技球が入賞しやすい。また、可変入賞球装置 1 5 が閉状態になっている状態では、遊技球は第 2 始動入賞口 1 4 に入賞しない。従って、可変入賞球装置 1 5 が閉状態になっている状態では、第 2 始動入賞口 1 4 よりも、第 1 始動入賞口 1 3 に遊技球が入賞しやすい。なお、可変入賞球装置 1 5 が閉状態になっている状態において、入賞はしづらいものの、入賞することは可能である（すなわち、遊技球が入賞しにくい）ように構成されていてもよい。

40

【0044】

以下、第 1 始動入賞口 1 3 と第 2 始動入賞口 1 4 とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【0045】

50

可変入賞球装置 15 が開放状態に制御されているときには可変入賞球装置 15 に向かう遊技球は第 2 始動入賞口 14 に極めて入賞しやすい。そして、第 1 始動入賞口 13 は演出表示装置 9 の直下に設けられているが、演出表示装置 9 の下端と第 1 始動入賞口 13 との間の間隔をさらに狭めたり、第 1 始動入賞口 13 の周辺で釘を密に配置したり、第 1 始動入賞口 13 の周辺での釘配列を遊技球を第 1 始動入賞口 13 に導きづらくして、第 2 始動入賞口 14 の入賞率の方を第 1 始動入賞口 13 の入賞率よりもより高くするようにしてもよい。

【0046】

なお、この実施の形態では、図 1 に示すように、第 2 始動入賞口 14 に対してのみ開閉動作を行う可変入賞球装置 15 が設けられているが、第 1 始動入賞口 13 および第 2 始動入賞口 14 のいずれについても開閉動作を行う可変入賞球装置が設けられている構成であってもよい。

10

【0047】

第 2 特別図柄表示器 8b の上方には、第 2 始動入賞口 14 に入った有効入賞球数すなわち第 2 保留記憶数を表示する 4 つの表示器からなる第 2 特別図柄保留記憶表示器 18b が設けられている。第 2 特別図柄保留記憶表示器 18b は、有効始動入賞がある毎に、点灯する表示器の数を 1 増やす。そして、第 2 特別図柄表示器 8b での可変表示が開始される毎に、点灯する表示器の数を 1 減らす。

【0048】

また、第 2 特別図柄保留記憶表示器 18b のさらに上方には、第 1 始動入賞口 13 に入った有効入賞球数すなわち第 1 保留記憶数（保留記憶を、始動記憶または始動入賞記憶ともいう。）を表示する 4 つの表示器からなる第 1 特別図柄保留記憶表示器 18a が設けられている。第 1 特別図柄保留記憶表示器 18a は、有効始動入賞がある毎に、点灯する表示器の数を 1 増やす。そして、第 1 特別図柄表示器 8a での可変表示が開始される毎に、点灯する表示器の数を 1 減らす。

20

【0049】

また、演出表示装置 9 の表示画面の下部には、第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計である合計数（合算保留記憶数）を表示する合算保留記憶表示部 18c が設けられている。この実施の形態では、合計数を表示する合算保留記憶表示部 18c が設けられていることによって、可変表示の開始条件が成立していない実行条件の成立数の合計を把握しやすくなることができる。なお、この実施の形態では、合算保留記憶表示部 18c において、第 1 保留記憶と第 2 保留記憶とが第 1 始動入賞口 13 および第 2 始動入賞口 14 への入賞順に並べて表示されるとともに、第 1 保留記憶であるか第 2 保留記憶であるかを認識可能な態様で表示される（例えば、第 1 保留記憶は赤色で表示され、第 2 保留記憶は青色で表示される）。

30

【0050】

また、図 1 に示すように、可変入賞球装置 15 の下方には、特別可変入賞球装置 20 が設けられている。特別可変入賞球装置 20 は開閉板を備え、第 1 特別図柄表示器 8a に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときと、第 2 特別図柄表示器 8b に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときに生起する特定遊技状態（大当り遊技状態）においてソレノイド 21 によって開閉板が開放状態に制御されることによって、入賞領域となる大入賞口（第 1 大入賞口）が開放状態になる。大入賞口に入賞した遊技球はカウントスイッチ 23 で検出される。

40

【0051】

演出表示装置 9 の左方には、普通図柄を可変表示する普通図柄表示器 10 が設けられている。この実施の形態では、普通図柄表示器 10 は、0～9 の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器（例えば 7 セグメント LED）で実現されている。すなわち、普通図柄表示器 10 は、0～9 の数字（または、記号）を可変表示するように構成されている。また、小型の表示器は、例えば方形状に形成されている。なお、普通図柄表示器 10 は、例えば、00～99 の数字（または、2 桁の記号）を可変表示するように構成されていてもよ

50

い。また、普通図柄表示器 10 は、7 セグメント L E D などに限らず、例えば、所定の記号表示を点灯表示可能な表示器（例えば、「○」や「×」を交互に点灯表示可能な装飾ランプ）で構成されていてもよい。

【0052】

演出表示装置 9 の表示画面には、普通図柄の表示結果を示唆するような演出や特別図柄の表示結果および変動パターンの種類を示唆するような演出が行われる演出エリア 9 F が表示される。

【0053】

また、演出表示装置 9 の左部には、モータ 24 によって駆動される羽根状の可動部材 76 が設けられている。可動部材 76 が左に倒れるような位置に制御されると、遊技球が第 2 大入賞口に進入可能な状態（開放状態）になる。可動部材 76 が第 2 大入賞口を塞ぐような位置に制御されると、遊技球が第 2 大入賞口に進入不可能な状態（閉鎖状態）になる。第 2 大入賞口に進入した遊技球は、第 2 入賞スイッチ 71 で検出される。

【0054】

なお、この実施の形態では、2 R 確変大当りにもとづく大当り遊技中、10 R 確変大当りおよび 15 R 確変大当りにもとづく大当り遊技中に、第 1 大入賞口が開放状態に制御される。また、小当り遊技状態中、および突然確変大当りにもとづく大当り遊技中に、第 2 大入賞口が開放状態に制御される。

【0055】

「2 R 確変大当り」は、2 ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態（高確率状態）に移行させる大当りである。「15 R 確変大当り」は、15 ラウンド（各ラウンドの開放可能時間は例えば 2.9 秒）の大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである（ただし、時短状態にも制御される）。「10 R 確変大当り」は、10 ラウンド（各ラウンドの開放可能時間は例えば 2.9 秒）の大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである（ただし、時短状態にも制御される）。

【0056】

「突然確変大当り」は、15 R 大当りや 2 R 確変大当りと比較して大入賞口（第 2 大入賞口）の開放回数が少ない回数（この実施の形態では 10 秒間の開放を 2 回）まで許容される大当りであるが、突然確変大当りにもとづく大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行される（ただし、確変状態に制御されるのみで時短状態には制御されない）。なお、「突然確変大当り」を、「突確大当り」ともいう。

【0057】

なお、この実施の形態では、突然確変大当りが発生したときに実行される大当り遊技のラウンド数は 2 であるが、15 R 大当りの場合に比べて各ラウンドの開放時間が極めて短ければ、2 ラウンドよりも多いラウンド数にしてもよい。例えば、15 R 大当りが発生したときに実行される大当り遊技のラウンド数と同じにしてもよい。

【0058】

「小当り」は、大当りと比較して大入賞口（第 2 大入賞口）の開放回数が少ない回数（この実施の形態では 10 秒間の開放を 2 回）まで許容される当りである。なお、小当り遊技が終了した場合、遊技状態は変化しない。すなわち、確変状態から通常状態に移行したり通常状態から確変状態に移行したりすることはない。この実施の形態では、突然確変大当りにもとづく大当り遊技状態と小当り遊技状態とでは、大入賞口の開放パターンが同じである。そのように制御することによって、大入賞口の 10 秒間の開放が 2 回行われると、突然確変大当りであるか小当りであるかまでは認識できないので、遊技者に対して高確率状態（確変状態）を期待させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。なお、本明細書では、小当りについても開放回をラウンドとする。

【0059】

遊技球がゲート 32 を通過しゲートスイッチ 32 a で検出されると、普通図柄表示器 10 の表示の可変表示が開始される。そして、普通図柄表示器 10 における停止図柄が所定

10

20

30

40

50

の図柄（当り図柄。例えば、図柄「7」）である場合に、可変入賞球装置15が所定回数、所定時間だけ開状態になる。すなわち、可変入賞球装置15の状態は、普通図柄の停止図柄が当り図柄である場合に、遊技者にとって不利な状態から有利な状態（第2始動入賞口14に遊技球が入賞可能な状態）に変化する。普通図柄表示器10の近傍には、ゲート32を通過した入賞球数を表示する4つのLEDによる表示部を有する普通図柄保留記憶表示器41が設けられている。ゲート32への遊技球の通過がある毎に、すなわちゲートスイッチ32aによって遊技球が検出される毎に、普通図柄保留記憶表示器41は点灯するLEDを1増やす。そして、普通図柄表示器10の可変表示が開始される毎に、点灯するLEDを1減らす。さらに、通常状態に比べて大当たりとすることに決定される確率が高い状態である確変状態（通常状態と比較して、特別図柄の変動表示結果として大当たりと判定される確率が高められた状態）では、普通図柄表示器10における停止図柄が当り図柄になる確率が高められるとともに、可変入賞球装置15の開放時間と開放回数が高められる。また、確変状態ではないが図柄の変動時間が短縮されている時短状態（特別図柄の可変表示時間が短縮される遊技状態）でも、可変入賞球装置15の開放時間と開放回数が高められる。

10

【0060】

遊技盤6の下部には、入賞しなかった打球が取り込まれるアウト口26がある。また、遊技領域7の外側の左右上部および左右下部には、所定の音声出力として効果音や音声を発声する4つのスピーカ27が設けられている。遊技領域7の外周には、前面枠に設けられた枠LED28が設けられている。

20

【0061】

遊技機には、遊技者が打球操作ハンドル5を操作することに応じて駆動モータを駆動し、駆動モータの回転力を利用して遊技球を遊技領域7に発射する打球発射装置（図示せず）が設けられている。打球発射装置から発射された遊技球は、遊技領域7を囲むように円形状に形成された打球レールを通過して遊技領域7に入り、その後、遊技領域7を下りてくる。遊技球が第1始動入賞口13に入り第1始動口スイッチ13aで検出されると、第1特別図柄の可変表示を開始できる状態であれば（例えば、特別図柄の可変表示が終了し、第1の開始条件が成立したこと）、第1特別図柄表示器8aにおいて第1特別図柄の可変表示（変動）が開始されるとともに、演出表示装置9において飾り図柄の可変表示が開始される。すなわち、第1特別図柄および飾り図柄の可変表示は、第1始動入賞口13への入賞に対応する。第1特別図柄の可変表示を開始できる状態でなければ、第1保留記憶数が上限値に達していないことを条件として、第1保留記憶数を1増やす。

30

【0062】

遊技球が第2始動入賞口14に入り第2始動口スイッチ14aで検出されると、第2特別図柄の可変表示を開始できる状態であれば（例えば、特別図柄の可変表示が終了し、第2の開始条件が成立したこと）、第2特別図柄表示器8bにおいて第2特別図柄の可変表示（変動）が開始されるとともに、演出表示装置9において飾り図柄の可変表示が開始される。すなわち、第2特別図柄および飾り図柄の可変表示は、第2始動入賞口14への入賞に対応する。第2特別図柄の可変表示を開始できる状態でなければ、第2保留記憶数が上限値に達していないことを条件として、第2保留記憶数を1増やす。

40

【0063】

この実施の形態では、確変大当たりとなった場合には、遊技状態を高確率状態に移行するとともに、遊技球が始動入賞しやすくなる（すなわち、特別図柄表示器8a、8bや演出表示装置9における可変表示の実行条件が成立しやすくなる）ように制御された遊技状態である高ベース状態に移行する。また、遊技状態が時短状態に移行されたときも、高ベース状態に移行する。高ベース状態である場合には、例えば、高ベース状態でない場合と比較して、可変入賞球装置15が開状態となる頻度が高められたり、可変入賞球装置15が開状態となる時間が延長されたりして、始動入賞しやすくなる。

【0064】

なお、可変入賞球装置15が開状態となる時間を延長する（開放延長状態ともいう）の

50

でなく、普通図柄表示器 10 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められる普通図柄確変状態に移行することによって、高ベース状態に移行してもよい。普通図柄表示器 10 における停止図柄が所定の図柄（当り図柄）となると、可変入賞球装置 15 が所定回数、所定時間だけ開状態になる。この場合、普通図柄確変状態に移行制御することによって、普通図柄表示器 10 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められ、可変入賞球装置 15 が開状態となる頻度が高まる。従って、普通図柄確変状態に移行すれば、可変入賞球装置 15 の開放時間と開放回数が高められ、始動入賞しやすい状態（高ベース状態）となる。すなわち、可変入賞球装置 15 の開放時間と開放回数は、普通図柄の停止図柄が当り図柄であったり、特別図柄の停止図柄が確変図柄である場合等に高められ、遊技者にとって不利な状態から有利な状態（始動入賞しやすい状態）に変化する。なお、開放回数が高められることは、閉状態から開状態になることも含む概念である。

10

【0065】

また、普通図柄表示器 10 における普通図柄の変動時間（可変表示期間）が短縮される普通図柄時短状態に移行することによって、高ベース状態に移行してもよい。普通図柄時短状態では、普通図柄の変動時間が短縮されるので、普通図柄の変動が開始される頻度が高くなり、結果として普通図柄が当りとなる頻度が高くなる。従って、普通図柄が当たりとなる頻度が高くなることによって、可変入賞球装置 15 が開状態となる頻度が高くなり、始動入賞しやすい状態（高ベース状態）になる。

【0066】

また、特別図柄や飾り図柄の変動時間（可変表示期間）が短縮される時短状態に移行することによって、特別図柄や飾り図柄の変動時間が短縮されるので、特別図柄や飾り図柄の変動が開始される頻度が高くなり（換言すれば、保留記憶の消化が速くなる。）、無効な始動入賞が生じてしまう事態を低減することができる。従って、有効な始動入賞が発生しやすくなり、結果として、大当たり遊技が行われる可能性が高まる。

20

【0067】

さらに、上記に示した全ての状態（開放延長状態、普通図柄確変状態、普通図柄時短状態および特別図柄時短状態）に移行させることによって、始動入賞しやすくなる（高ベース状態に移行する）ようにしてもよい。また、上記に示した各状態（開放延長状態、普通図柄確変状態、普通図柄時短状態および特別図柄時短状態）のうちのいずれか複数の状態に移行させることによって、始動入賞しやすくなる（高ベース状態に移行する）ようにしてもよい。また、上記に示した各状態（開放延長状態、普通図柄確変状態、普通図柄時短状態および特別図柄時短状態）のうちのいずれか 1 つの状態にのみ移行させることによって、始動入賞しやすくなる（高ベース状態に移行する）ようにしてもよい。

30

【0068】

次に、表示ユニット 550 の構造について説明する。図 3 は、（a）は表示ユニットを斜め前方から見た状態を示す斜視図、（b）は斜め後方から見た状態を示す斜視図である。図 4 は、表示ユニットの内部構造を示す分解斜視図である。図 5 は、（a）は前導光板、（b）は後導光板、（c）はドットパターンを示す要部拡大図、（d）はドットパターンを示す拡大断面図である。図 6 は、上フレームの内部構造を示す分解斜視図である。図 7 は、（a）は集光レンズの平面図、（b）は集光レンズの正面図、（c）は（a）の A-A 断面図、（d）は（a）の B-B 断面図である。図 8 は、（a）は上フレームを示す要部拡大平面図、（b）は（a）の C-C 断面図、（c）は（a）の D-D 断面図である。図 9 は、表示ユニットを示す縦断面図である。図 10 は、図 9 の要部拡大断面図である。図 11 は、図 9 の E-E 断面図である。

40

【0069】

なお、以下の説明においては、表示ユニット 550 を遊技機 1 の正面から見た場合を規準として上下左右方向を説明することとする。

【0070】

図 3 および図 4 に示すように、表示ユニット 550 は、演出表示装置 9 と、演出表示装置 9 の前面側に配置された表示装置 500 と、が一体的に組み付けられてなる。演出表示

50

装置 9 は、左右側辺に遊技機 1 に取り付けするための取付金具 501 a、501 b が設けられた取付部材 502 の前面に取り付けられている。表示装置 500 は、演出表示装置 9 の表示領域の前面側を覆うように配置された状態で、上辺および下辺から背面側に向けて突設された係止爪 503 a～503 c を介して取付部材 502 に係止されている。

【0071】

表示装置 500 は、光を透過可能な透光性を有する前導光板 505 a および後導光板 505 b からなる導光板 505 と、該導光板 505 の端面に光を入射可能に設けられる発光体としての表示用 LED 62 a、62 b（図 6 参照）と、導光板 505 の背面に所定の表示情報（図 5 参照）を表す態様にて設けられ、導光板 505 の端面から内部に入射された表示用 LED 62 a、62 b からの入射光を誘導して前面から出射させることで表示情報を表示する反射部 510 a～510 c、511 と、導光板 505 と表示用 LED 62 a、62 b との間に配置され、該表示用 LED 62 a、62 b からの入射光を導光板 505 側に誘導しながら板厚方向に集光して該導光板 505 の端面に向けて出射する前レンズ 507 a および後レンズ 507 b からなる集光レンズ 507（図 6 参照）と、非透光性を有する合成樹脂材により四角枠状に形成されたフレーム枠体 504 と、から主に構成されている。

10

【0072】

フレーム枠体 504 は、左フレーム 504 a および右フレーム 504 b と、これら左フレーム 504 a および右フレーム 504 b の下端間を連結する下フレーム 504 c および上端間を連結する上フレーム 504 d と、により四角枠状に形成されている。左フレーム 504 a、右フレーム 504 b および下フレーム 504 c は一体化され上向きコ字形に形成されているとともに、上フレーム 504 d は、左フレーム 504 a および右フレーム 504 b の上端にネジ N1 により着脱可能に取り付けられ、上辺を開放可能に設けられている。

20

【0073】

左フレーム 504 a、右フレーム 504 b および下フレーム 504 c の内側面には、前導光板 505 a が差し込まれる差込溝 508 a と、後導光板 505 b が差し込まれる差込溝 508 b と、が長手方向にわたり連続して、かつ平行に形成されており、図 4 に示すように上フレーム 504 d を取り外すことで、導光板 505 を上方から差込溝 508 a、508 b 内に差し込みおよび上方に抜き取り可能とされている。

30

【0074】

このように導光板 505 を左フレーム 504 a、右フレーム 504 b および下フレーム 504 c から取り外し可能に設けることで、導光板 505 を容易に交換することができるため、例えば表面が汚れたり傷付いたり、あるいは表示情報が異なる他の導光板 505 へ交換する場合において、導光板 505 のみを容易に交換することができる。

【0075】

図 5 に示すように、前導光板 505 a および後導光板 505 b は、所定の前後幅寸法 L3 {板厚（例えば、5 mm）} を有するアクリルやポリカーボネートなどの透明な合成樹脂板により正面視横長長形状に形成されている。なお、導光板 505 は、透光性を有していれば必ずしも透明でなくてもよく、例えば着色されていてもよいし、半透明とされていてもよい。

40

【0076】

前導光板 505 a の背面 505 B には、表示用 LED 62 a からの光を反射して前面 505 F から出射させるための反射部 510 a～510 c が形成されている（図 5（a）参照）。反射部 510 a は「大」、反射部 510 b は「当」、反射部 510 c は「り」の文字を表す態様に形成され、前面 505 F を左右方向に 3 等分した左領域、中領域、右領域それぞれに収まるように配置されている。

【0077】

また、後導光板 505 b の背面 505 B には、表示用 LED 62 b からの光を反射して前面 505 F から出射させるための反射部 511 が形成されている（図 5（b）参照）。

50

反射部 511 は、爆発するような態様に形成されている。

【0078】

よって、これら反射部 510a、510b、510c と反射部 511 とは、前導光板 505a と後導光板 505b とがフレーム枠体 504 に差し込まれた状態で前後に重畳する位置に配置される。

【0079】

これら反射部 510a～510c、511 は、図 5 (c) (d) に示すように、導光板 505 内を導光される光の進行方向の断面視が一定ピッチの略三角波形状をなす凹凸状態（粗面）に形成されている。具体的には、スタンパーやインジェクションにより導光板 505 の背面 505B に凹凸部をつける成型方式にて構成されているが、例えばアクリル板に白色インクで反射ドットを印刷したシルク印刷方式や、アクリル板と反射板とをドット状の粘着材で貼り付けた貼着ドット方式や、溝加工方式等により反射部を構成してもよい。

10

【0080】

なお、この実施の形態では、導光板 505 の背面 505B における反射部 510a～510c、511 を光の進行方向の断面視が略三角波形状の凹凸部としているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら反射部 510a～510c、511 の断面形状を略半円形状等、光を前面 505F に向けて反射可能な反射面を構成するものであれば種々に変形可能である。なお、図 5 (a) (b) などにおいて、これら反射部 510a～510c、511 は枠線で囲まれた文字や絵柄として表されているが、実際には枠線はなく、上記ドット等の集まりにより文字や絵柄が形成されている。

20

【0081】

また、この実施の形態では、導光板 505 により表示可能とする表示情報として、文字や絵柄が例示されているが、これら以外にも、記号、図柄、あるいは模様等の装飾も含む他の表示情報を表示可能としてもよい。以下、導光板 505 により文字や絵柄を表示する演出を導光板演出という。この実施の形態では、導光板演出は、先読み予告演出の実行時や、大当り図柄が停止表示された時に実行される。なお、この実施の形態で示した場合にかぎらず、導光板演出は、例えば、スーパーリーチ時や、大当り遊技状態中、大当り遊技後の高ベース状態中などの他に特別図柄変動中の任意のタイミングで実行されるようにしてもよい。

30

【0082】

図 6 および図 8 に示すように、上フレーム 504c には、左右方向に延設されるとともに上下方向に貫通される前後一对のレンズ溝 512a、512b が形成されている。レンズ溝 512a、512b は、中央の壁部 513 を挟んで前後に隔てて並設され、上方から下方に向けて漸次前後幅寸法が小さくなるようにテーパ状に形成されている。また、壁部 513 の左右端部には、レンズ溝 512a、512b それぞれに臨む前後一对の係止爪 517a、517b が設けられており、レンズ溝 512a、512b に嵌合された集光レンズ 507 の上端を係止して、上方への移動を規制するようになっている。

【0083】

また、上フレーム 504c の上面開口には、表示用 LED 62a、62b が下面に設けられた LED 基板 514 が嵌合可能な凹状の基板配置部 515 が形成されている。この基板配置部 515 に、LED 基板 514 を配置することで、前後のレンズ溝 512a、512b の上面開口に表示用 LED 62a、62b が対向して配置され、その左右端部に取り付け付けたネジ N2 をネジ穴 516a、516b に螺入することで LED 基板 514 を固定できるようにになっている。

40

【0084】

図 6 および図 7 に示すように、前レンズ 507a および後レンズ 507b は、アクリルまたはポリカーボネート等の透光性を有する合成樹脂材により横長板状に形成され、導光板 505 の上端面 505H に沿うように延設され、導光板 505 の上端面 505H と表示用 LED 62a、62b との間に配設される（図 11 参照）。

50

【0085】

具体的には、前レンズ507aおよび後レンズ507bの下辺部には、正面視で下向きに膨出する略半円形状の複数の凸部518が長手方向に複数連続して並設されている。各凸部518は、表示用LED62a、62b各々に対応して1つずつ形成され、各凸部518の先端面、つまり前レンズ507aおよび後レンズ507bにおいて導光板505の上端面505Hに対向する下端面507L（出射面）は、複数の湾曲面（レンズ面）を構成している。

【0086】

なお、複数の凸部518は表示用LEDに一对一に対応するものに限らず、例えば2以上のLED（発光体）に対応する凸部518（レンズ面）が複数設けられていてもよい。また、前レンズ507aおよび後レンズ507bは複数の凸部518が一体に設けられた単一の部材にて構成されていたが、上端面505Hに沿って複数並設される表示用LED62a、62b各々に対応して、互いに別個に形成された複数の集光レンズを配設してもよい。

【0087】

前レンズ507aおよび後レンズ507bの上辺部には、正面視で上向きに僅かに膨出する湾曲形状の膨出部519が長手方向に複数連続して形成されている。各膨出部519は、表示用LED62a、62b各々に対応して1つずつ形成され、各膨出部519の先端面、つまり前レンズ507aおよび後レンズ507bにおいて表示用LED62a、62bに対向する上端面507H（入射面）は、複数の湾曲面（レンズ面）を構成している。なお、湾曲状の上端面507Hは、湾曲状の下端面507Lに比べて曲率は小さく、僅かに膨出する程度に形成されている。

【0088】

また、前レンズ507aおよび後レンズ507bの下端面507Lにおける最下位部の前後幅寸法L1（板厚）は、上端面507Hの最上位部の前後幅寸法L2（板厚）よりも短寸とされている（ $L1 < L2$ ）。また、下端面507Lの前後幅寸法L1は、導光板505の前後幅寸法L3とほぼ同寸とされ（ $L1 \approx L3$ ）、上端面507Hの前後幅寸法L2は、表示用LED62a、62bの発光面62cの前後幅寸法L4（図10参照）とほぼ同寸に形成されている。

【0089】

そして、前面507Fは、上端面507Hから下端面507Lに向けて漸次後側に傾斜する平坦な傾斜面を構成し、背面507Bは、上端面507Hから下端面507Lに向けて漸次前側に傾斜する平坦な傾斜面を構成している。つまり、前面507Fおよび背面507Bは、上端面507Hから下端面507Lに向けて漸次互いに近づく方向に傾斜する傾斜面を構成しているため、前レンズ507aおよび後レンズ507bは、上端面507Hから下端面507Lに向けて漸次板厚が薄くなる縦断面視略逆ハの字状に形成されている。

【0090】

よって、前レンズ507aおよび後レンズ507bの下端面507Lの前後幅寸法（板厚）は、各凸部518における最下位部に近づくにつれて短寸となり、最下位部において前後幅寸法L1が最小となる。なお、この実施の形態では、上端面507Hと傾斜面との間に互いに平行をなす短寸の非傾斜面507Fa、507Bbが設けられている。

【0091】

前レンズ507aおよび後レンズ507bの左右端部にはフック片520a、520bが形成されており、上フレーム504d内に設けられたリブ（図示略）に上方から係止され、レンズ溝512a、512b内に保持されるようになっている。

【0092】

図8に示すように、このように構成された前レンズ507aおよび後レンズ507bは、上フレーム504dの上面開口から前後のレンズ溝512a、512b内に上方から差し込まれる。そして、上端面507Hがレンズ溝512a、512bの上面開口とほぼ同

10

20

30

40

50

高さ位置に位置するまで差し込まれ、フック片520a、520bがリブ（図示略）に係止された状態において、下端面507Lはレンズ溝512a、512bの下面開口よりもやや上方位置に位置し、レンズ溝512a、512b内下部に、導光板505が差し込まれる凹溝部が形成されるようになっている。

【0093】

実際には、上フレーム504dを左フレーム504aおよび右フレーム504bの上端間に連結したときに、前導光板505aおよび後導光板505bがレンズ溝512a、512b内下部に差し込まれる。このように、前導光板505aおよび後導光板505bがレンズ溝512a、512b内下部に差し込まれることで、前導光板505aおよび後導光板505bの上端面505Hと、前レンズ507aおよび後レンズ507bの下端面507Lとは、レンズ溝512a、512b内にて所定の隙間を隔てて対峙する。このように前導光板505aおよび後導光板505bがレンズ溝512a、512b内下部に嵌合されることで、上端面505Hと下端面507Lとの前後方向の位置ずれが防止される。

10

【0094】

また、特に図8(c)に示すように、凸部518により下端面507Lが湾曲面にて形成されていることで、下端面507Lと上端面505Hとの間に空間部が形成されるが、レンズ溝512a、512bを構成する上フレーム504dの非透光性壁面によりこの空間部が密封されることで、下端面507Lから出射される光が周囲に漏出することなく上端面505Hに入射される。なお、この実施の形態で示す例に限らず、同じ効果を得るために、例えば、上端面507Hや上端面505Hが、凹面となるように形成されていたり、ローレット形状に加工されていてもよい。

20

【0095】

図9に示すように、このように構成された表示装置500は、演出表示装置9の前面側に組み付けられる（図3参照）。前面側に組み付けられた状態において、フレーム枠体504により演出表示装置9の表示領域の周囲が囲まれるとともに、前後一对の導光板507により演出表示装置9の表示領域が全て覆われる。

【0096】

また、後導光板505bは、演出表示装置9の表示領域に対して所定の隙間（例えば、約20mm）を隔てて前面側に配置され、前導光板505aは、後導光板505bに対して所定の隙間（例えば、約15mm）を隔てて前面側に配置される。なお、この隙間幅は種々に変更可能である。また、前導光板505aと後導光板505bとを互いに当接させた状態で配置してもよい。

30

【0097】

また、演出表示装置9と表示装置500とは別個に構成され、互いに着脱可能に組み付けられて一体化できるようになっていることで、演出表示装置9と表示装置500とを一体化した状態で遊技機1に組み付けたり取り外したりすることができるため、作業性が向上するばかりか、遊技機1への組み付け時に演出表示装置9と表示装置500との相対位置にずれなどが生じることがない。

【0098】

また、演出表示装置9と前後の導光板507および表示用LED62a、62bの交換作業等を互いに分離した状態で別個に行うことができるため、交換作業が容易になる。さらに表示装置500は、導光板505、LED基板514、集光レンズ507などがフレーム枠体504を介して一体化されていることで、演出表示装置9から分離しても各部材の相対位置関係が変わることがないため、作業性が向上するとともに、交換による取り外しにより各部材の相対位置関係が変化して発光表示に悪影響が及ぶことがない。

40

【0099】

次に、図10および図11に示すように、表示装置500は、集光レンズ507、LED基板514、導光板505がフレーム枠体504に一体に組み付けられた状態において、前導光板505aの上辺に沿って前レンズ507aが配設され、前レンズ507aの上方位置に複数の表示用LED62aが長手方向に並設されるとともに、後導光板505b

50

の上辺に沿って後レンズ507bが配設され、後レンズ507bの上方位置に複数の表示用LED62bが長手方向に並設される。つまり、導光板505と表示用LED62a、62bとの間に集光レンズ507が配設される。

【0100】

具体的には、集光レンズ507は、下端面507Lが導光板505の上端面505Hに対向し、上端面507Hが各表示用LED62a、62bの発光面62cに対向する。また、各表示用LED62a、62bは、各凸部518に対応する個々の上端面507Hおよび下端面507Lの左右方向の略中央位置に配置される。

【0101】

そして、上端面507Hの前後幅寸法L2と発光面62cの前後幅寸法L4とはほぼ同寸であり（L2=L4）、発光面62cと上端面507Hとの前後方向のずれはないことで、発光面62cからの出射光は前後方向に拡散されることなく上端面507Hに入射される。また、上端面505Hの前後幅寸法L3は下端面507Lの最下位部付近の前後幅寸法L1とはほぼ同寸であり（L3=L1）、上端面505Hと下端面507Lとの前後方向のずれはないことで、下端面507Lからの出射光は前後方向に拡散されることなく上端面505Hに入射される。

【0102】

また、下端面507Lの最下位部と上端面505Hとの間および上端面507Hと表示用LED62a、62bの発光面62cとの間には、所定の隙間（例えば、約1～3mm程度）が設けられる。これにより、遊技機の輸送や使用の際に生じる振動により集光レン

【0103】

次に、表示用LED62a、62bからの出射光の導光状態について説明する。

【0104】

各表示用LED62a、62bから出射された出射光は、集光レンズ507の上端面507H内に入射される。ここで、上端面507Hの前後幅寸法L2と発光面62cの前後幅寸法L4とはほぼ同寸であるため（L2=L4）、各表示用LED62a、62bからの出射光は、前後方向に拡散せずにはほぼ上端面507H内に入射される。また、上端面507Hの左右幅は発光面62cの左右幅よりも長寸であるため、左右方向に拡散される光もほぼ上端面507H内に入射される。

【0105】

上端面507Hから集光レンズ507内に入射された入射光は、下方の導光板505に向けて誘導される。LEDの光は指向性が高いが、レンズ面をなすように湾曲状に形成された上端面507Hを通して入射されることで、入射光は左右方向に放射状に拡散される。そして、同じように湾曲状のレンズ面として形成された下端面507Lを通過する際に、鉛直下方に向けて屈折して出射されるようになっている（図11参照）。

【0106】

これにより、指向性が高い表示用LED62a、62bからの出射光を、集光レンズ507によりある程度左右方向に放射状に拡散させて発光領域を広げることが可能となるとともに、下端面507Lにおける左右方向の異なる位置から出射される光は鉛直下方に導光されて放射状に拡がることはないので、各表示用LED62a、62bに対応する鉛直下方領域のみを部分的に発光させることが可能となる。

【0107】

また、上端面507Hから集光レンズ507内に入射された入射光は、下方の導光板505に向けて誘導されながら、前後（板厚）方向に全反射を繰り返して、該前後方向の略中央位置に向けて集光され（図10参照）、最終的に上端面507Hよりも前後幅が短い下端面507Lから出射される。

【0108】

このように、表示用LED62a、62bからの光を前後幅（板厚）方向に拡散させることなく集光して導光板505の上端面505Hに導くことができるため、光の減衰が抑

10

20

30

40

50

制される。特に、表示用LED 62a, 62bの発光面62cの前後幅寸法L4が、上端面505Hの前後幅寸法L3よりも大きい場合(L4>L3)であっても、表示用LED 62a, 62bからの光を前後幅(板厚)方向に拡散させることなく導光板505の上端面505Hに導くことができるため、表示用LED 62a, 62bからの光が周囲に拡散されることが防止される。

【0109】

また、特に図示しないが、例えば表示用LED 62a, 62bが前後幅方向に複数配置される場合でも、上端面507Hの前後幅寸法L2を表示用LED 62a, 62bに応じて拡げ、これにより出射光を周囲に拡散させずに上端面507Hに入射させることができる。よって、導光板505の前後幅寸法L3(板厚)よりも表示用LED 62a, 62bの発光領域の前後幅寸法が大きい場合でも、表示用LED 62a, 62bからの出射光を誘導しながら板厚方向に集光して導光板505内に入射させることができる。

10

【0110】

下端面507Lから出射された光は、導光板505の上端面505Hに入射され、前後面により全反射を繰り返しながら下方に誘導されていく。そして、反射部510a~510c、511に到達したときに、凹部により形成された反射面にて入射光が前面側に向けて反射されることで、遊技者からは、それぞれの反射部510a~510c、511に対応する箇所が反射光により発光されることで、所定の文字やキャラクタ等の表示情報が表示されるようになる。

【0111】

20

図12は、主基板(遊技制御基板)31における回路構成の一例を示すブロック図である。なお、図12は、払出制御基板37および演出制御基板80等も示されている。主基板31には、プログラムに従ってパチンコ遊技機1を制御する遊技制御用マイクロコンピュータ(遊技制御手段に相当)560が搭載されている。遊技制御用マイクロコンピュータ560は、ゲーム制御(遊技進行制御)用のプログラム等を記憶するROM54、ワークメモリとして使用される記憶手段としてのRAM55、プログラムに従って制御動作を行うCPU56およびI/Oポート部57を含む。この実施の形態では、ROM54およびRAM55は遊技制御用マイクロコンピュータ560に内蔵されている。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、1チップマイクロコンピュータである。1チップマイクロコンピュータには、少なくともCPU56のほかRAM55が内蔵されていればよく、ROM54は外付けであっても内蔵されていてもよい。また、I/Oポート部57は、外付けであってもよい。遊技制御用マイクロコンピュータ560には、さらに、ハードウェア乱数(ハードウェア回路が発生する乱数)を発生する乱数回路53が内蔵されている。

30

【0112】

また、RAM55は、その一部または全部が電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされている不揮発性記憶手段としてのバックアップRAMである。すなわち、遊技機に対する電力供給が停止しても、所定期間(バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで)は、RAM55の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態すなわち遊技制御手段の制御状態に応じたデータ(特別図柄プロセスフラグなど)と未払出賞球数を示すデータは、バックアップRAMに保存される。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。なお、この実施の形態では、RAM55の全部が、電源バックアップされているとする。

40

【0113】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560においてCPU56がROM54に格納されているプログラムに従って制御を実行するので、以下、遊技制御用マイクロコンピュータ560(またはCPU56)が実行する(または、処理を行う)ということは、具体

50

的には、CPU 56 がプログラムに従って制御を実行することである。このことは、主基板 31 以外の他の基板に搭載されているマイクロコンピュータについても同様である。

【0114】

乱数回路 53 は、特別図柄の可変表示の表示結果により大当たりとするか否か判定するための判定用の乱数を発生するために用いられるハードウェア回路である。乱数回路 53 は、初期値（例えば、0）と上限値（例えば、65535）とが設定された数値範囲内で、数値データを、設定された更新規則に従って更新し、ランダムなタイミングで発生する始動入賞時が数値データの読出（抽出）時であることにもとづいて、読出される数値データが乱数値となる乱数発生機能を有する。

【0115】

乱数回路 53 は、数値データの更新範囲の選択設定機能（初期値の選択設定機能、および、上限値の選択設定機能）、数値データの更新規則の選択設定機能、および数値データの更新規則の選択切換え機能等の各種の機能を有する。このような機能によって、生成する乱数のランダム性を向上させることができる。

【0116】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、乱数回路 53 が更新する数値データの初期値を設定する機能を有している。例えば、ROM 54 等の所定の記憶領域に記憶された遊技制御用マイクロコンピュータ 560 の ID ナンバ（遊技制御用マイクロコンピュータ 560 の各製品毎に異なる数値で付与された ID ナンバ）を用いて所定の演算を行なって得られた数値データを、乱数回路 53 が更新する数値データの初期値として設定する。そのような処理を行うことによって、乱数回路 53 が発生する乱数のランダム性をより向上させることができる。

【0117】

また、ゲートスイッチ 32a、始動口スイッチ 13a、カウントスイッチ 23 および第 2 入賞口スイッチ 71 からの検出信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に与える入力ドライバ回路 58 も主基板 31 に搭載されている。また、可変入賞球装置 15 を開閉するソレノイド 16、大入賞口を形成する特別可変入賞球装置 20 を開閉するソレノイド 21、および第 2 大入賞口を形成するための可動部材 76 を開放状態に制御するモータ 24 を遊技制御用マイクロコンピュータ 560 からの指令に従って駆動する出力回路 59 も主基板 31 に搭載されている。

【0118】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、特別図柄を可変表示する第 1 特別図柄表示器 8a、第 2 特別図柄表示器 8b、普通図柄を可変表示する普通図柄表示器 10、第 1 特別図柄保留記憶表示器 18a、第 2 特別図柄保留記憶表示器 18b および普通図柄保留記憶表示器 41 の表示制御を行う。

【0119】

なお、大当たり遊技状態の発生を示す大当たり情報等の情報出力信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する情報出力回路（図示せず）も主基板 31 に搭載されている。

【0120】

この実施の形態では、演出制御基板 80 に搭載されている演出制御手段（演出制御用マイクロコンピュータで構成される。）が、中継基板 77 を介して遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から演出内容を指示する演出制御コマンドを受信し、飾り図柄を可変表示する演出表示装置 9 の表示制御を行う。

【0121】

また、演出制御基板 80 に搭載されている演出制御手段が、ランプドライバ基板 35 を介して、前導光板 505a に対応する表示用 LED 62a、後導光板 505b に対応する表示用 LED 62b、および枠側に設けられている枠 LED 28 の表示制御を行うとともに、音声出力基板 70 を介してスピーカ 27 からの音出力の制御を行う。

【0122】

図13は、中継基板77、演出制御基板80、ランプドライバ基板35および音声出力基板70の回路構成例を示すブロック図である。なお、図13に示す例では、ランプドライバ基板35および音声出力基板70には、マイクロコンピュータは搭載されていないが、マイクロコンピュータを搭載してもよい。また、ランプドライバ基板35および音声出力基板70を設けずに、演出制御に関して演出制御基板80のみを設けてもよい。

【0123】

演出制御基板80は、演出制御用CPU101、および飾り図柄プロセスフラグ等の演出に関する情報を記憶するRAMを含む演出制御用マイクロコンピュータ100を搭載している。なお、RAMは外付けであってもよい。この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるRAMは電源バックアップされていない。演出制御基板80において、演出制御用CPU101は、内蔵または外付けのROM（図示せず）に格納されたプログラムに従って動作し、中継基板77を介して入力される主基板31からの取込信号（演出制御INT信号）に応じて、入力ドライバ102および入力ポート103を介して演出制御コマンドを受信する。また、演出制御用CPU101は、演出制御コマンドにもとづいて、VDP（ビデオディスプレイプロセッサ）109に演出表示装置9の表示制御を行わせる。

10

【0124】

この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100と共動して演出表示装置9の表示制御を行うVDP109が演出制御基板80に搭載されている。VDP109は、演出制御用マイクロコンピュータ100とは独立したアドレス空間を有し、そこにVRAMをマッピングする。VRAMは、画像データを展開するためのバッファメモリである。そして、VDP109は、VRAM内の画像データをフレームメモリを介して演出表示装置9に出力する。

20

【0125】

演出制御用CPU101は、受信した演出制御コマンドに従ってCGROM（図示せず）から必要なデータを読み出すための指令をVDP109に出力する。CGROMは、演出表示装置9に表示されるキャラクタ画像データや動画データ、具体的には、人物、文字、図形や記号等（飾り図柄を含む）、および背景画像のデータをあらかじめ格納しておくためのROMである。VDP109は、演出制御用CPU101の指令に応じて、CGROMから画像データを読み出す。そして、VDP109は、読み出した画像データにもとづいて表示制御を実行する。

30

【0126】

演出制御コマンドおよび演出制御INT信号は、演出制御基板80において、まず、入力ドライバ102に入力する。入力ドライバ102は、中継基板77から入力された信号を演出制御基板80の内部に向かう方向にしか通過させない（演出制御基板80の内部から中継基板77への方向には信号を通過させない）信号方向規制手段としての単方向性回路でもある。

【0127】

中継基板77には、主基板31から入力された信号を演出制御基板80に向かう方向にしか通過させない（演出制御基板80から中継基板77への方向には信号を通過させない）信号方向規制手段としての単方向性回路74が搭載されている。単方向性回路として、例えばダイオードやトランジスタが使用される。図13には、ダイオードが例示されている。また、単方向性回路は、各信号毎に設けられる。さらに、単方向性回路である出力ポート571を介して主基板31から演出制御コマンドおよび演出制御INT信号が出力されるので、中継基板77から主基板31の内部に向かう信号が規制される。すなわち、中継基板77からの信号は主基板31の内部（遊技制御用マイクロコンピュータ560側）に入り込まない。なお、出力ポート571は、図12に示されたI/Oポート部57の一部である。また、出力ポート571の外側（中継基板77側）に、さらに、単方向性回路である信号ドライバ回路が設けられていてもよい。

40

【0128】

50

また、演出制御用CPU101は、トリガボタン121に対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号としての操作検出信号を、トリガセンサ125から、入力ポート106を介して入力する。また、演出制御用CPU101は、プッシュボタン120に対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号としての操作検出信号を、プッシュセンサ124から、入力ポート106を介して入力する。また、演出制御用CPU101は、スティックコントローラ122の操作桿122Aに対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号としての操作検出信号を、傾倒方向センサユニット123から、入力ポート106を介して入力する。また、演出制御用CPU101は、出力ポート105を介してバイブレータ用モータ126に駆動信号を出力することにより、スティックコントローラ122を振動動作させる。

10

【0129】

また、演出制御用CPU101は、出力ポート105を介して、演出用役物127を動作させるために可動部材用モータ128を駆動する。

【0130】

さらに、演出制御用CPU101は、出力ポート105を介してランプドライバ基板35に対してLEDを駆動する信号を出力する。また、演出制御用CPU101は、出力ポート104を介して音声出力基板70に対して音番号データを出力する。

【0131】

ランプドライバ基板35において、LEDを駆動する信号は、入力ドライバ351を介してLEDドライバ352に入力される。LEDドライバ352は、LEDを駆動する信号にもとづいて枠LED28などの枠側に設けられている発光体に電流を供給する。また、前導光板505aに対応する表示用LED62aや、後導光板505bに対応する表示用LED62bなどに電流を供給する。

20

【0132】

音声出力基板70において、音番号データは、入力ドライバ702を介して音声合成用IC703に入力される。音声合成用IC703は、音番号データに応じた音声や効果音を発生し増幅回路705に出力する。増幅回路705は、音声合成用IC703の出力レベルを、ボリューム706で設定されている音量に応じたレベルに増幅した音声信号をスピーカ27に出力する。音声データROM704には、音番号データに応じた制御データが格納されている。音番号データに応じた制御データは、所定期間（例えば飾り図柄の変動期間）における効果音または音声の出力態様を時系列的に示すデータの集まりである。

30

【0133】

次に、遊技機の動作について説明する。図14は、主基板31における遊技制御用マイクロコンピュータ560が実行するメイン処理を示すフローチャートである。遊技機に対して電源が投入され電力供給が開始されると、リセット信号が入力されるリセット端子の入力レベルがハイレベルになり、遊技制御用マイクロコンピュータ560（具体的には、CPU56）は、プログラムの内容が正当か否か確認するための処理であるセキュリティチェック処理を実行した後、ステップS1以降のメイン処理を開始する。メイン処理において、CPU56は、まず、必要な初期設定を行う。

【0134】

40

初期設定処理において、CPU56は、まず、割込禁止に設定する（ステップS1）。次に、割込モードを割込モード2に設定し（ステップS2）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップS3）。そして、内蔵デバイスの初期化（内蔵デバイス（内蔵周辺回路）であるCTC（カウンタ／タイマ）およびPIO（パラレル入出力ポート）の初期化など）を行った後（ステップS4）、RAMをアクセス可能状態に設定する（ステップS5）。なお、割込モード2は、CPU56が内蔵する特定レジスタ（Iレジスタ）の値（1バイト）と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ（1バイト：最下位ビット0）とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

【0135】

次いで、CPU56は、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（例えば、電源

50

基板に搭載されている。)の出力信号(クリア信号)の状態を確認する(ステップS6)。その確認においてオンを検出した場合には、CPU56は、通常の初期化処理(ステップS10~S15)を実行する。

【0136】

クリアスイッチがオンの状態でない場合には、遊技機への電力供給が停止したときにバックアップRAM領域のデータ保護処理(例えばパリティデータの付加等の電力供給停止時処理)が行われたか否かを確認する(ステップS7)。そのような保護処理が行われていないことを確認したら、CPU56は初期化処理を実行する。バックアップRAM領域にバックアップデータがあるか否かは、例えば、電力供給停止時処理においてバックアップRAM領域に設定されるバックアップフラグの状態によって確認される。

10

【0137】

電力供給停止時処理が行われたことを確認したら、CPU56は、バックアップRAM領域のデータチェックを行う(ステップS8)。この実施の形態では、データチェックとしてパリティチェックを行う。よって、ステップS8では、算出したチェックサムと、電力供給停止時処理で同一の処理によって算出され保存されているチェックサムとを比較する。不測の停電等の電力供給停止が生じた後に復旧した場合には、バックアップRAM領域のデータは保存されているはずであるから、チェック結果(比較結果)は正常(一致)になる。チェック結果が正常でないということは、バックアップRAM領域のデータが、電力供給停止時のデータとは異なっていることを意味する。そのような場合には、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、電力供給の停止からの復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理を実行する。

20

【0138】

チェック結果が正常であれば、CPU56は、遊技制御手段の内部状態と演出制御手段等の電気部品制御手段の制御状態を電力供給停止時の状態に戻すための遊技状態復旧処理(ステップS41~S43の処理)を行う。具体的には、ROM54に格納されているバックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し(ステップS41)、バックアップ時設定テーブルの内容を順次作業領域(RAM55内の領域)に設定する(ステップS42)。作業領域はバックアップ電源によって電源バックアップされている。バックアップ時設定テーブルには、作業領域のうち初期化してもよい領域についての初期化データが設定されている。ステップS41およびS42の処理によって、作業領域のうち初期化してはならない部分については、保存されていた内容がそのまま残る。初期化してはならない部分とは、例えば、電力供給停止前の遊技状態を示すデータ(特別図柄プロセスフラグ、高確率フラグ、高ベースフラグなど)、出力ポートの出力状態が保存されている領域(出力ポートバッファ)、未払出賞球数を示すデータが設定されている部分などである。

30

【0139】

また、CPU56は、電力供給復旧時の初期化コマンドとしての停電復旧指定コマンドを送信する(ステップS43)。そして、ステップS14に移行する。

【0140】

なお、この実施の形態では、バックアップフラグとチェックデータとの双方を用いてバックアップRAM領域のデータが保存されているか否かを確認するが、いずれか一方のみを用いてもよい。すなわち、バックアップフラグとチェックデータとのいずれかを、遊技状態復旧処理を実行するための契機にしてもよい。

40

【0141】

初期化処理では、CPU56は、まず、RAMクリア処理を行う(ステップS10)。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ(例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ)は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM55の全領域を初期化せず、所定のデータ(例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ)をそのままにしてもよい。また、ROM54に格納されている初

50

期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS11）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS12）。

【0142】

ステップS11およびS12の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0143】

また、CPU56は、サブ基板（主基板31以外のマイクロコンピュータが搭載された基板。）を初期化するための初期化指定コマンド（遊技制御用マイクロコンピュータ560が初期化処理を実行したことを示すコマンドでもある。）をサブ基板に送信する（ステップS13）。例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、初期化指定コマンドを受信すると、演出表示装置9において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示、すなわち初期化報知を行う。

10

【0144】

また、CPU56は、乱数回路53を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS14）。CPU56は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路53にランダムRの値を更新させるための設定を行う。

【0145】

そして、ステップS15において、CPU56は、所定時間（例えば4ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ560に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行なう。すなわち、初期値として例えば4msに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施の形態では、4ms毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

20

【0146】

初期化処理の実行（ステップS10～S15）が完了すると、CPU56は、メイン処理で、表示用乱数更新処理（ステップS17）および初期値用乱数更新処理（ステップS18）を繰り返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS16）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS19）。この実施の形態では、表示用乱数とは、変動パターンの種別を決定するための乱数や変動パターンを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施の形態では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当りとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当り判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ560が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当り判定用乱数のカウント値が1周（普通図柄当り判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

30

40

【0147】

タイマ割込が発生すると、CPU56は、図15に示すステップS20～S34のタイマ割込処理を実行する。タイマ割込処理において、まず、電源断信号が出力されたか否か（オン状態になったか否か）を検出する電源断検出処理を実行する（ステップS20）。電源断信号は、例えば電源基板に搭載されている電源監視回路が、遊技機に供給される電源の電圧の低下を検出した場合に出力する。そして、電源断検出処理において、CPU56は、電源断信号が出力されたことを検出したら、必要なデータをバックアップRAM領域に保存するための電力供給停止時処理を実行する。次いで、入力ドライバ回路58を介

50

して、ゲートスイッチ 3 2 a、第 1 始動口スイッチ 1 3 a、第 2 始動口スイッチ 1 4 a およびカウントスイッチ 2 3 の検出信号を入力し、それらの状態判定を行う（スイッチ処理：ステップ S 2 1）。

【0148】

次に、CPU 5 6 は、第 1 特別図柄表示器 8 a、第 2 特別図柄表示器 8 b、普通図柄表示器 1 0、第 1 特別図柄保留記憶表示器 1 8 a、第 2 特別図柄保留記憶表示器 1 8 b、普通図柄保留記憶表示器 4 1 の表示制御を行う表示制御処理を実行する（ステップ S 2 2）。第 1 特別図柄表示器 8 a、第 2 特別図柄表示器 8 b および普通図柄表示器 1 0 については、ステップ S 3 2、S 3 3 で設定される出力バッファの内容に応じて各表示器に対して駆動信号を出力する制御を実行する。

10

【0149】

また、遊技制御に用いられる普通図柄当り判定用乱数等の各判定用乱数を生成するための各カウンタのカウント値を更新する処理を行う（判定用乱数更新処理：ステップ S 2 3）。CPU 5 6 は、さらに、初期値用乱数および表示用乱数を生成するためのカウンタのカウント値を更新する処理を行う（初期値用乱数更新処理、表示用乱数更新処理：ステップ S 2 4、S 2 5）。

【0150】

さらに、CPU 5 6 は、特別図柄プロセス処理を行う（ステップ S 2 6）。特別図柄プロセス処理では、第 1 特別図柄表示器 8 a、第 2 特別図柄表示器 8 b および大入賞口を所定の順序で制御するための特別図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 5 6 は、特別図柄プロセスフラグの値を、遊技状態に応じて更新する。

20

【0151】

次いで、普通図柄プロセス処理を行う（ステップ S 2 7）。普通図柄プロセス処理では、CPU 5 6 は、普通図柄表示器 1 0 の表示状態を所定の順序で制御するための普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 5 6 は、普通図柄プロセスフラグの値を、遊技状態に応じて更新する。

【0152】

また、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に演出制御コマンドを送出する処理を行う（演出制御コマンド制御処理：ステップ S 2 8）。

【0153】

30

さらに、CPU 5 6 は、例えばホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報、始動情報、確率変動情報などのデータを出力する情報出力処理を行う（ステップ S 2 9）。

【0154】

また、CPU 5 6 は、第 1 始動口スイッチ 1 3 a、第 2 始動口スイッチ 1 4 a およびカウントスイッチ 2 3 の検出信号にもとづく賞球個数の設定などを行う賞球処理を実行する（ステップ S 3 0）。具体的には、第 1 始動口スイッチ 1 3 a、第 2 始動口スイッチ 1 4 a およびカウントスイッチ 2 3 のいずれかがオンしたことにもとづく入賞検出に応じて、払出制御基板 3 7 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータに賞球個数を示す払出制御コマンド（賞球個数信号）を出力する。払出制御用マイクロコンピュータは、賞球個数を示す払出制御コマンドに応じて球払出装置 9 7 を駆動する。

40

【0155】

この実施の形態では、出力ポートの出力状態に対応した RAM 領域（出力ポートバッファ）が設けられているのであるが、CPU 5 6 は、出力ポートの出力状態に対応した RAM 領域におけるソレノイドのオン／オフに関する内容を出力ポートに出力する（ステップ S 3 1：出力処理）。

【0156】

また、CPU 5 6 は、特別図柄プロセスフラグの値に応じて特別図柄の演出表示を行うための特別図柄表示制御データを特別図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する特別図柄表示制御処理を行う（ステップ S 3 2）。

【0157】

50

さらに、CPU 56は、普通図柄プロセスフラグの値に応じて普通図柄の演出表示を行うための普通図柄表示制御データを普通図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する普通図柄表示制御処理を行う（ステップS33）。

【0158】

その後、割込許可状態に設定し（ステップS34）、処理を終了する。

【0159】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は4ms毎に起動されることになる。なお、遊技制御処理は、タイマ割込処理におけるステップS21～S33（ステップS29を除く。）の処理に相当する。また、この実施の形態では、タイマ割込処理で遊技制御処理が実行されているが、タイマ割込処理では例えば割込が発生したことを示すフラグのセットのみがなされ、遊技制御処理はメイン処理において実行されるようにしてもよい。

10

【0160】

図16は、あらかじめ用意された飾り図柄の変動パターンを示す説明図である。図16に示すように、この実施の形態では、可変表示結果が「はずれ」であり飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、非リーチPA1-1～非リーチPA1-4の変動パターンが用意されている。また、可変表示結果が「はずれ」であり飾り図柄の可変表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、ノーマルPA2-1～ノーマルPA2-2、ノーマルPB2-1～ノーマルPB2-2、スーパーPA3-1～スーパーPA3-2、スーパーPB3-1～スーパーPB3-2の変動パターンが用意されている。なお、図16に示すように、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマルPB2-1を用いる場合には、再変動が1回行われる。また、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマルPB2-2を用いる場合には、再変動が2回行われる。さらに、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スーパーPA3-1～スーパーPA3-2を用いる場合には、再変動が3回行われる。なお、再変動とは、飾り図柄の可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに一旦はずれとなる飾り図柄を仮停止させた後に飾り図柄の可変表示を再度実行することである。

20

【0161】

また、図16に示すように、この実施の形態では、特別図柄の可変表示結果が大当り図柄または小当り図柄になる場合に対応した変動パターンとして、ノーマルPA2-3～ノーマルPA2-4、ノーマルPB2-3～ノーマルPB2-4、スーパーPA3-3～スーパーPA3-4、スーパーPB3-3～スーパーPB3-4、特殊PG1-1～特殊PG1-3、特殊PG2-1～特殊PG2-2の変動パターンが用意されている。なお、図16において、特殊PG1-1～特殊PG1-3、特殊PG2-1～特殊PG2-2の変動パターンは、突然確変大当りまたは小当りとなる場合に使用される変動パターンである。また、図16に示すように、突然確変大当りまたは小当りでない場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマルPB2-3を用いる場合には、再変動が1回行われる。また、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマルPB2-4を用いる場合には、再変動が2回行われる。さらに、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スーパーPA3-3～スーパーPA3-4を用いる場合には、再変動が3回行われる。また、突然確変大当りまたは小当りの場合に使用され擬似連の演出を伴う特殊PG1-3の変動パターンについては、再変動が1回行われる。

30

40

【0162】

なお、この実施の形態では、図16に示すように、リーチの種類に応じて変動時間が固定的に定められているが（例えば、擬似連ありのスーパーリーチAの場合には変動時間が32.75秒で固定であり、擬似連なしのスーパーリーチAの場合には変動時間が22.75秒で固定である）、例えば、同じ種類のスーパーリーチの場合であっても、合算保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよい。例えば、同じ種類のスーパー

50

リーチを伴う場合であっても、合算保留記憶数が多くなるに従って、変動時間が短くなるようにしてもよい。また、例えば、同じ種類のスーパーリーチの場合であっても、第1特別図柄の変動表示を行う場合には、第1保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよく、第2特別図柄の変動表示を行う場合には、第2保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよい。この場合、第1保留記憶数や第2保留記憶数の値ごとに別々の判定テーブルを用意しておき（例えば、保留記憶数0～2用の変動パターン種別判定テーブルと保留記憶数3、4用の変動パターン種別判定テーブルとを用意しておき）、第1保留記憶数または第2保留記憶数の値に応じて判定テーブルを選択して、変動時間を異ならせるようにしてもよい。

【0163】

10

図17は、各乱数を示す説明図である。各乱数は、以下のように使用される。

(1) ランダム1 (MR1) : 大当りの種類（後述する15R確変大当り、10R確変大当り、2R確変大当り、突然確変大当り）を決定する（大当り種別判定用）

(2) ランダム2 (MR2) : 変動パターンの種類（種別）を決定する（変動パターン種別判定用）

(3) ランダム3 (MR3) : 変動パターン（変動時間）を決定する（変動パターン判定用）

(4) ランダム4 (MR4) : 普通図柄にもとづく当りを発生させるか否か決定する（普通図柄当り判定用）

(5) ランダム5 (MR5) : ランダム4の初期値を決定する（ランダム4初期値決定用）

20

【0164】

なお、この実施の形態では、変動パターンは、まず、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）を用いて変動パターン種別を決定し、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を用いて、決定した変動パターン種別に含まれるいずれかの変動パターンに決定する。そのように、この実施の形態では、2段階の抽選処理によって変動パターンが決定される。

【0165】

なお、変動パターン種別とは、複数の変動パターンをその変動態様の特徴に従ってグループ化したものである。例えば、複数の変動パターンをリーチの種類でグループ化して、ノーマルリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチAを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチBを伴う変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連の再変動の回数でグループ化して、擬似連を伴わない変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動1回の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動2回の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動3回の変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連や滑り演出などの特定演出の有無でグループ化してもよい。

30

【0166】

なお、この実施の形態では、後述するように、15R確変大当り、10R確変大当り、2R確変大当りである場合には、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-1と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-2と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパーCA3-3とに種別分けされている。また、突然確変大当りである場合には、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-1と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-2とに種別分けされている。また、小当りである場合には、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-1に種別分けされている。また、はずれである場合には、リーチも特定演出も伴わない変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチCA2-1と、リーチを伴わないが特定演出を伴う変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチCA2-2と、リーチも特定演出も伴わない短縮変動の変動パターンを含む変動パターン種

40

50

別である非リーチCA2-3と、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-4と、ノーマルリーチおよび再変動2回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-5と、ノーマルリーチおよび再変動1回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-6と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパーCA2-7とに種別分けされている。

【0167】

図15に示された遊技制御処理におけるステップS23では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、(1)の大当たり種別判定用乱数、および(4)の普通図柄当たり判定用乱数を生成するためのカウンタのカウントアップ(1加算)を行う。すなわち、それらが判定用乱数であり、それら以外の乱数が表示用乱数(ランダム2、ランダム3)または初期値用乱数(ランダム5)である。なお、遊技効果を高めるために、上記の乱数以外の乱数も用いてもよい。また、この実施の形態では、大当たり判定用乱数として、遊技制御用マイクロコンピュータ560に内蔵されたハードウェア(遊技制御用マイクロコンピュータ560の外部のハードウェアでもよい。)が生成する乱数を用いる。なお、大当たり判定用乱数として、ハードウェア乱数ではなく、ソフトウェア乱数を用いてもよい。

【0168】

図18(A)は、大当たり判定テーブルを示す説明図である。大当たり判定テーブルとは、ROM54に記憶されているデータの集まりであって、ランダムRと比較される大当たり判定値が設定されているテーブルである。大当たり判定テーブルには、通常状態(確変状態でない遊技状態)において用いられる通常時大当たり判定テーブルと、確変状態において用いられる確変時大当たり判定テーブルとがある。通常時大当たり判定テーブルには、図18(A)の左欄に記載されている各数値が設定され、確変時大当たり判定テーブルには、図18(A)の右欄に記載されている各数値が設定されている。図18(A)に記載されている数値が大当たり判定値である。

【0169】

なお、この実施の形態では、確変状態には、大当たり抽選において大当たりと決定される確率を高めた高確率状態に移行されるとともに、高ベース状態にも移行された状態であるある場合と、高確率状態にのみ移行され高ベース状態には移行されていない(低ベース状態である)状態である場合との2つのケースがあるが、いずれのケースの場合であっても、確変状態である場合には確変時大当たり判定テーブルが用いられ、それ以外の場合に通常時大当たり判定テーブルが用いられる。

【0170】

図18(B)、(C)は、小当たり判定テーブルを示す説明図である。小当たり判定テーブルとは、ROM54に記憶されているデータの集まりであって、ランダムRと比較される小当たり判定値が設定されているテーブルである。小当たり判定テーブルには、第1特別図柄の変動表示を行うときに用いられる小当たり判定テーブル(第1特別図柄用)と、第2特別図柄の変動表示を行うときに用いられる小当たり判定テーブル(第2特別図柄用)とがある。小当たり判定テーブル(第1特別図柄用)には、図18(B)に記載されている各数値が設定され、小当たり判定テーブル(第2特別図柄用)には、図18(C)に記載されている各数値が設定されている。また、図18(B)、(C)に記載されている数値が小当たり判定値である。

【0171】

なお、第1特別図柄の変動表示を行う場合にのみ小当たりと決定するようにし、第2特別図柄の変動表示を行う場合には小当たりを設けないようにしてもよい。この場合、図18(C)に示す第2特別図柄用の小当たり判定テーブルは設けなくてもよい。この実施の形態では、遊技状態が確変状態に移行されているときには主として第2特別図柄の変動表示が実行される。遊技状態が確変状態に移行されているときにも小当たりが発生するようにし、確変となるか否かを煽る演出を行うように構成すると、現在の遊技状態が確変状態であるにもかかわらず却って遊技者に煩わしさを感じさせてしまう。そこで、第2特別図柄の変動

表示中は小当りが発生しないように構成すれば、遊技状態が確変状態である場合には小当りが発生しにくくし必要以上に確変に対する煽り演出を行わないようにすることができ、遊技者に煩わしさを感じさせる事態を防止することができる。

【0172】

CPU56は、所定の時期に、乱数回路53のカウント値を抽出して抽出値を大当り判定用乱数（ランダムR）の値とするのであるが、大当り判定用乱数値が図18（A）に示すいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（後述する15R確変大当り、10R確変大当り、2R確変大当り、突然確変大当り）にすることに決定する。また、大当り判定用乱数値が図18（B）、（C）に示すいずれかの小当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りにすることに決定する。なお、図18（A）に示す「確率」は、大当りになる確率（割合）を示す。また、図18（B）、（C）に示す「確率」は、小当りになる確率（割合）を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということは、小当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bにおける停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。

10

【0173】

なお、この実施の形態では、図18（B）、（C）に示すように、小当り判定テーブル（第1特別図柄用）を用いる場合には300分の1の割合で小当りと決定されるのに対して、小当り判定テーブル（第2特別図柄）を用いる場合には3000分の1の割合で小当りと決定される場合を説明する。従って、この実施の形態では、第1始動入賞口13に始動入賞して第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2始動入賞口14に始動入賞して第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、「小当り」と決定される割合が高い。

20

【0174】

図18（D）、（E）は、ROM54に記憶されている大当り種別判定テーブル131a、131bを示す説明図である。このうち、図18（D）は、遊技球が第1始動入賞口13に入賞したことにもとづく保留記憶を用いて（すなわち、第1特別図柄の変動表示が行われるとき）大当り種別を決定する場合の大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）131aである。また、図18（E）は、遊技球が第2始動入賞口14に入賞したことにもとづく保留記憶を用いて（すなわち、第2特別図柄の変動表示が行われるとき）大当り種別を決定する場合の大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）131bである。

30

【0175】

大当り種別判定テーブル131a、131bは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、大当り種別判定用の乱数（ランダム1）にもとづいて、大当りの種別を「15R確変大当り」、「10R確変大当り」、「2R確変大当り」、「突然確変大当り」のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。なお、この実施の形態では、図18（D）、（E）に示すように、大当り種別判定テーブル131aには「突然確変大当り」に対して8個の判定値が割り当てられている（40分の8の割合で突然確変大当りと決定される）のに対して、大当り種別判定テーブル131bには「突然確変大当り」に対して2個の判定値が割り当てられている（40分の2の割合で突然確変大当りと決定される）場合を説明する。従って、この実施の形態では、第1始動入賞口13に始動入賞して第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2始動入賞口14に始動入賞して第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、「突然確変大当り」と決定される割合が高い。なお、第1特別図柄用の大当り種別判定テーブル131aにのみ「突然確変大当り」を振り分けるようにし、第2特別図柄用の大当り種別判定テーブル131bには「突然確変大当り」の振り分けを行わない（すなわち、第1特別図柄の変動表示を行う場合にのみ、「突然確変大当り」と決定される場合がある）ようにしてもよい。

40

50

【0176】

なお、この実施の形態では、図18(D)、(E)に示すように、所定量の遊技価値を付与する第1特定遊技状態としての突然確変大当りと、該遊技価値よりも多い量の遊技価値を付与する第2特定遊技状態としての15ラウンドの確変大当り「15R確変大当り」、10ラウンドの確変大当り「10R確変大当り」および2ラウンドの確変大当り「2R確変大当り」とに決定する場合があるとともに、第1特別図柄の変動表示が実行される場合に高い割合で第1特定遊技状態とすることに決定するが、付与される遊技価値は、この実施の形態で示したようなラウンド数に限られない。例えば、第1特定遊技状態と比較して、遊技価値として1ラウンドあたりの大入賞口への遊技球の入賞数(カウント数)の許容量を多くした第2特定遊技状態を決定するようにしてもよい。また、例えば、第1特定遊技状態と比較して、遊技価値として大当り中の1回あたりの大入賞口の開放時間を長くした第2特定遊技状態を決定するようにしてもよい。また、例えば、同じ15ラウンドの大当りであっても、1ラウンドあたり大入賞口を1回開放する第1特定遊技状態と、1ラウンドあたり大入賞口を複数回開放する第2特定遊技状態とを用意し、大入賞口の開放回数が実質的に多くなるようにして第2特定遊技状態の遊技価値を高めるようにしてもよい。この場合、例えば、第1特定遊技状態または第2特定遊技状態いずれの場合であっても、大入賞口を15回開放したときに(この場合、第1特定遊技状態の場合には15ラウンド全てを終了し、第2特定遊技状態の場合には未消化のラウンドが残っていることになる)、大当りがさらに継続するか否かを煽るような態様の演出を実行するようにしてもよい。そして、第1特定遊技状態の場合には15ラウンド全てを終了していることにもとづいて大当り遊技を終了し、第2特定遊技状態の場合には未消化のラウンドが残っていることにもとづいて、大当り遊技が継続する(恰も15回開放の大当りを終了した後さらにボーナスで大入賞口の開放が追加で始まったような演出)ようにしてもよい。

10

20

【0177】

この実施の形態では、図18(D)、(E)に示すように、大当り種別として、「15R確変大当り」、「10R確変大当り」、「2R確変大当り」および「突然確変大当り」がある。なお、この実施の形態では、大当り遊技において実行されるラウンド数が15ラウンド、10ラウンドおよび2ラウンドの3種類であるが、大当り遊技において実行されるラウンド数は、この実施の形態で示したものに限られない。例えば、7ラウンドの大当り遊技に制御する7R確変大当りや、5ラウンドの大当り遊技に制御する5R確変大当りが設けられていてもよい。また、この実施の形態では、大当り種別が「15R確変大当り」、「10R確変大当り」、「2R確変大当り」および「突然確変大当り」の4種類であるが、4種類にかぎらず、例えば、5種類以上の大当り種別を設けるようにしてもよい。また、逆に、大当り種別が4種類よりも少なくてもよく、例えば、大当り種別として2種類のみ設けられていてもよい。

30

【0178】

「15R確変大当り」は、15ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである(この実施の形態では、高確率状態に移行されるとともに高ベース状態にも移行される。後述するステップS166~S169参照)。

40

【0179】

「10R確変大当り」は、10ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである(この実施の形態では、高確率状態に移行されるとともに高ベース状態にも移行される。後述するステップS166~S169参照)。

【0180】

「2R確変大当り」は、2ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである(この実施の形態では、高確率状態に移行されるとともに高ベース状態にも移行される。後述するステップS166~S169参照)。

50

【0181】

なお、「2R確変大当たり」は、後述する「突然確変大当たり」と同様に大入賞口の開放回数が2回（2ラウンド）のみ許容される大当たりであるが、「突然確変大当たり」と異なり、1ラウンドあたりの大入賞口の開放時間が長い（この実施の形態では29秒）。従って、後述する「突然確変大当たり」の場合には、大当たり遊技中に遊技球が大入賞口に入賞することは殆ど期待できないのであるが、「2R確変大当たり」となった場合には、大入賞口の開放回数は少ないものの大当たり遊技中に遊技球が大入賞口に入賞することを期待することができる。

【0182】

また、「突然確変大当たり」は、「15R確変大当たり」や「10R確変大当たり」と比較して大入賞口の開放回数が少ない回数（この実施の形態では0.1秒間の開放を2回）まで許容される大当たりである。すなわち、「突然確変大当たり」となった場合には、2ラウンドの大当たり遊技状態に制御される。また、「15R確変大当たり」や、「10R確変大当たり」、「2R確変大当たり」では、1ラウンドあたりの大入賞口の開放時間が29秒と長いのに対して、「突然確変大当たり」では1ラウンドあたりの大入賞口の開放時間が0.1秒と極めて短く、大当たり遊技中に大入賞口に遊技球が入賞することは殆ど期待できない。そして、この実施の形態では、その突然確変大当たり遊技状態の終了後に確変状態に移行される（この実施の形態では、高確率状態に移行されるとともに高ベース状態にも移行される。後述するステップS166～S169参照）。

【0183】

なお、上述したように、この実施の形態では、「小当たり」となった場合にも、大入賞口の開放が0.1秒間ずつ2回行われ、「突然確変大当たり」による大当たり遊技状態と同様の制御が行われる。そして、「小当たり」となった場合には、大入賞口の2回の開放が終了した後、遊技状態は変化せず、「小当たり」となる前の遊技状態が維持される。そのようにすることによって、「突然確変大当たり」であるか「小当たり」であるかを認識できないようにし、遊技の興趣を向上させる。なお、この実施の形態で示すように大当たり種別が全て確変大当たり（この実施の形態では、15R確変大当たり、10R確変大当たり、2R確変大当たり、突然確変大当たり）であるように構成する場合、小当たりを設けなくてもよい。また、この実施の形態のように大当たり種別が全て確変大当たりである場合に小当たりを設けるように構成する場合には、高確率状態に移行されるのみで高ベース状態を伴わない突然確変大当たりを設けるようにすること（大入賞口の開放パターンも突然確変大当たりと小当たりの場合とで同じにすること）が好ましい。

【0184】

大当たり種別判定テーブル131a, 131bには、ランダム1の値と比較される数値であって、「15R確変大当たり」、「10R確変大当たり」、「2R確変大当たり」、「突然確変大当たり」のそれぞれに対応した判定値（大当たり種別判定値）が設定されている。CPU56は、ランダム1の値が大当たり種別判定値のいずれかに一致した場合に、大当たりの種別を、一致した大当たり種別判定値に対応する種別に決定する。

【0185】

図19（A）～（C）は、大当たり用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cを示す説明図である。大当たり用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cは、可変表示結果を大当たり図柄にする旨の判定がなされたときに、大当たり種別の判定結果に応じて、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0186】

各大当たり用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cには、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）の値と比較される数値（判定値）であって、ノーマルCA3-1～ノーマルCA3-2、スーパーCA3-3、特殊CA4-1、特殊CA4-2の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

【0187】

例えば、大当たり種別が「10R確変大当たり」や「2R確変大当たり」である場合に用いられる図19(A)に示す大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Aと、大当たり種別が「15R確変大当たり」である場合に用いられる図19(B)に示す大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Bとで、ノーマルCA3-1~ノーマルCA3-2、スーパーCA3-3の変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。

【0188】

このように、大当たり種別に応じて選択される大当たり用変動パターン種別判定テーブル132A~132Cを比較すると、大当たり種別に応じて各変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。また、大当たり種別に応じて異なる変動パターン種別に対して判定値が割り当てられている。よって、大当たり種別を複数種類のうちのいずれにするかの決定結果に応じて、異なる変動パターン種別に決定することができ、同一の変動パターン種別に決定される割合を異ならせることができる。

10

【0189】

なお、図19(A)、(B)に示すように、この実施の形態では、「15R確変大当たり」、「10R確変大当たり」または「2R確変大当たり」である場合には、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)の値が150~251であれば、少なくともスーパーリーチ(スーパーリーチA、スーパーリーチB)を伴う変動表示が実行されることがわかる。

【0190】

また、スーパーリーチ大当たりについて、擬似連を伴う変動パターン種別(スーパーPA3-3、スーパーPA3-4の変動パターンを含む変動パターン種別)と、擬似連を伴わない変動パターン種別(スーパーPB3-3、スーパーPB3-4の変動パターンを含む変動パターン種別)とに分けてもよい。この場合、10R/2R確変大当たり用の大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Aおよび15R確変大当たり用の大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Bの両方において、スーパーリーチかつ擬似連を伴う変動パターン種別と、スーパーリーチかつ擬似連を伴わない変動パターン種別とが割り当てられることになる。

20

【0191】

また、大当たり種別が「突然確変大当たり」である場合に用いられる大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Cでは、例えば、特殊CA4-1、特殊CA4-2といった大当たり種別が「突然確変大当たり」以外である場合には判定値が割り当てられない変動パターン種別に対して、判定値が割り当てられている。よって、可変表示結果が「大当たり」となり大当たり種別が「突然確変大当たり」となることに応じて突然確変大当たり状態に制御する場合には、15R確変大当たりや10R確変大当たり、2R確変大当たりによる大当たり状態に制御する場合とは異なる変動パターン種別に決定することができる。

30

【0192】

また、図19(D)は、小当たり用変動パターン種別判定テーブル132Dを示す説明図である。小当たり用変動パターン種別判定テーブル132Dは、可変表示結果を小当たり図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。なお、この実施の形態では、図19(D)に示すように、小当たりとすることに決定されている場合には、変動パターン種別として特殊CA4-1が決定される場合が示されている。

40

【0193】

図20(A)~(D)は、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A~135Dを示す説明図である。このうち、図20(A)には、遊技状態が通常状態であるとともに合算保留記憶数が3未満である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Aが示されている。また、図20(B)には、遊技状態が通常状態であるとともに合算保留記憶数が3以上である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Bが示されている。また、図20(C)には、遊技状態が確変状態のうちの高確率/高ベース状態である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135C

50

が示されている。また、図20(D)には、遊技状態が確変状態のうちの高確率／低ベース状態である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Dが示されている。はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A～135Dは、可変表示結果をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0194】

なお、図20に示す例では、遊技状態が高ベース状態である場合と合算保留記憶数が3以上である場合とで別々のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135B～135Dが用いられるが、高ベース状態である場合と合算保留記憶数が3以上である場合とで、共通のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いるように構成してもよい。また、図20(C)に示す例では、合算保留記憶数にかかわらず共通の高ベース用のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Cが用いられるが、高ベース用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルとして合算保留記憶数に応じた複数のはずれ用変動パターン判定テーブル(判定値の割合を異ならせたテーブル)を用いるようにしてもよい。

【0195】

なお、この実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数が3未満である場合に用いるはずれ変動パターン種別判定テーブル135Aと、合算保留記憶数が3以上である場合に用いるはずれ変動パターン種別判定テーブル135Bとの2種類のテーブルが用いられるが、はずれ変動パターン種別判定テーブルの分け方は、この実施の形態で示したものにきぎられない。例えば、合算保留記憶数の値ごとに別々のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ備えてもよい(すなわち、合算保留記憶数0個用、合算保留記憶数1個用、合算保留記憶数2個用、合算保留記憶数3個用、合算保留記憶数4個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい)。また、例えば、合算保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、合算保留記憶数0～2用、合算保留記憶数3用、合算保留記憶数4用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。

【0196】

また、この実施の形態では、合算保留記憶数に応じてはずれ変動パターン種別判定テーブルが複数備えられているが、第1保留記憶数や第2保留記憶数に応じてはずれ変動パターン種別判定テーブルを複数備えるようにしてもよい。例えば、第1特別図柄の変動表示を行う場合には、第1保留記憶数の値ごとに別々に用意されたはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい(すなわち、第1保留記憶数0個用、第1保留記憶数1個用、第1保留記憶数2個用、第1保留記憶数3個用、第1保留記憶数4個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい)。また、例えば、第1保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、第1保留記憶数0～2用、第1保留記憶数3用、第1保留記憶数4用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。この場合であっても、第1保留記憶数や第2保留記憶数が多い場合(例えば3以上)には、変動時間が短い変動パターンを含む変動パターン種別が選択されやすいように構成すればよい。また、このような場合であっても、特定の可変表示パターンとしてのスーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対して共通の判定値を割り当てるように構成すればよい。

【0197】

なお、「特定の演出態様」とは、スーパーリーチを伴う変動パターンなど、少なくとも大当りに対する期待度が高く設定され、遊技者に大当りに対する期待感を抱かせることができる変動パターン種別、変動パターンのことである。また、「大当りに対する期待度(信頼度)」は、特定の演出態様による可変表示(例えば、スーパーリーチを伴う変動表示)が実行された場合に大当りが出現する出現率(確率)を意味する。例えば、スーパーリー

ーチを伴う変動表示が実行される場合の大当たり期待度は、（大当たりと決定されている場合にスーパーリーチが実行される割合）／（大当たりと決定されている場合およびはずれと決定されている場合の両方にスーパーリーチが実行される割合）を計算することによって求められる。

【0198】

各はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A～135Bには、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）の値と比較される数値（判定値）であって、非リーチCA2-1～非リーチCA2-3、ノーマルCA2-4～ノーマルCA2-6、スーパーCA2-7の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

【0199】

なお、図20（A）、（B）に示すように、この実施の形態では、はずれであるとともに遊技状態が通常状態である場合には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）の値が230～251であれば、合算保留記憶数にかかわらず、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動表示が実行されることがわかる。

【0200】

また、図20（A）、（B）に示すように、この実施の形態では、はずれであるとともに遊技状態が通常状態である場合には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）の値が1～79であれば、合算保留記憶数にかかわらず、少なくともリーチを伴わない（擬似連や滑り演出などの特定演出も伴わない）通常変動の変動表示が実行されることがわかる。そのようなテーブル構成により、この実施の形態では、判定テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A、135B）は、リーチ用可変表示パターン（リーチを伴う変動パターン）以外の可変表示パターンのうちの少なくとも一部に対して、保留記憶手段（第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファ）が記憶する権利の数（第1保留記憶数や第2保留記憶数、合算保留記憶数）にかかわらず、共通の判定値（図20（A）、（B）に示す例では1～79）が割り当てられるように構成されている。なお、「リーチ用可変表示パターン以外の可変表示パターン」とは、この実施の形態で示したように、例えば、リーチを伴わず、擬似連や滑り演出などの特定演出も伴わず、可変表示結果が大当たりとならない場合に用いられる可変表示パターン（変動パターン）のことである。

【0201】

なお、この実施の形態では、図19に示すように、現在の遊技状態にかかわらず、共通の大当たり用変動パターン種別判定テーブルを用いるが、現在の遊技状態が確変状態であるか通常状態であるかに応じて、それぞれ別々に用意された大当たり用変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。また、この実施の形態では、合算保留記憶数が3以上である場合に、図20（B）に示す短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるが、現在の遊技状態に応じて短縮変動の変動パターンが選択されうる場合の合算保留記憶数（第1保留記憶数や第2保留記憶数でもよい）の閾値を異ならせてもよい。例えば、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数が3である場合に（または、例えば、第1保留記憶数や第2保留記憶数が2である場合に）、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにし、遊技状態が高ベース状態である場合には、合算保留記憶数がより少ない1や2の場合でも（または、例えば、第1保留記憶数や第2保留記憶数がより少ない0や1の場合でも）、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにしてもよい。

【0202】

図21（A）、（B）は、ROM54に記憶されている当り変動パターン判定テーブル137A～137Bを示す説明図である。当り変動パターン判定テーブル137A～137Bは、可変表示結果を「大当たり」や「小当たり」にする旨の判定がなされたときに、大当たり種別や変動パターン種別の決定結果などに応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム3）にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照さ

10

20

30

40

50

れるテーブルである。各当り変動パターン判定テーブル137A～137Bは、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。すなわち、変動パターン種別をノーマルCA3-1～ノーマルCA3-2、スーパーCA3-3のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル137Aが使用テーブルとして選択され、変動パターン種別を特殊CA4-1、特殊CA4-2のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル137Bが使用テーブルとして選択される。各当り変動パターン判定テーブル137A～137Bは、変動パターン種別に応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム3）の値と比較される数値（判定値）であって、飾り図柄の可変表示結果が「大当り」である場合に対応した複数種類の変動パターンのいずれかに対応するデータ（判定値）を含む。

10

【0203】

なお、図21（A）に示す例では、変動パターン種別として、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-1と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-2と、スーパーリーチを伴う（スーパーリーチとともに擬似連を伴う場合もある）変動パターンを含む変動パターン種別であるスーパーCA3-3とに種別分けされている場合が示されている。また、図21（B）に示す例では、変動パターン種別として、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-1と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-2とに種別分けされている場合が示されている。なお、図21（B）において、リーチの有無によって変動パターン種別を分けるのではなく、擬似連や滑り演出などの特定演出の有無によって変動パターン種別を分けてもよい。この場合、例えば、特殊CA4-1は、特定演出を伴わない変動パターンである特殊PG1-1と特殊PG2-1を含むようにし、特殊CA4-2は、特定演出を伴う特殊PG1-2、特殊PG1-3および特殊PG2-2を含むように構成してもよい。

20

【0204】

図22は、ROM54に記憶されているはずれ変動パターン判定テーブル138Aを示す説明図である。はずれ変動パターン判定テーブル138Aは、可変表示結果を「はずれ」にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別の決定結果に応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム3）にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。はずれ変動パターン判定テーブル138Aは、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。

30

【0205】

図23および図24は、遊技制御用マイクロコンピュータ560が送信する演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。図23および図24に示す例において、コマンド80XX（H）は、特別図柄の可変表示に対応して演出表示装置9において可変表示される飾り図柄の変動パターンを指定する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）である（それぞれ変動パターンXXに対応）。つまり、図16に示された使用されうる変動パターンのそれぞれに対して一意な番号を付した場合に、その番号で特定される変動パターンのそれぞれに対応する変動パターンコマンドがある。なお、「（H）」は16進数であることを示す。また、変動パターンを指定する演出制御コマンドは、変動開始を指定するためのコマンドでもある。従って、演出制御用マイクロコンピュータ100は、コマンド80XX（H）を受信すると、演出表示装置9において飾り図柄の可変表示を開始するように制御する。

40

【0206】

コマンド8C01（H）～8C06（H）は、大当たりとするか否か、小当たりとするか否か、および大当たり種別を示す演出制御コマンドである。演出制御用マイクロコンピュータ100は、コマンド8C01（H）～8C06（H）の受信に応じて飾り図柄の表示結果を決定するので、コマンド8C01（H）～8C06（H）を表示結果指定コマンドという。

【0207】

50

コマンド8D01(H)は、第1特別図柄の可変表示(変動)を開始することを示す演出制御コマンド(第1図柄変動指定コマンド)である。コマンド8D02(H)は、第2特別図柄の可変表示(変動)を開始することを示す演出制御コマンド(第2図柄変動指定コマンド)である。第1図柄変動指定コマンドと第2図柄変動指定コマンドとを特別図柄特定コマンド(または図柄変動指定コマンド)と総称することがある。なお、第1特別図柄の可変表示を開始するのか第2特別図柄の可変表示を開始するのかを示す情報を、変動パターンコマンドに含めるようにしてもよい。

【0208】

コマンド8E01(H)は、普通図柄の表示結果が当たりになることを示すとともに普通図柄の変動を開始することを示す普通図柄開始指定(当たり)コマンドであり、コマンド8E02(H)は、普通図柄の表示結果がはずれになることを示すとともに普通図柄の変動を開始することを示す普通図柄開始指定(はずれ)コマンドである。コマンド8E03(H)は、普通図柄の変動(可変表示)を終了することを示す普通図柄変動終了指定コマンドである。ただし、この実施の形態では、遊技状態(高ベース状態/低ベース状態)に応じて普通図柄の変動時間は一定であるから、普通図柄変動終了指定コマンドを使用しなくてもよい。

【0209】

コマンド8F00(H)は、可変表示(変動)を終了して表示結果(停止図柄)を導出表示することを示す演出制御コマンド(図柄確定指定コマンド)である。演出制御用マイクロコンピュータ100は、図柄確定指定コマンドを受信すると、飾り図柄の可変表示(変動)を終了して表示結果を導出表示する。

【0210】

コマンド9000(H)は、遊技機に対する電力供給が開始されたときに送信される演出制御コマンド(初期化指定コマンド:電源投入指定コマンド)である。コマンド9200(H)は、遊技機に対する電力供給が再開されたときに送信される演出制御コマンド(停電復旧指定コマンド)である。遊技制御用マイクロコンピュータ560は、遊技機に対する電力供給が開始されたときに、バックアップRAMにデータが保存されている場合には、停電復旧指定コマンドを送信し、そうでない場合には、初期化指定コマンドを送信する。

【0211】

コマンド9F00(H)は、客待ちデモンストレーションを指定する演出制御コマンド(客待ちデモ指定コマンド)である。

【0212】

コマンドA001, A002(H)は、ファンファーレ画面を表示すること、すなわち大当たり遊技の開始を指定する演出制御コマンド(大当たり開始指定コマンド:ファンファーレ指定コマンド)である。この実施の形態では、大当たりの種類に応じて、大当たり開始指定コマンドまたは小当たり/突然確変大当たり開始指定コマンドが用いられる。具体的には、「15R確変大当たり」や、「10R確変大当たり」、「2R確変大当たり」である場合には大当たり開始指定コマンド(A001(H))が用いられ、「突然確変大当たり」や「小当たり」である場合には小当たり/突然確変大当たり開始指定コマンド(A002(H))が用いられる。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、突然大当たりである場合に突然確変大当たり開始指定用のファンファーレ指定コマンドを送信するものの、小当たりである場合にはファンファーレ指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

【0213】

コマンドA1XX(H)は、XXで示す回数(ラウンド)の大入賞口開放中の表示を示す演出制御コマンド(大入賞口開放中指定コマンド)である。なお、大入賞口開放中指定コマンドはラウンドごとにそのラウンドを指定する値がEXTデータに設定されて送信されるので、ラウンドごとに異なる大入賞口開放中指定コマンドが送信される。例えば、大当たり遊技中の第1ラウンドを実行する際には、ラウンド1を指定する大入賞口開放中指定コマンド(A101(H))が送信され、大当たり遊技中の第10ラウンドを実行する際

10

20

30

40

50

には、ラウンド10を指定する大入賞口開放中指定コマンド(A10A(H))が送信される。A2XX(H)は、XXで示す回数(ラウンド)の大入賞口閉鎖を示す演出制御コマンド(大入賞口開放後指定コマンド)である。なお、大入賞口開放後指定コマンドはラウンドごとにそのラウンドを指定する値がEXTデータに設定されて送信されるので、ラウンドごとに異なる大入賞口開放後指定コマンドが送信される。例えば、大当たり遊技中の第1ラウンドを終了する際には、ラウンド1を指定する大入賞口開放後指定コマンド(A201(H))が送信され、大当たり遊技中の第10ラウンドを終了する際には、ラウンド10を指定する大入賞口開放後指定コマンド(A30A(H))が送信される。

【0214】

コマンドA301(H)は、大当たり終了画面を表示すること、すなわち大当たり遊技の終了を指定する演出制御コマンド(大当たり終了指定コマンド：エンディング1指定コマンド)である。なお、大当たり終了指定コマンド(A301(H))は、「15R確変大当たり」や、「10R確変大当たり」、「2R確変大当たり」による大当たり遊技を終了する場合に用いられる。コマンドA302(H)は、小当りの遊技の終了または突然確変大当りの遊技の終了を指定する演出制御コマンド(小当たり／突然確変大当たり終了指定コマンド：エンディング2指定コマンド)である。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、突然確変大当たりである場合に突然確変大当たり終了指定用のエンディング指定コマンドを送信するものの、小当たりである場合にはエンディング指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

【0215】

コマンドB001(H)は、遊技状態が低ベース状態であることを示す演出制御コマンド(低ベース状態指定コマンド)である。コマンドB002(H)は、遊技状態が高ベース状態であることを示す演出制御コマンド(高ベース状態指定コマンド)である。コマンドB003(H)は、遊技状態が確変状態でないことを示す演出制御コマンド(非確変状態指定コマンド)である。コマンドB004(H)は、遊技状態が確変状態であることを示す演出制御コマンド(確変状態指定コマンド)である。

【0216】

なお、低ベース状態指定コマンド、高ベース状態指定コマンド、非確変状態指定コマンドおよび確変状態指定コマンドを遊技状態指定コマンドと総称することがある。

【0217】

コマンドC000(H)は、第1始動入賞があったことを指定する演出制御コマンド(第1始動入賞指定コマンド)である。コマンドC100(H)は、第2始動入賞があったことを指定する演出制御コマンド(第2始動入賞指定コマンド)である。なお、この実施の形態では、以下、第1始動入賞指定コマンドと第2始動入賞指定コマンドとを、始動入賞指定コマンドと総称することがある。

【0218】

コマンドC2XX(H)は、第1保留記憶数と第2保留記憶数との合計である合計数(合算保留記憶数)を指定する演出制御コマンド(合算保留記憶数指定コマンド)である。コマンドC2XX(H)における「XX」が、合算保留記憶数を示す。コマンドC300(H)は、合算保留記憶数を1減算することを指定する演出制御コマンド(合算保留記憶数減算指定コマンド)である。なお、この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、合算保留記憶数を減算する場合には合算保留記憶数減算指定コマンドを送信するが、合算保留記憶数減算指定コマンドを使用せず、合算保留記憶数を減算するときに、減算後の合算保留記憶数を指定する合算保留記憶数指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0219】

なお、この実施の形態では、保留記憶数を指定するコマンドとして、合算保留記憶数を指定する合算保留記憶数指定コマンドを送信するが、第1保留記憶と第2保留記憶とのうち増加した方の保留記憶数を指定するコマンドを送信するように構成してもよい。具体的には、第1保留記憶が増加した場合に第1保留記憶数を指定する第1保留記憶数指定コマ

ンドを送信し、第2保留記憶が増加した場合に第2保留記憶数を指定する第2保留記憶数指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0220】

また、この実施の形態では、保留記憶情報として、第1始動入賞口13と第2始動入賞口14とのいずれに始動入賞したかを指定する始動入賞指定コマンドを送信するとともに、合算保留記憶数を指定する合算保留記憶数指定コマンドを送信するが、保留記憶情報として送信する演出制御コマンドは、この実施の形態で示したものにかぎられない。例えば、保留記憶数が増加したときに、第1保留記憶数または第2保留記憶数が増加したことを示す保留記憶数加算指定コマンド（第1保留記憶数加算指定コマンドまたは第2保留記憶数加算指定コマンド）を送信する一方、保留記憶数が減少したときに、第1保留記憶数または第2保留記憶数が減少したことを示す保留記憶数減算指定コマンド（第1保留記憶数減算指定コマンドまたは第2保留記憶数減算指定コマンド）を送信するようにしてもよい。

10

【0221】

コマンドC4XX(H)およびコマンドC6XX(H)は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンドC4XX(H)は、入賞時判定結果のうち、大当たりとなるか否かや、小当たりとなるか否か、大当たりの種別の判定結果を示す演出制御コマンド（図柄指定コマンド）である。また、コマンドC6XX(H)は、入賞時判定結果のうち、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかの判定結果（変動パターン種別の判定結果）を示す演出制御コマンド（変動カテゴリコマンド）である。

20

【0222】

この実施の形態では、後述する入賞時判定処理（図37参照）において、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、始動入賞時に、大当たりとなるか否かや、小当たりとなるか否か、大当たりの種別、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかを判定する。そして、図柄指定コマンドのEXTデータに、大当たりや小当たりとなることを指定する値や、大当たりの種別を指定する値を設定し、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して送信する制御を行う。また、変動カテゴリコマンドのEXTデータに判定結果としての判定値の範囲を指定する値を設定し、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して送信する制御を行う。なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図柄指定コマンドに設定されている値にもとづいて、表示結果が大当たりや小当たりとなるか否か、大当たりの種別を認識できるとともに、変動カテゴリコマンドにもとづいて、変動パターン種別判定用乱数の値が所定の判定値となる場合には変動パターン種別を認識できる。

30

【0223】

図25は、図柄指定コマンドの内容の一例を示す説明図である。図25に示すように、この実施の形態では、大当たりや小当たりとなるか否かと、大当たりの種別とに応じて、EXTデータが設定され、図柄指定コマンドが送信される。

【0224】

例えば、後述する入賞時判定処理において、「はずれ」となると判定された場合には、CPU56は、EXTデータに「00(H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄1指定コマンド）を送信する。また、例えば、「15R確変大当たり」となると判定された場合には、CPU56は、EXTデータに「01(H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄2指定コマンド）を送信する。また、例えば、「10R確変大当たり」となると判定された場合には、CPU56は、EXTデータに「02(H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄3指定コマンド）を送信する。また、例えば、「2R確変大当たり」となると判定された場合には、CPU56は、EXTデータに「03(H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄4指定コマンド）を送信する。また、例えば、「突然確変大当たり」となると判定された場合には、CPU56は、EXTデータに「04(H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄5指定コマンド）を送信する。また、例えば、「小当たり」となると判定された場合

40

50

には、CPU 56は、EXTデータに「05 (H)」を設定した図柄指定コマンド（図柄6指定コマンド）を送信する。なお、図柄指定コマンドに設定されるEXTデータと、表示結果指定コマンドに設定されるEXTデータとを共通化してもよい。そのように構成すれば、図柄指定コマンドを設定する際と表示結果指定コマンドを設定する際とで、読み出すデータを共通化することができる。

【0225】

図26および図27は、変動カテゴリコマンドの内容の一例を示す説明図である。図26および図27に示すように、この実施の形態では、いずれの遊技状態であるかと、特別図柄や飾り図柄の表示結果がいずれの表示結果となるかと、始動入賞時に変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲になると判定したとかに応じて、EXTデータに値が設定され、変動カテゴリコマンドが送信される。

10

【0226】

例えば、始動入賞時に、遊技状態が通常状態かつはずれとなると判定した場合、後述する入賞時判定処理のステップS232において、CPU 56は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が1～79となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が1～79となる場合には、CPU 56は、EXTデータに「00 (H)」を設定した変動カテゴリ1コマンドを送信する。なお、この実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数にかかわらず、判定値1～79の範囲には非リーチCA2-1の変動パターン種別が共通に割り当てられているのであるから、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動カテゴリ1コマンドを受信したことにもとづいて、少なくとも変動パターン種別が非リーチCA2-1となることを認識することができる。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が80～89となる場合には、EXTデータに「01 (H)」を設定した変動カテゴリ2コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が90～99となる場合には、EXTデータに「02 (H)」を設定した変動カテゴリ3コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が100～169となる場合には、EXTデータに「03 (H)」を設定した変動カテゴリ4コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が170～199となる場合には、EXTデータに「04 (H)」を設定した変動カテゴリ5コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が200～214となる場合には、EXTデータに「05 (H)」を設定した変動カテゴリ6コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が215～229となる場合には、EXTデータに「06 (H)」を設定した変動カテゴリ7コマンドを送信する。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が230～251となる場合には、EXTデータに「07 (H)」を設定した変動カテゴリ8コマンドを送信する。なお、この実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数にかかわらず、判定値230～251の範囲にはスーパーCA2-7の変動パターン種別が共通に割り当てられているのであるから、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動カテゴリ8コマンドを受信したことにもとづいて、少なくとも変動パターン種別がスーパーCA2-7となることを認識することができる。

20

30

【0227】

なお、上記のいずれの変動カテゴリに属するかを判定するために用いられる閾値79、89、99、169、199、214および229は、具体的には、図20 (A)、(B)に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける各変動パターン種別に割り当てられた判定値の範囲の境界となりうる値を抽出して導き出されたものである。このことは、他の変動カテゴリ9～12、21～29についても同様であり、図19 (A)～(D)や図20 (C)、(D)に示す変動パターン種別判定テーブルにおける各変動パターン種別に割り当てられた判定値の範囲の境界となりうる値を抽出してカテゴリ判定のために用いられる閾値が導き出される。

40

【0228】

また、例えば、始動入賞時に、遊技状態が高確率／高ベース状態かつはずれとなると判

50

定した場合、後述する入賞時判定処理のステップS 2 3 2において、CPU 5 6は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が1～2 1 9となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が1～2 1 9となる場合（すなわち、非リーチCA 2－3の変動パターン種別となる場合）には、CPU 5 6は、EXTデータに「0 8（H）」を設定した変動カテゴリ9コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が2 2 0～2 5 1となる場合（すなわち、スーパーCA 2－7の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「0 9（H）」を設定した変動カテゴリ1 0コマンドを送信する。

【0 2 2 9】

また、例えば、始動入賞時に、遊技状態が高確率／低ベース状態かつはずれとなると判定した場合、後述する入賞時判定処理のステップS 2 3 2において、CPU 5 6は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が1～7 9となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が1～7 9となる場合（すなわち、非リーチCA 2－1の変動パターン種別となる場合）には、CPU 5 6は、EXTデータに「0 A（H）」を設定した変動カテゴリ1 1コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が8 0～2 5 1となる場合（すなわち、スーパーCA 2－7の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「0 B（H）」を設定した変動カテゴリ1 2コマンドを送信する。

【0 2 3 0】

なお、遊技状態が確変状態（高確率／高ベース状態や高確率／低ベース状態）である場合にも、判定値2 3 0～2 5 1の範囲にスーパーCA 2－7の変動パターン種別を割り当てるようにしてもよい。そのようにすれば、遊技状態にかかわらず、スーパーCA 2－7の変動パターン種別に対して共通の判定値が割り当てられるようにすることができる。そのため、後述する入賞時演出の処理のステップS 2 3 2の処理を実行する際に、はずれであれば、遊技状態にかかわらず共通の判定処理を行えばよくなり、プログラム容量をより低減することができる。また、この場合、ステップS 2 2 6の遊技状態の判定処理も不要とすることができる。

【0 2 3 1】

また、例えば、始動入賞時に、「1 0 R確変大当たり」または「2 R確変大当たり」となると判定した場合、後述する入賞時判定処理のステップS 2 3 2において、CPU 5 6は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が1～7 4となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が1～7 4となる場合（すなわち、ノーマルCA 3－1の変動パターン種別となる場合）には、CPU 5 6は、EXTデータに「1 0（H）」を設定した変動カテゴリ2 1コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が7 5～1 4 9となる場合（すなわち、ノーマルCA 3－2の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「1 1（H）」を設定した変動カテゴリ2 2コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が1 5 0～2 5 1となる場合（すなわち、スーパーCA 3－3の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「1 2（H）」を設定した変動カテゴリ2 3コマンドを送信する。

【0 2 3 2】

また、例えば、始動入賞時に、「1 5 R確変大当たり」となると判定した場合、後述する入賞時判定処理のステップS 2 3 2において、CPU 5 6は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が1～3 8となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が1～3 8となる場合（すなわち、ノーマルCA 3－1の変動パターン種別となる場合）には、CPU 5 6は、EXTデータに「1 3（H）」を設定した変動カテゴリ2 4コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が3 9～7 9となる場合（すなわち、ノーマルCA 3－2の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「1 4（H）」を設定した変動カテゴリ2 5コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6は、変動パターン種別判定用乱数の値が8 0～2 5 1となる場合（すなわち、スーパーCA 3－3の変動パターン種別となる場合）には、EXTデータに「1 5（H）」を設定

10

20

30

40

50

した変動カテゴリ 2 6 コマンドを送信する。

【0 2 3 3】

また、例えば、始動入賞時に、突然確変大当たりとなると判定した場合、後述する入賞時判定処理のステップ S 2 3 2 において、CPU 5 6 は、まず、変動パターン種別判定用乱数の値が 1 ~ 1 0 0 となるか否かを判定する。変動パターン種別判定用乱数の値が 1 ~ 1 0 0 となる場合（すなわち、特殊 C A 4 - 1 の変動パターン種別となる場合）には、CPU 5 6 は、EXT データに「1 6 (H)」を設定した変動カテゴリ 2 7 コマンドを送信する。次いで、CPU 5 6 は、変動パターン種別判定用乱数の値が 1 0 1 ~ 2 5 1 場合（すなわち、特殊 C A 4 - 2 の変動パターン種別となる場合）には、EXT データに「1 7 (H)」を設定した変動カテゴリ 2 8 コマンドを送信する。

10

【0 2 3 4】

また、例えば、始動入賞時に、小当たりとなると判定した場合、CPU 5 6 は、EXT データに「1 8 (H)」を設定した変動カテゴリ 2 9 コマンドを送信する。

【0 2 3 5】

なお、始動入賞時に入賞時判定を行ったときと実際に変動表示を開始するときとでは必ずしも合算保留記憶数が同じであるとは限らないのであるから、入賞時判定結果指定コマンドで示される変動パターン種別が実際に変動表示で用いられる変動パターン種別と一致しない場合も生じうる。しかし、この実施の形態では、少なくとも非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 3 の変動パターン種別については、合算保留記憶数にかかわらず共通の判定値が割り当てられているのであるから（図 1 9 および図 2 0 参照）、入賞時判定結果と実際に実行される変動表示の変動パターン種別とで不整合が生じない。そのため、この実施の形態では、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 またはスーパー C A 3 - 3 の変動パターン種別になると入賞時判定された変動表示に対して後述する先読み予告演出（先読み予告）が実行される。なお、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 3 の変動パターン種別となると判定した場合にのみ、図 2 6 および図 2 7 に示す変動カテゴリコマンド（具体的には、変動カテゴリ 1 コマンド、変動カテゴリ 8 コマンド、変動カテゴリ 2 3 コマンド、変動カテゴリ 2 6 コマンドのみ）を送信し、それ以外の変動パターン種別の入賞時判定結果の場合には変動カテゴリコマンドを送信しないようにしてもよい。また、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 3 以外となると入賞時判定された場合には、変動パターン種別を特定不能であることを示す変動カテゴリコマンドを送信するようにしてもよい。

20

30

【0 2 3 6】

また、「先読み予告演出」は、予告演出の対象となる変動表示が開始されるよりも前に実行される予告演出のことである。この実施の形態では、予告対象となる変動表示に対する始動入賞が発生した後に開始される変動表示から演出を開始し、1 回の変動表示において予告演出を行う。しかし、複数回の変動表示に亘って予告演出を実行してもよい。その場合、予告演出の対象となる変動表示が開始されるよりも前の変動表示から予告演出を開始して、その予告演出の対象となる変動表示の直前の変動表示までで予告演出を終了してもよいし、その予告演出の対象となる変動表示にも亘って予告演出を行ってもよい。また、複数回の変動表示にわたって必ずしも連続して実行する必要はなく、例えば、1 回おきまたは 2 回おきに間欠的に複数回の可変表示において予告演出を実行してもよい。

40

【0 2 3 7】

なお、この実施の形態では、遊技状態にかかわらず（例えば、高確率状態や高ベース状態であるか否かや、大当たり遊技中であるか否かにかかわらず）、始動入賞が発生するごとに入賞時判定の処理が実行され、必ず図 2 5 に示す図柄指定コマンドが送信されるとともに図 2 6 および図 2 7 に示す変動カテゴリコマンドが送信される。そして、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、受信した図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドにもとづいて、予告対象の変動表示が開始される以前に、前もって大当たりとなるか否かやリーチとなるか否かを予告する先読み予告演出を実行する。

【0 2 3 8】

50

演出制御基板 80 に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、演出制御用 CPU 101）は、主基板 31 に搭載されている遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から上述した演出制御コマンドを受信すると、図 23 および図 24 に示された内容に応じて画像表示装置 9 の表示状態を変更したり、ランプの表示状態を変更したり、音声出力基板 70 に対して音番号データを出力したりする。

【0239】

例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、始動入賞があり第 1 特別図柄表示器 8a または第 2 特別図柄表示器 8b において特別図柄の可変表示が開始される度に、飾り図柄の変動パターンを指定する変動パターンコマンドおよび表示結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。

10

【0240】

この実施の形態では、演出制御コマンドは 2 バイト構成であり、1 バイト目は MODE（コマンドの分類）を表し、2 バイト目は EXT（コマンドの種類）を表す。MODE データの先頭ビット（ビット 7）は必ず「1」に設定され、EXT データの先頭ビット（ビット 7）は必ず「0」に設定される。なお、そのようなコマンド形態は一例であって他のコマンド形態を用いてもよい。例えば、1 バイトや 3 バイト以上で構成される制御コマンドを用いてもよい

【0241】

なお、演出制御コマンドの送出方式として、演出制御信号 CD0～CD7 の 8 本のパレル信号線で 1 バイトずつ主基板 31 から中継基板 77 を介して演出制御基板 80 に演出制御コマンドデータを出力し、演出制御コマンドデータの他に、演出制御コマンドデータの取込を指示するパルス状（矩形波状）の取込信号（演出制御 INT 信号）を出力する方式を用いる。演出制御コマンドの 8 ビットの演出制御コマンドデータは、演出制御 INT 信号に同期して出力される。演出制御基板 80 に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、演出制御 INT 信号が立ち上がったことを検知して、割込処理によって 1 バイトのデータの取り込み処理を開始する。

20

【0242】

図 23 および図 24 に示す例では、変動パターンコマンドおよび表示結果指定コマンドを、第 1 特別図柄表示器 8a での第 1 特別図柄の変動に対応した飾り図柄の可変表示（変動）と第 2 特別図柄表示器 8b での第 2 特別図柄の変動に対応した飾り図柄の可変表示（変動）とで共通に使用でき、第 1 特別図柄および第 2 特別図柄の可変表示に伴って演出を行う画像表示装置 9 などの演出用部品を制御する際に、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信されるコマンドの種類を増大させないようにすることができる。

30

【0243】

次に、CPU 56 が実行する普通図柄プロセス処理（ステップ S28）を説明する。図 28 は、普通図柄プロセス処理を示すフローチャートである。普通図柄プロセス処理において、CPU 56 は、ゲートスイッチ 32a がオン状態となったこと、すなわち遊技球がゲート 32 を通過したことを検出すると（ステップ S411）、ゲートスイッチ通過処理（ステップ S412）を実行する。その後、ステップ S400～S404 のいずれかの処理を実行する。

40

【0244】

ステップ S400～S404 の処理は、以下のような処理である。

【0245】

普通図柄通常処理（ステップ S400）：CPU 56 は、普通図柄の変動を開始することができる状態（例えば、普通図柄表示器 10 において普通図柄の変動表示が実行されている状態でなく、かつ、可変入賞球装置 15 の開放状態でない場合）には、ゲート通過記憶数の値を確認する。具体的には、ゲート通過記憶数カウンタのカウント値を確認する。ゲート通過記憶数が 0 でなければ、当りとするか否か（普通図柄の停止図柄を当り図柄とするか否か）を決定する。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動パターン

50

設定処理（ステップS401）を示す値（この例では「1」）に更新する。

【0246】

普通図柄変動パターン設定処理（ステップS401）：普通図柄が可変表示され導出表示されるまでの可変表示時間（普通図柄の変動時間）に相当する値を普通図柄プロセスタイマにセットすることによって普通図柄プロセスタイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップS402）に応じた値（この例では「2」）に更新する。

【0247】

普通図柄変動処理（ステップS402）：CPU56は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否か確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄表示器10における普通図柄の変動を停止する。また、普通図柄プロセスタイマに普通図柄停止図柄表示時間に相当する値をセットすることによって普通図柄プロセスタイマをスタートさせ、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄停止時処理（ステップS403）を示す値（この例では「3」）に更新する。

【0248】

普通図柄停止時処理（ステップS403）：CPU56は、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるか否か確認する。当り図柄でなければ（はずれ図柄であれば）、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップS400）を示す値（この例では「0」）に更新する。普通図柄の停止図柄が当り図柄であれば、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物作動時間に相当する値をセットすることによって普通図柄プロセスタイマをスタートさせる。また、可変入賞球装置（普通電動役物）15を開放状態にする。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物開放中処理（ステップS404）を示す値（この例では「4」）に更新する。

【0249】

普通電動役物開放中処理（ステップS404）：CPU56は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトすると、可変入賞球装置15を閉鎖状態にして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップS400）を示す値（この例では「0」）に更新する。

【0250】

図29は、普通図柄の当りに関する判定値が設定された普通図柄当り決定テーブルの一例を示す説明図である。この実施の形態では、普通図柄当り判定用乱数がとりうる範囲は1～250であるが、普通図柄当り決定テーブルには、普通図柄当り判定用乱数値と比較され判定値が設定されている。

【0251】

図29（A）には、低ベース状態で使用されるテーブルが示されている。図29（A）に示すように、低ベース状態では、2／250の確率で当りと判定される。当りと判定された場合には、可変入賞球装置（普通電動役物）15が1回開放（開放時間は5.8秒）する。なお、低ベース状態では、普通図柄の変動時間（可変表示時間）は、10秒である。ただし、普通図柄の変動時間として複数種類の変動時間を用意し、CPU56は、使用する変動時間をそれらのうちから選択するようにしてもよい。また、可変入賞球装置15の開放回数および開放時間（例えば、5.8秒よりも短い時間）のいずれかまたは双方を複数種類用意し、CPU56は、開放回数および開放時間のいずれかまたは双方を選択するようにしてもよい。

【0252】

また、可変入賞球装置15の開放時間が例えば0.2秒の短期間開放当りをさらに設けてもよい。その場合、0.2秒開放した後に長期間（例えば、5.8秒）開放するような当りを設け、短期間開放したときの遊技者の期待感（長期間開放に対する）を高めるようにしてもよい。また、短期間開放のみが行われる当りと、短期間開放した後に長期間する当りの双方が設けられている場合に、所定演出（○）または所定演出（×）を報知するタイミングを、短期間開放した後にしてもよい。そのようにした場合には、短期間開放が行

われた時点では所定演出の実行によって長期間開放が行われるか否かを把握することはできず、遊技者の期待感（長期間開放に対する）をより高めることができる。

【0253】

図29（B）には、高ベース状態（時短状態）で使用されるテーブルが示されている。図29（B）に示すように、高ベース状態では、249／250の確率で当りと判定される。当りと判定された場合には、可変入賞球装置（普通電動役物）15が3回開放（各々の開放時間は1.8秒）する。なお、高ベース状態では、普通図柄の変動時間（可変表示時間）は、1.5秒である。図29に示すように、遊技状態が低ベース状態のときは低い確率で当りになり、高ベース状態のときは極めて高い確率（この例では、略100%であるが、100%でもよい。）で当りになる。

10

【0254】

なお、この実施の形態では、図29に示すように、高ベース状態である場合には、低ベース状態である場合と比較して、普通図柄の変動表示結果が当りとなる確率を高める（普図高確率）ことによって、高ベース状態である場合には可変入賞球装置15が開状態となる頻度が高くなるようにして始動入賞しやすくするが、このような態様にかぎられない。例えば、高ベース状態であるときと低ベース状態であるときとで普通図柄の変動表示結果が当りとなる確率は同じであるものの、高ベース状態である場合には、低ベース状態である場合と比較して、可変入賞球装置15が開状態となる時間（図29に示す普通電動役物開放時間）を長くすることによって、高ベース状態である場合には始動入賞しやすくなるように構成してもよい。

20

【0255】

図30は、ゲートスイッチ通過処理を示すフローチャートである。ゲートスイッチ通過処理において、CPU56は、ゲート通過記憶カウンタのカウント値（ゲート通過記憶数）が最大値（この例では「4」）に達しているか否か確認する（ステップS415）。最大値に達していなければ、CPU56は、ゲート通過記憶カウンタのカウント値を+1し（ステップS416）、ソフトウェア乱数である普通図柄当り判定用乱数（ランダム4）の値を抽出して、ゲート通過記憶数の値に対応した保存領域（RAM55に設けられた普図保留記憶バッファ）に格納する（ステップS417）。また、CPU56は、普通図柄保留記憶表示器41の点灯個数を1増やす（ステップS418）。

【0256】

30

CPU56は、ステップS400の普通図柄通常処理において、普通図柄の変動を開始することができる状態であり、かつ、ゲート通過記憶数が0でなければ、保存領域（普図保留記憶バッファ）に格納されている普通図柄当り判定用乱数の値と図29に示された普通図柄当り決定テーブルとを用いて、当りとするか否か（普通図柄の停止図柄を当り図柄とするか否か）を決定する。すなわち、普通図柄当り判定用乱数の値が普通図柄当り決定テーブルに設定されている判定値（当りに対応する判定値）のいずれかの一致する場合に、当りと判定する。当りと判定した場合には、普通図柄当りフラグをセットする。なお、CPU56は、遊技状態が低ベース状態であれば（高ベースフラグがセットされていないれば）、図29（A）に示されたテーブルを使用し、高ベース状態であれば（高ベースフラグがセットされていれば）、図29（B）に示されたテーブルを使用する。なお、この実施の形態では、普通図柄の変動表示結果が当りであることを、普図当りとも表現する。

40

【0257】

図31は、普通図柄プロセス処理における普通図柄変動パターン設定処理（ステップS401）を示すフローチャートである。普通図柄変動パターン設定処理において、CPU56は、現在の遊技状態が高ベース状態であるか否か確認する（ステップS431）。具体的には、高ベースフラグがセットされているか否か確認する。高ベース状態である場合には、普通図柄プロセスタイマに1.5秒に相当する値を設定する（ステップS432）。低ベース状態である場合には、普通図柄プロセスタイマに10秒に相当する値を設定する（ステップS433）。

【0258】

50

また、普通図柄通常処理で当りに決定されている場合（普通図柄当りフラグがセットされている場合）には（ステップS 4 3 4）、普通図柄の表示結果を当りにすることに決定されているとともに普通図柄の変動を開始することを示す普通図柄開始指定（当り）コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 4 3 5）。普通図柄通常処理ではずれに決定されている場合には、普通図柄の表示結果をはずれにすることに決定されているとともに普通図柄の変動を開始することを示す普通図柄開始指定（はずれ）コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 4 3 6）。

【0259】

次いで、CPU56は、ゲート通過記憶カウンタのカウント値を-1し（ステップS 4 3 7）、減算後のゲート通過記憶カウンタの値（すなわち、普図保留記憶数）をEXTデータにセットして、普図保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 4 3 8）。

【0260】

そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップS 4 0 2）に対応した値（具体的には「2」）に更新する（ステップS 4 3 9）。

【0261】

なお、演出制御用マイクロコンピュータ100に演出制御コマンドを送信する場合には、CPU56は、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブル（あらかじめROMにコマンド毎に設定されている）のアドレスをポインタにセットする。そして、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブルのアドレスをポインタにセットして、演出制御コマンド制御処理（ステップS 2 8）において演出制御コマンドを送信する。

【0262】

なお、この実施の形態では、普通図柄変動パターン設定処理において、普通図柄変動開始指定コマンドや普図保留記憶数指定コマンドを送信するが、ステップS 4 0 0の普通図柄通常処理において普通図柄の表示結果を当りとするか否かの決定を行った後に普通図柄変動開始指定コマンドを送信したり、ゲート通過記憶カウンタのカウント値を-1して普図保留記憶数指定コマンドを送信したりするようにしてもよい。

【0263】

図32は、普通図柄変動処理（ステップS 4 0 2）を示すフローチャートである。普通図柄変動処理において、CPU56は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたかどうかを確認する（ステップS 4 4 1）。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ（ステップS 4 4 1のN）、CPU56は、普通図柄プロセスタイマの値を-1する（ステップS 4 4 5）。

【0264】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通図柄の変動時間が経過したときは（ステップS 4 4 1のY）、CPU56は、普通図柄変動終了指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 4 4 2）とともに、普通図柄プロセスタイマに普通図柄停止図柄表示時間をセットする（ステップS 4 4 3）。そして、CPU56は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄停止処理（ステップS 4 0 3）を示す値（具体的には「3」）に更新する（ステップS 4 4 4）。

【0265】

図33は、普通図柄停止時処理（ステップS 4 0 3）を示すフローチャートである。普通図柄停止時処理において、CPU56は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否か確認する（ステップS 4 5 1）。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ、普通図柄プロセスタイマの値を-1する（ステップS 4 5 2）。

【0266】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通図柄停止図柄表示時

10

20

30

40

50

間が経過したときは、CPU 56は、普通図柄当りフラグがセットされているか否か確認する（ステップS 453）。

【0267】

普通図柄当りフラグがセットされているときは、CPU 56は、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物作動時間（5.8秒または1.8秒）に相当する値をセットする（ステップS 454）。

【0268】

また、CPU 56は、可変入賞球装置（普通電動役物）15を開放状態にし（ステップS 455）、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物開放中処理（ステップS 404）を示す値（具体的には「4」）に更新する（ステップS 456）。 10

【0269】

ステップS 453において、普通図柄当りフラグがセットされていないと判定したときは、CPU 56は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップS 400）を示す値（具体的には「0」）に更新する（ステップS 457）。

【0270】

CPU 56は、普通電動役物開放中処理において、普通図柄プロセスタイマの値を1ずつ減算し、普通図柄プロセスタイマの値が0になると、可変入賞球装置（普通電動役物）15を閉鎖状態にする。そして、普通電動役物作動時間が5.8秒であった場合（1回の開放が行われる場合すなわち低ベース状態の場合）には、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップS 400）を示す値（具体的には「0」）に更新する。普通電動役物作動時間が1.8秒であった場合（3回の開放が行われる場合すなわち高ベース状態の場合）には、3回の開放が完了しているときには、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップS 400）を示す値に更新する。3回の開放が完了していないときには、CPU 56は、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物作動時間（1.8秒）に相当する値をセットし、再び、可変入賞球装置15を開放状態にする。なお、CPU 56は、可変入賞球装置15を直ちに開放状態にするのではなく、所定のインターバル時間が経過したときに開放状態にする。 20

【0271】

なお、この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、可変入賞球装置15の開放状態に関する演出制御コマンドを送信しないが、可変入賞球装置15の開放状態が終了するときに、閉鎖を示す演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。遊技制御用マイクロコンピュータ560が、開放時間が経過していなくても所定個の入賞があると可変入賞球装置15を閉鎖するように制御する場合には、演出制御用マイクロコンピュータ100は未だ可変入賞球装置15が開放していると認識しているが、実際には可変入賞球装置15が閉鎖されている状況が生ずる。閉鎖を示す演出制御コマンドを送信するように構成されている場合には、そのような演出制御用マイクロコンピュータ100の誤認識を防止することができる。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、可変入賞球装置15が開放中であることを報知するように構成されている場合に、閉鎖を示す演出制御コマンドにもとづいて報知を終了させることができる。 30

【0272】

図34は、主基板31に搭載される遊技制御用マイクロコンピュータ560（具体的には、CPU 56）が実行する特別図柄プロセス処理（ステップS 26）のプログラムの一例を示すフローチャートである。上述したように、特別図柄プロセス処理では第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bおよび大入賞口を制御するための処理が実行される。特別図柄プロセス処理において、CPU 56は、始動口スイッチ通過処理を実行する（ステップS 312）。そして、ステップS 300～S 310のうちのいずれかの処理を行う。 40

【0273】

ステップS 300～S 310の処理は、以下のような処理である。

【0274】

特別図柄通常処理（ステップS300）：特別図柄プロセスフラグの値が0であるときに実行される。遊技制御用マイクロコンピュータ560は、特別図柄の可変表示が開始できる状態になると、保留記憶バッファに記憶される数値データの記憶数（合算保留記憶数）を確認する。保留記憶バッファに記憶される数値データの記憶数は合算保留記憶数カウンタのカウント値により確認できる。また、合算保留記憶数カウンタのカウント値が0でなければ、第1特別図柄または第2特別図柄の可変表示の表示結果を大当たりとするか否かを決定する。大当たりとする場合には大当たりフラグをセットする。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS301に応じた値（この例では1）に更新する。なお、大当たりフラグは、大当たり遊技が終了するときにリセットされる。

【0275】

10

変動パターン設定処理（ステップS301）：特別図柄プロセスフラグの値が1であるときに実行される。また、変動パターンを決定し、その変動パターンにおける変動時間（可変表示時間：可変表示を開始してから表示結果を導出表示（停止表示）するまでの時間）を特別図柄の可変表示の変動時間とすることに決定する。また、決定した変動パターンに応じた変動パターンコマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行い、特別図柄の変動時間を計測する変動時間タイマをスタートさせる。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS302に対応した値（この例では2）に更新する。

【0276】

表示結果指定コマンド送信処理（ステップS302）：特別図柄プロセスフラグの値が2であるときに実行される。演出制御用マイクロコンピュータ100に、表示結果指定コマンドを送信する制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS303に対応した値（この例では3）に更新する。

20

【0277】

特別図柄変動中処理（ステップS303）：特別図柄プロセスフラグの値が3であるときに実行される。変動パターン設定処理で選択された変動パターンの変動時間が経過（ステップS301でセットされる変動時間タイマがタイムアウトすなわち変動時間タイマの値が0になる）すると、演出制御用マイクロコンピュータ100に、図柄確定指定コマンドを送信する制御を行い、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS304に対応した値（この例では4）に更新する。なお、演出制御用マイクロコンピュータ100は、遊技制御用マイクロコンピュータ560が送信する図柄確定指定コマンドを受信すると演出表示装置9において飾り図柄が停止されるように制御する。

30

【0278】

特別図柄停止処理（ステップS304）：特別図柄プロセスフラグの値が4であるときに実行される。大当たりフラグがセットされている場合に、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS305に対応した値（この例では5）に更新する。また、小当たりフラグがセットされている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS308に対応した値（この例では8）に更新する。大当たりフラグおよび小当たりフラグのいずれもセットされていない場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。なお、この実施の形態では、特別図柄プロセスフラグの値が4となったことにもとづいて、後述するように、特別図柄表示制御処理において特別図柄の停止図柄を停止表示するための特別図柄表示制御データが特別図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定され、ステップS22の表示制御処理において出力バッファの設定内容に応じて実際に特別図柄の停止図柄が停止表示される。

40

【0279】

大入賞口開放前処理（ステップS305）：特別図柄プロセスフラグの値が5であるときに実行される。大入賞口開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド21を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、大入賞口開放中指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行うととも

50

に、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS306に対応した値（この例では6）に更新する。なお、大入賞口開放前処理は各ラウンド毎に実行されるが、第1ラウンドを開始する場合には、大入賞口開放前処理は大当たり遊技を開始する処理でもある。また、大入賞口開放中指定コマンドはラウンドごとにそのラウンドを指定する値がEXTデータに設定されて送信されるので、ラウンドごとに異なる大入賞口開放中指定コマンドが送信される。例えば、大当たり遊技中の第1ラウンドを実行する際には、ラウンド1を指定する大入賞口開放中指定コマンド（A101（H））が送信され、大当たり遊技中の第10ラウンドを実行する際には、ラウンド10を指定する大入賞口開放中指定コマンド（A10A（H））が送信される。

【0280】

10

大入賞口開放中処理（ステップS306）：特別図柄プロセスフラグの値が6であるときに実行される。大入賞口開放中処理では、大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ残りラウンドがある場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS305に対応した値（この例では5）に更新する。また、大当たり中開放後指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行うとともに、全てのラウンドを終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS307に対応した値（この例では7）に更新する。

【0281】

大当たり終了処理（ステップS307）：特別図柄プロセスフラグの値が7であるときに実行される。大当たり遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。また、遊技状態を示すフラグ（例えば、高確率フラグや高ベースフラグ）をセットする処理を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

20

【0282】

小当たり開放前処理（ステップS308）：特別図柄プロセスフラグの値が8であるときに実行される。小当たり開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド21を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS309に対応した値（この例では9）に更新する。なお、小当たり開放前処理は小当たり遊技中の大入賞口の開放毎に実行されるが、小当たり遊技中の最初の開放を開始する場合には、小当たり開放前処理は小当たり遊技を開始する処理でもある。

30

【0283】

小当たり開放中処理（ステップS309）：特別図柄プロセスフラグの値が9であるときに実行される。大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ大入賞口の開放回数が残っている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS308に対応した値（この例では8）に更新する。また、全ての開放を終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS310に対応した値（この例では10）に更新する。

40

【0284】

小当たり終了処理（ステップS310）：特別図柄プロセスフラグの値が10であるときに実行される。小当たり遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

【0285】

図35は、ステップS312の始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。始動口スイッチ通過処理において、CPU56は、まず、第1始動口スイッチ13aがオン状態であるか否かを確認する（ステップS1211）。第1始動口スイッチ13aがオン状態でなければ、ステップS1222に移行する。第1始動口スイッチ13aがオン状

50

態であれば、CPU 56は、第1保留記憶数が上限値に達しているか否か（具体的には、第1保留記憶数をカウントするための第1保留記憶数カウンタの値が4であるか否か）を確認する（ステップS1212）。第1保留記憶数が上限値に達していれば、ステップS1222に移行する。

【0286】

第1保留記憶数が上限値に達していなければ、CPU 56は、第1保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS1213）とともに、合算保留記憶数をカウントするための合算保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS1214）。また、CPU 56は、第1始動入賞口13および第2始動入賞口14への入賞順を記憶するための保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）において、合算保留記憶数カウンタの値に対応した領域に「第1」を示すデータをセットする（ステップS1215）。 10

【0287】

この実施の形態では、第1始動口スイッチ13aがオン状態となった場合（すなわち、第1始動入賞口13に遊技球が始動入賞した場合）には「第1」を示すデータをセットし、第2始動口スイッチ14aがオン状態となった場合（すなわち、第2始動入賞口14に遊技球が始動入賞した場合）には「第2」を示すデータをセットする。例えば、CPU 56は、保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）において、第1始動口スイッチ13aがオン状態となった場合には「第1」を示すデータとして01（H）をセットし、第2始動口スイッチ14aがオン状態となった場合には「第2」を示すデータとして02（H）をセットする。なお、この場合、対応する保留記憶がない場合には、保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）には、00（H）がセットされている。 20

【0288】

図36（A）は、保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）の構成例を示す説明図である。図36（A）に示すように、保留特定領域には、合算保留記憶数カウンタの値の最大値（この例では8）に対応した領域が確保されている。なお、図36（A）には、合算保留記憶数カウンタの値が5である場合の例が示されている。図36（A）に示すように、保留特定領域には、合算保留記憶数カウンタの値の最大値（この例では8）に対応した領域が確保されており、第1始動入賞口13または第2始動入賞口14への入賞にもとづき入賞順に「第1」または「第2」であることを示すデータがセットされる。従って、保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）には、第1始動入賞口13および第2始動入賞口14への入賞順が記憶される。なお、保留特定領域は、RAM 55に形成されている。 30

【0289】

次いで、CPU 56は、乱数回路53やソフトウェア乱数を生成するためのカウンタから値を抽出し、それらを、第1保留記憶バッファ（図36（B）参照）における保存領域に格納する処理を実行する（ステップS1216）。なお、ステップS1216の処理では、ハードウェア乱数であるランダムR（大当たり判定用乱数）や、ソフトウェア乱数である大当たり種別判定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）および変動パターン判定用乱数（ランダム3）が抽出され、保存領域に格納される。なお、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を始動口スイッチ通過処理（始動入賞時）において抽出して保存領域にあらかじめ格納しておくのではなく、第1特別図柄の変動開始時に抽出するようにしてもよい。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、後述する変動パターン設定処理において、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出するようにしてもよい。 40

【0290】

図36（B）は、保留記憶に対応する乱数等を保存する領域（保留バッファ）の構成例を示す説明図である。図36（B）に示すように、第1保留記憶バッファには、第1保留記憶数の上限値（この例では4）に対応した保存領域が確保されている。また、第2保留記憶バッファには、第2保留記憶数の上限値（この例では4）に対応した保存領域が確保されている。この実施の形態では、第1保留記憶バッファおよび第2保留記憶バッファには、ハードウェア乱数であるランダムR（大当たり判定用乱数）や、ソフトウェア乱数であ 50

る大当り種別判定用乱数（ランダム１）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム２）および変動パターン判定用乱数（ランダム３）が記憶される。なお、第１保留記憶バッファおよび第２保留記憶バッファは、RAM５５に形成されている。

【０２９１】

次いで、CPU５６は、検出した始動入賞にもとづく変動がその後実行されたときの変動表示結果や変動パターン種別を始動入賞時にあらかじめ判定する入賞時判定処理を実行する（ステップＳ１２１７）。そして、CPU５６は、入賞時判定処理の判定結果にもとづいて図柄指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信する制御を行う（ステップＳ１２１８）とともに、変動カテゴリコマンドを演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信する制御を行う（ステップＳ１２１９）。また、CPU５６は、第１始動入賞指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信する制御を行う（ステップＳ１２２０）とともに、合算保留記憶数カウンタの値をEXTデータに設定して合算保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信する制御を行う（ステップＳ１２２１）。

10

【０２９２】

なお、具体的には、CPU５６は、演出制御用マイクロコンピュータ１００に演出制御コマンドを送信する際に、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブル（あらかじめROMにコマンド毎に設定されている）のアドレスをポインタにセットする。そして、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブルのアドレスをポインタにセットして、演出制御コマンド制御処理（ステップＳ２８）において演出制御コマンドを送信する。

20

【０２９３】

また、ステップＳ１２１８、Ｓ１２１９の処理を実行することによって、この実施の形態では、遊技状態（高確率状態や高ベース状態であるか否か、大当り遊技状態であるか否か）にかかわらず、CPU５６は、第１始動入賞口１３に始動入賞するごとに、必ず図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドの両方を演出制御用マイクロコンピュータ１００に対して送信する。

【０２９４】

また、この実施の形態では、ステップＳ１２１８～Ｓ１２２１の処理が実行されることによって、第１始動入賞口１３への始動入賞が発生したときに、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第１始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの４つのコマンドのセットが１タイマ割込内に一括して送信される。

30

【０２９５】

次いで、CPU５６は、第２始動口スイッチ１４ａがオン状態であるか否かを確認する（ステップＳ１２２２）。第２始動口スイッチ１４ａがオン状態でなければ、処理を終了する。第２始動口スイッチ１４ａがオン状態であれば、CPU５６は、第２保留記憶数が上限値に達しているか否か（具体的には、第２保留記憶数をカウントするための第２保留記憶数カウンタの値が４であるか否か）を確認する（ステップＳ１２２３）。第２保留記憶数が上限値に達していれば、処理を終了する。

【０２９６】

第２保留記憶数が上限値に達していなければ、CPU５６は、第２保留記憶数カウンタの値を１増やす（ステップＳ１２２４）とともに、合算保留記憶数をカウントするための合算保留記憶数カウンタの値を１増やす（ステップＳ１２２５）。また、CPU５６は、保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）において、合算保留記憶数カウンタの値に対応した領域に、「第２」を示すデータをセットする（ステップＳ１２２６）。

40

【０２９７】

次いで、CPU５６は、乱数回路５３やソフトウェア乱数を生成するためのカウンタから値を抽出し、それらを、第２保留記憶バッファ（図３６（Ｂ）参照）における保存領域に格納する処理を実行する（ステップＳ１２２７）。なお、ステップＳ１２２７の処理では、ハードウェア乱数であるランダムＲ（大当り判定用乱数）や、ソフトウェア乱数である大当り種別判定用乱数（ランダム１）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム２）お

50

よび変動パターン判定用乱数（ランダム3）が抽出され、保存領域に格納される。なお、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を始動口スイッチ通過処理（始動入賞時）において抽出して保存領域にあらかじめ格納しておくのではなく、第2特別図柄の変動開始時に抽出するようにしてもよい。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、後述する変動パターン設定処理において、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出するようにしてもよい。

【0298】

次いで、CPU56は、入賞時判定処理を実行する（ステップS1228）。そして、CPU56は、入賞時判定処理の判定結果にもとづいて図柄指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS1229）とともに、変動
10 カテゴリコマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS1230）。また、CPU56は、第2始動入賞指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS1231）とともに、合算保留記憶数カウンタの値をEXTデータに設定して合算保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS1232）。

【0299】

なお、ステップS1229、S1230の処理を実行することによって、この実施の形態では、遊技状態（高確率状態や高ベース状態であるか否か、大当り遊技状態であるか否か）にかかわらず、CPU56は、第2始動入賞口14に始動入賞するごとに、必ず図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドの両方を演出制御用マイクロコンピュータ10
20 0に対して送信する。

【0300】

また、この実施の形態では、ステップS1229～S1232の処理が実行されることによって、第2始動入賞口14への始動入賞が発生したときに、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第2始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの4つのコマンドのセットが1タイマ割込内に一括して送信される。

【0301】

図37は、ステップS1217、S1228の入賞時判定処理を示すフローチャートである。入賞時判定処理では、CPU56は、まず、ステップS1216、S1227で抽出した大当り判定用乱数（ランダムR）と図18（A）の左欄に示す通常時の大当り判定
30 値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する（ステップS220）。この実施の形態では、特別図柄および飾り図柄の変動を開始するタイミングで、後述する特別図柄通常処理において大当りや小当りとするか否か、大当り種別を決定したり、変動パターン設定処理において変動パターンを決定したりするのであるが、それとは別に、遊技球が第1始動入賞口13や第2始動入賞口14に始動入賞したタイミングで、その始動入賞にもとづく変動表示が開始される前に、入賞時判定処理を実行することによって、あらかじめ大当りや小当りとなるか否かや、大当りの種別、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかを確認する。そのようにすることによって、飾り図柄の変動表示が実行されるより前にあらかじめ変動表示結果や変動パターン種別を予測し、後述するよ
40 うに、入賞時の判定結果にもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100によって飾り図柄の変動表示中に大当りやスーパーリーチとなることを予告する先読み予告演出を実行する。

【0302】

大当り判定用乱数（ランダムR）が通常時の大当り判定値と一致しなければ（ステップS220のN）、CPU56は、遊技状態が高確率状態（確変状態。高確率／高ベース状態と高確率／低ベース状態とを含む。）であることを示す高確率フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS221）。高確率フラグがセットされていれば、CPU56は、ステップS1216、S1227で抽出した大当り判定用乱数（ランダムR）と図18（A）の右欄に示す確変時の大当り判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する（ステップS222）。なお、始動入賞時にステップS221で確変状態である
50

か否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間には、複数の変動表示が実行される可能性がある。そのため、始動入賞時にステップS 2 2 1で確変状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間に遊技状態が変化している（例えば、変動開始前に1 5 R確変大当たりや、1 0 R確変大当たり、2 R確変大当たり、突然確変大当たりが発生した場合には通常状態から確変状態に変化している。）場合がある。そのため、始動入賞時にステップS 2 2 1で判定する遊技状態と変動開始時に判定する遊技状態（後述するステップS 6 1参照）とは、必ずしも一致するとは限らない。なお、そのような不一致を防止するため、現在記憶している保留記憶内の遊技状態の変更を伴うものを特定して、変更後の遊技状態にもとづいて始動入賞時の判定を行うようにしてもよい。

10

【0 3 0 3】

大当たり判定用乱数（ランダムR）が確変時の大当たり判定値とも一致しなければ（ステップS 2 2 2のN）、CPU 5 6は、ステップS 1 2 1 6、S 1 2 2 7で抽出した大当たり判定用乱数（ランダムR）と図1 8（B）、（C）に示す小当たり判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する（ステップS 2 2 3）。この場合、CPU 5 6は、第1始動入賞口1 3への始動入賞があった場合（ステップS 1 2 1 7の入賞時判定処理を実行する場合）には、図1 8（B）に示す小当たり判定テーブル（第1特別図柄用）に設定されている小当たり判定値と一致するか否かを判定する。また、第2始動入賞口1 4への始動入賞があった場合（ステップS 1 2 2 8の入賞時判定処理を実行する場合）には、図1 8（C）に示す小当たり判定テーブル（第2特別図柄用）に設定されている小当たり判定値と一致するか否かを判定する。

20

【0 3 0 4】

大当たり判定用乱数（ランダムR）が小当たり判定値とも一致しなければ（ステップS 2 2 3のN）、CPU 5 6は、「はずれ」となることを示すEXTデータ「0 0（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う（ステップS 2 2 4）。

【0 3 0 5】

次いで、CPU 5 6は、現在の遊技状態を判定する処理を行う（ステップS 2 2 5）。この実施の形態では、CPU 5 6は、ステップS 2 2 5において、遊技状態が高確率状態であるか否かおよび高ベース状態であるか否か（具体的には、高確率フラグおよび高ベースフラグがセットされているか否か）を判定する。なお、始動入賞時にステップS 2 2 5で高確率状態であるか否かおよび高ベース状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間には、複数の変動表示が実行される可能性がある。そのため、始動入賞時にステップS 2 2 5で高確率状態であるか否かおよび高ベース状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間に遊技状態が変化している（例えば、変動開始前に1 5 R確変大当たりや、1 0 R確変大当たり、2 R確変大当たり、突然確変大当たりが発生した場合には通常状態から確変状態に変化している。）場合がある。そのため、始動入賞時にステップS 2 2 5で判定する遊技状態と変動開始時に判定する遊技状態（後述するステップS 6 1参照）とは、必ずしも一致するとは限らない。なお、そのような不一致を防止するため、現在記憶している保留記憶内の遊技状態の変更を伴うものを特定して、変更後の遊技状態にもとづいて始動入賞時の判定を行うようにしてもよい。

30

40

【0 3 0 6】

そして、CPU 5 6は、ステップS 2 2 5の判定結果に応じて、はずれ用の各閾値を設定する（ステップS 2 2 6）。この実施の形態では、あらかじめ閾値判定を行う閾値判定プログラムが組み込まれており、閾値より大きいかな否かを判定することにより、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかが判定され、図2 6および図2 7に示す変動カテゴリコマンドに設定するEXTデータの値が決定される。

【0 3 0 7】

例えば、CPU 5 6は、遊技状態が高確率／高ベース状態であると判定した場合には閾値2 1 9を設定する。この場合、CPU 5 6は、後述するステップS 2 3 2において、変

50

動パターン種別判定用乱数の値が閾値 219 以下であるか否かを判定し、閾値 219 以下である場合（すなわち、1～219 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「08（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 219 以下でない場合（すなわち、220～251 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「09（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。

【0308】

また、例えば、CPU56 は、遊技状態が高確率／低ベース状態であると判定した場合には閾値 79 を設定する。この場合、CPU56 は、後述するステップ S232 において、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値 79 以下であるか否かを判定し、閾値 79 以下である場合（すなわち、1～79 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「0A（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 79 以下でない場合（すなわち、80～251 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「0B（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。

【0309】

また、例えば、CPU56 は、遊技状態が通常状態であると判定した場合には、合算保留記憶数にかかわらず、閾値 79、89、99、169、199、214 および 229 を設定する。この場合、CPU56 は、後述するステップ S232 において、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値 79 以下であるか否かを判定し、閾値 79 以下である場合（すなわち、1～79 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「00（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 89 以下である場合（すなわち、80～89 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「01（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 99 以下である場合（すなわち、90～99 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「02（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 169 以下である場合（すなわち、100～169 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「03（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 199 以下である場合（すなわち、170～199 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「04（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 214 以下である場合（すなわち、200～214 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「05（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 229 以下である場合（すなわち、215～229 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「06（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。また、閾値 229 以下でない場合（すなわち、230～251 である場合）には変動カテゴリコマンドの EXT データとして「07（H）」を設定すると判定する（図 26 参照）。

【0310】

なお、上記に示す閾値判定の例では、閾値の値が小さい方から順に 79、89、99、169、199、214 および 229 と判定していくので、後の順番の閾値で判定されたものが前の順番の閾値以下の範囲内となることはない。すなわち、閾値 79 以下であるか否かを判定した後、閾値 89 以下であるか否かを判定するときには、前の順番の閾値以下の 1～79 の範囲内となることはなく、80～89 の範囲であるか否かを判定することになる。また、この実施の形態では、閾値の値が小さい方から順に 79、89、99、169、199、214 および 229 と判定していく場合を示したが、逆に大きい方から順に 229、214、199、169、99、89 および 79 と判定していてもよい。このことは、以下に示す他の閾値を用いた判定を行う場合も同様である。

【0311】

なお、ステップ S225 の遊技状態の判定を行うことなく、常に通常状態（低確率／低ベース状態）における閾値を設定するようにしてもよい。そのように構成しても、少なくとも「非リーチはずれ」となる変動パターン種別と「スーパーリーチはずれ」となる変動パターン種別とに関しては判定値の範囲が共通化されているのであるから、「非リーチはずれ」や「スーパーリーチはずれ」となるか否かについては判定することができる。

【0312】

大当り判定用乱数（ランダムR）が小当り判定値と一致した場合には（ステップS223のY）、CPU56は、「小当り」となることを示すEXTデータ「05（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う（ステップS227）。

【0313】

次いで、CPU56は、小当り用の閾値を設定する（ステップS228）。なお、この実施の形態では、CPU56は、閾値251を設定するものとし、後述するステップS232において、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値251以下である（1～251である）と判定して、変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「18（H）」を設定すると判定する（図27参照）。なお、小当りである場合には、閾値判定を行うことなく、EXTデータ「18（H）」を設定すると判定するようにしてもよい。

10

【0314】

ステップS220またはステップS222で大当り判定用乱数（ランダムR）が大当り判定値と一致した場合には、CPU56は、ステップS1216、S1227で抽出した大当り種別判定用乱数（ランダム1）にもとづいて大当りの種別を判定する（ステップS229）。この場合、CPU56は、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合（ステップS1217の入賞時判定処理を実行する場合）には、図18（D）に示す大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）131aを用いて大当り種別が「15R確変大当り」、「10R確変大当り」、「2R確変大当り」または「突然確変大当り」のいずれとなるかを判定する。また、第2始動入賞口14への始動入賞があった場合（ステップS1228の入賞時判定処理を実行する場合）には、図18（E）に示す大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）131bを用いて大当り種別が「15R確変大当り」、「10R確変大当り」、「2R確変大当り」または「突然確変大当り」のいずれとなるかを判定する。

20

【0315】

次いで、CPU56は、大当り種別の判定結果に応じたEXTデータを図柄指定コマンドに設定する処理を行う（ステップS230）。この場合、「15R確変大当り」となると判定した場合には、CPU56は、「15R確変大当り」となることを示すEXTデータ「01（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う。また、「10R確変大当り」となると判定した場合には、CPU56は、「10R確変大当り」となることを示すEXTデータ「02（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う。また、「2R確変大当り」となると判定した場合には、CPU56は、「2R確変大当り」となることを示すEXTデータ「03（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う。また、「突然確変大当り」となると判定した場合には、CPU56は、「突然確変大当り」となることを示すEXTデータ「04（H）」を図柄指定コマンドに設定する処理を行う。

30

【0316】

そして、CPU56は、ステップS229で判定した大当り種別に応じて、大当り用の各閾値を設定する（ステップS231）。

【0317】

例えば、CPU56は、「10R確変大当り」または「2R確変大当り」と判定した場合には、閾値74および149を設定する。この場合、CPU56は、後述するステップS232において、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値74以下であるか否かを判定し、閾値74以下である場合（すなわち、1～74である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「10（H）」を設定すると判定する（図27参照）。また、閾値149以下である場合（すなわち、75～149である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「11（H）」を設定すると判定する（図27参照）。また、閾値149以下でない場合（すなわち、150～251である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「12（H）」を設定すると判定する（図27参照）。

40

【0318】

また、例えば、CPU56は、「15R確変大当り」と判定した場合には、閾値38および79を設定する。この場合、CPU56は、後述するステップS232において、変

50

動パターン種別判定用乱数の値が閾値38以下であるか否かを判定し、閾値38以下である場合（すなわち、1～38である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「13（H）」を設定すると判定する（図27参照）。また、閾値79以下である場合（すなわち、39～79である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「14（H）」を設定すると判定する（図27参照）。また、閾値79以下でない場合（すなわち、80～251である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「15（H）」を設定すると判定する（図27参照）。

【0319】

また、例えば、CPU56は、「突然確変大当り」と判定した場合には、閾値100を設定する。この場合、CPU56は、後述するステップS232において、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値100以下であるか否かを判定し、閾値100以下である場合（すなわち、1～100である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「16（H）」を設定すると判定する（図27参照）。また、閾値100以下でない場合（すなわち、101～251である場合）には変動カテゴリコマンドのEXTデータとして「17（H）」を設定すると判定する（図27参照）。

【0320】

次いで、CPU56は、ステップS226、S228、S231で設定した閾値と、ステップS1216、S1227で抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）とを用いて、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかを判定する（ステップS232）。

【0321】

なお、ステップS226、S228、S231において、あらかじめ定められた閾値を設定するのではなく、変動パターン種別判定テーブル（図19、図20参照）を設定するようにし、ステップS232において、設定した変動パターン種別判定テーブルを用いて、変動パターン種別判定用乱数の値の範囲やいずれの変動パターン種別となるかを判定するようにしてもよい。

【0322】

そして、CPU56は、判定結果に応じたEXTデータを変動カテゴリコマンドに設定する処理を行う（ステップS233）。具体的には、CPU56は、ステップS232でいずれの変動パターン種別になると判定したかに応じて、図26および図27に示すような「00（H）」～「0B（H）」、「10（H）」～「18（H）」のいずれかの値を変動カテゴリコマンドのEXTデータに設定する処理を行う。

【0323】

なお、この実施の形態では、入賞時判定において大当りや小当りとなると判定した場合であっても一律に変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの範囲となるかを判定する場合を示したが、大当りや小当りとなると判定した場合には、変動パターン種別判定用乱数の値の範囲の判定を行わないようにしてもよい。そして、大当りまたは小当りとなると入賞時判定したことを示す図柄指定コマンドを送信するとともに、大当りまたは小当りの変動パターン種別となることを包括的に示す変動カテゴリコマンドを送信するようにしてもよい。そして、例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、具体的にいずれの変動パターン種別となるかまでは示されていないものの、包括的にいずれかの大当りの変動パターン種別となることが示された変動カテゴリコマンドを受信したことにもとづいて、後述する先読み予告演出を実行するようにしてもよい。

【0324】

図38および図39は、特別図柄プロセス処理における特別図柄通常処理（ステップS300）を示すフローチャートである。特別図柄通常処理において、CPU56は、合算保留記憶数の値を確認する（ステップS51）。具体的には、合算保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。合算保留記憶数が0であれば、まだ客待ちデモ指定コマンドを送信していなければ、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して客待ちデモ指定コマンドを送信する制御を行い（ステップS51A）、処理を終了する。なお、例えば、CP

U 5 6 は、ステップ S 5 1 A で客待ちデモ指定コマンドを送信すると、客待ちデモ指定コマンドを送信したことを示す客待ちデモ指定コマンド送信済フラグをセットする。そして、客待ちデモ指定コマンドを送信した後に次に特別図柄通常処理を実行する場合には、客待ちデモ指定コマンド送信済フラグがセットされていることにもとづいて重ねて客待ちデモ指定コマンドを送信しないように制御すればよい。また、この場合、客待ちデモ指定コマンド送信済フラグは、次の特別図柄の変動表示が開始されるときにリセットされるようにすればよい。

【0325】

なお、ステップ S 5 1 において、CPU 5 6 は、合算保留記憶数の値を確認するのではなく、保留特定領域の 1 番目の領域にデータが設定されているか否かを確認し、設定されていれば保留記憶があると判定してステップ S 5 2 に移行し、設定されていなければ保留記憶がないと判定してステップ S 5 1 A に移行してもよい。

10

【0326】

合算保留記憶数が 0 でなければ、CPU 5 6 は、保留特定領域（図 3 6（A）参照）に設定されているデータのうち 1 番目のデータが「第 1」を示すデータであるか否か確認する（ステップ S 5 2）。保留特定領域に設定されている 1 番目のデータが「第 1」を示すデータでない（すなわち、「第 2」を示すデータである）場合（ステップ S 5 2 の N）、CPU 5 6 は、特別図柄ポインタ（第 1 特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのか第 2 特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのかを示すフラグ）に「第 2」を示すデータを設定する（ステップ S 5 3）。保留特定領域に設定されている 1 番目のデータが「第 1」を示すデータである場合（ステップ S 5 2 の Y）、CPU 5 6 は、特別図柄ポインタに「第 1」を示すデータを設定する（ステップ S 5 4）。

20

【0327】

ステップ S 5 2 ～ S 5 4 の処理が実行されることによって、この実施の形態では、第 1 始動入賞口 1 3 と第 2 始動入賞口 1 4 とに遊技球が入賞した始動入賞順に従って、第 1 特別図柄の変動表示または第 2 特別図柄の変動表示が実行される。なお、この実施の形態では、第 1 始動入賞口 1 3 と第 2 始動入賞口 1 4 とに遊技球が入賞した始動入賞順に従って、第 1 特別図柄の変動表示または第 2 特別図柄の変動表示が実行されるが、第 1 特別図柄と第 2 特別図柄とのいずれか一方の変動表示を優先して実行するように構成してもよい。この場合、例えば、高ベース状態に移行された場合には可変入賞球装置 1 5 が設けられた第 2 始動入賞口 1 4 に始動入賞しやすくなり第 2 保留記憶が溜まりやすくなるのであるから、第 2 特別図柄の変動表示を優先して実行するようにしてもよい。

30

【0328】

なお、第 2 特別図柄の変動表示を優先して実行するように構成する場合、図 3 7 に示した入賞時判定処理において、大当たり判定用乱数（ランダム R）の値を、低確率状態における大当たり判定値と比較する処理のみを実行するようにし、高確率状態における大当たり判定値とは比較しないようにしてもよい（具体的には、ステップ S 2 2 0 の処理のみを実行し、ステップ S 2 2 1、S 2 2 2 の処理は行わないようにしてもよい）。そのように構成すれば、第 2 特別図柄の変動表示を優先して実行するように構成する場合に、入賞時判定における大当たりの判定結果と実際の変動開始時における大当たりの決定結果とが整合しない状況が生ずることを防止することができる。

40

【0329】

次いで、CPU 5 6 は、RAM 5 5 において、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 5 5 の乱数バッファ領域に格納する（ステップ S 5 5）。具体的には、CPU 5 6 は、特別図柄ポインタが「第 1」を示している場合には、第 1 保留記憶バッファにおける第 1 保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 5 5 の乱数バッファ領域に格納する。また、CPU 5 6 は、特別図柄ポインタが「第 2」を示している場合には、第 2 保留記憶バッファにおける第 2 保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 5 5 の乱数バッファ領域に格納する。

50

【0330】

そして、CPU56は、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップS56）。具体的には、CPU56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、保留特定領域および第1保留記憶バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。また、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合に、第2保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、保留特定領域および第2保留記憶バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。

【0331】

すなわち、CPU56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合に、RAM55の第1保留記憶バッファにおいて第1保留記憶数 $=n$ （ $n=2, 3, 4$ ）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第1保留記憶数 $=n-1$ に対応する保存領域に格納する。また、特別図柄ポインタが「第2」を示す場合に、RAM55の第2保留記憶バッファにおいて第2保留記憶数 $=n$ （ $n=2, 3, 4$ ）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第2保留記憶数 $=n-1$ に対応する保存領域に格納する。また、CPU56は、保留特定領域において合算保留記憶数 $=m$ （ $m=2\sim 8$ ）に対応する保存領域に格納されている値（「第1」または「第2」を示す値）を、合算保留記憶数 $=m-1$ に対応する保存領域に格納する。

【0332】

よって、各第1保留記憶数（または、各第2保留記憶数）に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第1保留記憶数（または、第2保留記憶数） $=1, 2, 3, 4$ の順番と一致するようになっている。また、各合算保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各値が抽出された順番は、常に、合算保留記憶数 $=1\sim 8$ の順番と一致するようになっている。

【0333】

そして、CPU56は、合算保留記憶数の値を1減らす。すなわち、合算保留記憶数カウンタのカウント値を1減算する（ステップS58）。なお、CPU56は、カウント値が1減算される前の合算保留記憶数カウンタの値をRAM55の所定の領域に保存する。

【0334】

次いで、CPU56は、乱数バッファ領域からランダムR（大当たり判定用乱数）を読み出し、大当たり判定モジュールを実行する。なお、この場合、CPU56は、始動口スイッチ通過処理のステップS1216やステップS1227で抽出し第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファにあらかじめ格納した大当たり判定用乱数を読み出し、大当たり判定を行う。大当たり判定モジュールは、あらかじめ決められている大当たり判定値や小当たり判定値（図18参照）と大当たり判定用乱数とを比較し、それらが一致したら大当たりや小当たりとすることに決定する処理を実行するプログラムである。すなわち、大当たり判定や小当たり判定の処理を実行するプログラムである。

【0335】

大当たり判定の処理では、遊技状態が確変状態（高確率／高ベース状態、高確率／低ベース状態）の場合には、遊技状態が非確変状態（通常状態）の場合よりも、大当たりとなる確率が高くなるように構成されている。具体的には、あらかじめ大当たり判定値の数が多く設定されている確変時大当たり判定テーブル（ROM54における図18（A）の右側の数値が設定されているテーブル）と、大当たり判定値の数が確変時大当たり判定テーブルよりも少なく設定されている通常時大当たり判定テーブル（ROM54における図18（A）の左側の数値が設定されているテーブル）とが設けられている。そして、CPU56は、遊技状態が確変状態であるか否かを確認し、遊技状態が確変状態であるときは、確変時大当たり判定テーブルを使用して大当たりの判定の処理を行い、遊技状態が通常状態であるときは、通常時大当たり判定テーブルを使用して大当たりの判定の処理を行う。すなわち、CPU56は、大当たり判定用乱数（ランダムR）の値が図18（A）に示すいずれかの大当たり判定値に一致すると、特別図柄に関して大当たりとすることに決定する。大当たりとすることに決定し

10

20

30

40

50

た場合には（ステップS 6 1）、ステップS 7 1に移行する。なお、大当たりとするか否か決定するということは、大当たり遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、特別図柄表示器における停止図柄を大当たり図柄とするか否か決定するということでもある。

【0 3 3 6】

なお、現在の遊技状態が確変状態であるか否かの確認は、高確率フラグがセットされているか否かにより行われる。高確率フラグは、遊技状態を確変状態に移行するときにセットされ、確変状態を終了するときにリセットされる。具体的には、「1 5 R 確変大当たり」、「1 0 R 確変大当たり」、「2 R 確変大当たり」または「突然確変大当たり」とすることに決定され、大当たり遊技を終了する処理においてセットされる。

10

【0 3 3 7】

大当たり判定用乱数（ランダムR）の値がいずれの大当たり判定値にも一致しなければ（ステップS 6 1のN）、CPU 5 6は、小当たり判定テーブル（図1 8（B）、（C）参照）を使用して小当たりの判定の処理を行う。すなわち、CPU 5 6は、大当たり判定用乱数（ランダムR）の値が図1 8（B）、（C）に示すいずれかの小当たり判定値に一致すると、特別図柄に関して小当たりとすることに決定する。この場合、CPU 5 6は、特別図柄ポイントが示すデータを確認し、特別図柄ポイントが示すデータが「第1」である場合には、図1 8（B）に示す小当たり判定テーブル（第1特別図柄用）を用いて小当たりとするか否かを決定する。また、特別図柄ポイントが示すデータが「第2」である場合には、図1 8（C）に示す小当たり判定テーブル（第2特別図柄用）を用いて小当たりとするか否かを決定する。そして、小当たりとすることに決定した場合には（ステップS 6 2）、CPU 5 6は、小当たりであることを示す小当たりフラグをセットし（ステップS 6 3）、ステップS 7 5に移行する。

20

【0 3 3 8】

なお、ランダムRの値が大当たり判定値および小当たり判定値のいずれにも一致しない場合には（ステップS 6 2のN）、すなわち、はずれである場合には、ステップS 7 5に移行する。

【0 3 3 9】

ステップS 7 1では、CPU 5 6は、大当たりであることを示す大当たりフラグをセットする。そして、大当たり種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、特別図柄ポイントが示す方の大当たり種別判定テーブルを選択する（ステップS 7 2）。具体的には、CPU 5 6は、特別図柄ポイントが「第1」を示している場合には、図1 8（D）に示す第1特別図柄用の大当たり種別判定用テーブル1 3 1 aを選択する。また、CPU 5 6は、特別図柄ポイントが「第2」を示している場合には、図1 8（E）に示す第2特別図柄用の大当たり種別判定用テーブル1 3 1 bを選択する。

30

【0 3 4 0】

次いで、CPU 5 6は、選択した大当たり種別判定テーブルを用いて、乱数バッファ領域に格納された大当たり種別判定用の乱数（ランダム1）の値と一致する値に対応した種別（「1 5 R 確変大当たり」、「1 0 R 確変大当たり」、「2 R 確変大当たり」または「突然確変大当たり」）を大当たりの種別に決定する（ステップS 7 3）。なお、この場合、CPU 5 6は、始動口スイッチ通過処理のステップS 1 2 1 6やステップS 1 2 2 7で抽出し第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファにあらかじめ格納した大当たり種別判定用乱数を読み出し、大当たり種別の決定を行う。また、この場合に、図1 8（D）、（E）に示すように、第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、突然確変大当たりが選択される割合が高い。

40

【0 3 4 1】

また、CPU 5 6は、決定した大当たりの種別を示すデータをRAM 5 5における大当たり種別バッファに設定する（ステップS 7 4）。例えば、大当たり種別が「1 5 R 確変大当たり」の場合には大当たり種別を示すデータとして「0 1」が設定され、大当たり種別が「1 0 R 確変大当たり」の場合には大当たり種別を示すデータとして「0 2」が設定され、大当たり種別

50

が「2 R 確変大当り」の場合には大当り種別を示すデータとして「0 3」が設定され、大当り種別が「突然確変大当り」の場合には大当り種別を示すデータとして「0 4」が設定される。

【0 3 4 2】

次いで、CPU 56 は、特別図柄の停止図柄を決定する（ステップ S 7 5）。具体的には、大当りフラグおよび小当りフラグのいずれもセットされていない場合には、はずれ図柄となる「ー」を特別図柄の停止図柄に決定する。大当りフラグがセットされている場合には、大当り種別の決定結果に応じて、大当り図柄となる「1」、「3」、「7」、「9」のいずれかを特別図柄の停止図柄に決定する。すなわち、大当り種別を「突然確変大当り」に決定した場合には「1」を特別図柄の停止図柄に決定し、「2 R 確変大当り」に決定した場合には「3」を特別図柄の停止図柄に決定し、「1 0 R 確変大当り」に決定した場合には「7」を特別図柄の停止図柄に決定し、「1 5 R 確変大当り」に決定した場合には「9」を特別図柄の停止図柄に決定する。また、小当りフラグがセットされている場合には、小当り図柄となる「5」を特別図柄の停止図柄に決定する。

10

【0 3 4 3】

なお、この実施の形態では、まず大当り種別を決定し、決定した大当り種別に対応する特別図柄の停止図柄を決定する場合を示したが、大当り種別および特別図柄の停止図柄の決定方法は、この実施の形態で示したものに限られない。例えば、あらかじめ特別図柄の停止図柄と大当り種別とを対応付けたテーブルを用意しておき、大当り種別決定用乱数にもとづいてまず特別図柄の停止図柄を決定すると、その決定結果にもとづいて対応する大当り種別も決定されるように構成してもよい。

20

【0 3 4 4】

そして、特別図柄プロセスフラグの値を変動パターン設定処理（ステップ S 3 0 1）に対応した値に更新する（ステップ S 7 6）。

【0 3 4 5】

図 4 0 は、特別図柄プロセス処理における変動パターン設定処理（ステップ S 3 0 1）を示すフローチャートである。変動パターン設定処理において、CPU 56 は、大当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 9 1）。大当りフラグがセットされている場合には、CPU 56 は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、大当り用変動パターン種別判定テーブル 1 3 2 A ~ 1 3 2 C（図 1 9（A）~（C）参照）のいずれかを選択する（ステップ S 9 2）。そして、ステップ S 1 0 2 に移行する。

30

【0 3 4 6】

大当りフラグがセットされていない場合には、CPU 56 は、小当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 9 3）。小当りフラグがセットされている場合には、CPU 56 は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、小当り用変動パターン種別判定テーブル 1 3 2 D（図 1 9（D）参照）を選択する（ステップ S 9 4）。そして、ステップ S 1 0 2 に移行する。

【0 3 4 7】

小当りフラグもセットされていない場合には、CPU 56 は、高ベース状態であることを示す高ベースフラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 9 5）。なお、高ベースフラグは、遊技状態を確変状態に移行するときにセットされ、高ベース状態を終了するときにリセットされる。具体的には、「1 5 R 確変大当り」、「1 0 R 確変大当り」、「2 R 確変大当り」または「突然確変大当り」とすることに決定され、大当り遊技を終了する処理においてセットされる。

40

【0 3 4 8】

高ベースフラグがセットされていない場合には（ステップ S 9 5）、CPU 56 は、高確率状態であることを示す高確率フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 9 6）。高確率フラグがセットされていない場合には（ステップ S 9 6）、すなわち、遊技状態が通常状態であれば、CPU 56 は、合算保留記憶数が 3 以上であるか否か確認

50

する（ステップS 9 7）。合算保留記憶数が3未満である場合には（ステップS 9 7）、C P U 5 6は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 A（図2 0（A）参照）を選択する（ステップS 9 8）。そして、ステップS 1 0 2に移行する。

【0 3 4 9】

合算保留記憶数が3以上である場合には、C P U 5 6は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 B（図2 0（B）参照）を選択する（ステップS 9 9）。そして、ステップS 1 0 2に移行する。

【0 3 5 0】

高確率フラグがセットされている場合には、すなわち、遊技状態が高確率／低ベース状態であれば、C P U 5 6は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 D（図2 0（D）参照）を選択する（ステップS 1 0 0）。そして、ステップS 1 0 2に移行する。

【0 3 5 1】

高ベースフラグがセットされている場合には、すなわち、遊技状態が高確率／高ベース状態であれば（この実施の形態では、低確率／高ベース状態に制御されることはないので、高ベースフラグがセットされていれば高確率／高ベース状態である）、C P U 5 6は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 C（図2 0（C）参照）を選択する（ステップS 1 0 1）。そして、ステップS 1 0 2に移行する。

【0 3 5 2】

この実施の形態では、ステップS 9 5～S 1 0 1の処理が実行されることによって、遊技状態が通常状態であって合算保留記憶数が3以上である場合には、図2 0（B）に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 Bが選択される。また、遊技状態が高確率／高ベース状態である場合には、図2 0（C）に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 Cが選択される。この場合、後述するステップS 1 0 2の処理で変動パターン種別として非リーチC A 2－3が決定される場合があり、非リーチC A 2－3の変動パターン種別が決定された場合には、ステップS 1 0 5の処理で変動パターンとして短縮変動の非リーチP A 1－2が決定される（図2 2参照）。従って、この実施の形態では、遊技状態が高確率／高ベース状態である場合または合算保留記憶数が3以上である場合には、短縮変動の変動表示が行われる場合がある。なお、この実施の形態では、高確率／高ベース状態で用いる短縮変動用の変動パターン種別判定テーブル（図2 0（C）参照）と、保留記憶数にもとづく短縮変動用の変動パターン種別判定テーブル（図2 0（B）参照）とが異なるテーブルである場合を示したが、短縮変動用の変動パターン種別判定テーブルとして共通のテーブルを用いるようにしてもよい。

【0 3 5 3】

なお、この実施の形態では、遊技状態が高ベース状態である場合であっても、合算保留記憶数がほぼ0である場合（例えば、0であるか、0または1である場合）には、短縮変動の変動表示を行わないようにしてもよい。この場合、例えば、C P U 5 6は、ステップS 9 5でYと判定したときに、合算保留記憶数がほぼ0であるか否かを確認し、合算保留記憶数がほぼ0であれば、はずれ用変動パターン種別判定テーブル1 3 5 A（図2 0（A）参照）を選択するようにしてもよい。

【0 3 5 4】

次いで、C P U 5 6は、乱数バッファ領域（第1保留記憶バッファまたは第2保留記憶バッファ）からランダム2（変動パターン種別判定用乱数）を読み出し、ステップS 9 2、S 9 4、S 9 8、S 9 9、S 1 0 0またはS 1 0 1の処理で選択したテーブルを参照することによって、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定する（ステップS 1 0 2）。

【0 3 5 5】

次いで、CPU 56は、ステップS 102の変動パターン種別の決定結果にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、当り変動パターン判定テーブル137A、137B（図21参照）、はずれ変動パターン判定テーブル138A（図22参照）のうちのいずれかを選択する（ステップS 103）。また、乱数バッファ領域（第1保留記憶バッファまたは第2保留記憶バッファ）からランダム3（変動パターン判定用乱数）を読み出し、ステップS 103の処理で選択した変動パターン判定テーブルを参照することによって、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定する（ステップS 105）。なお、始動入賞のタイミングでランダム3（変動パターン判定用乱数）を抽出しないように構成する場合には、CPU 56は、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出し、抽出した乱数値にもとづいて変動パターンを決定するようにしてもよい。

10

【0356】

次いで、CPU 56は、特別図柄ポインタが示す方の図柄変動指定コマンドを、演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 106）。具体的には、CPU 56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1図柄変動指定コマンドを送信する制御を行う。また、CPU 56は、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合には、第2図柄変動指定コマンドを送信する制御を行う。また、CPU 56は、決定した変動パターンに対応する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）を、演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS 107）。

【0357】

20

次に、CPU 56は、RAM 55に形成されている変動時間タイマに、選択された変動パターンに対応した変動時間に応じた値を設定する（ステップS 108）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を表示結果指定コマンド送信処理（ステップS 302）に対応した値に更新する（ステップS 109）。

【0358】

なお、はずれと決定されている場合において、直ちに変動パターン種別を決定するのではなく、まず、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理によってリーチとするか否かを決定するようにしてもよい。そして、リーチとするか否かの判定結果にもとづいて、ステップS 95～S 102の処理を実行し、変動パターン種別を決定するようにしてもよい。この場合、あらかじめ非リーチ用の変動パターン種別判定テーブル（図20に示す非リーチCA 2-1～非リーチCA 2-3の変動パターン種別を含むもの）と、リーチ用の変動パターン種別判定テーブル（図20に示すノーマルCA 2-4～ノーマルCA 2-6、スーパーCA 2-7の変動パターン種別を含むもの）とを用意しておき、リーチ判定結果にもとづいて、いずれかの変動パターン種別判定テーブルを選択して、変動パターン種別を決定するようにしてもよい。

30

【0359】

また、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理によってリーチとするか否かを決定する場合にも、合算保留記憶数（第1保留記憶数や第2保留記憶数でもよい）に応じて、リーチの選択割合が異なるリーチ判定テーブルを選択して、保留記憶数が多くなるに従ってリーチ確率が低くなるようにリーチとするか否かを決定するようにしてもよい。この場合、CPU 56は、例えば、入賞時判定処理における「スーパーリーチはずれ」や「非リーチはずれ」となるか否かの判定において、リーチ判定テーブルの共通の範囲に割り当てられた判定値に合致するか否かを判定することによって、リーチとなるか否かをあらかじめ判定するようにしてもよい。なお、予告演出の実行割合が低下してしまうことを考慮すると、この実施の形態で示したように、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理を行うことなく、変動パターン種別によって「スーパーリーチはずれ」や「非リーチはずれ」となるか否かを事前判定して先読み予告演出を行うように構成することが好ましい。

40

【0360】

図41は、表示結果指定コマンド送信処理（ステップS 302）を示すフローチャートである。表示結果指定コマンド送信処理において、CPU 56は、決定されている大当り

50

の種類、小当り、はずれに応じて、表示結果1指定～表示結果6指定のいずれかの演出制御コマンド（図23参照）を送信する制御を行う。具体的には、CPU56は、まず、大当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップS110）。セットされていない場合には、ステップS118に移行する。大当りフラグがセットされている場合、大当りの種別が「15R確変大当り」であるときには、表示結果2指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS111，S112）。なお、「15R確変大当り」であるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「01」であるか否かを確認することによって判定できる。また、CPU56は、大当りの種別が「10R確変大当り」であるときには、表示結果3指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS113，S114）。なお、「10R確変大当り」であるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「02」であるか否かを確認することによって判定できる。また、CPU56は、大当りの種別が「2R確変大当り」であるときには、表示結果4指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS115，S116）。なお、「2R確変大当り」であるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「03」であるか否かを確認することによって判定できる。そして、「15R確変大当り」、「10R確変大当り」および「2R確変大当り」のいずれでもないときには（すなわち、「突然確変大当り」であるときには）、CPU56は、表示結果5指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS117）。

10

【0361】

20

CPU56は、大当りフラグがセットされていないときには、小当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップS118）。小当りフラグがセットされていれば、CPU56は、表示結果6指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS119）。小当りフラグもセットされていないときは（ステップS118のN）、すなわち、はずれである場合には、CPU56は、表示結果1指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS120）。

【0362】

そして、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄変動中処理（ステップS303）に対応した値に更新する（ステップS121）。

【0363】

30

図42は、特別図柄プロセス処理における特別図柄変動中処理（ステップS303）を示すフローチャートである。特別図柄変動中処理において、CPU56は、まず、合算保留記憶数減算指定コマンドを既に送信済みであるか否かを確認する（ステップS1121）。なお、合算保留記憶数減算指定コマンドを既に送信済みであるか否かは、例えば、後述するステップS1122で合算保留記憶数減算指定コマンドを送信する際に合算保留記憶数減算指定コマンドを送信したことを示す合算保留記憶数減算指定コマンド送信済フラグをセットするようにし、ステップS1121では、その合算保留記憶数減算指定コマンド送信済フラグがセットされているか否かを確認するようにすればよい。また、この場合、セットした合算保留記憶数減算指定コマンド送信済フラグは、特別図柄の変動表示を終了する際や大当りを終了する際に後述する特別図柄停止処理や大当り終了処理でリセットするようにすればよい。

40

【0364】

次いで、合算保留記憶数減算指定コマンドを送信済みでなければ、CPU56は、合算保留記憶数減算指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS1122）。

【0365】

次いで、CPU56は、変動時間タイマを1減算し（ステップS1125）、変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップS1126）、演出制御用マイクロコンピュータ100に図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS1127）。そして、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄停止処理（ステップS304）に

50

対応した値に更新する（ステップS 1 1 2 8）。変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、処理を終了する。

【0 3 6 6】

図4 3は、特別図柄プロセス処理における特別図柄停止処理（ステップS 3 0 4）を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU 5 6は、大当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップS 1 3 1）。大当りフラグがセットされている場合には、CPU 5 6は、セットされていれば、確変状態であることを示す高確率フラグ、および時短状態であることを示す高ベースフラグをリセットする（ステップS 1 3 2）。また、CPU 5 6は、1 5 R確変大当り、1 0 R確変大当りまたは2 R確変大当りである場合には大当り開始指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0に送信し、大当りの種別が突確大当りである場合には小当り／突然確変大当り開始指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0に送信する（ステップS 1 3 3）。なお、大当りの種別は、RAM 5 5に記憶されている大当り種別を示すデータ（大当り種別バッファに記憶されているデータ）によって判定される。

10

【0 3 6 7】

また、大当り表示時間タイマに大当り表示時間（大当りが発生したことを、例えば、演出表示装置9において報知する時間）に相当する値を設定する（ステップS 1 3 4）。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数（例えば、1 5）をセットする（ステップS 1 3 5）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大入賞口開放前処理（ステップS 3 0 5）に対応した値に更新する（ステップS 1 3 6）。

20

【0 3 6 8】

また、ステップS 1 3 1で大当りフラグがセットされていないことを確認した場合には、CPU 5 6は、確変状態であることを示す高確率フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS 1 3 7）。セットされている場合には、ステップS 1 3 8に移行する。高確率フラグがセットされていない場合には、CPU 5 6は、時短状態であることを示す高ベースフラグがセットされているか否かを確認する（ステップS 1 4 1）。高ベースフラグがセットされている場合には（すなわち、確変状態ではないが、時短状態である場合には）、時短状態における特別図柄の変動可能回数を示す高ベース回数カウンタの値を－1する（ステップS 1 4 2）。そして、CPU 5 6は、減算後の高ベース回数カウンタの値が0になった場合には（ステップS 1 4 3）、高ベースフラグをリセットする（ステップS 1 4 4）。そして、ステップS 1 4 5に移行する。

30

【0 3 6 9】

ステップS 1 3 8では、CPU 5 6は、高確率回数カウンタの値を－1する。そして、高確率回数カウンタの値が0になった場合には、確変状態（高確率状態）であることを示す高確率フラグをリセットする（ステップS 1 3 9、S 1 4 0）。そして、ステップS 1 4 1に移行する。

【0 3 7 0】

ステップS 1 4 5では、CPU 5 6は、小当りフラグがセットされているか否かを確認する。小当りフラグがセットされていない場合には、ステップS 1 5 0に移行する。小当りフラグがセットされている場合には、CPU 5 6は、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0に小当り／突然確変大当り開始指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS 1 4 6）。また、大入賞口制御タイマに小当り表示時間（小当りが発生したことを、例えば、演出表示装置9において報知する時間）に相当する値を設定する（ステップS 1 4 7）。また、開放回数カウンタに開放回数（具体的には、2回）をセットする（ステップS 1 4 8）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を小当り開始前処理（ステップS 3 0 8）に対応した値に更新する（ステップS 1 4 9）。

40

【0 3 7 1】

ステップS 1 5 0では、CPU 5 6は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理（ステップS 3 0 0）に対応した値に更新する。

【0 3 7 2】

50

図44は、特別図柄プロセス処理における大当り終了処理（ステップS307）を示すフローチャートである。大当り終了処理において、CPU56は、大当り終了表示タイマが設定されているか否か確認し（ステップS160）、大当り終了表示タイマが設定されている場合には、ステップS164に移行する。大当り終了表示タイマが設定されていない場合には、大当りフラグをリセットし（ステップS161）、大当り終了指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS162）。ステップS162では、CPU56は、15R確変大当り、10R確変大当りまたは2R確変大当りであった場合には大当り終了指定コマンド（コマンドA301（H））を送信し、「突然確変大当り」であった場合には小当り／突然確変大当り終了指定コマンド（コマンドA302（H））を送信する。そして、大当り終了表示タイマに、画像表示装置9において大当り終了表示が行われている時間（大当り終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（ステップS163）、処理を終了する。

10

【0373】

ステップS164では、大当り終了表示タイマの値を1減算する。そして、CPU56は、大当り終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当り終了表示時間が経過したか否か確認する（ステップS165）。経過していなければ処理を終了する。

【0374】

大当り終了表示時間を経過している場合には、CPU56は、高確率フラグをセットして遊技状態を高確率状態（確変状態）に移行させる（ステップS166）。また、CPU56は、高確率状態における変動表示回数をカウントするための高確率回数カウンタに所定回数（例えば71回）をセットする（ステップS167）。また、2R確変大当りであった場合には（ステップS168）、CPU56は、時短フラグをセットして遊技状態を時短状態に移行させる（ステップS171）。また、CPU56は、時短回数をカウントするための時短回数カウンタに所定回数（例えば100回）をセットする（ステップS172）。そして、ステップS173に移行する。

20

【0375】

ステップS166～S170の処理が実行されることによって、この実施の形態では、確変大当りにもとづく大当り遊技を終了するときに、2R確変大当り以外が発生した場合に確変状態（高確率状態）に移行されるとともに時短状態（高ベース状態）にも移行される（すなわち、高確率／高ベース状態に移行される）。2R確変大当りが発生した場合には、高確率／低ベース状態に移行される。

30

【0376】

なお、この実施の形態では、ステップS169の処理でセットされた高ベースフラグは、可変入賞球装置15の開放回数を増加させたりするか否かを判定するためにも用いられる。また、高ベースフラグは、特別図柄の変動時間を短縮するか否かを判定するために用いられる。

【0377】

次いで、CPU56は、現在の遊技状態に応じた遊技状態指定コマンド（低ベース状態指定コマンド、高ベース状態指定コマンド、非確変状態指定コマンドまたは確変状態指定コマンド）を演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS171）。ステップS171の処理で、CPU56は、CPU56は、高ベース状態（時短状態）であることを示す高ベースフラグがセットされている場合には、高ベース状態指定コマンドを送信する制御を行う。高ベースフラグがセットされていない場合には、低ベース状態指定コマンドを送信する制御を行う。また、高確率状態（確変状態）であることを示す高確率フラグがセットされている場合には、確変状態指定コマンドを送信する制御を行う。高確率フラグがセットされていない場合には、非確変状態指定コマンドを送信する制御を行う。

40

【0378】

なお、この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、大当り遊技が終了する度に遊技状態指定コマンドを送信するが、例えば、遊技状態指定コマンドを送信

50

しようとする前に、遊技状態が変化したか否かを判定し、遊技状態が変化した場合にのみ変化後の遊技状態に応じた遊技状態指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0379】

その後、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理（ステップS300）に対応した値に更新する（ステップS172）。

【0380】

次に、演出制御手段の動作を説明する。図45は、演出制御基板80に搭載されている演出制御手段としての演出制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、演出制御用CPU101）が実行するメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理において、演出制御用CPU101は、電源が投入されると、メイン処理の実行を開始する。メイン処理では、まず、RAM領域のクリアや各種初期値の設定、また演出制御の起動間隔（例えば、2ms）を決めるためのタイマの初期設定等を行うための初期化処理を行う（ステップS701）。

10

【0381】

その後、演出制御用CPU101は、所定の乱数を生成するためのカウンタのカウンタ値を更新する乱数更新処理を実行する（ステップS702）。そして、タイマ割込フラグの監視（ステップS703）を行う。タイマ割込フラグがセットされていない場合には、ステップS702に移行する。なお、タイマ割込が発生すると、演出制御用CPU101は、タイマ割込処理においてタイマ割込フラグをセットする。タイマ割込フラグがセットされていたら、演出制御用CPU101は、そのフラグをクリアし（ステップS704）、ステップS705～S708の演出制御処理を実行する。

20

【0382】

演出制御処理において、演出制御用CPU101は、まず、受信した演出制御コマンドを解析し、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする処理等を行う（コマンド解析処理：ステップS705）。

【0383】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560から送信された演出制御コマンドは、演出制御INT信号にもとづく割込処理で受信され、2バイト構成の演出制御コマンドを6個格納可能なリングバッファ形式のコマンド受信バッファ（RAMに形成されている。）に保存されている。そして、受信したコマンドをどの領域に格納するのかを示すコマンド受信個数カウンタが用いられる。コマンド受信個数カウンタは、0～11の値をとる。コマンド解析処理では、演出制御用CPU101が、コマンド受信バッファに保存されている演出制御コマンドがどのコマンド（図24～図26参照）であるのか解析する。

30

【0384】

次いで、演出制御用CPU101は、演出制御プロセス処理を行う（ステップS706）。演出制御プロセス処理では、制御状態に応じた各プロセスのうち、現在の制御状態（演出制御プロセスフラグ）に対応した処理を選択して演出表示装置9の表示制御を実行する。

【0385】

次いで、演出制御用CPU101は、普通図柄の変動時間を計測するための普通図柄変動時間タイマの値が0となっているか否かを確認する（ステップS707）。普通図柄変動時間タイマの値が0でなければ、演出制御用CPU101は、普通図柄変動時間タイマの値を1減算する（ステップS708）。

40

【0386】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560から送信された演出制御コマンドは、演出制御INT信号にもとづく割込処理で受信され、RAMに形成されているバッファ領域に保存されている。コマンド解析処理では、バッファ領域に保存されている演出制御コマンドがどのコマンド（図23および図24参照）であるのか解析する。なお、演出制御INT信号にもとづく割込処理は、2msごとに実行されるタイマ割込処理に優先して実行される。

50

【0387】

図46～図49は、コマンド解析処理（ステップS704）の具体例を示すフローチャートである。主基板31から受信された演出制御コマンドは受信コマンドバッファに格納されるが、コマンド解析処理では、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファに格納されているコマンドの内容を確認する。

【0388】

コマンド解析処理において、演出制御用CPU101は、まず、コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されているか否か確認する（ステップS611）。格納されているか否かは、コマンド受信個数カウンタの値と読出ポインタとを比較することによって判定される。両者が一致している場合が、受信コマンドが格納されていない場合である。コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されている場合には、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファから受信コマンドを読み出す（ステップS612）。なお、読み出したら読出ポインタ（コマンド受信バッファにおけるどの領域からコマンドを読み出すべきかを示すポインタ）の値を+2しておく（ステップS613）。+2するのは2バイト（1コマンド）ずつ読み出すからである。

10

【0389】

受信した演出制御コマンドが変動パターンコマンドであれば（ステップS614）、演出制御用CPU101は、受信した変動パターンコマンドを、RAMに形成されている変動パターンコマンド格納領域に格納する（ステップS615）。そして、変動パターンコマンド受信フラグをセットする（ステップS616）。

20

【0390】

受信した演出制御コマンドが表示結果指定コマンドであれば（ステップS617）、演出制御用CPU101は、受信した表示結果指定コマンド（表示結果1指定コマンド～表示結果6指定コマンド）を、RAMに形成されている表示結果指定コマンド格納領域に格納する（ステップS618）。

【0391】

受信した演出制御コマンドが図柄確定指定コマンドであれば（ステップS619）、演出制御用CPU101は、確定コマンド受信フラグをセットする（ステップS620）。

【0392】

受信した演出制御コマンドが大当たり開始指定コマンド（コマンドA001（H））であれば（ステップS621）、演出制御用CPU101は、大当たり開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS622）。

30

【0393】

受信した演出制御コマンドが小当たり／突然確変大当たり開始指定コマンド（コマンドA002（H））であれば（ステップS623）、演出制御用CPU101は、小当たり／突然確変大当たり開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS624）。

【0394】

受信した演出制御コマンドが第1図柄変動指定コマンドであれば（ステップS625）、第1図柄変動指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS626）。受信した演出制御コマンドが第2図柄変動指定コマンドであれば（ステップS627）、第2図柄変動指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS628）。

40

【0395】

受信した演出制御コマンドが大入賞口開放中指定コマンドであれば（ステップS631）、演出制御用CPU101は、大入賞口開放中フラグをセットする（ステップS632）。また、演出制御用CPU101は、受信した大入賞口開放中指定コマンドを、RAMに形成されている大入賞口開放中指定コマンド格納領域に格納する（ステップS633）。なお、演出制御用マイクロコンピュータ100は、大入賞口開放中指定コマンド格納領域に格納された大入賞口開放中指定コマンドを確認することによって、大当たり遊技中の何ラウンド目であるかを認識することができる。

【0396】

50

受信した演出制御コマンドが大入賞口開放後指定コマンドであれば（ステップS 6 3 5）、演出制御用CPU 1 0 1は、大入賞口開放後フラグをセットする（ステップS 6 3 6）。また、演出制御用CPU 1 0 1は、受信した大入賞口開放後指定コマンドを、RAMに形成されている大入賞口開放後指定コマンド格納領域に格納する（ステップS 6 3 7）。

【0 3 9 7】

受信した演出制御コマンドが大当り終了指定コマンド（コマンドA 3 0 1（H））であれば（ステップS 6 4 1）、演出制御用CPU 1 0 1は、大当り終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 4 2）。受信した演出制御コマンドが小当り／突然確変大当り終了指定コマンド（コマンドA 3 0 2（H））であれば（ステップS 6 4 3）、演出制御用CPU 1 0 1は、小当り／突然確変大当り終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 4 4）。

10

【0 3 9 8】

受信した演出制御コマンドがいずれかの図柄指定コマンドであれば（ステップS 6 5 1）、演出制御用CPU 1 0 1は、受信した図柄指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域に格納する（ステップS 6 5 2）。

【0 3 9 9】

図5 0は、始動入賞時コマンド格納領域の具体例を示す説明図である。図5 0に示すように、始動入賞時コマンド格納領域には、合算保留記憶数の最大値（この例では8）に対応した領域（格納領域1～8）が確保されている。この実施の形態では、図3 5に示された始動口スイッチ通過処理におけるステップS 1 2 1 8～S 1 2 2 1、S 1 2 2 9～S 1 2 3 2で、第1始動入賞口1 3または第2始動入賞口1 4への始動入賞があったときに、1タイマ割込内に、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンド（第1始動入賞指定コマンドまたは第2始動入賞指定コマンド）、および合算保留記憶数指定コマンドの4つのコマンドが実質的に一括して送信される。そのため、図5 0に示すように、始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8には、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドを対応付けて格納できるように記憶領域が確保されている。

20

【0 4 0 0】

この実施の形態では、演出制御用CPU 1 0 1は、コマンド解析処理において、受信した順にコマンドを始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域内に格納していく。この実施の形態では、1タイマ割込内に、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの順にコマンド送信が行われるので、コマンド受信が正常に行われれば、図5 0に示すように、各格納領域1～8に、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの順に格納されていくことになる（なお、図5 0では、格納領域1～5までコマンドが格納されている例が示されている）。

30

【0 4 0 1】

なお、図5 0に示す例では、前回の変動表示において7個までの保留記憶が発生して最新のコマンドが格納されている格納領域に合算保留記憶数7を指定する合算保留記憶数指定コマンド（C 2 0 7（H））が格納され、その後、保留記憶が1つ消化されて2番目の保留記憶にもとづく変動表示が開始されている状況での始動入賞時コマンド格納領域の格納状態が示されている。

40

【0 4 0 2】

また、図5 0に示す始動入賞時コマンド格納領域に格納されている各コマンドは、飾り図柄の変動表示を開始するごとに、飾り図柄の変動表示を開始するタイミングで後述する飾り図柄変動開始処理のステップS 8 0 2 2で1つ目の格納領域1に格納されているものから削除され、始動入賞時コマンド格納領域の内容がシフトされる。例えば、図5 0に示す格納状態において新たな飾り図柄の変動表示が開始された場合には、格納領域1に格納

50

されている各コマンドが削除され、格納領域 2 に格納されている各コマンドが格納領域 1 にシフトされ、格納領域 3 に格納されている各コマンドが格納領域 2 にシフトされ、格納領域 4 に格納されている各コマンドが格納領域 3 にシフトされ、格納領域 5 に格納されている各コマンドが格納領域 4 にシフトされる。

【0403】

また、図 50 に示す始動入賞時コマンド格納領域のうち、格納領域 2 については、コマンド受信を正常に行えず、合算保留記憶数指定コマンドを受信し損なった場合の例が示されている。そのため、図 50 に示す例では、始動入賞時コマンド格納領域の格納領域 2 において、本来、合算保留記憶数指定コマンドが格納されるべき 4 つ目の記憶領域の内容が「0000 (H)」のままになっている状態が示されている。

10

【0404】

また、この実施の形態では、後述するように、図 50 に示す始動入賞時コマンド格納領域に格納される始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）にもとづいて、先読み予告決定処理（ステップ S 5 2 1 2 参照）において先読み予告演出の設定が行われるのであるが、始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）の受信し損ないや不整合が発生した場合には、その始動入賞時のコマンドに対応する保留記憶の変動表示を消化するまで、先読み予告演出の設定が制限される。そして、この実施の形態では、始動入賞時コマンド格納領域に格納される始動入賞時のコマンドのうち、先読み予告演出の設定が制限される期間（以下、先読み予告演出設定制限期間ともいう）に受信して、その始動入賞時のコマンド受信のタイミングで先読み予告演出の設定処理がされなかったものに対しては、図 50 に示すように、先読み予告演出の設定処理がされていないことを示す未判定情報が設定される。図 50 に示す例では、合算保留記憶数指定コマンドの受信し損ないが発生した格納領域 2 以降の格納領域 2～5 について、未判定情報の値が先読み予告演出の設定処理がされていないことを示す「1」に設定されている。

20

【0405】

なお、この実施の形態において、「先読み予告演出の実行を制限する」とは、先読み予告演出設定制限期間内に発生した始動入賞に対応する保留記憶に対して、全く先読み予告演出の設定を行わず先読み予告演出を実行しないことを意味するが、一部の態様の先読み予告演出の設定および実行を行わないようにしてもよい。

30

【0406】

また、この実施の形態では、始動入賞の発生時に受信する図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドを、包括的に表現する場合に、始動入賞時のコマンドともいう。また、これら始動入賞時のコマンドのうち、第 1 保留記憶数または第 2 保留記憶数が増加したことを認識可能な情報を指定するコマンドである始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドを、包括的に表現する場合に、保留記憶情報ともいう。また、始動入賞時の入賞時判定処理（図 37 参照）で判定される大当たりや小当たりとなるか否か、大当たり種別の判定結果、変動パターン種別の判定結果を示すコマンドである図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドを、包括的に表現する場合に、入賞時判定結果指定コマンドや判定結果情報ともいう。

40

【0407】

受信した演出制御コマンドがいずれかの変動カテゴリコマンドであれば（ステップ S 6 5 3）、演出制御用 CPU 101 は、受信した変動カテゴリコマンドを、RAM に形成されている始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域 1～8 のうち最新の図柄指定コマンドが格納されている格納領域に格納する（ステップ S 6 5 4）。ただし、最新の図柄指定コマンドが格納されている格納領域に既に変動カテゴリコマンドや始動入賞指定コマンド、合算保留記憶数指定コマンドが格納されていた場合には、今回のタイマ割込内で変動カテゴリコマンドよりも先に受信すべき図柄指定コマンドを受信し損なったことを意味する。その場合には、演出制御用 CPU 101 は、受信した変動カテゴリコマンドを、RAM に

50

形成されている始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域に格納する。

【0408】

受信した演出制御コマンドが第1始動入賞指定コマンドであれば（ステップS655）、演出制御用CPU101は、受信した第1始動入賞指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8のうち最新の図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドが格納されている格納領域に格納する（ステップS656）。ただし、最新の図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドが格納されている格納領域に既に始動入賞指定コマンドや合算保留記憶数指定コマンドが格納されていた場合には、今回のタイマ割込内で第1始動入賞指定コマンドよりも先に受信すべき図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドを両方とも受信し損なったことを意味する。その場合には、演出制御用CPU101は、受信した第1始動入賞指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域に格納する。

10

【0409】

受信した演出制御コマンドが第2始動入賞指定コマンドであれば（ステップS657）、演出制御用CPU101は、受信した第2始動入賞指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8のうち最新の図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドが格納されている格納領域に格納する（ステップS658）。ただし、最新の図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドが格納されている格納領域に既に始動入賞指定コマンドや合算保留記憶数指定コマンドが格納されていた場合には、今回のタイマ割込内で第2始動入賞指定コマンドよりも先に受信すべき図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンドを両方とも受信し損なったことを意味する。その場合には、演出制御用CPU101は、受信した第2始動入賞指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域に格納する。

20

【0410】

受信した演出制御コマンドが合算保留記憶数指定コマンドであれば（ステップS659）、演出制御用CPU101は、受信した合算保留記憶数指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8のうち最新の図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンドおよび始動入賞指定コマンドが格納されている格納領域に格納する（ステップS660）。ただし、最新の図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドが格納されている格納領域に既に合算保留記憶数指定コマンドが格納されていた場合には、今回のタイマ割込内で合算保留記憶数指定コマンドよりも先に受信すべき図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンドおよび始動入賞指定コマンドを全て受信し損なったことを意味する。その場合には、演出制御用CPU101は、受信した合算保留記憶数指定コマンドを、RAMに形成されている始動入賞時コマンド格納領域の空いている最初の格納領域に格納する。

30

【0411】

受信した演出制御コマンドが合算保留記憶数減算指定コマンドであれば（ステップS661）、演出制御用CPU101は、合算保留記憶表示部18cにおける1つ目の保留表示を消去し、残りの保留表示を1つずつシフトして、合算保留記憶表示部18cにおける合算保留記憶数表示を更新する（ステップS662）。例えば、合算保留記憶表示部18cの1つ目～5つ目の保留表示が点灯表示されていた場合に、合算保留記憶数減算指定コマンドを受信した場合には、1つ目の保留表示を消去するとともに、2つ目に表示されていた保留表示を1つ目の表示領域にシフトし、3つ目に表示されていた保留表示を2つ目の表示領域にシフトし、4つ目に表示されていた保留表示を3つ目の表示領域にシフトし、5つ目に表示されていた保留表示を4つ目の表示領域にシフトする。

40

【0412】

受信した演出制御コマンドが客待ちデモ指定コマンドであれば（ステップS663）、演出制御用CPU101は、演出表示装置9にあらかじめ決められている客待ちデモ画面を表示する制御を行う（ステップS664）。なお、客待ちデモ指定コマンドを受信したことにもとづいて直ちに客待ちデモ画面を表示するのではなく、客待ちデモ指定コマンド

50

を受信した後、所定期間（例えば、10秒）を経過してから客待ちデモ画面の表示を開始するようにしてもよい。

【0413】

受信した演出制御コマンドが普通図柄変動開始指定コマンドであれば（ステップS671）、演出制御用CPU101は、受信した普通図柄変動開始指定コマンドを、RAMに設けられた普通図柄変動開始指定コマンド格納領域に格納する（ステップS672）。また、演出制御用CPU101は、普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS673）とともに、普通図柄の変動表示中であることを示す普通図柄変動中フラグをセットする（ステップS674）。

【0414】

ステップS673では、演出制御用CPU101は、普通図柄変動開始指定（当り）コマンドを受信した場合には普通図柄変動開始指定（当り）コマンド受信フラグをセットし、普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンドを受信した場合には普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンド受信フラグをセットする。

【0415】

また、演出制御用CPU101は、普通図柄の変動時間を計測するための普通図柄変動時間タイマに10秒に相当する値をセットする（ステップS675）。

【0416】

なお、この実施の形態では、遊技状態が低ベース状態であるときには普通図柄の変動時間が10秒とされ、遊技状態が高ベース状態であるときには普通図柄の変動時間が1.5秒とされるのであるが、ステップS675では、遊技状態にかかわらず、一律に普通図柄変動時間タイマに10秒に相当する値をセットする。一律に10秒に相当する値をセットするようにしても、この実施の形態では、後述する所定演出を高ベース状態であるときには行わないように制御するので、所定演出の実行に関して支障が生ずることはない。高ベース状態であった場合には、1.5秒後に普通図柄の変動表示が終了したときに普通図柄変動終了指定コマンドを受信したことにより、普通図柄変動時間タイマの値がリセットされることになる（ステップS677参照）。なお、ステップS675において、高ベース状態であるか否かを確認し（具体的には、後述する遊技状態データの値が02（H）または04（H）であるかを確認し）、高ベース状態でない場合のみ普通図柄変動時間タイマに10秒に相当する値をセットし、高ベース状態である場合には普通図柄変動時間タイマに1.5秒に相当する値をセットするようにしてもよい。

【0417】

受信した演出制御コマンドが普通図柄変動終了指定コマンドであれば（ステップS676）、演出制御用CPU101は、普通図柄変動中フラグをリセットするとともに、普通図柄変動時間タイマをリセットする（ステップS677）。

【0418】

受信した演出制御コマンドが遊技状態指定コマンド（低ベース状態指定コマンド、高ベース状態指定コマンド、非確変状態指定コマンドまたは確変状態指定コマンド：図24参照）であれば（ステップS681）、演出制御用CPU101は、RAMに確保されている遊技状態データの領域に、受信した遊技状態指定コマンドで特定される遊技状態に応じた値を設定する（ステップS682）。以下、遊技状態データの領域に設定された値を遊技状態データという。

【0419】

なお、一例として、低確率低ベース状態（非確変非時短状態）であるときには遊技状態データの値は「01（H）」である。低確率高ベース状態（非確変時短状態）であるときには遊技状態データの値は「02（H）」である。高確率低ベース状態（確変非時短状態）であるときには遊技状態データの値は「03（H）」である。高確率高ベース状態（確変時短状態）であるときには遊技状態データの値は「04（H）」である。

【0420】

受信した演出制御コマンドがその他のコマンドであれば、演出制御用CPU101は、

受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする（ステップS684）。そして、ステップS611に移行する。

【0421】

図51は、演出制御用マイクロコンピュータ100が用いる乱数を示す説明図である。図51に示すように、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、第1～第3最終停止図柄決定用の乱数SR1-1～SR1-3、擬似連変動時仮停止図柄乱数SR2、所定演出決定用乱数SR3、特別図柄表示結果報知決定用乱数SR4、ボタン演出決定用乱数SR5、および先読み予告演出決定用乱数SR6を用いる。なお、演出効果を高めるために、これら以外の乱数を用いてもよい。

【0422】

第1～第3最終停止図柄決定用の乱数SR1-1～SR1-3は、飾り図柄の可変表示結果である停止図柄として、演出表示装置9の表示領域における「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリアに停止表示される飾り図柄（最終停止図柄）を決定するために用いられる乱数である。なお、最終停止図柄は、飾り図柄の可変表示が終了する時点で「左」、「中」、「右」の図柄表示エリアそれぞれにおいて最終的に停止表示される3つの飾り図柄のことである。なお、飾り図柄の大当たり図柄の組合せは、第1～第3最終停止図柄決定用の乱数SR1-1～SR1-3のうちのいずれか1個の乱数によって決定される。

【0423】

擬似連変動時仮停止図柄乱数SR2は、擬似連演出を伴う飾り図柄の変動中に仮停止表示させる図柄（仮停止図柄）を決定するために用いられる乱数である。

【0424】

所定演出決定用乱数SR3は、所定演出を実行するか否か決定するための乱数である。

【0425】

特別図柄表示結果報知決定用乱数SR4は、特別図柄表示結果報知演出を実行するか否かと、実行する場合の演出の種類を決定するための乱数である。

【0426】

ボタン演出決定用乱数SR5は、ボタン演出（図58参照）を実行するか否か決定するための乱数である。

【0427】

先読み予告演出決定用乱数SR6は、先読み予告演出を実行するか否か決定するための乱数である。なお、第2の実施の形態では、SR6は、擬似連中予告演出決定用乱数として用いられる。

【0428】

図52は、図45に示されたメイン処理における演出制御プロセス処理（ステップS705）を示すフローチャートである。演出制御プロセス処理では、演出制御用CPU101は、まず、第1所定演出処理（ステップS810）および第2所定演出処理（ステップS811）を実行する。

【0429】

次いで、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値に応じてステップS800～S807のうちのいずれかの処理を行う。各処理において、以下のような処理を実行する。なお、演出制御プロセス処理では、演出表示装置9の表示状態が制御され、飾り図柄の可変表示が実現されるが、第1特別図柄の変動に同期した飾り図柄の可変表示に関する制御も、第2特別図柄の変動に同期した飾り図柄の可変表示に関する制御も、一つの演出制御プロセス処理において実行される。なお、第1特別図柄の変動に同期した飾り図柄の可変表示と、第2特別図柄の変動に同期した飾り図柄の可変表示とを、別の演出制御プロセス処理により実行するように構成してもよい。また、この場合、いずれの演出制御プロセス処理により飾り図柄の変動表示が実行されているかによって、いずれの特別図柄の変動表示が実行されているかを判断するようにしてもよい。

【0430】

変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）：遊技制御用マイクロコンピ

10

20

30

40

50

ュータ560から変動パターンコマンドを受信しているか否か確認する。具体的には、コマンド解析処理でセットされる変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する。変動パターンコマンドを受信していれば、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動開始処理（ステップS801）に対応した値に変更する。

【0431】

飾り図柄変動開始処理（ステップS801）：飾り図柄の変動が開始されるように制御する。そして、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動中処理（ステップS802）に対応した値に更新する。

【0432】

飾り図柄変動中処理（ステップS802）：変動パターンを構成する各変動状態（変動速度）の切替タイミング等を制御するとともに、変動時間の終了を監視する。そして、変動時間が終了したら、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動停止処理（ステップS803）に対応した値に更新する。

10

【0433】

飾り図柄変動停止処理（ステップS803）：飾り図柄の変動を停止し表示結果（停止図柄）を導出表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当り表示処理（ステップS804）または変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に対応した値に更新する。

【0434】

大当り表示処理（ステップS804）：変動時間の終了後、演出表示装置9に大当りの発生を報知するための画面を表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値をラウンド中処理（ステップS805）に対応した値に更新する。

20

【0435】

ラウンド中処理（ステップS805）：ラウンド中の表示制御を行う。そして、ラウンド終了条件が成立したら、最終ラウンドが終了していなければ、演出制御プロセスフラグの値をラウンド後処理（ステップS806）に対応した値に更新する。最終ラウンドが終了していれば、演出制御プロセスフラグの値を大当り終了処理（ステップS807）に対応した値に更新する。

【0436】

ラウンド後処理（ステップS806）：ラウンド間の表示制御を行う。そして、ラウンド開始条件が成立したら、演出制御プロセスフラグの値をラウンド中処理（ステップS805）に対応した値に更新する。

30

【0437】

大当り終了演出処理（ステップS807）：演出表示装置9において、大当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に対応した値に更新する。

【0438】

図53は、所定演出の実行区間の一例を示す説明図である。「所定演出」は、特別図柄や飾り図柄の変動表示において特定演出（リーチ演出）が実行されるか否か、または可変入賞球装置15が遊技球が進入（通過）しやすい状態（例えば、開放状態）に制御されるか否かを報知する演出である。また、この実施の形態では、所定演出において、所定の種類の当り（例えば、小当り）になることが報知される場合もある。この実施の形態では、所定演出において、演出表示装置9の表示画面においてルーレットを回転させるような態様の演出が実行される。なお、所定演出において、必ずしも、100%特定演出が実行されることを報知したり、100%可変入賞球装置15が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを報知する必要はなく、特定演出が実行される可能性を示唆する報知をしたり、可変入賞球装置15が遊技球が進入しやすい状態に制御される可能性を示唆する報知をしたりするものであってもよい。また、所定演出は、演出制御用マイクロコンピュータ100によって実行される。

40

【0439】

50

図 5 3 に示す例では、所定演出は、予兆演出、開始演出、報知用演出、結果報知演出の順に実行される。なお、予兆演出が実行される期間を第 1 期間といい、開始演出、報知用演出および結果報知演出が実行される期間を第 2 期間という。

【0440】

また、第 1 期間の演出（予兆演出）の実行が省略されることがある。また、結果報知演出の期間は短縮されることがある。

【0441】

予兆演出は、遊技者に所定演出が開始されることを想起させるような演出である。開始演出は、所定演出が開始されたことを遊技者に認識させるための演出である。報知用演出は、可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを遊技者に期待させるような演出である。結果報知演出は、遊技者が可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態に制御されるか否かを想起可能な演出である。

10

【0442】

なお、第 1 期間の予兆演出が実行された後に第 2 期間の開始演出以降の演出（本例では、ルーレットの演出）に発展しない場合も設けられていることが望ましい。そのようにすれば、予兆演出が実行されることによって、ルーレットなどの演出が行われるかもしれないという期待感だけでなく、必ずしもルーレットなどの演出に発展しないかもしれないとの不安感も与えることができ、予兆演出の演出効果を高めることができる。

【0443】

また、この実施の形態では、後述するように、普通図柄の変動表示の開始を契機として所定演出の有無や種類が決定されて所定演出が実行される場合と、特別図柄や飾り図柄の変動表示の開始を契機として所定演出の有無や種類が決定されて所定演出が実行される場合とがある。以下、この実施の形態では、普通図柄の変動表示の開始を契機として決定処理が行われて実行される所定演出を「第 1 所定演出」といい、特別図柄や飾り図柄の変動表示の開始を契機として決定処理が行われて実行される所定演出を「第 2 所定演出」といって区別する場合がある。

20

【0444】

図 5 4 は、所定演出の一例を示す説明図である。なお、図 5 4 には、可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを報知するための演出が例示されている。

30

【0445】

図 5 4 (A) に示すように、演出表示装置 9 において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が停止している状態から、飾り図柄の変動が開始される（図 5 4 (B) 参照）。そのときに、演出表示装置 9 の表示画面に表示されているキャラクタ画像 9 a が動くような表示制御が実行される。そのような表示制御による演出が予兆演出に相当する。

【0446】

次いで、所定演出が開始されるかのような演出のための画像である報知画像（例えば、「ルーレットチャンス」を表示する画像）9 b を表示する制御が実行される（図 5 4 (C) 参照）。そのような表示制御による演出が開始演出に相当する。そして、報知用演出が開始される。

40

【0447】

この実施の形態では、報知用演出は、演出エリア 9 F において図柄が変動するような演出（ルーレットが回転するような態様の演出）である（図 5 4 (D) 参照）。その後、演出エリア 9 F において、可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを示唆する画像 9 c が停止表示される（図 5 4 (E) 参照）。次いで、可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを報知するような報知用画像 9 d が表示される（図 5 4 (F) 参照）。その後、演出表示装置 9 に、可変入賞球装置 15 が遊技球が進入しやすい状態（開放状態）に制御されることを明示する画像 9 e が表示される（図 5 4 (F) 参照）。なお、図 5 4 (E), (F) に示すような表示制御がなされる期間が結果報知演出の期間に相当する。

50

【0448】

図55は、所定演出の他の例を示す説明図である。なお、図55には、所定の種類の当り（この例では、小当り）になることを報知するための演出が例示されている。

【0449】

図55（A）に示すように、演出表示装置9において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が停止している状態から、飾り図柄の変動が開始される（図55（B）参照）。そのときに、演出表示装置9の表示画面に表示されているキャラクタ画像9aが動くような予兆演出が実行される。

【0450】

次いで、所定演出が開始されるかのような演出である開始演出が実行される（図55（C）参照）。そして、報知用演出が開始される。

10

【0451】

報知用演出は演出エリア9Fにおいて図柄が変動するような演出である（図55（D）参照）。その後、演出エリア9Fにおいて、所定の種類の当り（この例では、小当り）になることを示唆する画像9fが停止表示される（図55（E）参照）。次いで、所定の種類の当りの発生を報知するような報知用画像9gが表示される（図55（F）参照）。その後、演出表示装置9に、第2大入賞口（可動部材76による）が遊技球が進入しやすい状態（開放状態）に制御されることを明示する画像9hが表示される（図55（F）参照）。なお、図55（E）、（F）に示すような表示制御がなされる期間が結果報知演出の期間に相当する。

20

【0452】

図56は、所定演出のさらに他の例を示す説明図である。なお、図56には、リーチ演出（ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出）が実行されることを報知するための演出が例示されている。

【0453】

図56（A）に示すように、演出表示装置9において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が停止している状態から、飾り図柄の変動が開始される（図56（B）参照）。そのときに、演出表示装置9の表示画面に表示されているキャラクタ画像9aが動くような予兆演出が実行される。

【0454】

30

次いで、所定演出が開始されるかのような演出である開始演出が実行される（図56（C）参照）。そして、報知用演出が開始される。

【0455】

報知用演出は演出エリア9Fにおいて図柄が変動するような演出である（図56（D）参照）。その後、演出エリア9Fにおいて、リーチになることを示唆する画像（大当りの期待度が高いことを報知するための画像）9iが停止表示される（図56（E）参照）。なお、図56に示す例では、リーチになることを示唆する画像9iとして「激熱」の文字列を含む画像が示されているが、この実施の形態では、リーチになることを示唆する画像として、「激熱」の文字列を含む画像と「チャンス」の文字列を含む画像との2つがある。そして、この実施の形態では、スーパーリーチとなる場合には、ノーマルリーチとなる場合と比較して、「チャンス」の文字列を含む画像よりも「激熱」の文字列を含む画像が停止表示される割合が高い。

40

【0456】

そして、飾り図柄の表示状態がリーチ状態になる（図56（F）参照）。その後、演出表示装置9に、スーパーリーチの発生を明示する画像9jが表示される（図56（F）参照）。なお、図56（E）、（F）に示すような表示制御がなされる期間が結果報知演出の期間に相当する。

【0457】

また、この実施の形態では、特定演出（リーチ演出）が実行されることや可変入賞球装置15が遊技球が進入（通過）しやすい状態に制御されることを報知する所定演出が実行

50

される場合に、それらの報知結果が報知される前に、特定演出（リーチ演出）が実行されず可変入賞球装置 15 も遊技球が進入（通過）しやすい状態に制御されないこと（はずれの報知結果）を報知する所定演出（すなわち、「偽」の所定演出）が実行される場合がある。

【0458】

図 57 は、一例として、特定演出（リーチ演出）が実行されることを報知する前に、はずれの報知結果を報知する所定演出が実行される場合の具体例を示す説明図である。

【0459】

図 57（A）に示すように、演出表示装置 9 において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が停止している状態から、飾り図柄の変動が開始される（図 57（B）参照）。そのときに、演出表示装置 9 の表示画面に表示されているキャラクタ画像 9a が動くような予兆演出が実行される。

10

【0460】

次いで、所定演出が開始されるかのような演出である開始演出が実行される（図 57（C）参照）。そして、報知用演出が開始される。

【0461】

報知用演出は演出エリア 9F において図柄が変動するような演出である（図 57（D）参照）。その後、演出エリア 9F において、リーチ演出が実行されず可変入賞球装置 15 も遊技球が進入（通過）しやすい状態に制御されないこと（はずれの報知結果）を示唆する画像 9k が停止表示される（図 57（E）参照）。

20

【0462】

次いで、再び報知用演出は演出エリア 9F において図柄の変動が開始され、再び報知用演出が開始されたような演出が実行される（図 57（F）参照）。その後、演出エリア 9F において、リーチになることを示唆する画像（大当りの期待度が高いことを報知するための画像）9i が停止表示される（図 57（G）参照）。そして、飾り図柄の表示状態がリーチ状態になる（図 57（H）参照）。その後、演出表示装置 9 に、スーパーリーチの発生を明示する画像 9j が表示される（図 57（I）参照）。

【0463】

次に、通常の予告演出（先読み予告ではない予告に関する演出）を説明する。この実施の形態では、予告演出として、「役物作動演出」が行われる。「役物作動演出」が行われるときには、プッシュボタン 120 による操作を示唆するボタン操作示唆表示 201 が演出表示装置 9 に表示される。例えば、図 58 に示すように、ボタン操作示唆表示 201 として、「PUSH！」の文字列とともにプッシュボタン 120 の形状を模した絵柄を含む表示が表示される。また、ボタン操作示唆表示 201 の表示期間を示すメータ 202 が、ボタン操作示唆表示 201 の下方に表示される。

30

【0464】

なお、ボタン操作示唆表示の表示期間は、プッシュボタン 120 の操作が有効な期間（操作有効期間）に相当する。メータ 202 の表示態様は、ボタン操作示唆表示 201 の表示時間の残りに応じて変化する。遊技者は、ボタン操作示唆表示 201 の残り表示時間によって、プッシュボタン 120 の操作が有効である時間の残りを大まかに把握することができる。

40

【0465】

また、ボタン操作示唆表示 201 は、特別図柄および飾り図柄の表示結果が大当り図柄になる可能性を報知する操作時演出に相当する。

【0466】

また、ボタン操作示唆表示 201 の表示期間は、実際のプッシュボタン 120 の操作の有効期間よりも前に終了するように設定される。一例として、図 58 に示すように、実際のプッシュボタン 120 の操作有効期間が終了する前（この例では、0.2 秒前）に、ボタン操作示唆表示 201 の表示期間が終了する。通常、遊技者は、ボタン操作示唆表示 201 の表示期間がプッシュボタン 120 の操作有効期間であると認識し、メータ 202 が

50

表示が空になる（期間終了に相当）以前にプッシュボタン１２０を操作しようと試みる。表示期間を操作有効期間に一致させた場合には、遊技者が、ボタン操作示唆表示２０１の表示期間にもとづいて、操作有効期間の終了間際にプッシュボタン１２０を操作したときに、実際にはプッシュボタン１２０が操作されたのは操作有効期間経過後であったという状況が生じうる。その場合、遊技者は、操作有効期間内にプッシュボタン１２０を操作したにもかかわらず、所定の演出が実行されないと誤解する問題がある。しかし、この実施の形態では、操作有効期間よりも前にボタン操作示唆表示の表示期間が終了するので、そのような誤解が生ずることを防止することができる。

【０４６７】

図５９は、役物作動演出の一例を示す説明図である。図６０は、役物作動演出の他の例を示す説明図である。図６１は、役物作動演出における役物作動の実行タイミングを示す説明図である。

10

【０４６８】

図５９および図６１に示すように、役物作動演出は、リーチ状態（Ｄ００参照）になった後に実行される。また、役物作動演出が実行される際に、味方のキャラクタ画像４００と敵のキャラクタ４０１画像とが争うような態様のバトル演出が実行される（図５９におけるＤ００および図６１（Ａ）参照）。その後、バトル演出が中断され、演出表示装置９にボタン操作示唆表示２０１およびメータ２０２が表示される（図５９におけるＤ０１および図６１（Ｂ）参照）。

【０４６９】

20

なお、図５９に示すように、バトル演出が中断されて、ボタン操作示唆表示２０１が表示される。よって、遊技者はプッシュボタン１２０の操作の有効期間を認識し易くなる。

【０４７０】

図５９に示す例では、役物作動演出の態様として、「勝利演出」、「敗北演出」および「復活演出」がある。

【０４７１】

Ｄ１１～Ｄ１３に示す「勝利演出」の態様では、プッシュボタン１２０の操作有効期間内に遊技者がプッシュボタン１２０を操作すると、直後に演出用役物１２７が動作し（図５９におけるＤ１１および図６１（Ｃ），（Ｄ）参照）、演出表示装置９に「勝利」の文字画像４０２と特定のキャラ画像４０３が表示された後（図５９におけるＤ１２および図

30

図６１（Ｃ），（Ｄ）参照）、大当りを示す飾り図柄が停止表示される（図５９におけるＤ１３および図６１（Ｃ），（Ｄ）参照）。

【０４７２】

Ｄ３１，Ｄ３３に示す「敗北演出」の態様では、プッシュボタン１２０の操作有効期間内に遊技者がプッシュボタン１２０を操作すると、直後に演出表示装置９に「敗北」の文字画像４０４が表示された後（図５９におけるＤ３１および図６１（Ｇ）参照）、はずれを示す演出図柄が停止表示される（図５９におけるＤ３３および図６１（Ｇ）参照）。

【０４７３】

Ｄ２１～Ｄ２３に示す「復活演出」の態様では、プッシュボタン１２０の操作有効期間内に遊技者がプッシュボタン１２０を操作すると、直後に演出表示装置９に一旦「敗北」の文字画像４０４が表示され（図５９におけるＤ２１および図６１（Ｇ），（Ｈ）参照）、その後に演出用役物１２７が動作し（図５９におけるＤ２２参照）、大当りを示す飾り図柄が停止表示される（図５９におけるＤ２３および図６１（Ｇ），（Ｈ）参照）。

40

【０４７４】

なお、復活演出の態様で予告演出が実行される場合には、プッシュボタン１２０が操作されたときから所定時間が経過した時点で操作時演出としての演出用役物１２７の動作が行われることになる。また、その場合、プッシュボタン１２０が操作されたときに操作時演出とは異なる演出（図５９に示す例では、「敗北」の文字画像４０４を表示する演出）が実行される。

【０４７５】

50

また、演出用役物 1 2 7 が動作することは、操作時演出（この例では、ボタン操作示唆表示 2 0 1）の実行中にプッシュボタン 1 2 0 が操作されたことにもとづいて実行される特別演出に相当する。図 5 9 に示すように、「復活演出」が実行される場合には、プッシュボタン 1 2 0 が操作されたときから所定時間が経過した時点で特別演出（演出用役物 1 2 7 の作動）が実行される。

【0 4 7 6】

プッシュボタン 1 2 0 が操作有効期間内に操作されなかった場合に、役物作動演出の態様として勝利演出または復活演出が選択されているときには（図 6 0（F）参照）、演出表示装置 9 に、「敗北」の文字画像 4 0 4 が表示される（図 6 0 における D 2 1 参照）。しかし、演出用役物 1 2 7 が動作した後（図 6 0 における D 2 2）、最終的には、大当りを示す飾り図柄が停止表示される（図 6 0 における D 2 3）。 10

【0 4 7 7】

プッシュボタン 1 2 0 が操作有効期間内に操作されなかった場合に、役物作動演出の態様として敗北演出が選択されているときには、演出表示装置 9 に、「敗北」の文字画像 4 0 4 が表示される（図 6 0 における D 3 1 および図 6 1（I）参照）。その後、はずれを示す演出図柄が停止表示される（図 6 0 における D 3 3 および図 6 1（I）参照）。 20

【0 4 7 8】

図 6 0 に示すように、この実施形態では、プッシュボタンが 1 2 0 が操作有効期間内に操作されなかった場合には、役物作動演出の態様として勝利演出が選択されている場合であっても、勝利演出は実行されず復活演出が実行される。 20

【0 4 7 9】

図 6 2 ～図 6 4 は、第 1 所定演出処理（ステップ S 8 1 0）を示すフローチャートである。第 1 所定演出処理では、普通図柄の変動表示が開始されたことを契機として所定の条件が成立すると所定演出が開始される。

【0 4 8 0】

第 1 所定演出処理において、演出制御用 CPU 1 0 1 は、第 1 所定演出を実行中であることを示す第 1 所定演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 7 3 1）。第 1 所定演出実行中フラグがセットされていなければ、演出制御用 CPU 1 0 1 は、第 2 所定演出を実行中であることを示す第 2 所定演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 7 3 2）。第 2 所定演出実行中フラグがセットされている場合には、処理を終了する。第 2 所定演出実行中フラグがセットされていない場合には、ステップ S 7 4 1 に移行する。 30

【0 4 8 1】

ステップ S 7 3 1 で第 1 所定演出実行中フラグがセットされていた場合には（すなわち、第 1 所定演出の実行中である場合には）、演出制御用 CPU 1 0 1 は、第 1 所定演出の演出期間を計測するための第 1 所定演出タイマの値を－1 する（ステップ S 7 3 4）。そして、第 1 所定演出タイマの値が 0 になったときには（ステップ S 7 3 5）、第 1 所定演出を終了する（ステップ S 7 3 6）。また、演出制御用 CPU 1 0 1 は、第 1 所定演出実行中フラグをリセットする（ステップ S 7 3 7）。 40

【0 4 8 2】

ステップ S 7 4 1 では、演出制御用 CPU 1 0 1 は、次変動ありフラグ（次に開始される特別図柄および飾り図柄の変動中に第 1 所定演出を実行することに決定されていることを示すフラグ）がセットされているか否か確認する。次変動ありフラグがセットされている場合には、ステップ S 7 6 1 に移行する。 40

【0 4 8 3】

次変動ありフラグがセットされていない場合には、演出制御用 CPU 1 0 1 は、未変動期間計測タイマ（特別図柄および飾り図柄の変動（可変表示）が開始されない期間を計測するためのタイマ）が動作中（0 でない）であるか否か確認する（ステップ S 7 4 2）。未変動期間計測タイマが動作中でない場合には、ステップ S 7 5 1 に移行する。なお、特別図柄の変動と飾り図柄の変動とは同期しているので、以下、特別図柄の変動を例にして 50

説明を行う。

【0484】

未変動期間計測タイマが動作中である場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動が開始されたか否か確認する（ステップS743）。特別図柄の変動が開始されたか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値が飾り図柄変動開始処理または飾り図柄変動中処理に対応する値であるか否かによって判定される。特別図柄の変動が開始された場合にはステップS771に移行する。

【0485】

特別図柄の変動が開始されていない場合には、演出制御用CPU101は、未変動期間計測タイマの値を-1する（ステップS744）。そして、未変動期間計測タイマの値が0になったときにはステップS771に移行する（ステップS745）。未変動期間計測タイマの値が0でない場合には、処理を終了する。

10

【0486】

ステップS751では、演出制御用CPU101は、普通図柄変動開始指定コマンド（普通図柄変動開始指定（当り）コマンドまたは普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンド）を受信したことを示す普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグ（普通図柄変動開始指定（当り）コマンド受信フラグまたは普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンド受信フラグ）がセットされているか否か確認する。セットされていない場合には、処理を終了する。

【0487】

20

普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグがセットされている場合には、演出制御用CPU101は、遊技状態データが、高ベース状態を示す値になっているか否か確認する（ステップS752）。高ベース状態を示す値になっている場合には、処理を終了する。

【0488】

高ベース状態を示す値になっていない場合には、演出制御用CPU101は、大当り遊技状態（小当り遊技状態も含む）であるか否か確認する（ステップS753）。大当り遊技状態であるか否かは、例えば演出制御プロセスフラグの値で確認される。その場合、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値が4以上であるときに大当り遊技状態であるとする。大当り遊技状態である場合には、処理を終了する。

【0489】

30

大当り遊技状態でない場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時格納領域（図50参照）に、小当りに対応する図柄指定コマンド（図柄6指定コマンド：図25参照）が記憶されているか否か確認する（ステップS754）。小当りに対応する図柄指定コマンドが記憶されている場合には、処理を終了する。

【0490】

小当りに対応する図柄指定コマンドが記憶されていない場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動中であるか否か確認する（ステップS755）。特別図柄の変動中であるか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値が飾り図柄変動中処理または飾り図柄変動停止処理に対応する値であるか否かによって判定される。特別図柄の変動中でない場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動が終了してから1分以上経過しているか否か確認する（ステップS757）。

40

【0491】

なお、例えば、特別図柄の変動が終了してからの時間を計測するためのタイマを用意し、そのタイマの計測値を確認することによって、ステップS757の判定処理が実現される。特別図柄の変動が終了してから1分以上経過している場合には処理を終了する。特別図柄の変動が終了してからの時間が1分未満である場合には、ステップS759に移行する。

【0492】

また、特別図柄の変動が終了してから1分以上経過している場合に処理を終了することは、遊技者が特別図柄の変動が終了してから暫くの間遊技を継続することを考慮するため

50

である。すなわち、この実施の形態では、低ベース状態における普通図柄の変動時間は10秒であり（図29参照）、ゲート通過記憶数（普通図柄保留数）の上限値は4であるから、 $[4 \times 10 \text{ 秒}]$ よりもやや多い時間が経過するまでは、ステップS759の処理を実行した方がよいと考えられるからである。

【0493】

特別図柄の変動中である場合には、演出制御用CPU101は、変動開始から所定時間（この例では、11.5）経過しているか否か確認する（ステップS758）。所定時間が経過している場合には、処理を終了する。

【0494】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチ演出が実行されることになる変動パターンによって飾り図柄の変動（可変表示）が実行されときには、変動開始から11.5秒後にスーパーリーチ演出が開始される。

10

【0495】

所定時間が経過していない場合には、演出制御用CPU101は、第1所定演出の有無および種類の決定を行う（ステップS759）。そして、ステップS764に移行する。なお、変動開始からの経過時間は、例えば、変動時間タイマ（図75および図80参照）の値によって判定される。

【0496】

ステップS759では、演出制御用CPU101は、例えば、図65に示す第1所定演出決定テーブルを用いて、第1所定演出の有無および種類（いずれの報知結果とするか）を決定する。

20

【0497】

図65に示す第1所定演出決定テーブルには、普通図柄の表示結果をはずれ図柄にする場合（普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンド受信フラグがセットされている場合に相当）と普通図柄の表示結果を当り図柄にする場合（普通図柄変動開始指定（当り）コマンド受信フラグがセットされている場合に相当）との各々に応じて、所定演出を実行しないことに対応する判定値と、所定演出（×）を実行することに対応する判定値と、所定演出（○）を実行することに対応する判定値と、所定演出（×）の後に所定演出（○）を実行することに対応する判定値とが設定されている。なお、所定演出（×）とは、リーチ演出が実行されず可変入賞球装置15も遊技球が進入（通過）しやすい状態に制御されないこと（はずれの報知結果）を報知する所定演出であり、所定演出（○）とは、可変入賞球装置15が遊技球が進入（通過）しやすい状態に制御されることを報知する所定演出である。なお、第1所定演出決定テーブルには、少なくとも所定演出を実行することに対応する判定値が設定されていればよい。また、図65には、判定値そのものではなく、判定値数が示されている。

30

【0498】

なお、図65に示す「報知内容」（所定演出）の態様に代えて、または図65に示す「報知内容」の態様に加えて、他の態様を用いてもよい。例えば、一般に確変確定報知のために使用されるパトランプ（緊急用の赤色灯）状の画像や、特別図柄の表示結果を予告報知するためのステップアップ予告演出において使用されるキャラクタ画像や、大当たり報知のための画像等を、他の態様として用いてもよい。それらを使用する場合には、確変確定報知、ステップアップ予告演出、大当たり報知等と所定演出とを連動させた演出が実現される。

40

【0499】

また、図65に示す例では、普図当りとなる場合であっても、10%の低い割合で所定演出を実行しない場合があるように構成しているが、普図当りとなる場合には、100%の割合で所定演出を実行するように構成してもよい。

【0500】

演出制御用CPU101は、ステップS759の処理において、所定演出決定用乱数（図51参照）を抽出し、所定演出決定用乱数が所定演出を実行することに対応する判定値

50

のいずれかと一致した場合に、所定演出を実行することに決定する。なお、演出制御用CPU101は、普通図柄変動開始指定（はずれ）コマンド受信フラグがセットされている場合には、第1所定演出決定テーブルにおける「普通図柄はずれ」に関する判定値を使用し、普通図柄変動開始指定（当り）コマンド受信フラグがセットされている場合には、第1所定演出決定テーブルにおける「普通図柄当り」に関する判定値を使用する。なお、普通図柄変動開始指定コマンド格納領域（ステップS672参照）に格納されている普通図柄変動開始指定コマンドを確認することにより普図当りであるか否かを判定し、普図当りであれば「普通図柄当り」に関する判定値を使用し、普図当りでなければ「普通図柄はずれ」に関する判定値を使用するようにしてもよい。

【0501】

10

また、演出制御用CPU101は、ステップS759の処理を実行するときに、普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグをリセットする。なお、演出制御用CPU101は、ステップS733で「Y」と判定した場合にも、普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグがセットされていた場合には、普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグをリセットする。また、演出制御用CPU101は、ステップS752、S753、S754、S757、S758で「Y」と判定したことによりステップS759の処理に移行しなかった場合にも、セットされている普通図柄変動開始指定コマンド受信フラグをリセットする。

【0502】

ステップS761では、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動が開始されたか否か確認する。特別図柄の変動が開始されたか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値によって判定される。特別図柄の変動が開始されていない場合には、演出短縮用タイマ（所定演出の演出期間の短縮の程度を決定するためのタイマ）の値を+1する（ステップS762）。特別図柄の変動が開始された場合には、ステップS771に移行する。

20

【0503】

ステップS764では、演出制御用CPU101は、第1所定演出を実行することに決定されているか否か確認する。なお、ステップS759の処理で第1所定演出を実行することに決定される。第1所定演出を実行することに決定されていない場合には、処理を終了する。

【0504】

第1所定演出を実行することに決定されている場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動中であるか否か確認する（ステップS765）。特別図柄の変動中であるか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値が飾り図柄変動中処理または飾り図柄変動停止処理に対応する値であるか否かによって判定される。特別図柄の変動中でなければ、ステップS770に移行する。特別図柄の変動中である場合には、演出制御用CPU101は、変動パターンがリーチにもならないはずれであるか否か確認する（ステップS766）。変動パターンがリーチ演出を含む場合には、ステップS771に移行する。

30

【0505】

変動パターンがリーチにもならないはずれである場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動の残り時間（例えば、図75および図80に示す変動時間タイマの値で特定される。）が普通図柄の変動時間（例えば、10秒：可変入賞球装置が遊技球が進入しやすい状態に制御されるまでの期間に相当）よりも短いかなどを確認する（ステップS767）。短くない場合には、ステップS771に移行する。なお、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動の残り時間が、普通図柄の変動時間より短い所定時間（例えば、3秒）よりも短いかなどを確認するようにしてもよい。

40

【0506】

特別図柄の変動の残り時間が短い場合には、演出制御用CPU101は、保留記憶がある（少なくとも第1保留記憶数カウンタの値と第2保留記憶数カウンタの値とのいずれかが0でない）かなどを確認する（ステップS768）。保留記憶がない場合には、ステップS771に移行する。

【0507】

50

保留記憶がある場合には、演出制御用CPU101は、次変動ありフラグをセットする（ステップS769）。

【0508】

ステップS770では、演出制御用CPU101は、未変動期間計測タイマに所定の時間（この例では、3秒）に相当する値を設定する。

【0509】

ステップS771では、演出制御用CPU101は、次変動ありフラグがセットされているか否か確認する。次変動ありフラグがセットされている場合には、演出短縮用タイマの値（ステップS741、S761、S762参照）に応じた所定演出パターンを選択する（ステップS772）。具体的には、所定演出のパターンを、図53に示された所定演出の期間から演出短縮用タイマの値を減算した期間を演出期間とするパターンに決定する。短縮される期間は、図53に示された結果報知演出の期間である。

10

【0510】

次変動ありフラグがセットされていない場合には、演出制御用CPU101は、未変動期間計測用タイマの値（ステップS742、S743、S744参照）が0になっているか否か確認する（ステップS773）。未変動期間計測用タイマの値が0になっていない場合には、演出制御用CPU101は、未変動期間計測用タイマの値に応じた所定演出パターンを選択する（ステップS774）。具体的には、所定演出のパターンを、図53に示された所定演出の期間から未変動期間計測用タイマの値を減算した期間を演出期間とするパターンに決定する。なお、短縮される期間は、図53に示された結果報知演出の期間である。

20

【0511】

未変動期間計測用タイマの値が0である（未変動期間計測用タイマがタイムアウトしている）場合には、演出制御用CPU101は、特別図柄の変動中であるか否か確認する（ステップS775）。特別図柄の変動中である場合には、演出制御用CPU101は、第2期間（図53参照）から開始される所定演出パターンを選択する（ステップS776）。特別図柄の変動中でない場合には、演出制御用CPU101は、第1期間（図53参照）から開始される所定演出パターンを選択する（ステップS777）。

【0512】

次いで、演出制御用CPU101は、第1所定演出タイマに、決定された所定演出のパターンに応じた時間に対応する値をセットする（ステップS778）。そして、演出制御用CPU101は、第1所定演出を開始する（ステップS779）とともに、第1所定演出実行中フラグをセットする（ステップS780）。

30

【0513】

なお、第1所定演出実行中フラグをセットする場合、第1所定演出の報知結果も特定可能な情報もセットする。この場合、例えば、報知結果が「×」であることを示すフラグや、報知結果が「○」であることを示すフラグ、所定演出（×）の後に所定演出（○）を実行することを示すフラグをセットするようにしてもよい。また、例えば、第1所定演出実行中フラグが複数ビット（例えば、1バイト）で構成される場合には、第1所定演出実行中フラグの所定ビットにいずれの報知結果であるかを指定する値を設定することによって、いずれの報知結果であるかを特定可能であるようにしてもよい。

40

【0514】

なお、この実施の形態では、具体的は、第1所定演出は、後述するプロセステーブルに設定されているデータに従って演出制御を実行することによって実現される。その場合には、演出制御用CPU101は、ステップS779の処理で、決定された所定演出のパターンに応じたプロセステーブルを選択し、選択したプロセステーブルに設定されているデータを用いて演出表示装置9の表示制御等を開始する。なお、各プロセステーブルは、あらかじめROMに格納されている。

【0515】

図66は、第2所定演出処理（ステップS811）を示すフローチャートである。第2

50

所定演出先読み処理では、演出制御用CPU101は、まず、新たな変動カテゴリコマンドを受信したか否かを確認する（ステップS5201）。新たな変動カテゴリコマンドを受信した場合には、演出制御用CPU101は、第1所定演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS5202）。第1所定演出実行中フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、第2所定演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS5203）。第2所定演出実行中フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、第2所定演出の実行が決定されていることを示す第2所定演出決定フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS5204）。

【0516】

10

第2所定演出決定フラグもセットされていないければ、演出制御用CPU101は、次変動ありフラグがセットされているか否か確認する（ステップS5205）。次変動ありフラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、未変動期間計測タイマが動作中（0でない）であるか否か確認する（ステップS5206）。

【0517】

未変動期間計測タイマが動作中でない場合には、演出制御用CPU101は、遊技状態データが、高ベース状態を示す値になっているか否か確認する（ステップS5207）。高ベース状態を示す値になっている場合には、処理を終了する。

【0518】

高ベース状態を示す値になっていない場合には、演出制御用CPU101は、大当り遊技状態（小当り遊技状態も含む）であるか否か確認する（ステップS5208）。大当り遊技状態であるか否かは、例えば演出制御プロセスフラグの値で確認される。その場合、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値が4以上であるときに大当り遊技状態であるとする。大当り遊技状態である場合には、処理を終了する。

20

【0519】

大当り遊技状態でなければ、演出制御用CPU101は、新たに受信した変動カテゴリコマンドで示される変動パターン種別がスーパーリーチはずれまたはスーパーリーチ大当りの判定結果を示しているか否か確認する（ステップS5209）。具体的には、変動カテゴリ8コマンド、変動カテゴリ10コマンド、変動カテゴリ12コマンド、変動カテゴリ23コマンドまたは変動カテゴリ26コマンド（図26および図27参照）を受信した

30

【0520】

次いで、演出制御用CPU101は、第2所定演出の有無および種類を決定するための第2所定演出決定テーブルとして、入賞時判定結果（スーパーリーチはずれ、またはスーパーリーチ大当り）および合算保留記憶数に応じた所定演出決定テーブルを選択する（ステップS5210）。

【0521】

また、演出制御用CPU101は、ステップS5210の処理で選択した第2所定演出決定テーブルを用いて、第2所定演出の有無および種類の決定を行う（ステップS5211）。

40

【0522】

図67は、第2所定演出決定テーブルを示す説明図である。図67に示すように、この実施の形態では、第2所定演出決定テーブルにおいて、入賞時判定結果および合算保留記憶数に対応付けて、所定演出を実行しないことに対応する判定値と、所定演出（×）を実行することに対応する判定値と、所定演出（チャンス）を実行することに対応する判定値と、所定演出（激熱）を実行することに対応する判定値とが設定されている。

【0523】

また、図67に示すように、この実施の形態では、スーパーリーチ大当りとなる場合には、スーパーリーチはずれとなる場合と比較して、特定演出に対する期待度が最も高い所定演出（激熱）が高い割合で決定されるとともに、合算保留記憶数が多くなるに従って所

50

定演出（激熱）の実行割合が高まる。この実施の形態では、後述するように、第2所定演出が実行される変動表示が開始される前の各変動表示において、先読み予告演出が実行される（すなわち、はずれの報知結果となるがセの所定演出）が実行されるのであるが、そのように合算保留記憶数が多くなるに従って所定演出（激熱）の実行割合が高められていることによって、先読み予告演出の数が多く実行されるほど、特定演出（本例では、スーパーリーチ演出）が出現することに対する期待感を高めることができる。

【0524】

次いで、演出制御用CPU101は、先読み予告決定処理を実行する（ステップS5212）。

【0525】

また、演出制御用CPU101は、第2所定演出を実行することに決定した場合には、第2所定演出決定フラグをセットする（ステップS5213、S5214）。

【0526】

なお、第2所定演出決定フラグをセットする場合、第2所定演出の報知結果も特定可能な情報もRAMに記憶する。一例として、報知結果が「×」であることを示すフラグや、報知結果が「チャンス」であることを示すフラグ、報知結果が「激熱」であることを示すフラグをセットする。また、例えば、第2所定演出決定フラグが複数ビット（例えば、1バイト）で構成される場合には、第2所定演出決定フラグの所定ビットにいずれの報知結果であるかを指定する値を設定することによって、いずれの報知結果であるかを特定可能であるようにしてもよい。

【0527】

次いで、演出制御用CPU101は、合算保留記憶数を第1変動回数カウンタにセットする（ステップS5215）。なお、第1変動回数カウンタは、第2所定演出を含む変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数をカウントするためのカウンタである。なお、この実施の形態では、特別図柄や飾り図柄の変動表示中に第2所定演出の実行の決定が行われてステップS5215で第1変動回数カウンタがセットされた場合には、まず、その実行中の変動表示の終了時に第1変動回数カウンタの値が1減算され（ステップS8312参照）、結果として、第2所定演出を含む変動表示の1つ前の変動表示までで第1変動回数カウンタの値が0になる。なお、ステップS5215において、特別図柄や飾り図柄の変動表示中でない場合には、演出制御用CPU101は、現在の合算保留記憶数から1減算した値を第1変動回数カウンタにセットするようにすることが望ましい。そのように構成すれば、必ず第2所定演出を含む変動表示の1つ前の変動表示までで第1変動回数カウンタの値が0になるようにすることができる。

【0528】

図68～図70は、先読み予告演出決定処理（ステップS5212）を示すフローチャートである。先読み予告演出決定処理において、演出制御用CPU101は、既に先読み予告演出を実行中であることを示す先読み予告演出実行フラグまたは先読み予告演出が実行されたことを示す先読み予告演出実行済フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS6005）。なお、先読み予告演出実行フラグは、後述するステップS6014、S6027、S8011でセットされる。先読み予告演出実行済フラグは、ステップS840Gでセットされる。先読み予告演出実行フラグまたは先読み予告演出実行済フラグがセットされている場合には、ステップS6020に移行する。

【0529】

ステップS6005の処理が実行されることによって、先読み予告演出を実行中でないことを条件に先読み予告演出の決定処理が実行される。また、先読み予告演出実行済フラグがセットされていないことを条件に先読み予告演出の決定処理が実行される。なお、先読み予告演出実行済フラグは、先読み予告演出が実行された後、先読み予告演出の対象である可変表示が実行されるとリセットされる。

【0530】

先読み予告演出実行フラグも先読み予告演出実行済フラグもセットされていない場合に

10

20

30

40

50

は、演出制御用CPU101は、先読み予告演出設定制限期間であることを示す先読み予告演出設定制限フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS6006）。先読み予告演出設定制限フラグがセットされている場合には、ステップS6020に移行する。すなわち、先読み予告演出設定制限期間中である場合には、ステップS6013の先読み予告演出の判定処理に移行しないようにして、先読み予告演出の実行を制限する。

【0531】

先読み予告演出設定制限フラグがセットされていない場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の始動入賞時のコマンドの内容を確認し、始動入賞時のコマンドを順番通りに全て受信したか否かを確認する（ステップS6007）。

10

【0532】

具体的には、この実施の形態では、始動入賞時のコマンドとして、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの4つのコマンドを1タイマ割込内に一括して受信するはずであるから、始動入賞時コマンド格納領域には、MODEデータがそれぞれ「C4(H)」、「C6(H)」、「C0(H)」(または「C1(H)」)、および「C2(H)」であるコマンドが格納されているはずである(図24参照)。従って、演出制御用CPU101は、これらのうちいずれかのMODEデータが格納されていなければ、ノイズやMODEデータのデータ化けなどの原因によりコマンドの受信し損ないが発生し、コマンドを正しく受信できなかったと判断できる。

20

【0533】

また、この実施の形態では、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの順番に受信するはずであるので、始動入賞時コマンド格納領域には、MODEデータが「C4(H)」、「C6(H)」、「C0(H)」(または「C1(H)」)、および「C2(H)」の順番に格納されているはずである。従って、演出制御用CPU101は、これらのMODEデータが全て格納されていても、順番が異なっていれば(例えば、「C4(H)」よりも前に「C6(H)」が格納されていれば)、ノイズやMODEデータのデータ化けなどの原因によりコマンドを正しく受信できなかったと判断できる。

【0534】

30

受信した始動入賞時のコマンドが順番通りでなかったり一部が欠落していると判断した場合には、演出制御用CPU101は、ステップS6023に移行する。始動入賞時のコマンドを順番通りに全て受信したと判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合しているか否かを確認する(ステップS6005)。具体的には、図柄指定コマンドとしてはずれを指定する図柄1指定コマンド(C400(H))が格納されている場合には、変動カテゴリコマンドとしてはずれに対応した変動カテゴリ1コマンド～変動カテゴリ12コマンドのいずれかが格納されているはずである(図25および図26参照)。それにもかかわらず、大当たりや突然確変大当たり、小当たりに対応した変動カテゴリ21コマンド～変動カテゴリ29コマンド(図27参照)が格納されていた場合には、演出制御用CPU101は、図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合せず矛盾があると判断できる。

40

【0535】

図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合していないと判断した場合には、演出制御用CPU101は、ステップS6023に移行する。図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合していると判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合しているか否かを確認する(ステップS6009)。具体的には、第1始動入賞口13への始動入賞があったことを指定する第1始動入賞指定コマンドや第2始動入賞口14への始動入賞があったことを指定する第2始動入賞指

50

定コマンドが格納されているにもかかわらず、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている合算保留記憶数指定コマンドのEXTデータで示される合算保留記憶数が0であった場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合せず矛盾があると判断できる。

【0536】

始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合していないと判断した場合には、演出制御用CPU101は、ステップS6023に移行する。

【0537】

なお、この実施の形態では、ステップS6007～S6009の判定処理のうちのいずれか1つでも「N」と判定された場合に、ステップS6023に移行して先読み予告演出設定制限期間に移行するが、例えば、ステップS6007～S6009の判定処理のうちのいずれか2つで「N」と判定されたことを条件に、ステップS6023に移行して先読み予告演出設定制限期間に移行するようにしてもよく、ステップS6007～S6009の全ての判定処理において「N」と判定されたことを条件に、ステップS6023に移行して先読み予告演出設定制限期間に移行するようにしてもよい。

【0538】

始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合していると判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている変動カテゴリコマンドを全て抽出し、抽出した各変動カテゴリコマンドにもとづいて、1つ前までの始動入賞に対する入賞時判定結果として記憶する変動カテゴリコマンドが全て変動カテゴリ1コマンド(コマンドC600(H)。非リーチCA2-1指定)であるか否かを確認する(ステップS6010)。全て変動カテゴリ1コマンドであれば、ステップS6011に移行する。変動カテゴリ1コマンド以外の変動カテゴリコマンドが1つでも含まれていれば、ステップS6011の処理を実行することなく、ステップS6020に移行する。

【0539】

ステップS6010の処理が実行されることによって、この実施の形態では、予告対象となる変動表示が開始されるまでの各変動表示について全て「非リーチはずれ」となることを条件に先読み予告演出を実行可能になる。そのように構成することによって、先読み予告演出の途中でリーチ演出が割り込むことにより先読み予告演出の連続性が損なわれる事態が防止される。なお、このことは、後述するステップS6024、S8008の処理についても同様である。なお、予告対象までの変動表示が全て変動カテゴリ1であるか否かの判定処理(ステップS6010)を行わないようにして、予告対象までの変動表示が全て「非リーチはずれ」であるか否かにかかわらず、ステップS6011以降の処理を実行するようにしてもよい。

【0540】

全て変動カテゴリ1コマンドであれば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果と第2所定演出の実行/非実行に応じて先読み予告演出決定テーブルを選択する(ステップS6011)。そして、先読み予告演出決定テーブルと先読み予告演出決定用乱数とにもとづいて先読み予告演出を実行するか否か決定する(ステップS6013)。具体的には、先読み予告演出決定用乱数を抽出し、乱数値に一致する判定値(先読み予告演出決定テーブルに設定されている判定値)に応じて、先読み予告演出を実行するか否か決定する。

【0541】

図71は、先読み予告演出決定テーブルを示す説明図である。先読み予告演出決定テーブルには、先読み予告演出を実行しないことに対応する判定値と、先読み予告演出を実行することに対応する判定値とが設定されている。なお、先読み予告演出を実行しないことに対応する判定値と先読み予告演出を実行することに対応する判定値とのいずれかを先読み予告演出決定テーブルに設定するようにしてもよい。

【0542】

図71に示すように、この実施の形態では、変動カテゴリコマンドによって変動パター

ン種別の入賞時判定結果として「ボタン演出リーチ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」のいずれかの判定結果が示されている場合に、高い割合で先読み予告演出が実行される。なお、この実施の形態では、ボタン演出リーチは、ノーマルPA2-1～ノーマルPA2-4（図16参照）である。変動パターン種別では、ノーマルCA3-1またはノーマルCA2-4である（図21参照）。

【0543】

また、図71に示すように、第2所定演出が実行される場合には、第2所定演出が実行されない場合に比べて高い割合で先読み予告演出が実行される。

【0544】

また、この実施の形態では、先読み予告演出は、予告対象の可変表示が開始される前の各々の可変表示中において実行される。しかし、予告対象の可変表示が開始される前の複数回の可変表示（例えば、3回の可変表示）における1回または所定回（例えば、2回）の可変表示において先読み予告演出を実行するようにしてもよい。その場合、演出制御用CPU101は、先読み予告演出を実行することに決定したときに、先読み予告演出の実行回数やどのタイミングで（どの回の可変表示において）先読み予告演出を実行するのかを、例えば、乱数を用いた抽選によって決定する。

【0545】

なお、ステップS6013では、演出制御用CPU101は、大当たり遊技中であるか否かも確認するようにし、大当たり遊技中であれば、先読み予告演出を実行しないように決定することが望ましい。なお、大当たり遊技中であるか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値が大当たり表示処理～大当たり終了演出処理を示す値（具体的には、4～7）となっているか否かを確認することによって判定できる。このことは、後述するステップS6026、S8010についても同様である。

【0546】

なお、大当たり遊技中であっても先読み予告演出を実行可能に構成してもよい。例えば、始動入賞が発生し始動入賞時のコマンドを受信したタイミングではなく、大当たり遊技中の特定のラウンド（例えば、10ラウンド）において、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドを読み出して先読み予告演出を実行するか否かを決定して、その特定のラウンドにおいて先読み予告演出を実行するようにしてもよい。

【0547】

演出制御用CPU101は、先読み予告演出を実行しないことに決定した場合には（ステップS6013）、ステップS6020に移行する。

【0548】

先読み予告演出を実行することに決定した場合には、演出制御用CPU101は、先読み予告演出の実行を決定したことを示す先読み予告演出実行フラグをセットする（ステップS6014）。

【0549】

また、演出制御用CPU101は、現在の合算保留記憶数を第2変動回数カウンタにセットする（ステップS6015）。具体的には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の合算保留記憶数指定コマンドで指定されている合算保留記憶数を第2変動回数カウンタにセットする。

【0550】

なお、第2変動回数カウンタは、先読み予告演出の判定対象となった変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数をカウントするためのカウンタである。この実施の形態では、飾り図柄の変動表示中に先読み予告演出の実行の決定が行われてステップS6015や後述するステップS6028で第2変動回数カウンタがセットされた場合には、まず、その実行中の変動表示の終了時に第2変動回数カウンタの値が1減算され（ステップS8322参照）、結果として、入賞時判定の対象となった変動表示の1つ前の変動表示までで第2変動回数カウンタの値が0となり先読み予告演出の判定を行わない期間が終

了する。

【0551】

なお、ステップS6015や後述するステップS6028の処理において、飾り図柄の変動表示中でない場合には、演出制御用CPU101は、現在の保留記憶数から1減算した値を第2変動回数カウンタにセットするようにすることが望ましい。そのように構成すれば、必ず入賞時判定の対象となった変動表示の1つ前の変動表示まで先読み予告演出の判定を行わない期間が終了するようにすることができる。

【0552】

また、ステップS6015の処理で第2変動回数カウンタに設定される値と、ステップS5215の処理で第1変動回数カウンタに設定される値とは同じである。従って、先読み予告演出は、第2所定演出が実行される飾り図柄の可変表示の前に実行される可変表示まで実行されることになる。

【0553】

ステップS6020では、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の始動入賞指定コマンドが第1始動入賞指定コマンドであるか否かを確認する。第1始動入賞指定コマンドが格納されていれば、演出制御用CPU101は、合算保留記憶表示部18cにおいて保留表示として第1通常表示を1つ増加させる（ステップS6021）。

【0554】

最新の始動入賞指定コマンドが第1始動入賞指定コマンドでなければ（すなわち、第2始動入賞指定コマンドが格納されている場合であれば）、演出制御用CPU101は、合算保留記憶表示部18cにおいて保留表示として第2通常表示を1つ増加させる（ステップS6022）。

【0555】

ステップS6023に処理が移行する場合は、いずれかの始動入賞時のコマンドの受信し損ないまたは不整合が発生し、始動入賞時のコマンドを正常に受信できなかった場合である。この場合、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新のコマンドを確認し、少なくとも始動入賞指定コマンド以外のコマンド（すなわち、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）を受信しているか否かを確認する（ステップS6023）。具体的には、始動入賞時コマンド格納領域の最新のコマンドが格納されている格納領域において欠落しているコマンドが始動入賞指定コマンド（第1始動入賞指定コマンドまたは第2始動入賞指定コマンド）のみであり、それ以外の図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドが順番通りに格納され、図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容も整合していれば、少なくとも始動入賞指定コマンド以外の3つのコマンド（図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、合算保留記憶数指定コマンド）については受信できていることから、ある程度の信憑性を担保できている可能性がある。始動入賞指定コマンド以外のコマンドの中に受信できなかったものがある場合には、ステップS6031に移行する。

【0556】

少なくとも始動入賞指定コマンド以外のコマンドを受信していると判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている変動カテゴリコマンドを全て抽出し、抽出した各変動カテゴリコマンドにもとづいて、1つ前までの始動入賞に対する入賞時判定結果として記憶する変動カテゴリコマンドが全て変動カテゴリ1コマンド（コマンドC600（H）。非リーチCA2-1指定。）であるか否かを確認する（ステップS6024）。全て変動カテゴリ1コマンドであれば、ステップS6025に移行する。変動カテゴリ1コマンド以外の変動カテゴリコマンドが1つでも含まれていれば、ステップS6025の処理を実行することなく、ステップS6031に移行する。

【0557】

全て変動カテゴリ1コマンドであれば、演出制御用CPU101は、ステップS601

10

20

30

40

50

1, S 6 0 1 3 の処理と同様に、入賞時判定結果と第 2 所定演出の実行／非実行に応じて先読み予告演出決定テーブルを選択し、先読み予告演出決定テーブルと先読み予告演出決定用乱数とにもとづいて先読み予告演出を実行するか否か決定する（ステップ S 6 0 2 5, S 6 0 2 6）。先読み予告演出を実行しないことに決定した場合には、ステップ S 6 0 3 1 に移行する。

【0558】

先読み予告演出を実行することに決定した場合には、演出制御用 CPU 1 0 1 は、先読み予告演出実行フラグをセットする（ステップ S 6 0 2 7）。

【0559】

次いで、演出制御用 CPU 1 0 1 は、現在の合算保留記憶数を第 2 変動回数カウンタにセットする（ステップ S 6 0 2 8）。この場合、演出制御用 CPU 1 0 1 は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている最新の合算保留記憶数指定コマンドで指定されている合算保留記憶数を第 2 変動回数カウンタにセットする。そして、ステップ S 6 0 3 2 に移行する。

【0560】

ステップ S 6 0 3 1 では、演出制御用 CPU 1 0 1 は、始動入賞時コマンド格納領域の最新のコマンドを格納領域において未判定情報をセットする（ステップ S 6 0 3 1）。具体的には、図 5 0 において、最新のコマンドが格納されている格納領域の未判定情報の値を「1」にセットする。

【0561】

ステップ S 6 0 3 2 では、演出制御用 CPU 1 0 1 は、合算保留記憶表示部 1 8 c に表示されている全ての保留表示を、第 1 通常表示、第 2 通常表示、第 1 特殊表示および第 2 特殊表示のいずれとも異なる未受信態様に変更するとともに、未受信態様の保留表示を 1 つ増加させる。この実施の形態では、演出制御用 CPU 1 0 1 は、合算保留記憶表示部 1 8 c に表示されている全ての保留表示を緑色の丸形表示に変更するとともに、緑色の丸形表示を 1 つ増加させる。なお、未受信態様の保留表示は、この実施の形態で示したものにかぎらず、例えば、緑以外の色（例えば、黄色）に保留表示を変更するようにしてもよい。

【0562】

なお、この実施の形態では、始動入賞時のコマンドの受信し損ないや不整合が生じた場合に、合算保留記憶表示部 1 8 c に表示されている全ての保留表示を変更するが、コマンドの受信し損ないや不整合が生じた保留記憶に対する保留表示のみを未受信態様で表示するようにし、それ以前の保留表示に関しては第 1 通常表示や第 2 通常表示、第 1 特殊表示、第 2 特殊表示を継続するようにしてもよい。また、コマンドの受信し損ないや不整合が生じた後、先読み予告演出設定制限期間中に、さらに発生した保留記憶に対して、未受信態様で保留表示を表示してもよいし、通常の第 1 通常表示や第 2 通常表示で表示してもよい。

【0563】

また、コマンドの受信し損ないが生じたときに、先読み予告演出を全く実行しないようにしてもよい。

【0564】

次いで、演出制御用 CPU 1 0 1 は、先読み予告演出設定制限フラグをセットし（ステップ S 6 0 3 3）、先読み予告演出設定制限期間を開始する。

【0565】

図 7 2 は、先読み予告演出の一例を示す説明図である。図 7 2 (A) に示すように、演出表示装置 9 において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が停止している状態から、飾り図柄の変動が開始されるときに、後導光板 5 0 5 b を表示用 LED 6 2 b で照射することにより爆発するような態様の先読み予告演出が実行される（図 7 2 (B) 参照）。そして、飾り図柄の変動が開始される（図 7 2 (C) 参照）。

【0566】

次いで、図 7 2 (D) に示すように、演出表示装置 9 において左中右の飾り図柄の変動 (可変表示) が停止している状態から、次回の飾り図柄の変動が開始されるときに、後導光板 5 0 5 b を表示用 L E D 6 2 b で照射することにより爆発するような態様の先読み予告演出が実行される (図 7 2 (E) 参照)。そして、飾り図柄の変動が開始される (図 7 2 (F) 参照)。

【0 5 6 7】

さらに、図 7 2 (G) に示すように、演出表示装置 9 において左中右の飾り図柄の変動 (可変表示) が停止している状態から、次回の飾り図柄の変動が実行され (図 7 2 (H) 参照)、変動中に所定演出が実行される (図 7 2 (I), (J) 参照)。所定演出は、演出エリア 9 F において図柄が変動するような演出 (ルーレットが回転するような態様の演出) である (図 7 2 (J) 参照)。その後、演出エリア 9 F において、可変入賞球装置 1 5 が遊技球が進入しやすい状態に制御されることを示唆する画像 9 c が停止表示される (図 5 4 (E) 参照)。

10

【0 5 6 8】

つまり、図 7 2 には、2 回の変動の開始時に先読み予告演出が実行され、3 回目の変動中に所定演出が実行される例が示されている。

【0 5 6 9】

なお、図 7 2 に例示されたような先読み予告演出の態様は一例であり、他の態様の先読み予告演出を用いてもよい。他の態様として、例えば、保留数表示を特定の態様で表示する保留球予告、所定演出 (ルーレット演出) における予兆演出と同等の演出、チャンス目の仮停止表示、特定のストーリーにもとづく動画像演出 (予告演出実行時にのみに出現する動画像演出) がある。

20

【0 5 7 0】

図 7 3 は、図 4 5 に示された演出制御プロセス処理における変動パターンコマンド受信待ち処理 (ステップ S 8 0 0) を示すフローチャートである。変動パターンコマンド受信待ち処理において、演出制御用 C P U 1 0 1 は、変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する (ステップ S 8 1 1)。変動パターンコマンド受信フラグがセットされていれば、変動パターンコマンド受信フラグをリセットする (ステップ S 8 1 2)。そして、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動開始処理 (ステップ S 8 0 1) に対応した値に更新する (ステップ S 8 1 3)。

30

【0 5 7 1】

図 7 4 および図 7 5 は、図 5 2 に示された演出制御プロセス処理における飾り図柄変動開始処理 (ステップ S 8 0 1) を示すフローチャートである。飾り図柄変動開始処理において、演出制御用 C P U 1 0 1 は、まず、先読み予告演出実行フラグがセットされているか否か確認する (ステップ S 8 0 0 0)。先読み予告演出実行フラグがセットされている場合には、ステップ S 8 0 2 1 に移行する。

【0 5 7 2】

演出制御用 C P U 1 0 1 は、先読み予告演出実行フラグがセットされていない場合には、先読み予告演出設定制限フラグがセットされているか否かを確認する (ステップ S 8 0 0 1)。先読み予告演出設定制限フラグがセットされていなければ (すなわち、先読み予告演出設定制限期間中でなければ)、ステップ S 8 0 2 1 に移行する。

40

【0 5 7 3】

先読み予告演出設定制限フラグがセットされている場合には (すなわち、先読み予告演出設定制限期間中であれば)、演出制御用 C P U 1 0 1 は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている始動入賞時のコマンドの内容を確認する (ステップ S 8 0 0 2)。そして、演出制御用 C P U 1 0 1 は、始動入賞時のコマンドが格納されている全ての格納領域 1 ~ 8 において、始動入賞時のコマンドを順番通りに全て受信した格納状態となっているか否かを確認する (ステップ S 8 0 0 3)。

【0 5 7 4】

具体的には、この実施の形態では、始動入賞時のコマンドとして、図柄指定コマンド、

50

変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの4つのコマンドを1タイマ割込内に一括して受信するはずであるので、始動入賞時コマンド格納領域の全ての格納領域1～8において、コマンドが格納されていれば、MODEデータがそれぞれ「C4(H)」、「C6(H)」、「C0(H)」(または「C1(H)」)、および「C2(H)」であるコマンドが格納されているはずである(図24参照)。従って、演出制御用CPU101は、これらのうちいずれかのMODEデータが格納されていなければ、ノイズやMODEデータのデータ化けなどの原因によりコマンドの受信し損ないが発生した格納状態の格納領域がまだ残っており、コマンドを正しく受信できなかった格納状態の格納領域がまだ残っていると判断できる。

【0575】

10

また、この実施の形態では、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの順番に受信するはずであるので、始動入賞時コマンド格納領域の全ての格納領域1～8において、コマンドが格納されていれば、MODEデータが「C4(H)」、「C6(H)」、「C0(H)」(または「C1(H)」)、および「C2(H)」の順番に格納されているはずである。従って、演出制御用CPU101は、これらのMODEデータが全て格納されていても、順番が異なっていれば(例えば、「C4(H)」よりも前に「C6(H)」が格納されていれば)、ノイズやMODEデータのデータ化けなどの原因によりコマンドを正しく受信できなかった格納状態の格納領域がまだ残っていると判断できる。

【0576】

20

受信した始動入賞時のコマンドが順番通りでなかったり一部が欠落していると判断した格納状態の格納領域がまだ残っている場合には、演出制御用CPU101は、ステップS8021に移行する。全ての格納領域1～8において始動入賞時のコマンドを順番通りに全て受信した格納状態となっていると判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている全ての格納領域1～8において、図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合しているか否かを確認する(ステップS8004)。具体的には、図柄指定コマンドとしてはずれを指定する図柄1指定コマンド(C400(H))が格納されている場合には、変動カテゴリコマンドとしてはずれに対応した変動カテゴリ1コマンド～変動カテゴリ12コマンドのいずれかが格納されているはずである(図25および図26参照)。それにもかかわらず、大当たりや突然確変大当たり、小当たりに対応した変動カテゴリ21コマンド～変動カテゴリ29コマンド(図27参照)が格納されていた場合には、演出制御用CPU101は、図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合しておらず矛盾がある格納状態の格納領域がまだ残っていると判断できる。

30

【0577】

図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合していない格納状態の格納領域がまだ残っていると判断した場合には、演出制御用CPU101は、ステップS8021に移行する。全ての格納領域1～8において図柄指定コマンドと変動カテゴリコマンドとの内容が整合している格納状態となっていると判断した場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている全ての格納領域1～8において、始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合しているか否かを確認する(ステップS8005)。具体的には、第1始動入賞口13への始動入賞があったことを指定する第1始動入賞指定コマンドや第2始動入賞口14への始動入賞があったことを指定する第2始動入賞指定コマンドが格納されているにもかかわらず、始動入賞時コマンド格納領域に格納されている合算保留記憶数指定コマンドのEXTデータで示される合算保留記憶数が0であった場合には、演出制御用CPU101は、始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合せず矛盾がある格納状態の格納領域がまだ残っていると判断できる。

40

【0578】

始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合していない格納状

50

態の格納領域がまだ残っていると判断した場合には、演出制御用CPU101は、ステップS8021に移行する。全ての格納領域1～8において始動入賞指定コマンドと合算保留記憶数指定コマンドとの内容が整合している格納状態となっていると判断した場合には、演出制御用CPU101は、先読み予告演出設定制限フラグをリセットする（ステップS8006）。すなわち、始動入賞時コマンド格納領域の全ての格納領域1～8において、始動入賞時のコマンドを正常に受信した格納状態となっているので、先読み予告演出設定制限期間の開始の契機となったコマンドの受信し損ないや不整合の生じた保留記憶が消化されたと判断し、先読み予告演出設定制限フラグをリセットして、先読み予告演出設定制限期間を終了する。

【0579】

10

なお、この実施の形態では、コマンドの受信し損ないや不整合の生じた保留記憶が消化されるときの変動表示が開始されるタイミングで、先読み予告演出設定制限フラグをリセットして、先読み予告演出設定制限期間を終了するが、このようなタイミングに限らず、例えば、コマンドの受信し損ないや不整合の生じた保留記憶が消化されるときの変動表示を終了するタイミングで先読み予告演出設定制限期間を終了するようにしてもよい。この場合、例えば、後述する飾り図柄変動停止処理においてステップS8001～S8006と同様の処理を行い、先読み予告演出設定制限フラグをリセットして、先読み予告演出設定制限期間を終了するようにすればよい。

【0580】

次いで、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8のうち、未判定情報の値が「1」に設定されているものがあるか否かを確認する（ステップS8007）。未判定情報の値が「1」に設定されているものがあれば（すなわち、先読み予告演出設定制限期間中に発生した保留記憶の中で先読み予告演出の設定処理が未実行のものがあれば）、ステップS8008に移行する。未判定情報の値が「1」に設定されているものがなければ、ステップS8021に移行する。

20

【0581】

なお、この実施の形態では、始動入賞時コマンド格納領域の中に未判定情報の値が「1」に設定されている格納領域が複数ある場合には、そのうち最近に発生した保留記憶（一番最後に始動入賞したものに对应する保留記憶）に対する始動入賞時のコマンドに対してステップS8008～S8012の処理を行い、先読み予告演出設定制限期間中に発生した保留記憶に対して先読み予告演出の設定処理を遡って行う。なお、未判定情報の値が「1」に設定されている複数の格納領域に格納されているコマンド全てについて、それぞれステップS8008～S8012の処理を行って、遡って先読み予告演出を設定できるものがあるか否かを判定するようにしてもよい。

30

【0582】

未判定情報の値が「1」に設定されているものがあれば、演出制御用CPU101は、その未判定の格納領域よりも以前からコマンドが格納されている格納領域から変動カテゴリコマンドを全て抽出し、抽出した各変動カテゴリコマンドにもとづいて、その未判定の格納領域の1つ前までの始動入賞に対する入賞時判定結果として記憶する変動カテゴリコマンドが全て変動カテゴリ1コマンド（コマンドC600（H）。非リーチCA2-1指定）であるか否かを確認する（ステップS8008）。全て変動カテゴリ1コマンドであれば、ステップS8009に移行する。変動カテゴリ1コマンド以外の変動カテゴリコマンドが1つでも含まれていれば、ステップS8013に移行する。

40

【0583】

全て変動カテゴリ1コマンドであれば、演出制御用CPU101は、ステップS6010、S6011の処理と同様に、入賞時判定結果と第2所定演出の実行／非実行に応じて先読み予告演出決定テーブルを選択し、先読み予告演出決定テーブルと先読み予告演出決定用乱数とにもとづいて先読み予告演出を実行するか否か決定する（ステップS8009、S8010）

【0584】

50

先読み予告演出を実行することに決定した場合には（ステップS8010）、演出制御用CPU101は、先読み予告演出実行フラグをセットする（ステップS8011）。

【0585】

次いで、演出制御用CPU101は、先読み予告演出の判定対象としたコマンドよりも前に受信して始動入賞時コマンド格納領域に格納されている始動入賞時のコマンドの組（図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドの組）の数を特定し、特定した数（すなわち、予告対象の変動表示の1つ前までの変動表示の数）を第2変動回数カウンタにセットする（ステップS8012）。

【0586】

そして、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域内の全ての格納領域1～8の未判定情報の値を「0」とする（ステップS8013）。 10

【0587】

なお、この実施の形態では、先読み予告演出設定制限期間の解除時に未判定の保留記憶に対して遡って先読み予告演出を設定および実行可能に構成するが、先読み予告演出設定制限期間が解除されても、未判定の保留記憶に対して遡って先読み予告演出を設定および実行しないように構成してもよい。この場合、具体的には、ステップS8005の処理を実行した後に、ステップS8021に移行するようにし、ステップS8007～S8013の処理を実行しないようにすればよい。また、この場合、始動入賞時コマンド格納領域の各格納領域1～8において未判定情報を設定する記憶領域を設ける必要がなくなる。 20

【0588】

ステップS8021では、演出制御用CPU101は、ボタン演出を実行するか否かとボタン演出の態様を決定するために予告演出決定処理を実行する。

【0589】

ボタン演出は、図58等に応示されたボタン操作示唆表示201（すなわち、操作時演出）である。ボタン演出の態様は、図59および図60に例示された役物作動演出の態様としての「勝利演出」、「敗北演出」および「復活演出」である。

【0590】

図76は、ボタン演出決定処理（ステップS8021）を示すフローチャートである。ボタン演出決定処理において、演出制御用CPU101は、ボタン演出決定用乱数を抽出し（ステップS911）、乱数値に一致する判定値（ボタン演出決定テーブルに設定されている判定値）に応じて、ボタン演出を実行するか否かと、ボタン演出の態様（種類）とを決定する（ステップS912）。 30

【0591】

図77は、ボタン演出決定テーブルを示す説明図である。ボタン演出決定テーブルには、ボタン演出の態様に対応する判定値が設定されている。ボタン演出の態様として、図59および図60に例示された役物作動演出の態様としての「勝利演出」、「敗北演出」および「復活演出」がある。

【0592】

図77に示すように、入賞時判定結果として「大当たり」とするものがある場合には、「勝利演出」または「復活演出」を実行することに決定される。入賞時判定結果として「大当たり」とするものがない場合には、高い割合で「敗北演出」を実行することに決定され、低い割合で「復活演出」を実行することに決定される。 40

【0593】

なお、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果として「大当たり」とするものがない場合に「復活演出」を実行するときには、「復活演出」が実行された後に、再び「敗北演出」が実行される。

【0594】

また、図77に示す例では、「勝利演出」、「敗北演出」または「復活演出」を実行することに決定されるが、いずれの演出も実行しない（すなわち、ボタン演出を実行しない。）こともあるように、ボタン演出決定テーブルを構成してもよい。その場合には、入賞 50

時判定結果として「大当たり」とするものがある場合には、入賞時判定結果として「大当たり」とするものがない場合に比べて、低い割合でボタン演出を実行しないことに決定されるように、ボタン演出決定テーブルが構成される。

【0595】

また、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果として「大当たり」とするものがない場合には、スーパーリーチまたはボタン演出リーチ（図71参照）に対応する入賞時判定結果が始動入賞時コマンド格納領域（図50参照）に存在するときに、ステップS911～S915の処理を実行するようにしてもよい。

【0596】

演出制御用CPU101は、ボタン演出を実行することに決定した場合には（ステップS913）、ボタン演出フラグをセットする（ステップS914）。また、ステップS912の処理で決定したボタン演出の態様を示すデータをRAMに記憶する（ステップS915）。

【0597】

次に、飾り図柄変動開始処理において、演出制御用CPU101は、変動パターンコマンド格納領域から変動パターンコマンドを読み出す（ステップS8022）。また、演出制御用CPU101は、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ（すなわち、受信した表示結果指定コマンド）を読み出す（ステップS8023）。そして、演出制御用CPU101は、読み出した変動パターンコマンド、および表示結果指定コマンドに応じて演出図柄の表示結果（停止図柄）を決定する（ステップS8024）。そして、決定した停止図柄をRAMに記憶する（ステップS8025）。

【0598】

また、演出制御用CPU101は、始動入賞時コマンド格納領域の1つ目の格納領域（格納領域1）に格納されている始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）を削除し、始動入賞時コマンド格納領域の内容をシフトする（ステップS8026）。

【0599】

なお、変動パターンコマンドで擬似連が指定されている場合には、演出制御用CPU101は、ステップS8024において、擬似連中の仮停止図柄としてチャンス目図柄（例えば、「223」や「445」のように、リーチとならないものの大当たり図柄と1つ図柄がずれている図柄の組み合わせ）も決定する。また、ステップS8024の処理で、演出制御用CPU101は、受信した変動パターンコマンドにもとづいて大当たりであるか否かを判定し、変動パターンコマンドのみにもとづいて演出図柄の停止図柄を決定するようにしてもよい。

【0600】

図78は、演出表示装置9における飾り図柄の停止図柄の一例を示す説明図である。図78に示す例では、受信した表示結果指定コマンドが「15R確変大当たり」、「10R確変大当たり」または「2R確変大当たり」を示している場合には（受信した表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンド、表示結果3指定コマンドまたは表示結果4指定コマンドである場合）、演出制御用CPU101は、停止図柄として3図柄が同じ図柄で揃った飾り図柄の組合せを決定する。なお、「15R確変大当たり」、「10R確変大当たり」または「2R確変大当たり」のいずれであるかに応じて停止図柄の決定割合を異ならせてもよい。例えば、「15R確変大当たり」である場合には、3図柄が同じ奇数図柄で揃った飾り図柄の組合せを決定する割合を高くし、「10R確変大当たり」や「2R確変大当たり」である場合には、3図柄が同じ偶数図柄で揃った飾り図柄の組合せを決定する割合を高くするようにしてもよい。

【0601】

具体的には、演出制御用CPU101は、「15R確変大当たり」、「10R確変大当たり」または「2R確変大当たり」にすることに決定されている場合には、SR1-1を抽出し、SR1-1を用いて左中右の停止図柄（左中右の図柄が揃った飾り図柄の組合せ）を決

定する。

【0602】

また、受信した表示結果指定コマンドが「突然確変大当り」や「小当り」を示している場合には（受信した表示結果指定コマンドが表示結果5指定コマンドまたは表示結果6指定コマンドである場合）、演出制御用CPU101は、停止図柄として「135」などの飾り図柄の組合せ（チャンス目）を決定する。そして、「はずれ」の場合には（受信した表示結果指定コマンドが表示結果1指定コマンドである場合）、上記以外の飾り図柄の組み合わせを決定する。ただし、リーチ演出を伴う場合には、左右の2図柄が揃った飾り図柄の組み合わせを決定する。また、演出表示装置9に導出表示される3図柄の組合せが飾り図柄の「停止図柄」である。

10

【0603】

具体的には、演出制御用CPU101は、例えば、はずれ図柄にすることに決定されている場合であって、かつ、リーチすることに決定されていない場合には、SR1-1～SR1-3を抽出し、SR1-1を用いて左図柄を決定し、SR1-2を用いて中図柄を決定し、SR1-3を用いて右図柄を決定する。なお、決定された左右図柄が一致した場合には、右図柄を1図柄ずらす。リーチすることに決定されている場合には、SR1-1～SR1-2を抽出し、SR1-1を用いて左右図柄を決定し、SR1-2を用いて中図柄を決定する。なお、決定された左中右図柄がチャンス目であった場合には、例えば、左図柄を1図柄ずらす。

【0604】

20

なお、飾り図柄についても、大当りを想起させるような停止図柄（左中右が全て同じ図柄で揃った図柄の組み合わせ）を大当り図柄という。また、はずれを想起させるような停止図柄をはずれ図柄という。

【0605】

次いで、演出制御用CPU101は、変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する。具体的には、演出制御用CPU101は、先読み予告演出を実行する場合（先読み予告演出実行フラグがセットされている場合）には、まず、後導光板505bを表示用LED62bで照射して後導光板505bの絵柄を発光表示する制御を行う（ステップS8032）。具体的には、後導光板505bの端面から表示用LED62bからの光を入射することにより、後導光板505bの反射部511で光を前面側に反射させ、図72（B）、（E）に示すような爆発するような態様の演出が実行される。そして、演出制御用CPU101は、変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップS8034）。また、第2所定演出実行中フラグがセットされている場合には、第1期間（図53参照）から開始される所定演出パターンを選択し（ステップS8028、S8029）、所定演出および変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップS8030）。また、演出制御用CPU101は、第2所定演出タイマに、所定演出の演出期間に対応する値をセットする（ステップS8031）。第2所定演出実行中フラグもセットされていなければ、演出制御用CPU101は、そのままステップS8034に移行して、変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップS8034）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（ステップS8035）。

30

40

【0606】

図79は、プロセステーブルの構成例を示す説明図である。プロセステーブルとは、演出制御用CPU101が演出装置の制御を実行する際に参照するプロセスデータが設定されたテーブルである。すなわち、演出制御用CPU101は、プロセステーブルに設定されているプロセスデータに従って演出表示装置9等の演出装置（演出用部品）の制御を行う。プロセステーブルは、プロセスタイマ設定値と表示制御実行データ、ランプ制御実行データおよび音番号データの組み合わせが複数集まったデータで構成されている。表示制御実行データには、飾り図柄の可変表示の可変表示時間（変動時間）中の変動態様を構成する各変動の態様を示すデータ等が記載されている。具体的には、演出表示装置9の表示

50

画面の変更に関わるデータが記載されている。また、プロセステーブルには、可動役物を駆動するためのデータ（例えば、演出用役物 1 2 7 を動作させる可動部材用モータ 1 2 8 の動作を規定するためのデータ）も設定されている。また、プロセスタイマ設定値には、その変動の態様での変動時間が設定されている。演出制御用 CPU 1 0 1 は、プロセステーブルを参照し、プロセスタイマ設定値に設定されている時間だけ表示制御実行データに設定されている変動の態様で飾り図柄を表示させる制御を行う。

【0607】

図 7 9 に示すプロセステーブルは、演出制御基板 8 0 における ROM に格納されている。

【0608】

なお、リーチ演出を伴う変動パターンについて演出制御を実行する場合に用いられるプロセステーブルには、変動開始から所定時間が経過したときに左図柄を停止表示させ、さらに所定時間が経過すると右図柄を停止表示させることを示すプロセスデータが設定されている。なお、停止表示させる図柄をプロセステーブルに設定するのではなく、決定された停止図柄、擬似連や滑り演出における仮停止図柄に応じて、図柄を表示するための画像を合成して生成するようにしてもよい。

【0609】

また、演出制御用 CPU 1 0 1 は、プロセスデータ 1 の内容（表示制御実行データ 1、ランプ制御実行データ 1、音番号データ 1）に従って演出装置（演出用部品としての演出表示装置 9、演出用部品としての各種ランプおよび演出用部品としてのスピーカ 2 7）の制御を実行する（ステップ S 8 0 3 6）。例えば、演出表示装置 9 において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDP 1 0 9 に指令を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプドライバ基板 3 5 に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ 2 7 からの音声出力を行わせるために、音声出力基板 7 0 に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【0610】

なお、この実施の形態では、演出制御用 CPU 1 0 1 は、変動パターンコマンドに 1 対 1 に対応する変動パターンによる飾り図柄の可変表示が行われるように制御するが、演出制御用 CPU 1 0 1 は、変動パターンコマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【0611】

次いで、演出制御用 CPU 1 0 1 は、変動時間タイマに、変動パターンコマンドで特定される変動時間に相当する値を設定する（ステップ S 8 0 3 7）。

【0612】

なお、この実施の形態では、コマンドの受信し損ないや不整合が生じて先読み予告演出設定制限期間の原因となった変動表示を消化した後の次の変動表示から先読み予告演出を再開可能に構成されているが、例えば、ステップ S 8 0 2 6 のシフト処理を変動パターンコマンド受信待ち処理のステップ S 8 1 1 で Y と判定した後に実行するようにし、コマンドの受信し損ないや不整合が生じて先読み予告演出設定制限期間の原因となった変動表示から先読み予告演出を再開可能に構成するようにしてもよい。この場合、例えば、コマンドの受信し損ないや不整合が生じて先読み予告演出設定制限期間の原因となった変動表示が「非リーチはずれ」であることを条件に、その先読み予告演出設定制限期間の原因となった変動表示において先読み予告演出を実行可能にしてもよい。

【0613】

そして、演出制御用 CPU 1 0 1 は、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動中処理（ステップ S 8 0 2）に対応した値にする（ステップ S 8 0 3 8）。

【0614】

図 8 0 は、演出制御プロセス処理における飾り図柄変動中処理（ステップ S 8 0 2）を示すフローチャートである。飾り図柄変動中処理において、演出制御用 CPU 1 0 1 は、第 2 所定演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 8 4 0）。

第2所定演出実行中フラグがセットされている場合には、演出制御用CPU101は、第2所定演出タイマの値を-1する（ステップS841）。そして、第2所定演出タイマの値が0になったときには（ステップS842）、第2所定演出を終了する（ステップS843）。また、演出制御用CPU101は、第2所定演出実行中フラグをリセットする（ステップS844）。

【0615】

次いで、演出制御用CPU101は、プロセスタイマおよび変動時間タイマの値を-1する（ステップS845、S846）。また、ボタン操作タイマが動作中であれば、ボタン操作タイマの値を-1する（ステップS847）。

【0616】

また、演出制御用CPU101は、プロセスタイマがタイムアウトしたか否か確認する（ステップS848）。プロセスタイマがタイムアウトしていたら、プロセスデータの切替を行う（ステップS849）。すなわち、プロセステーブルにおける次に設定されているプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定することによってプロセスタイマをあらためてスタートさせる（ステップS850）。また、その次に設定されている内容（表示制御実行データ、ランプ制御実行データ、音番号データ）に従って演出装置（演出用部品としての演出表示装置9、演出用部品としての各種ランプおよび演出用部品としてのスピーカ27）の制御を実行する（ステップS851）。

【0617】

また、演出制御用CPU101は、ボタン演出フラグがセットされている場合には（ステップS855）、プッシュボタン120の操作有効期間であるボタン操作有効期間が開始しているか否か確認する（ステップS856）。操作有効期間が開始しているか否かは、例えば、変動時間タイマの値で確認される。演出制御用CPU101は、操作有効期間が開始していない場合には、操作有効期間の開示時点になったか否か確認する（ステップS857）。操作有効期間の開示時点になったときには、演出制御用CPU101は、操作有効期間を計時するためのボタン操作タイマをスタートさせる（ステップS858）。

【0618】

また、演出制御用CPU101は、ボタン操作有効期間であるときには、入力ポート106（図13参照）を介してプッシュボタン120の操作がなされたか否か確認する（ステップS860）。プッシュボタン120の操作がなされない場合には、ステップS865に移行する。

【0619】

プッシュボタン120の操作がなされた場合には、演出制御用CPU101は、使用するプロセステーブルを、ボタン演出の態様（役物作動演出の態様：「勝利演出」、「敗北演出」または「復活演出」（図59参照））に応じたテーブルに変更する（ステップS861）。以後、演出は、プロセステーブルにもとづいて、図59のD11～D13、D21～D23またはD31、D33に示されたように実行される。なお、ボタン演出の態様は、図76に示すステップS915の処理でRAMに記憶されている。

【0620】

また、プッシュボタン120の操作がなされない場合でも、ボタン操作タイマがタイムアウトしたら（すなわち、操作有効期間が終了したら）、ステップS861の処理を実行する。その場合には、以後、演出は、プロセステーブルにもとづいて、図60のD21～D23またはD31、D33に示されたように実行される。

【0621】

また、演出制御用CPU101は、変動時間タイマがタイムアウトしているか否か確認する（ステップS865）。変動時間タイマがタイムアウトしているときには、演出制御プロセスフラグの値を飾り図柄変動停止処理（ステップS803）に応じた値に更新する（ステップS867）。変動時間タイマがタイムアウトしていなくても、図柄確定指定コマンドを受信したことを示す確定コマンド受信フラグがセットされていたら（ステップS866）、演出制御用CPU101は、ステップS867の処理を実行する。

【0622】

図81は、演出制御プロセス処理における飾り図柄変動停止処理（ステップS803）を示すフローチャートである。飾り図柄変動停止処理において、演出制御用CPU101は、演出制御用CPU101は、確定コマンド受信フラグがセットされていたら確定コマンド受信フラグをリセットする（ステップS8300）。また、飾り図柄表示結果格納領域に格納されているデータ（停止図柄を示すデータ）に従って演出表示装置9において停止図柄を導出表示する制御を行う（ステップS8301）。

【0623】

次いで、演出制御用CPU101は、大当りにすることに決定されているか否か確認する（ステップS8302）。大当りにすることに決定されているか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドによって確認される。なお、この実施の形態では、決定されている停止図柄によって、大当りにすることに決定されているか否か確認することもできる。大当りとするに決定されていない場合には、ステップS8311に移行する。

10

【0624】

大当りにすることに決定されている場合には、演出制御用CPU101は、大当りの開始を報知する演出（ファンファーレ演出）に応じたプロセステーブルを選択する（ステップS8304）。

【0625】

そして、演出制御用CPU101は、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（ステップS8305）。また、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての演出表示装置9、演出用部品としての各種ランプおよび演出用部品としてのスピーカ27）の制御を実行する（ステップS8306）。

20

【0626】

その後、演出制御プロセスフラグの値を大当り表示処理（ステップS804）に応じた値に更新する（ステップS8307）。

【0627】

なお、この実施の形態では、記載を省略しているが、大当りが発生した場合には、演出制御用CPU101は、前導光板505aを表示用LED62aで照射して前導光板505aの絵柄を発光表示する制御も行う。具体的には、前導光板505aの端面から表示用LED62aからの光を入射することにより、前導光板505aの反射部510a～510cで光を前面側に反射させることにより、「大当り」の文字の絵柄を発光表示するような態様の演出が実行される。

30

【0628】

ステップS8311では、演出制御用CPU101は、第2所定演出決定フラグがセットされているか否か確認する。第2所定演出決定フラグがセットされていない場合には、ステップS8321に移行する。セットされている場合には、演出制御用CPU101は、第1変動回数カウンタの値を1減算する（ステップS8312）。また、演出制御用CPU101は、減算後の第1変動回数カウンタの値が0であるか否か確認する（ステップS8313）。第1変動回数カウンタの値が0でない場合には、ステップS8321に移行する。0になっている場合には、演出制御用CPU101は、第2所定演出実行中フラグをセットする（ステップS8316）。

40

【0629】

なお、第2所定演出実行中フラグをセットする場合、第2所定演出の報知結果を特定可能な情報もセットする。例えば、報知結果を特定可能な情報は、報知結果が「×」であることを示すフラグ、報知結果が「チャンス」であることを示すフラグ、報知結果が「激熱」であることを示すフラグである。また、例えば、第2所定演出実行中フラグが複数ビット（例えば、1バイト）で構成される場合には、第2所定演出実行中フラグの所定ビットにいずれの報知結果であるかを指定する値を設定することによって、いずれの報知結果で

50

あるかを特定可能であるようにしてもよい。

【0630】

そして、演出制御用CPU101は、第2所定演出決定フラグをリセットし（ステップS8308e）、ステップS8311に移行する。

【0631】

ステップS8321では、演出制御用CPU101は、先読み予告演出実行フラグがセットされているか否かを判定する。セットされている場合には、演出制御用CPU101は、第2変動回数カウンタの値を1減算する（ステップS8322）。また、演出制御用CPU101は、第2変動回数カウンタの値が0であるか否か確認する（ステップS8323）。第2変動回数カウンタの値が0になっている場合には、演出制御用CPU101は、先読み予告演出実行フラグをリセットする（ステップS8324）。S8324の処理が実行されることによって、入賞時判定の対象となった変動（可変表示）が終了すると、再び先読み予告演出を実行可能な状態になる。

10

【0632】

そして、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に応じた値に更新する（ステップS8326）。なお、演出制御用CPU101は、所定のフラグをリセットする処理も行う。例えば、演出制御用CPU101は、ボタン演出フラグをリセットする。

【0633】

その後、演出制御用CPU101は、図52に示すように、大当たり表示処理、ラウンド中処理、ラウンド後処理、大当たり終了演出処理を順次実行する。

20

【0634】

以上に説明したように、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、遊技制御用マイクロコンピュータ560の判定にもとづいて、当該判定の対象であった特別図柄の可変表示が実行される以前に開始される複数回の可変表示に亘って予告演出（先読み予告演出）を実行するか否かを決定し、決定結果にもとづいて予告演出（先読み予告演出）を実行するが、予告演出（先読み予告演出）が実行されるときには、実行されないときに比べて、高い割合で所定演出を実行する（図71参照）。よって、所定演出が実行されていないときでも、先読み予告演出によって遊技の興趣を向上させることができる。

30

【0635】

なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、先に第2予告演出を実行するか否か決定し、次いで先読み予告演出を実行するか否か決定するが（図66参照）、先に先読み予告演出を実行するか否か決定し、先読み予告演出を実行することに決定された場合に、第2予告演出を実行するか否か決定するようにしてもよい。そのように制御しても、先読み予告演出を、第2所定演出が実行される飾り図柄の可変表示の前に実行される可変表示まで実行するようにすることが可能である。

【0636】

また、入賞時判定結果が大当たりを示している場合に高い割合で先読み予告演出を実行するようにし、かつ、入賞時判定結果が大当たりを示している場合に高い割合で第2所定演出を実行するようにした場合には、結果として、先読み予告演出が実行されるときには、高い割合で、第2所定演出が実行される。

40

【0637】

また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS5211の処理（図66参照）で所定演出（激熱）を実行することに決定した場合に、ステップS6026の処理で、高い割合で、先読み予告演出を実行するようにしてもよい。その場合には、先読み予告演出決定テーブル（図71参照）において、第2所定演出の態様まで分けて判定値が設定される。

【0638】

なお、この実施の形態では、第2所定演出を実行することに決定され、かつ、先読み予

50

告演出を実行することに決定された後に、あらためて第2所定演出を実行するか否か決定することが可能である（図66参照）。しかし、第2所定演出を実行することに決定され、かつ、先読み予告演出を実行することに決定された後、実行することが既に決定されている第2所定演出が実行されるまでの間、他の態様（実行することに決定されている第2所定演出の態様）と異なる態様の第2所定演出を実行しないようにしてもよい。

【0639】

そのように制御する場合には、例えば、第2所定演出を実行することに決定され、かつ、先読み予告演出を実行することに決定された後、ステップS5211の処理で、あらためて第2所定演出を実行することに決定され、かつ、実行することが既に決定されている第2所定演出の態様と異なる態様の第2所定演出を実行することに決定されたときには、決定結果を「第2所定演出を実行しない」に変更したり、あらためて決定された方の第2所定演出の態様を、実行することが既に決定されている第2所定演出の態様に変更すればよい。

10

【0640】

また、第1所定演出を実行することに決定されている場合には、第1所定演出の実行が終了するまで第2所定演出を開始しないようにしたり、第2所定演出を実行することに決定されている場合には、第2所定演出の実行が終了するまで第1所定演出を開始しないようにしたりしてもよい。そのように制御する場合には、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図62～図64に示す第1所定演出処理において、第2所定演出実行フラグがセットされている場合には直ちに第1所定演出処理を終了するように構成され、また、図62に示す第1所定演出処理で、第2所定演出実行フラグがセットされている場合には直ちに第1所定演出処理を終了するように構成され、図62～図64に示す第1所定演出処理において、第2所定演出実行フラグ（第2所定演出を実行することに決定されていることを示すフラグ）がセットされている場合には直ちに第1所定演出処理を終了するように構成され、また、図66に示す第2所定演出処理で、第1所定演出実行フラグ（第1所定演出を実行することに決定されていることを示すフラグ）がセットされている場合には直ちに第2所定演出処理を終了するように構成される。

20

【0641】

また、識別情報の表示結果が大当り図柄や小当り図柄になる可能性を報知する所定演出が実行されることに対応する保留記憶が記憶されている場合には、当該保留記憶にもとづく第2所定演出が終了するまで、可変入賞球装置15が遊技球が通過しやすい状態に制御されるか否かを報知する第1所定演出の実行を禁止するようにしてもよい。そのように制御する場合には、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図62～図64に示す第1所定演出処理において、始動入賞時コマンド格納領域に大当りまたは小当りに対応する図柄確定コマンドが存在するか否か確認し、存在する場合には、直ちに第1所定演出処理を終了するように構成される。

30

【0642】

また、この実施の形態では、図71に示すように、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果がボタン演出リーチを示す場合に高い割合で先読み予告演出を実行することに決定するが、他の条件にもとづいて、先読み予告演出を実行するようにしてもよい。例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100が、入賞時判定結果が大当りを示す場合に高い割合（100%でもよい。）で先読み予告演出を実行することに決定するようにしてもよい。

40

【0643】

また、この実施の形態では、遊技者の操作を条件とする演出として、図58～図60に示されたようなボタン演出を例示したが、遊技者の操作を条件とする他の演出も実行するようにしてもよい。すなわち、演出制御用マイクロコンピュータ100は、プッシュボタン120が操作されたことにもとづいて、操作時演出とは異なる操作対応演出を実行するか否か決定するようにしてもよい。

【0644】

50

例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、操作対応演出として、合算保留記憶表示部１８ｃの保留表示を利用した「保留球変化」の先読み予告演出を実行することに決定したときに、押しボタン１２０の操作を促す態様のボタン保留表示（例えば、押しボタン１２０の形状を模した態様の保留表示）を１つ増加させ、その後、押しボタン１２０による操作を検出したことにもとづいてボタン保留表示を特殊保留表示（例えば、「熱」などの文字を含む丸形表示）に変更する。

【０６４５】

さらに、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、「保留球変化」の先読み予告演出を実行するときに押しボタン１２０の操作が有効になる期間である実行期間を設ける。そして、「保留球変化」の先読み予告演出の実行中に図５８～図６０に示されたようなボタン演出における操作有効期間に入った場合に、ボタン演出の操作を有効にし、ボタン演出の操作有効期間が終了した後に先読み予告演出に関する操作を有効にしたり、ボタン演出の実行期間に入ったら、先読み予告演出に関する操作を有効にし、先読み予告演出の操作有効期間が終了した後にボタン演出に関する操作を有効にするようにしてもよい。また、「保留球変化」の先読み予告演出と図５８～図６０に示されたようなボタン演出とのうちの一方の態様を変化させるための押しボタン１２０による操作を有効とする期間を設け、その期間が終了した後、さらに所定の待機期間（例えば、２秒）が経過した後に、他方の態様を変化させるための押しボタン１２０による操作を有効とする。そのような制御を行うことによって、一方の演出に関する操作の有効期間の直後に操作がなされたことによって意図しない他方の演出の態様に変化してしまうことを防止することができる。

【０６４６】

また、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、１回の押しボタン１２０による操作で先読み予告演出と図５８～図６０に示されたようなボタン演出との双方の態様を変化させるように構成されていてもよい。そのように構成されている場合には、押しボタン１２０の操作を何度も行う遊技者の煩わしさを低減できる。

【０６４７】

実施の形態２．

次に、本発明の第２の実施の形態を説明する。第１の実施の形態では、先読み予告演出と第２所定演出とを関連づけたが、第２の実施の形態では、擬似連演出と第２所定演出とを関連づける。

【０６４８】

図８２は、擬似連演出の一例を示す説明図である。図８２には、一例として、４回の仮停止が行われる擬似連演出が例示されている。図８２に示す例では、図８２（Ａ）に示すように、演出表示装置９において左中右の飾り図柄の変動（可変表示）が実行され、左中右の図柄表示エリア９Ｌ、９Ｃ、９Ｒにおいて、仮停止図柄が仮停止表示される（図８２（Ｂ）参照）。次いで、左中右の飾り図柄の再変動中に予告演出が実行された後（図８２（Ｃ）参照）、再び、仮停止図柄が仮停止表示される（図８２（Ｄ）参照）。さらに、左中右の飾り図柄が再変動した後（図８２（Ｅ）参照）、再度、仮停止図柄が仮停止表示される（図８２（Ｆ）参照）。また、左中右の飾り図柄の再変動中に予告演出が実行された後（図８２（Ｇ）参照）、再び、仮停止図柄が仮停止表示される（図８２（Ｈ）参照）。

【０６４９】

その後、リーチ状態になった後（図８２（Ｉ）参照）、大当たり図柄が停止表示（最終停止表示）される（図８２（Ｊ）参照）。

【０６５０】

なお、図８２には、大当たりになる場合が例示されているが、リーチ状態になった後、はずれ図柄が停止表示（最終停止表示）されることもある（図１６に示すノーマルＰＢ２－１、ＰＢ２－２、スーパーＰＡ３－１、ＰＡ３－２の変動パターンによる変動が実行される場合）。また、チャンス目ではないはずれ図柄が仮停止表示された後、はずれ図柄が停止表示（最終停止表示）されることもある（図１６に示すＰＡ１－４の変動パターンによ

る変動が実行される場合)。

【0651】

また、図82(C)，(G)において、演出制御用CPU101は、後導光板505bを表示用LED62bで照射することにより爆発するような態様の予告演出を実行する。

【0652】

図83は、第2の実施の形態における飾り図柄変動開始処理を示すフローチャートである。第2の実施の形態では、演出制御用CPU101は、飾り図柄変動開始処理において、ステップS8021～S8023の処理を実行した後、第2所定演出処理(ステップS8023A)と擬似連中予告演出決定処理(ステップS8023B)を実行する。なお、ステップS8023Bの擬似連中予告演出決定処理で擬似連中予告演出を実行することに決定された場合には、後述するように、飾り図柄変動中処理において、擬似連中予告演出の実行タイミングとなると後導光板505bを用いた発光制御が実行されて擬似連中予告演出(導光板演出)が実行される(ステップS862～S864参照)。なお、第2の実施の形態では、演出制御プロセス処理(図52参照)において第2所定演出処理は実行されない。また、飾り図柄変動開始処理におけるその他の処理は、第1の実施の形態の場合と同様である。

10

【0653】

図84は、第2所定演出処理(ステップS8023A)を示すフローチャートである。第2の実施の形態では、演出制御用CPU101は、第2所定演出処理において、変動パターンコマンド格納領域に格納されている変動パターンがスーパーリーチの変動パターンである場合に(ステップS5209A)、演出制御用CPU101は、第2所定演出の有無および種類を決定するための第2所定演出決定テーブルとして、変動パターンおよび合算保留記憶数に応じた第2所定演出決定テーブルを選択する(ステップS5210)。

20

【0654】

図85は、第2の実施の形態における第2所定演出決定テーブルを示す説明図である。図85に示すように、第2の実施の形態では、第2所定演出決定テーブルにおいて、変動パターンおよび合算保留記憶数に対応付けて、所定演出を実行しないことに対応する判定値と、所定演出(×)を実行することに対応する判定値と、所定演出(チャンス)を実行することに対応する判定値と、所定演出(激熱)を実行することに対応する判定値とが設定されている。

30

【0655】

演出制御用CPU101は、ステップS5210Aの処理で選択した第2所定演出決定テーブルを用いて、第2所定演出の有無および種類の決定を行う(ステップS5211)。また、演出制御用CPU101は、第2所定演出を実行することに決定した場合には、第2所定演出実行中フラグをセットする(ステップS5213，S5214A)。第2所定演出処理におけるその他の処理は、第1の実施の形態の場合と同様である。

【0656】

図86は、ステップS8023Bの擬似連中予告演出決定処理を示すフローチャートである。擬似連中予告演出決定処理において、演出制御用CPU101は、変動パターンが擬似連演出を伴う変動パターンであるか否か確認する(ステップS5300)。擬似連演出を伴う変動パターンでなければ、処理を終了する。擬似連演出を伴う変動パターンである場合には、変動パターン(具体的には、再変動回数)および第2所定演出の実行／非実行に応じて擬似連中予告演出決定テーブルを選択する(ステップS5301)。そして、擬似連中予告演出決定テーブルと擬似連中予告演出決定用乱数(図51参照)とにもとづいて擬似連中予告演出を実行するか否か決定する(ステップS5302)。具体的には、擬似連中予告演出決定用乱数を抽出し、乱数値に一致する判定値(擬似連中予告演出決定テーブルに設定されている判定値)に応じて、擬似連中予告演出を実行するか否か決定する。擬似連中予告演出を実行することに決定した場合には、演出制御用CPU101は、擬似連中予告演出を実行することを示す擬似連中予告演出実行フラグをセットする(ステップS5303)とともに、擬似連中予告演出の態様を記憶する(ステップS5304)

40

50

。

【0657】

図87は、擬似連中予告演出決定テーブルを示す説明図である。擬似連中予告演出決定テーブルには、擬似連中予告演出を実行しないことに対応する判定値と、擬似連中予告演出を実行することおよび演出態様（具体的には、演出実行タイミング）に対応する判定値とが設定されている。

【0658】

図87に示すように、第2所定演出が実行される場合には、第2所定演出が実行されない場合に比べて高い割合で擬似連中予告演出が実行される。また、第2所定演出が実行される場合には、第2所定演出が実行されない場合に比べて、後の再変動において擬似連中予告演出が実行される割合が高い。

10

【0659】

なお、図87において、例えば、「再変動1, 2回目に演出実行」は、第1回目の再変動中および第2回目の再変動中に予告演出（図82（C）,（G）参照）が実行されることを意味し、「再変動2回目に演出実行」は、第2回目の再変動中に予告演出が実行されることを意味する。また、再変動3回の擬似連演出が実行される場合には、再変動1, 2, 3回目に演出が実行されることもあるように、擬似連中予告演出決定テーブルを構成してもよい。

【0660】

図88は、第2の実施の形態における飾り図柄変動中処理（ステップS802）を示すフローチャートである。図88に示すように、第2の実施の形態では、飾り図柄変動中処理において、ステップS855～S861の処理の後に、演出制御用CPU101は、擬似連中予告演出実行フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS862）。擬似連中予告演出実行フラグがセットされていれば、演出制御用CPU101は、予告演出の実行タイミングとなっているか否かを確認する（ステップS863）。なお、予告演出の実行タイミングとなっているか否かは、具体的には、変動時間タイマの値を確認することにより判定できる。予告演出の実行タイミングとなっていれば、演出制御用CPU101は、後導光板505bを表示用LED62bで照射して後導光板505bの絵柄を発光表示する制御を行う（ステップS864）。具体的には、後導光板505bの端面から表示用LED62bからの光を入射することにより、後導光板505bの反射部511で光を前面側に反射させ、図82（C）,（G）に示すような爆発するような態様の演出が実行される。

20

30

【0661】

また、この実施の形態では、演出制御用CPU101は、図82に示すように、リーチ態様になる前に再変動演出を実行する。また、リーチ態様になった後に第2所定演出およびボタン演出を実行する。よって、双方の演出が一時実行されて演出が紛らわしくなる事態は生じない。

【0662】

なお、最後の仮停止前までに擬似連中予告演出を実行し、最後の仮停止後において擬似連中予告演出を実行しないようにしてもよい。

40

【0663】

第2の実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、擬似連演出を伴う変動パターンにより可変表示が実行されているときに、第2所定演出が開始されるタイミングよりも前に可変表示の表示結果が大当たり図柄になることを示唆する示唆演出（擬似連中予告演出）を実行する。また、第1の実施の形態の場合と同様に、プッシュボタン120が操作された時点、またはプッシュボタン120が操作されたときから所定時間が経過した時点において特別演出を実行するが、示唆演出が実行されたときには、示唆演出が実行されないときに比べて、高い割合で第2所定演出を実行する（図87参照）。よって、所定演出が実行されていないときでも、示唆演出（擬似連中予告演出）によって遊技の興趣を向上させることができる。

50

【0664】

なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、先に第2予告演出を実行するか否か決定し、次いで擬似連中予告演出を実行するか否か決定するが（図83参照）、先に擬似連中予告演出を実行するか否か決定し、擬似連中予告演出を実行することに決定された場合に、第2予告演出を実行するか否か決定するようにしてもよい。

【0665】

また、可変表示の表示結果が大当たりになる場合に高い割合で擬似連中予告演出を実行するようにし、かつ、可変表示の表示結果が大当たりになる場合に高い割合で第2所定演出を実行するようにした場合には、結果として、擬似連中予告演出が実行されるときには、高い割合で、第2所定演出が実行される。

10

【0666】

また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS5211の処理（図66参照）で所定演出（激熱）を実行することに決定した場合に、高い割合で、擬似連中予告演出を実行するようにしてもよい。その場合には、擬似連中予告演出決定テーブル（図87参照）において、第2所定演出の態様まで分けて判定値が設定される。

【0667】

また、この実施の形態では、第2所定演出を実行することに決定され、かつ、擬似連中予告演出を実行することに決定された後に、第1所定演出を実行するか否か決定することが可能である。しかし、第2所定演出を実行することに決定され、かつ、擬似連中予告演出を実行することに決定された後、第2所定演出の実行が終了するまで第1所定演出の実行に関する判定（実行するか否かの判定）を行わないようにしてもよい。

20

【0668】

なお、上記の各実施の形態では、後導光板505bを用いた発光制御を行うことにより、先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行する。そのため、導光板を用いた演出を取り入れることにより先読み予告演出や擬似連中予告演出の演出効果を高めることができる。

【0669】

なお、導光板を用いた先読み予告演出や擬似連中予告演出の演出態様は、上記の各実施の形態で示したものにすぎられない。例えば、上記の各実施の形態では、後導光板505bのみを用いて先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行する場合を示したが、前導光板505aについても先読み予告演出や擬似連中予告演出用の反射部を形成し、前導光板505aおよび後導光板505bの両方を用いて先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行するように構成してもよい。また、この場合、例えば、先読み予告演出や擬似連中予告演出として、前導光板505aを用いた演出と、後導光板505bを用いた演出との2種類の予告演出を実行可能に構成してもよい。さらに、この場合、例えば、前導光板505aと後導光板505bとの両方を用いた予告演出を実行可能に構成してもよい。例えば、前導光板505aと後導光板505bとを交互に発光制御する態様の演出を実行してもよいし、前導光板505aと後導光板505bとを同時に発光制御する態様の演出を実行してもよい。

30

【0670】

また、1つの導光板のみを用いて先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行する場合であっても、複数種類の先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行可能に構成するようにしてもよい。この場合、例えば、1つの導光板に複数の表示用LED（例えば、導光板の上段照射用のLEDや、中段照射用のLED、下段照射用のLED）を設けるようにし、照射させる表示用LEDを切り替えることによって、導光板の異なる部位の反射部で光を反射させることによって、複数種類の先読み予告演出や擬似連中予告演出を実行可能に構成してもよい。

40

【0671】

また、上記の各実施の形態では、先読み予告演出や擬似連中予告演出の実行時に後導光板505bを用いた発光制御を行って導光板演出を実行する場合を示したが、このような態様にかぎらず、例えば、今回実行する変動表示に対する予告演出（いわゆる当該変動に

50

対する予告演出)として後導光板505bを用いた発光制御を行って導光板演出を実行するようにしてもよい。

【0672】

また、上記の各実施の形態では、先読み予告演出や擬似連中予告演出において導光板演出を実行する場合を示したが、先読み予告演出や擬似連中予告演出において実行する場合にかぎらず、導光板演出を単独の演出として実行するようにしてもよいし、先読み予告演出や擬似連中予告演出以外の予告演出や他の演出として実行するようにしてもよい。

【0673】

また、例えば、上記のように導光板演出を単独の演出として実行する場合であっても、上記の各実施の形態で示した構成を適用し、導光板演出が実行されるときには、実行されないときに比べて、高い割合で所定演出を実行するように構成すればよい。そのように構成しても、所定演出が実行されていないときでも、導光板演出によって遊技の興趣を向上させることができる。

【0674】

また、上記の各実施の形態では、導光板が演出表示装置9の表示画面に重なる位置に固定的に設けられている場合を示したが、導光板を演出表示装置9の前で回転動作させたり上下動作させたりするなど可動可能に構成してもよい。また、導光板を可動可能に構成する場合、例えば、恰もシャッターのような可動態様で、導光板を所定の退避位置(演出表示装置9の表示画面と重ならない位置。ただし、一部重なってもよい。)から所定の可動位置(演出表示装置9の表示画面の前面に重なる位置)に動作させて発光制御するようにしてもよい。

【0675】

また、上記の各実施の形態では、導光板に光を入射させる表示用LED62a, 62bの発光色については特に言及しなかったが、複数種類の発光色(例えば、青色や緑色、赤色)の表示用LEDを用いるようにしてもよい。この場合、例えば、導光板の発光制御を行う際の発光色によって大当りに対する期待度を変化させたりしてもよい(例えば、赤色の発光色のとき最も期待度が高く、緑色の発光色の場合に次に期待度が高く、青色の発光色の場合に最も期待度が低い)。また、例えば、発光色と発光制御により導光板に浮かび上がる絵柄との組み合わせによって大当りに対する期待度を示唆したりしてもよい。

【0676】

また、上記の第2の実施の形態では、再変動が行われることを予告する擬似連中予告演出を導光板演出により実行する場合を示したが、例えば、再変動のタイミングで導光板の発光制御を行うことにより再変動自体を導光板演出を用いて実行するように構成してもよい。

【0677】

また、上記の第2の実施の形態では、繰り返し実行可能な特定演出が図柄の仮停止表示を伴う擬似連の再変動の演出や擬似連中予告演出である場合を示したが、特定演出は、上記の第2の実施の形態で示したものにすぎない。例えば、特定演出として、図柄の仮停止表示を伴わずに同様の演出(ただし、演出の一部が異なってもよい)を繰り返し実行する予告連演出を実行可能に構成し、その予告連演出を導光板演出を用いて実行するように構成してもよい。

【0678】

また、上記の第2の実施の形態では、擬似連中に仮停止表示される図柄の組み合わせとして、「778」などのチャンス目図柄(図82参照)を仮停止表示するものを示したが、このような態様にかぎらず、例えば、通常の変動表示では停止表示されない特殊図柄(例えば、星形の図柄)を仮停止表示するようなものであってもよい。

【0679】

また、上記の第2の実施の形態において、擬似連や予告連演出などの連続演出(本例では、擬似連)の連続回数が増えるごとに異なる態様で導光板演出を実行するようにし、導光板演出の態様で連続回数を認識できるように構成してもよい。この場合、例えば、連続

10

20

30

40

50

回数に応じて導光板の発光箇所を異ならせたり、導光板の発光色を異ならせたりしてもよい。また、例えば、導光板が複数設けられている場合には、連続回数に応じていずれの導光板を発光させるかを異ならせてもよい。

【0680】

また、上記の各実施の形態において、導光板演出を実行するときに、導光板に表示される絵柄と、導光板越しに見える演出表示装置9の液晶画像とが重なって1つの画像に見えるような演出を実行するようにしてもよい。また、本例のように導光板が複数設けられている場合（前導光板505aと後導光板505b）には、前導光板505aに表示される絵柄と後導光板505bに表示される絵柄とが重なって（さらに液晶画像も重なってもよい）1つの画像に見えるような演出を実行するようにしてもよい。

10

【0681】

なお、上記の各実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、特別図柄に関する保留記憶にもとづく入賞時判定結果に応じて予告演出を実行するか否かを異なる割合で決定したが、普通図柄に関する保留記憶にもとづく入賞時判定結果に応じて予告演出を実行するか否かを決定するようにしてもよい。

【0682】

また、上記の各実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、始動入賞の発生時に、大当たりや小当たりとなるか否かや、大当たり種別、変動パターン種別を判定し、第1保留記憶または第2保留記憶が増加したことを認識可能に保留記憶情報（本例では、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）を送信し、大当たりや小当たりとなるか否かや、大当たり種別、変動パターン種別の判定結果を示す判定結果情報（本例では、図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンド）を送信する。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、判定結果情報にもとづいて、所定の状態（本例では、スーパーリーチ）となる可能性があることを予告する先読み予告演出を実行し、保留記憶情報に含まれる始動入賞指定コマンドを正常に受信することができなかった場合に、先読み予告演出の実行を制限する。そのため、先読み予告演出の信頼性が低下することを防止することができる。

20

【0683】

すなわち、始動入賞時に1タイマ割込内に一括して受信される判定結果情報（本例では、図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンド）および保留記憶情報（本例では、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンド）のうち、一部のコマンドでも受信し損ないが発生した場合には、一括して受信されるその他のコマンドを受信していても、その受信したコマンドの内容の信頼性が欠けるおそれがあり、受信したコマンドにもとづいて先読み予告演出を実行してしまうと、先読み予告演出の内容と実際に実行された予告対象の変動表示の内容との間に不整合が生じて、先読み予告演出の信頼性が低下してしまうおそれがある。そこで、この実施の形態では、保留記憶情報に含まれる始動入賞指定コマンドを正常に受信することができなかった場合には先読み予告演出の実行を制限することによって、先読み予告演出の信頼性が低下することが防止される。

30

【0684】

また、上記の各実施の形態では、第1始動入賞口13と第2始動入賞口14との始動入賞順に第1特別図柄と第2特別図柄との変動表示が実行されるが、例えば、入賞順にかかわらず、第1特別図柄の変動表示と比較して、第2特別図柄の変動表示を優先して実行するように構成してもよい。そして、このように第2特別図柄の変動表示を優先実行するように構成する場合、保留記憶情報として、始動入賞指定コマンドおよび合算保留記憶数指定コマンドに代えて、第1保留記憶数または第2保留記憶数が増加したことを示す保留記憶数加算指定コマンド（第1保留記憶数加算指定コマンドまたは第2保留記憶数加算指定コマンド）を送信するように構成してもよい。すなわち、始動入賞の発生時に、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンドおよび保留記憶数加算指定コマンドの3つのコマンドのセットが一括して1タイマ割込内に送信されるようにしてもよい。このように構成した場合であっても、演出制御用マイクロコンピュータ100は、保留記憶情報としての保留記

40

50

憶数加算指定コマンドを受信し損なったことにもとづいて、先読み予告演出の実行を制限するようにすればよい。なお、この場合、保留記憶情報として、上記のように単に第1保留記憶と第2保留記憶とのいずれが増加したかを認識可能な第1保留記憶数加算指定コマンドや第2保留記憶数加算指定コマンドを送信するようにしてもよく、第1保留記憶数をEXTデータとして設定した第1保留記憶数指定コマンドや、第2保留記憶数をEXTデータとして設定した第2保留記憶数指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0685】

なお、上記の各実施の形態においては、変動時間およびリーチ演出の種類や擬似連の有無等の変動態様を示す変動パターンを演出制御用マイクロコンピュータ100に通知するために、変動を開始するときに1つの変動パターンコマンドを送信する例を示したが、2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを演出制御用マイクロコンピュータ100に通知するようにしてもよい。具体的には、2つのコマンドにより通知する場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、1つ目のコマンドでは擬似連の有無、滑り演出の有無など、リーチとなる以前（リーチとならない場合には所謂第2停止の前）の変動時間や変動態様を示すコマンドを送信し、2つ目のコマンドではリーチの種類や再抽選演出の有無など、リーチとなった以降（リーチとならない場合には所謂第2停止の後）の変動時間や変動態様を示すコマンドを送信するようにしてもよい。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は2つのコマンドの組合せから導かれる変動時間にもとづいて変動表示における演出制御を行うようにすればよい。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560の方では2つのコマンドのそれぞれにより変動時間を通知し、それぞれのタイミングで実行される具体的な変動態様については演出制御用マイクロコンピュータ100の方で選択を行うようにしてもよい。2つのコマンドを送る場合、同一のタイマ割込内で2つのコマンドを送信する様にしてもよく、1つ目のコマンドを送信した後、所定期間が経過してから（例えば次のタイマ割込において）2つ目のコマンドを送信するようにしてもよい。なお、それぞれのコマンドで示される変動態様はこの例に限定されるわけではなく、送信する順序についても適宜変更可能である。このように2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを通知するようにすることで、変動パターンコマンドとして記憶しておかなければならないデータ量を削減することができる。

【0686】

また、上記の各実施の形態において、「割合が異なる」とは、 $A : B = 70\% : 30\%$ や $A : B = 30\% : 70\%$ のような関係で割合が異なるものだけにかぎらず、 $A : B = 100\% : 0\%$ のような関係で割合が異なるもの（すなわち、一方が100%の割り振りで他方が0%の割り振りとなるようなもの）も含む概念である。

【0687】

また、上記の各実施の形態では、演出装置を制御する回路が搭載された基板として、演出制御基板80、音声出力基板70およびランプドライバ基板35が設けられているが、演出装置を制御する回路を1つの基板に搭載してもよい。さらに、演出表示装置9等を制御する回路が搭載された第1の演出制御基板（表示制御基板）と、その他の演出装置（ランプ、LED、スピーカ27など）を制御する回路が搭載された第2の演出制御基板との2つの基板を設けるようにしてもよい。

【0688】

また、上記の各実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して直接コマンドを送信していたが、遊技制御用マイクロコンピュータ560が他の基板（例えば、図13に示す音声出力基板70やランプドライバ基板35など、または音声出力基板70に搭載されている回路による機能とランプドライバ基板35に搭載されている回路による機能とを備えた音／ランプ基板）に演出制御コマンドを送信し、他の基板を経由して演出制御基板80における演出制御用マイクロコンピュータ100に送信されるようにしてもよい。その場合、他の基板においてコマンドが単に通過するようにしてもよいし、音声出力基板70、ランプドライバ基板35、音／ランプ基板にマイクロコンピュータ等の制御手段を搭載し、制御手段がコマンドを受信

したことに応じて音声制御やランプ制御に関わる制御を実行し、さらに、受信したコマンドを、そのまま、または例えば簡略化したコマンドに変更して、演出表示装置 9 を制御する演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信するようにしてもよい。その場合でも、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、上記の実施の形態における遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から直接受信した演出制御コマンドに応じて表示制御を行うのと同様に、音声出力基板 70、ランプドライバ基板 35 または音／ランプ基板から受信したコマンドに応じて表示制御を行うことができる。

【0689】

また、上記の各実施の形態では、遊技機としてパチンコ機を例にしたが、本発明を、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるスロット機に適用することも可能である。

10

【0690】

また、上記の各実施の形態では、遊技機として遊技媒体を使用するものを例にしたが本発明による遊技機は、所定数の景品としての遊技媒体を払い出す遊技機に限定されず、遊技球等の遊技媒体を封入し景品の付与条件が成立した場合に得点を付与する封入式の遊技機に適用することもできる。

【産業上の利用可能性】

【0691】

本発明は、パチンコ遊技機やスロット機などの遊技機に適用可能である。

20

【符号の説明】

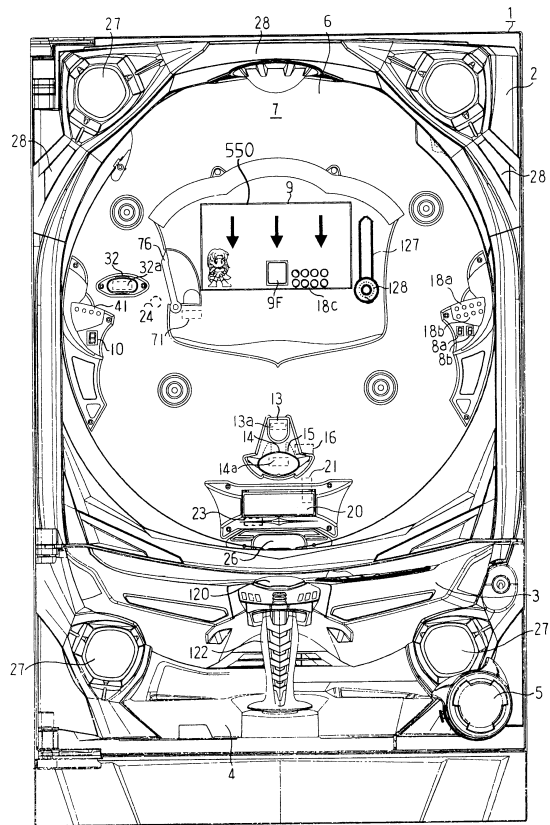
【0692】

- 1 パチンコ遊技機
- 8 a 第 1 特別図柄表示器
- 8 b 第 2 特別図柄表示器
- 9 演出表示装置
- 1 3 第 1 始動入賞口
- 1 4 第 2 始動入賞口
- 1 5 可変入賞球装置
- 2 0 特別可変入賞球装置
- 3 1 遊技制御基板（主基板）
- 5 6 C P U
- 6 2 a 表示用 L E D
- 6 2 b 表示用 L E D
- 7 6 可動部材
- 8 0 演出制御基板
- 1 0 0 演出制御用マイクロコンピュータ
- 1 0 1 演出制御用 C P U
- 1 0 9 V D P
- 1 2 0 プッシュボタン
- 1 2 1 トリガボタン
- 1 2 2 スティックコントローラ
- 1 2 3 傾倒方向センサユニット
- 1 2 4 プッシュセンサ
- 1 2 5 トリガセンサ
- 5 0 5 a 前導光板
- 5 0 5 b 後導光板
- 5 6 0 遊技制御用マイクロコンピュータ

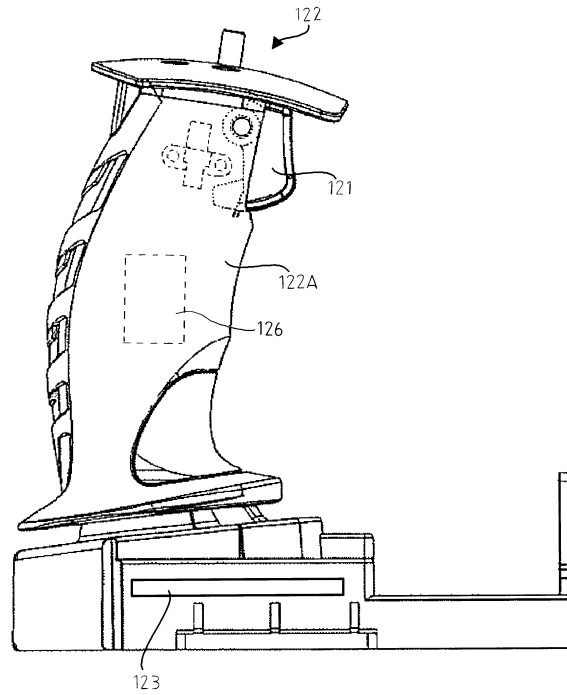
30

40

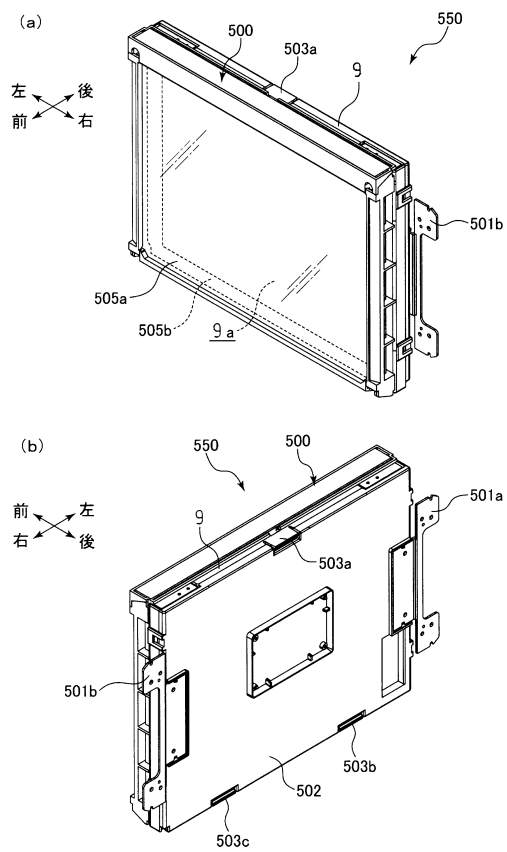
【図 1】



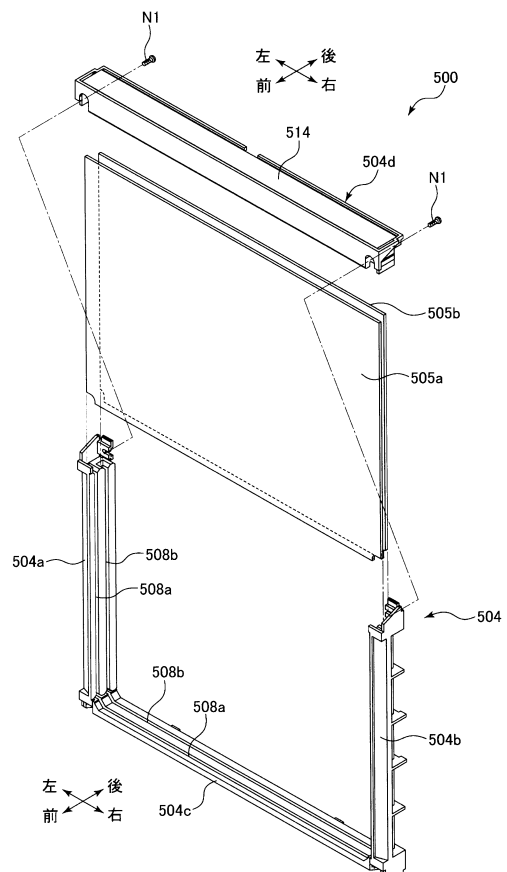
【図 2】



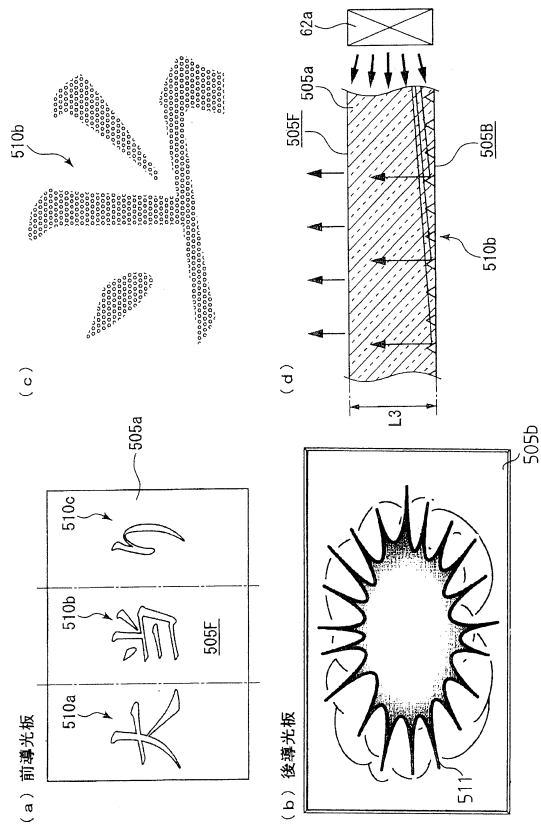
【図 3】



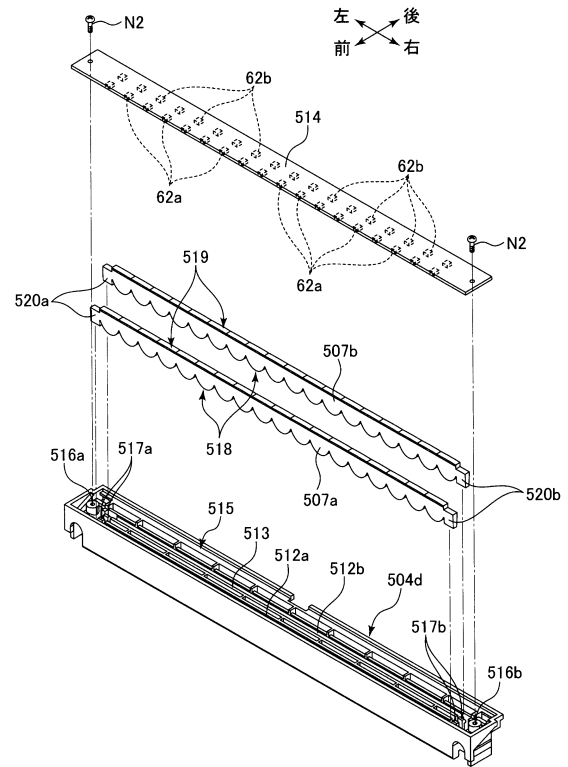
【図 4】



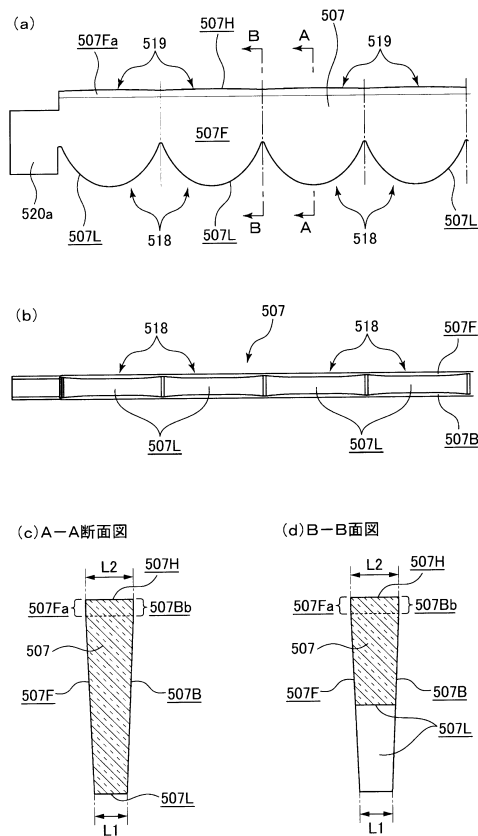
【図 5】



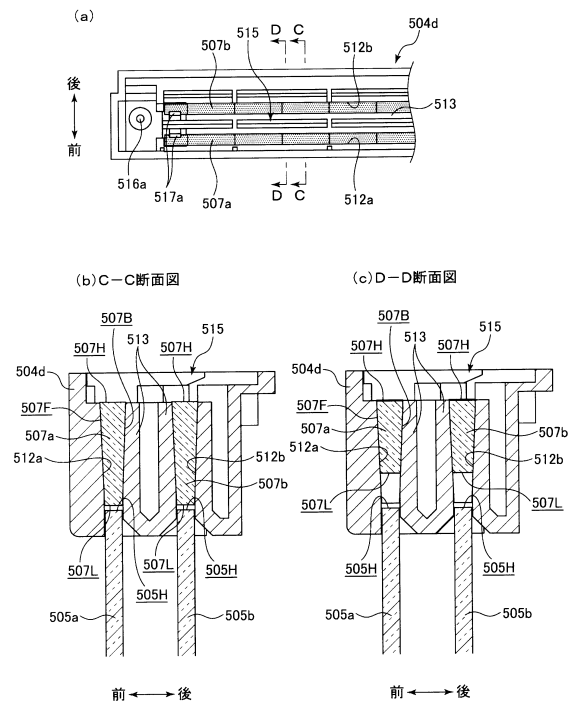
【図 6】



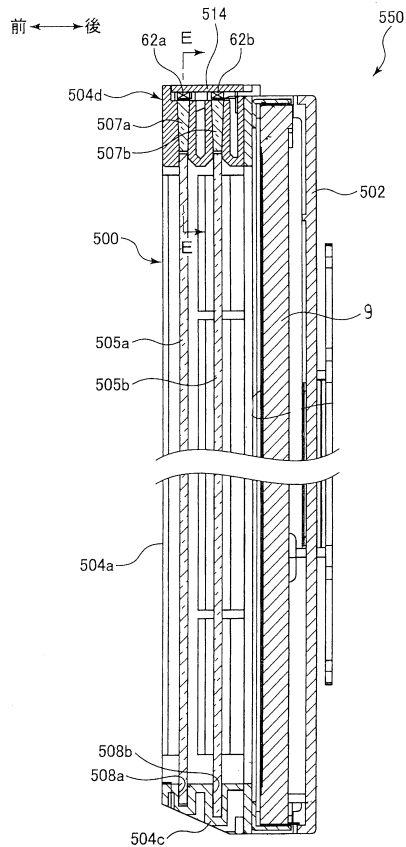
【図 7】



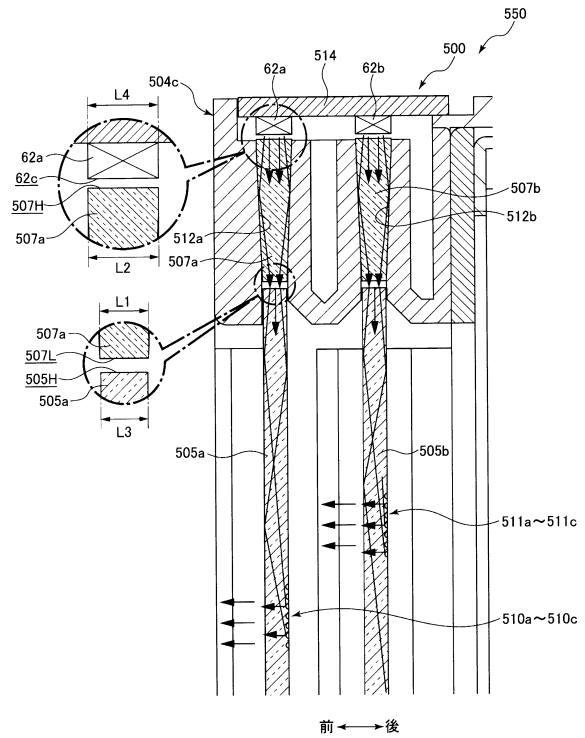
【図 8】



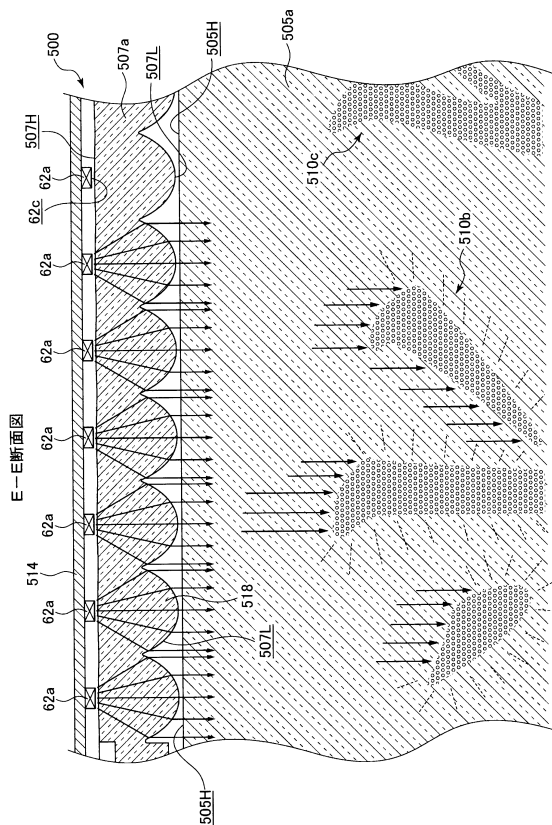
【図 9】



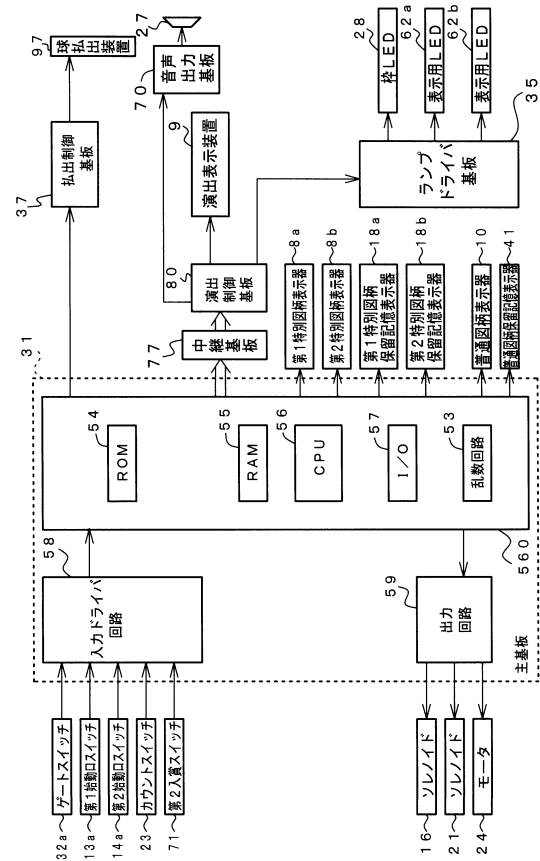
【図 10】



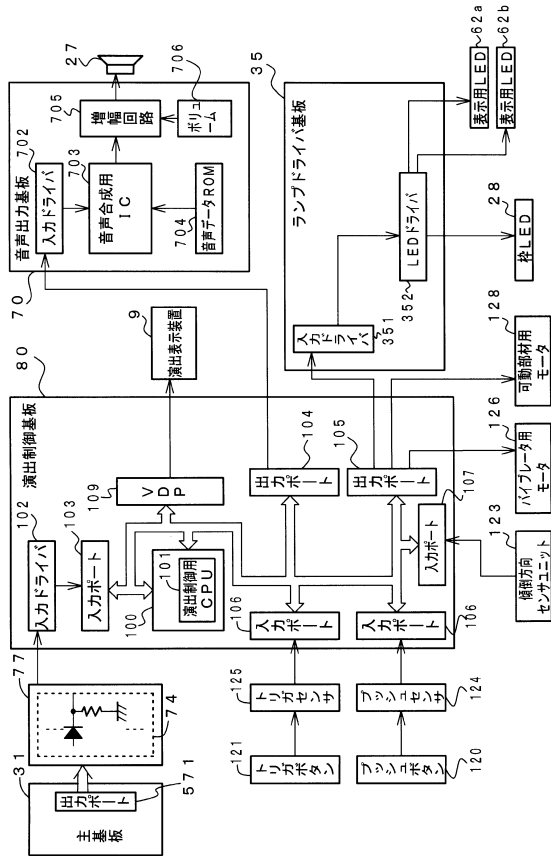
【図 1 1】



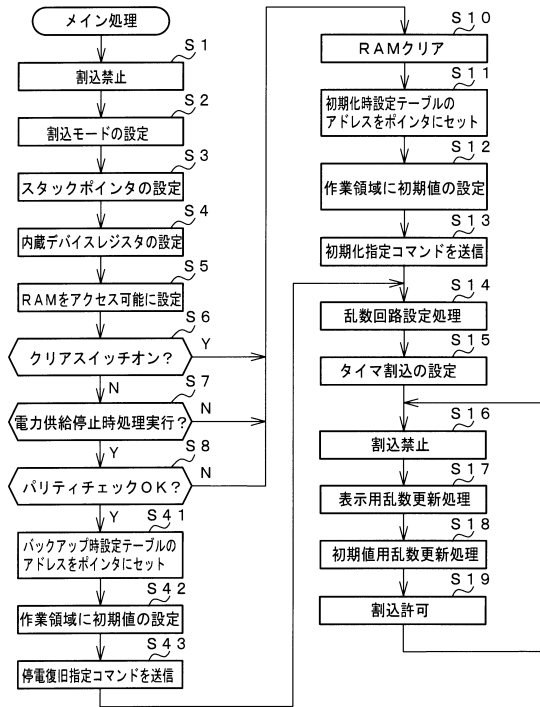
【图 1 2】



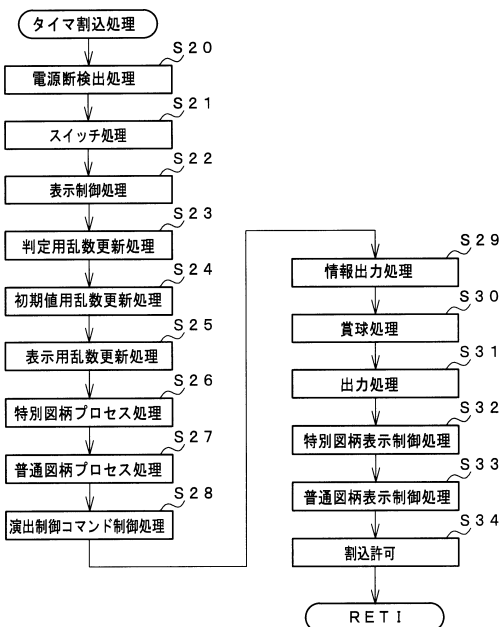
【図 1 3】



【図 14】



【図 15】



【図 1 6】

可変表示結果	変動パターン	特定演出	リーチ演出	特回変動時間(秒)	備考
はずれ	非リーチPA1-1	なし	非リーチ	5.75	短縮なし、通常変動でははずれ
	非リーチPA1-2	なし	非リーチ	1.50	短縮変動でははずれ
	非リーチPA1-3	滑り	非リーチ	11.75	通常変動ではずれ後、滑り演出ではずれ
	非リーチPA1-4	なし	非リーチ	22.75	通常変動ではずれ
	ノーマルPA2-1	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPA2-2	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPB2-1	擬似連(1回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動1回でノーマルリーチはずれ
	ノーマルPB2-2	擬似連(2回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチはずれ
	スーパーPA3-1	擬似連(3回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチAはずれ
	スーパーPA3-2	擬似連(3回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチBはずれ
大当り	スーパーPB3-1	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAではずれ
	スーパーPB3-2	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBではずれ
	ノーマルPA2-3	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチで大当り
	ノーマルPA2-4	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチで大当り
	ノーマルPB2-3	擬似連(1回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動1回でノーマルリーチ大当り
	ノーマルPB2-4	擬似連(2回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチ大当り
	スーパーPA3-3	擬似連(3回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチA大当り
	スーパーPA3-4	擬似連(3回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチB大当り
	スーパーPB3-3	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAで大当り
	スーパーPB3-4	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBで大当り
突然確変大当り/小当り	特殊PG1-1	なし	非リーチ	5.75	通常変動で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG1-2	滑り	非リーチ	11.75	通常変動ではずれ後、滑り演出で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG1-3	擬似連(1回)	非リーチ	15.50	通常変動ではずれ後、再変動1回で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG2-1	なし	ノーマル	12.75	リーチ後に突然確変大当り又は小当り
	特殊PG2-2	滑り	ノーマル	16.50	リーチではずれ後に滑り変動で突然確変大当り又は小当り

【図 17】

乱数	範囲	用途	加算
ランダム 1	0~39	大当り種別判定用	0.004秒毎に1ずつ加算
ランダム 2	1~251	変動パターン種別判定用	0.004秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算
ランダム 3	1~997	変動パターン判定用	0.004秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算
ランダム 4	3~13	普通図柄大当り判定用	0.004秒毎に1ずつ加算
ランダム 5	3~13	ランダム 4 初期値決定用	0.004秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算

【図 18】

大当り判定テーブル

大当り判定値 (ランダム R [0~65535] と比較される)	
通常時 (非確変時)	確変時
1020~1079, 13320~13477 (確率: 1/300)	1020~1519, 13320~15004 (確率: 1/30)

(A)

小当り判定テーブル (第 1 特別図柄用)

小当り判定値 (ランダム R [0~65535] と比較される)
54000~54217 (確率: 1/300)

(B)

小当り判定テーブル (第 2 特別図柄用)

小当り判定値 (ランダム R [0~65535] と比較される)
54000~54022 (確率: 1/3000)

(C)

大当り種別判定テーブル (第 1 特別図柄用)

大当り種別判定値 (ランダム 2-1 と比較される)			
15R 確変大当り	10R 確変大当り	2R 確変大当り	突然確変大当り
0~19	10~29	30~31	32~39

(D)

大当り種別判定テーブル (第 2 特別図柄用)

大当り種別判定値 (ランダム 2-1 と比較される)			
15R 確変大当り	10R 確変大当り	2R 確変大当り	突然確変大当り
0~26	27~36	37	38~39

(E)

【図 19】

(A)

大当り用変動パターン種別判定テーブル

大当り種別	変動パターン種別		
	ノーマル CA3-1	ノーマル CA3-2	スーパー CA3-3
10R, 2R 確変大当り	1~74	75~149	150~251

(B)

大当り用変動パターン種別判定テーブル

大当り種別	変動パターン種別		
	ノーマル CA3-1	ノーマル CA3-2	スーパー CA3-3
15R 確変大当り	1~38	39~79	80~251

(C)

大当り用変動パターン種別判定テーブル

大当り種別	変動パターン種別	
	特殊 CA4-1	特殊 CA4-2
突然確変大当り	1~100	101~251

(D)

小当り用変動パターン種別判定テーブル

小当り	変動パターン種別
	特殊 CA4-1
小当り	1~251

【図 20】

(A)

はずれ用変動パターン種別判定テーブル (通常用)

変動パターン種別				
非リーチ CA2-1	非リーチ CA2-2	ノーマル CA2-4	ノーマル CA2-5	スーパー CA2-7
1~79	80~99	100~169	170~229	230~251

(B)

はずれ用変動パターン種別判定テーブル (短縮用)

変動パターン種別					
非リーチ CA2-1	非リーチ CA2-2	非リーチ CA2-3	ノーマル CA2-4	ノーマル CA2-6	スーパー CA2-7
1~79	80~89	90~199	200~214	215~229	230~251

(C)

はずれ用変動パターン種別判定テーブル (高確率/高ベース用)

変動パターン種別	
非リーチ CA2-3	スーパー CA2-7
1~219	220~251

(D)

はずれ用変動パターン種別判定テーブル (高確率/低ベース用)

変動パターン種別	
非リーチ CA2-1	スーパー CA2-7
1~79	80~251

【図 2 1】

(A)
当り変動パターン判定テーブル

変動パターン種別	判定値	変動パターン
ノーマルCA3-1	1～560	ノーマルPA2-3
	561～997	ノーマルPA2-4
ノーマルCA3-2	1～560	ノーマルPB2-3
	561～997	ノーマルPB2-4
スーパーCA3-3	1～268	スーパーPA3-3
	269～660	スーパーPA3-4
	661～800	スーパーPB3-3
	801～997	スーパーPB3-4

(B)
当り変動パターン判定テーブル

変動パターン種別	判定値	変動パターン
特殊CA4-1	1～540	特殊PG1-1
	541～636	特殊PG1-2
	637～997	特殊PG1-3
特殊CA4-2	1～180	特殊PG2-1
	181～997	特殊PG2-2

【図 2 2】

はずれ変動パターン判定テーブル

変動パターン種別	判定値	変動パターン
非リーチCA2-1	1～997	非リーチPA1-1
非リーチCA2-2	1～500	非リーチPA1-3
	501～997	非リーチPA1-4
非リーチCA2-3	1～997	非リーチPA1-2
ノーマルCA2-4	1～560	ノーマルPA2-1
ノーマルCA2-5	561～997	ノーマルPA2-2
	1～997	ノーマルPB2-2
ノーマルCA2-6	1～997	ノーマルPB2-1
スーパーCA2-7	1～268	スーパーPA3-1
	269～560	スーパーPA3-2
	561～900	スーパーPB3-1
	901～997	スーパーPB3-2

【図 2 4】

MODE	EXT	名称	内容
B 0	0 1	低ベース状態指定	低ベース（非時短）状態であることの指定
B 0	0 2	高ベース状態指定	高ベース（時短）状態であることの指定
B 0	0 3	非確変状態指定	非確変状態であることの指定
B 0	0 4	確変状態指定	確変状態であることの指定
C 0	0 0	第 1 始動入賞指定	第 1 始動入賞があったことの指定
C 1	0 0	第 2 始動入賞指定	第 2 始動入賞があったことの指定
C 2	X X	合算保留記憶数指定	合算保留記憶数がXXで示す数になったことの指定 (XX=01 (H)～08 (H))
C 3	0 0	合算保留記憶減算指定	合算保留記憶数を 1 減算することの指定
C 4	X X	図柄指定コマンド	始動入賞時の入賞時判定結果（表示結果）を指定
C 6	X X	変動カテゴリコマンド	始動入賞時の入賞時判定結果（変動パターン）を指定

【図 2 5】

MODE	EXT	名称	内容
C 4	0 0	図柄 1 指定（はずれ指定）	入賞時判定結果がはずれであることの指定
C 4	0 1	図柄 2 指定（1 5 R 確変大当り指定）	入賞時判定結果が 1 5 R 確変大当りであることの指定
C 4	0 2	図柄 3 指定（1 0 R 確変大当り指定）	入賞時判定結果が 1 0 R 確変大当りであることの指定
C 4	0 3	図柄 4 指定（2 R 確変大当り指定）	入賞時判定結果が 2 R 確変大当りであることの指定
C 4	0 4	図柄 5 指定（突然確変大当り指定）	入賞時判定結果が突然確変大当りであることの指定
C 4	0 5	図柄 6 指定（小当り指定）	入賞時判定結果が小当りであることの指定

【図 2 3】

MODE	EXT	名称	内容
8 0	X X	変動パターン X X 指定	演出図柄の変動パターンの指定 (XX=変動パターン番号)
8 C	0 1	表示結果 1 指定（はずれ指定）	はずれに決定されていることの指定
8 C	0 2	表示結果 2 指定（1 5 R 確変大当り指定）	1 5 R 確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 3	表示結果 3 指定（1 0 R 確変大当り指定）	1 0 R 確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 4	表示結果 4 指定（2 R 確変大当り指定）	2 R 確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 5	表示結果 5 指定（突然確変大当り指定）	突然確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 6	表示結果 6 指定（小当り指定）	小当りに決定されていることの指定
8 D	0 1	第 1 図柄変動指定	第 1 特別図柄の変動を開始することの指定
8 D	0 2	第 2 図柄変動指定	第 2 特別図柄の変動を開始することの指定
8 E	0 1	普通図柄変動開始指定（当り）	普通図柄の変動を開始することの指定（表示結果：当り）
8 E	0 2	普通図柄変動開始指定（はずれ）	普通図柄の変動を開始することの指定（表示結果：はずれ）
8 E	0 3	普通図柄変動終了指定	普通図柄の変動を終了することの指定
8 F	0 0	図柄確定指定	図柄の変動を終了することの指定
9 0	0 0	初期化指定（電源投入指定）	電源投入時の初期画面を表示することの指定
9 2	0 0	停電復旧指定	停電復旧画面を表示することの指定
9 F	0 0	客待ちデモ指定	客待ちデモンストレーション表示の指定
A 0	0 1	大当り開始指定	確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 0	0 2	小当り／突然確変大当り開始指定	小当り又は突然確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 1	X X	大入賞口開放中指定	XXで示す回数目の大入賞口開放中表示指定 (XX=01 (H)～0F (H))
A 2	X X	大入賞口開放後指定	XXで示す回数目の大入賞口開放後表示指定 (XX=01 (H)～0F (H))
A 3	0 1	大当り終了指定	大当り終了画面を表示すること及び確変大当りであることの指定
A 3	0 2	小当り／突然確変大当り終了指定	小当り終了画面（突然確変大当り終了画面と兼用）を表示することの指定

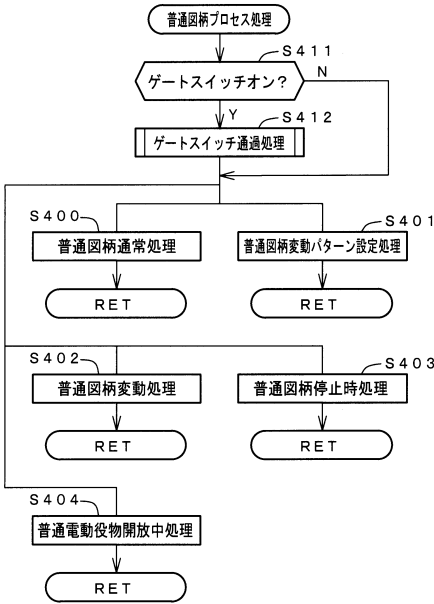
【図 2 6】

MODE	EXT	名称	内容
C 6	0 0	変動カテゴリ 1	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 1～7 9（非リーチCA2-1）になると判定したことの指定
C 6	0 1	変動カテゴリ 2	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 8 0～8 9 になると判定したことの指定
C 6	0 2	変動カテゴリ 3	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 9 0～9 9 になると判定したことの指定
C 6	0 3	変動カテゴリ 4	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 1 0 0～1 6 9 になると判定したことの指定
C 6	0 4	変動カテゴリ 5	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 1 7 0～1 9 9 になると判定したことの指定
C 6	0 5	変動カテゴリ 6	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 2 0 0～2 1 4 になると判定したことの指定
C 6	0 6	変動カテゴリ 7	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 2 1 5～2 2 9 になると判定したことの指定
C 6	0 7	変動カテゴリ 8	始動入賞時に通常状態ではずれかつ乱数値が 2 3 0～2 5 1（スーパーCA2-7）になると判定したことの指定
C 6	0 8	変動カテゴリ 9	始動入賞時に高確率／高ベース状態ではずれかつ乱数値が 1～2 1 9（非リーチCA2-3）になると判定したことの指定
C 6	0 9	変動カテゴリ 1 0	始動入賞時に高確率／高ベース状態ではずれかつ乱数値が 2 2 0～2 5 1（スーパーCA2-7）になると判定したことの指定
C 6	0 A	変動カテゴリ 1 1	始動入賞時に高確率／低ベース状態ではずれかつ乱数値が 1～7 9（非リーチCA2-1）になると判定したことの指定
C 6	0 B	変動カテゴリ 1 2	始動入賞時に高確率／低ベース状態ではずれかつ乱数値が 8 0～2 5 1（スーパーCA2-7）になると判定したことの指定

【図 27】

MODE	EXT	名称	内容
C 6	1 0	変動カテゴリ 2 1	始動入賞時に 1 0 R / 2 R 確変大当たりかつ乱数値が 1 ~ 7 4 (ノーマル CA3-1) になると判定したことの指定
C 6	1 1	変動カテゴリ 2 2	始動入賞時に 1 0 R / 2 R 確変大当たりかつ乱数値が 7 5 ~ 1 4 9 (ノーマル CA3-2) になると判定したことの指定
C 6	1 2	変動カテゴリ 2 3	始動入賞時に 1 0 R / 2 R 確変大当たりかつ乱数値が 1 5 0 ~ 2 5 1 (スーパー CA3-3) になると判定したことの指定
C 6	1 3	変動カテゴリ 2 4	始動入賞時に 1 5 R 確変大当たりかつ乱数値が 1 ~ 3 8 (ノーマル CA3-1) になると判定したことの指定
C 6	1 4	変動カテゴリ 2 5	始動入賞時に 1 5 R 確変大当たりかつ乱数値が 3 9 ~ 7 9 (ノーマル CA3-2) になると判定したことの指定
C 6	1 5	変動カテゴリ 2 6	始動入賞時に 1 5 R 確変大当たりかつ乱数値が 8 0 ~ 2 5 1 (スーパー CA3-3) になると判定したことの指定
C 6	1 6	変動カテゴリ 2 7	始動入賞時に突然確変大当たりかつ乱数値が 1 ~ 1 0 0 (特殊 CA4-1) になると判定したことの指定
C 6	1 7	変動カテゴリ 2 8	始動入賞時に突然確変大当たりかつ乱数値が 1 0 1 ~ 2 5 1 (特殊 CA4-2) になると判定したことの指定
C 6	1 8	変動カテゴリ 2 9	始動入賞時に小当たりかつ乱数値が 1 ~ 2 5 1 (特殊 CA4-1) になると判定したことの指定

【図 28】



【図 29】

(低ベース時)

判定値	普通図柄表示結果	普通電動役物開放時間	普通図柄変動時間
1, 2	当り	5.8 秒 : 1 回	1 0 秒
3 ~ 2 5 0	はずれ	—	1 0 秒

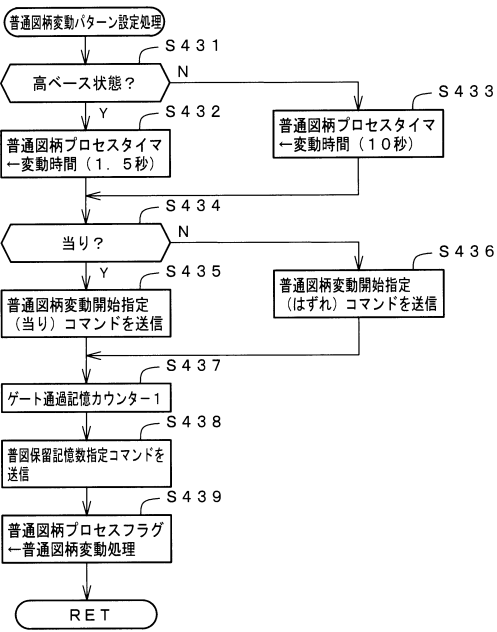
(A)

(高ベース時)

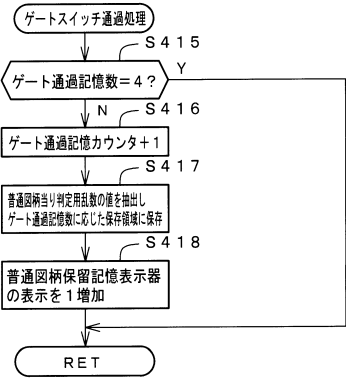
判定値	普通図柄表示結果	普通電動役物開放時間	普通図柄変動時間
1 ~ 2 4 9	当り	1.8 秒 : 3 回	1.5 秒
2 5 0	はずれ	—	1.5 秒

(B)

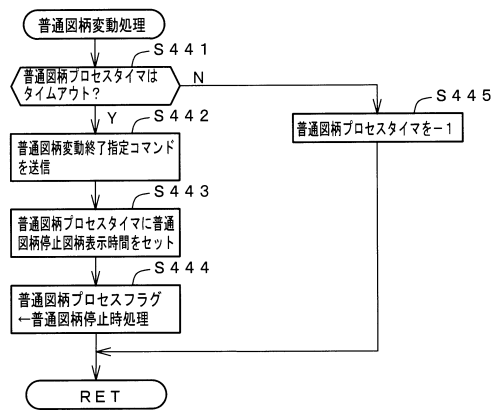
【図 31】



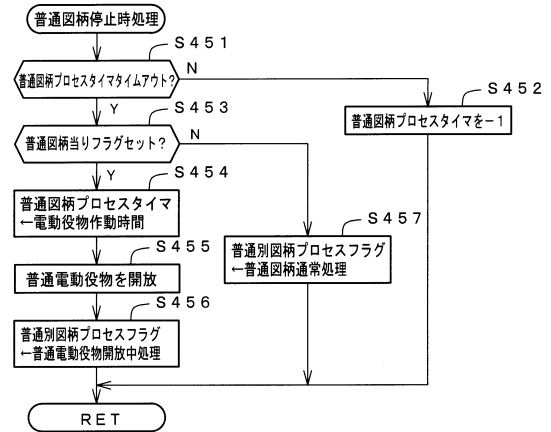
【図 30】



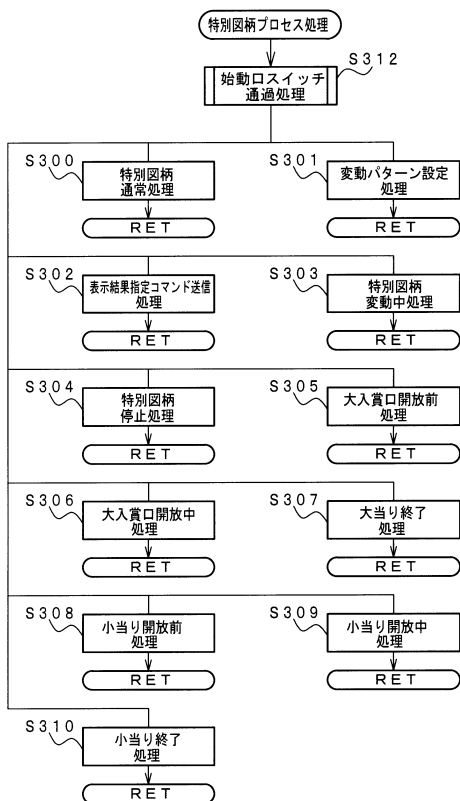
【図 3 2】



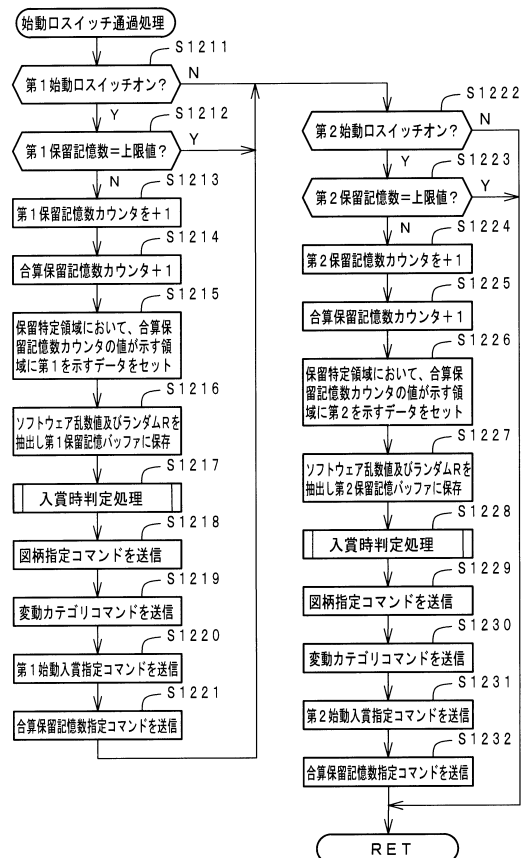
【図 3 3】



【図 3 4】



【図 3 5】



【図 36】

保留記憶特定情報記憶領域（保留特定領域）							
1	2	3	4	5	6	7	8
第1	第1	第2	第2	第2	—	—	—

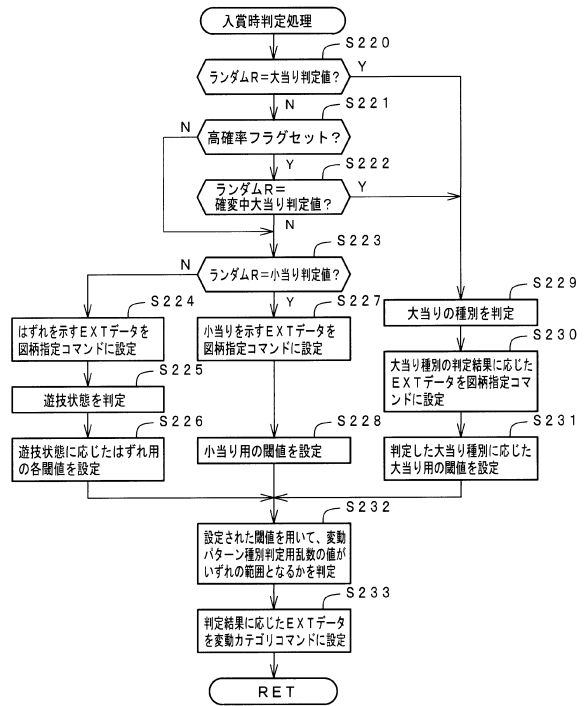
(合算保留記憶数カウンタ=5の場合の例)

(A) 保留特定領域

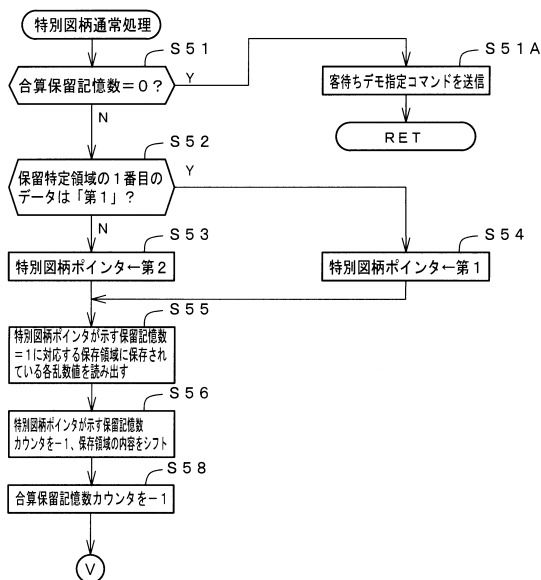
第1保留記憶バッファ	第1保留記憶数=1に対応した保存領域
第1保留記憶バッファ	第1保留記憶数=2に対応した保存領域
第1保留記憶バッファ	第1保留記憶数=3に対応した保存領域
第1保留記憶バッファ	第1保留記憶数=4に対応した保存領域
第2保留記憶バッファ	第2保留記憶数=1に対応した保存領域
第2保留記憶バッファ	第2保留記憶数=2に対応した保存領域
第2保留記憶バッファ	第2保留記憶数=3に対応した保存領域
第2保留記憶バッファ	第2保留記憶数=4に対応した保存領域

(B) 保存領域

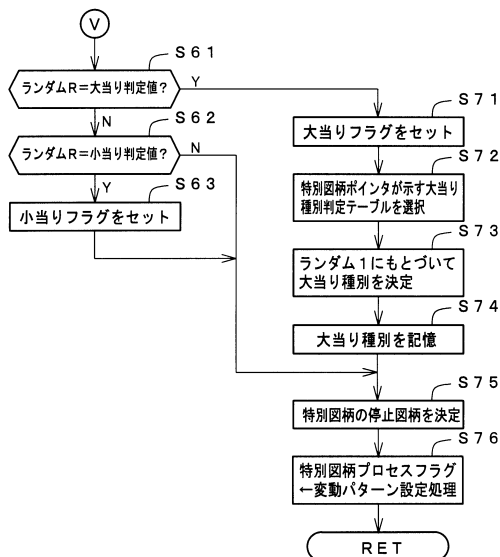
【図 37】



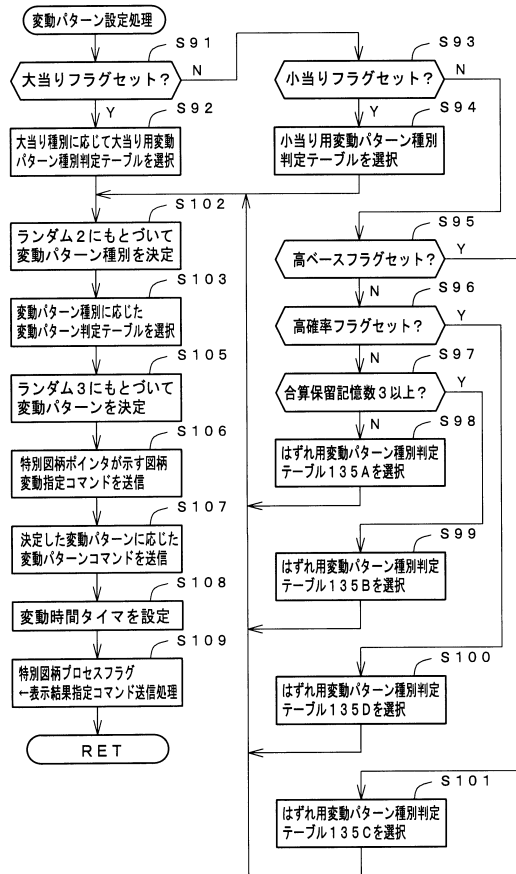
【図 38】



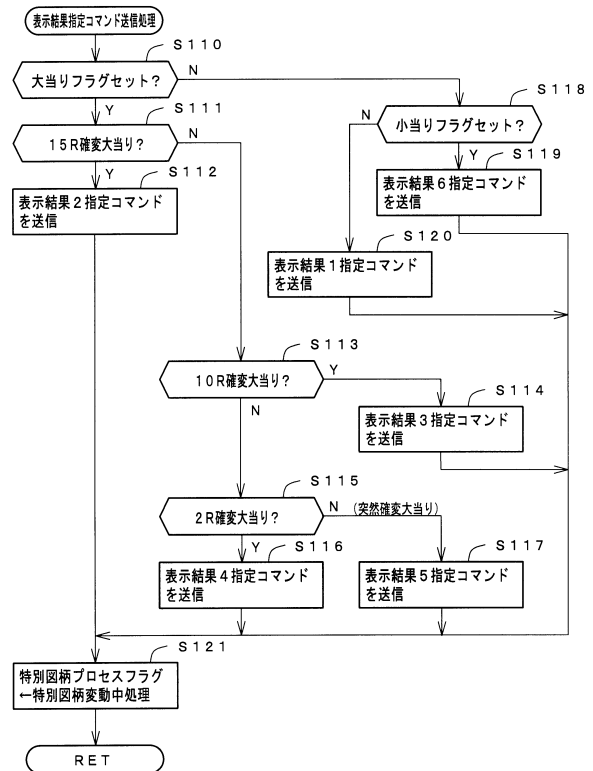
【図 39】



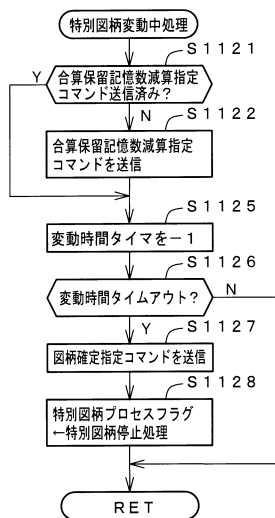
【図 40】



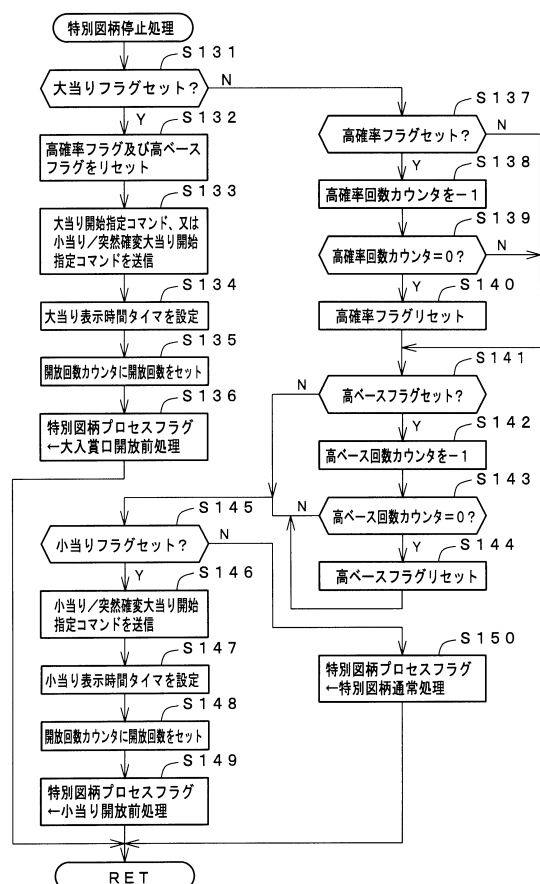
【図 41】



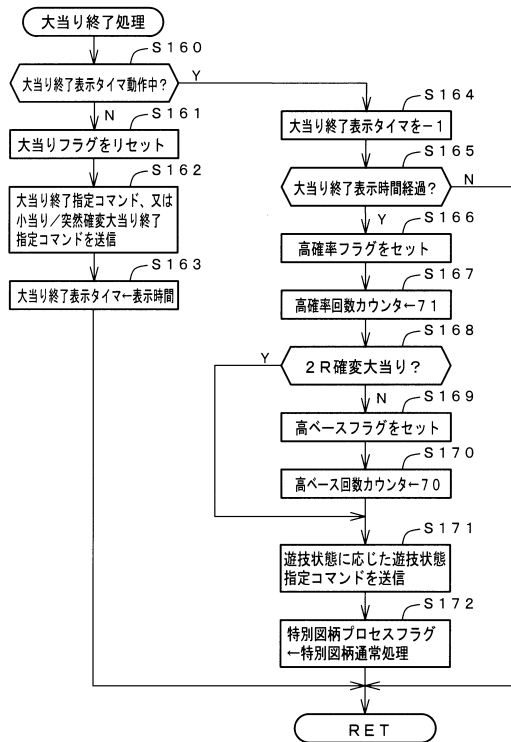
【図 42】



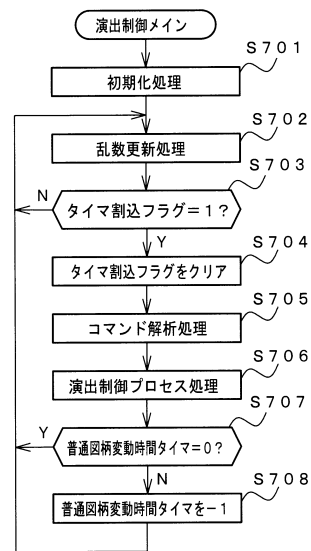
【図 43】



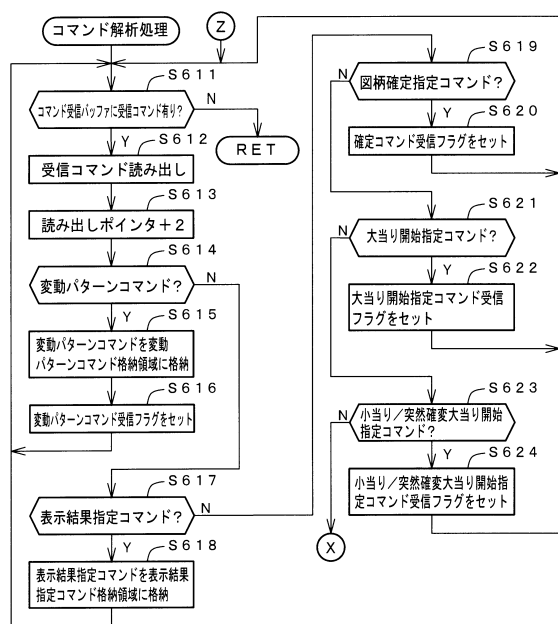
【図 4 4】



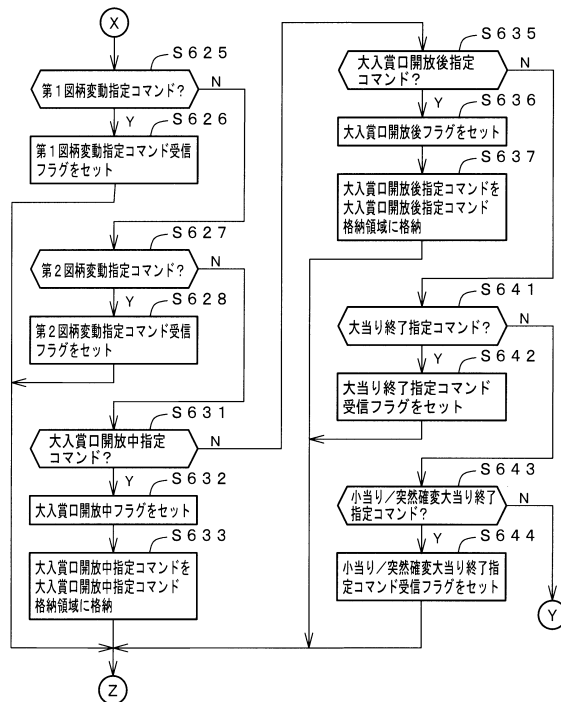
【図 4 5】



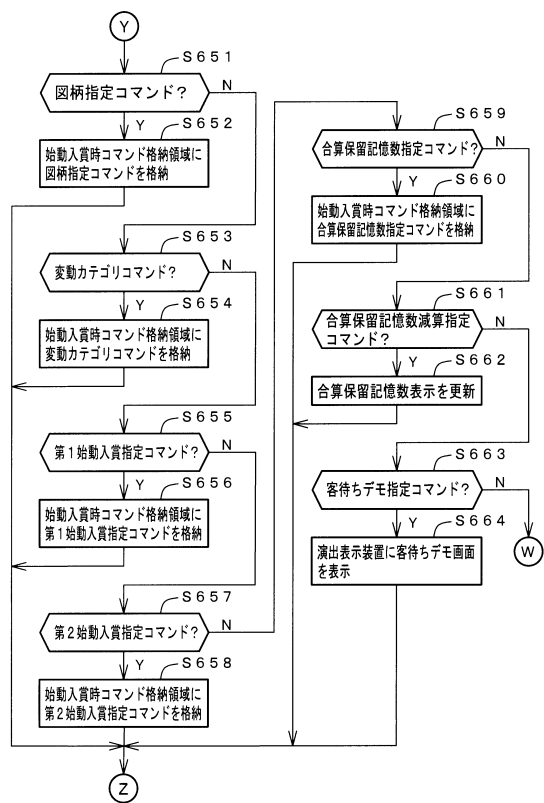
【図 4 6】



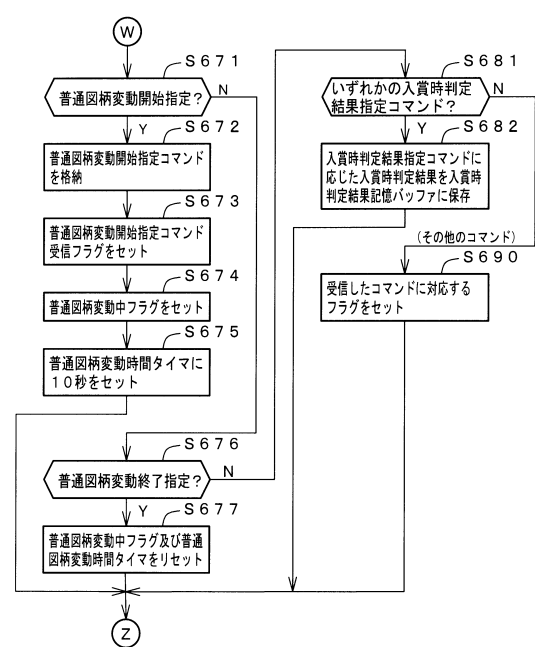
【図 4 7】



【図 48】



【図 49】



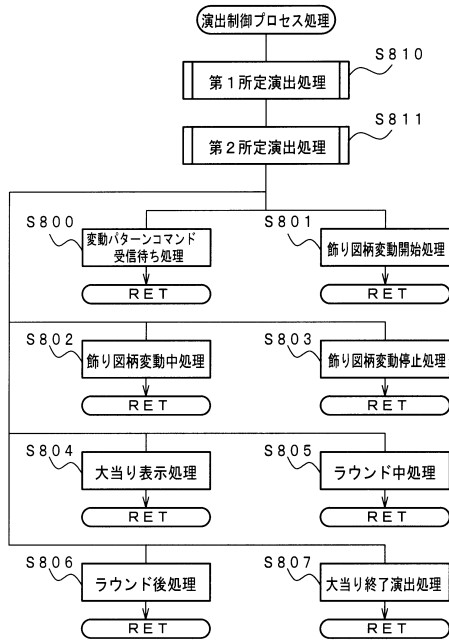
【図 50】

始動入賞時コマンド格納領域						
図柄指定コマンド	変動カテゴリコマンド	始動入賞指定コマンド	合算保留記憶数指定コマンド	未判定確率		
格納領域1	C400 (H)	C600 (H)	C000 (H)	C203 (H)	0	
格納領域2	C400 (H)	C600 (H)	C100 (H)	0000 (H)	1	
格納領域3	C400 (H)	C600 (H)	C000 (H)	C205 (H)	1	
格納領域4	C402 (H)	C612 (H)	C000 (H)	C206 (H)	1	
格納領域5	C400 (H)	C600 (H)	C100 (H)	C207 (H)	1	
格納領域6	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0	
格納領域7	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0	
格納領域8	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0	

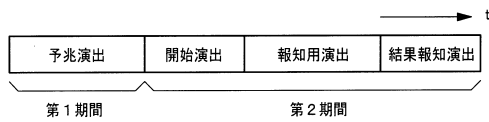
【図 51】

乱数	範囲	用途
SR1-1	1~80	第1最終停止図柄決定用
SR1-2	1~70	第2最終停止図柄決定用
SR1-3	1~96	第3最終停止図柄決定用
SR2	1~8	疑似連変動時仮停止図柄決定用
SR3	1~100	所定演出決定用
SR4	1~99	特別図柄表示結果報知決定用
SR5	1~28	ボタン演出決定用
SR6	1~100	先読み予告演出決定用 (疑似連予告演出決定用)

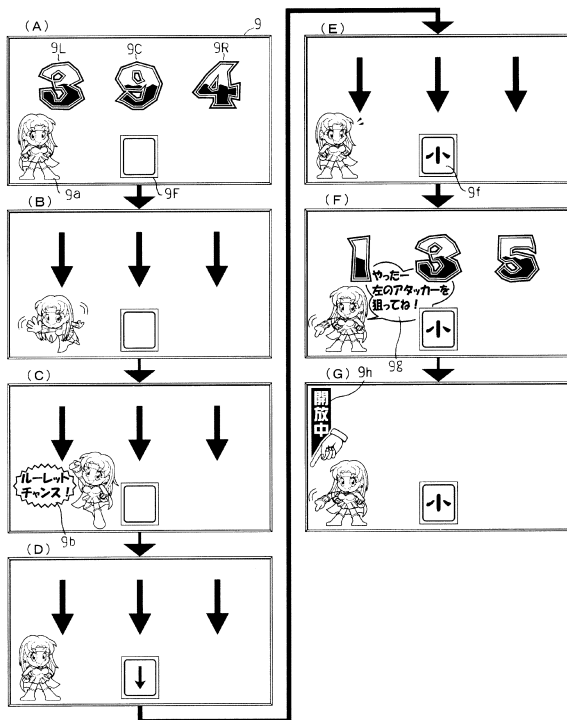
【図 5 2】



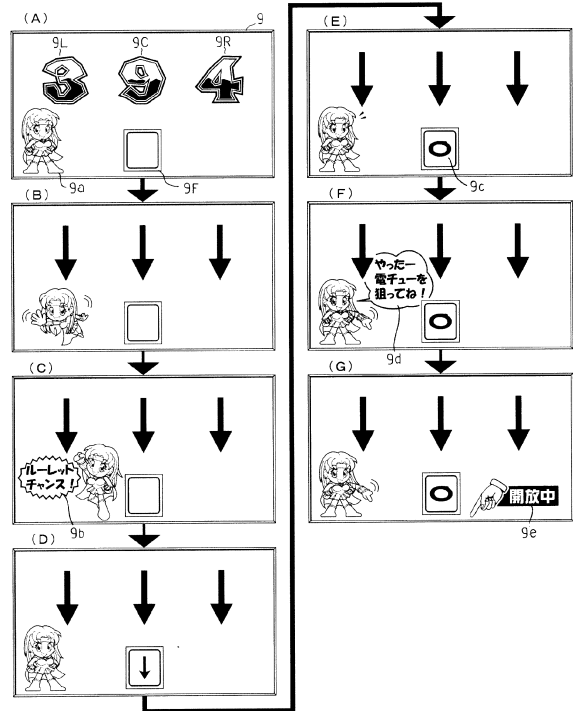
【図 5 3】



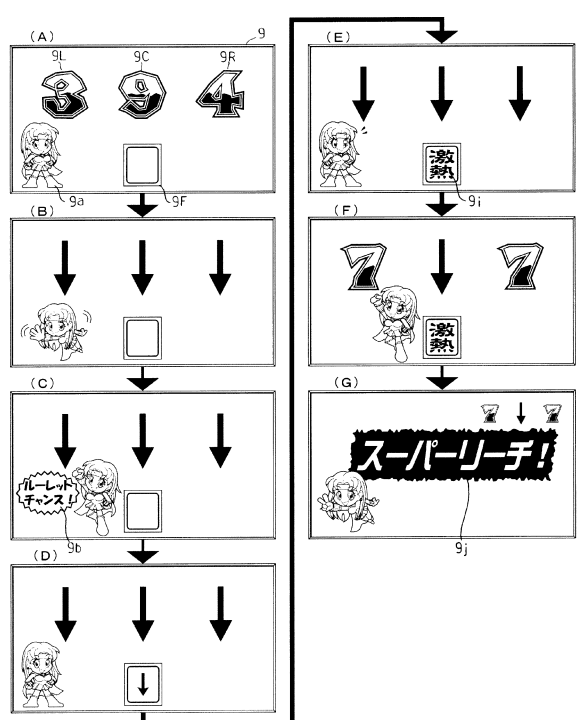
【図 5 5】



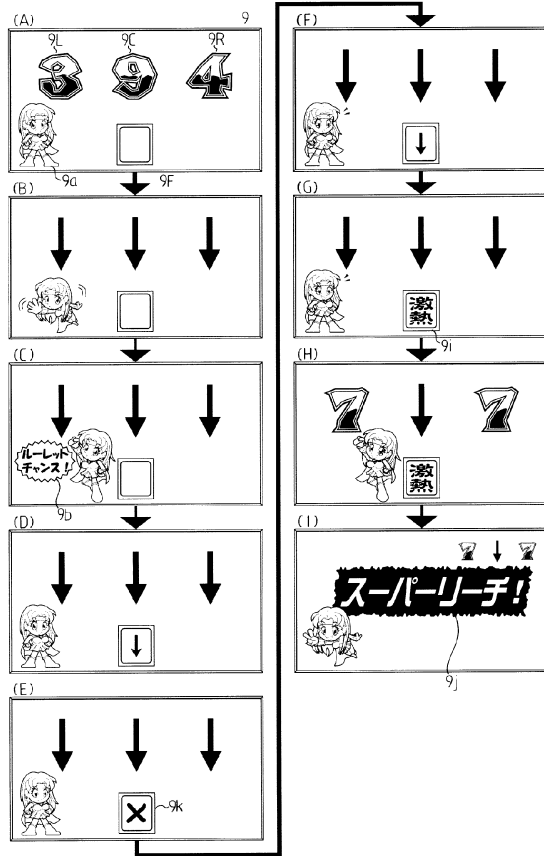
【図 5 4】



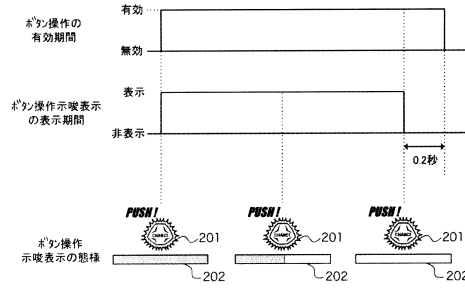
【図 5 6】



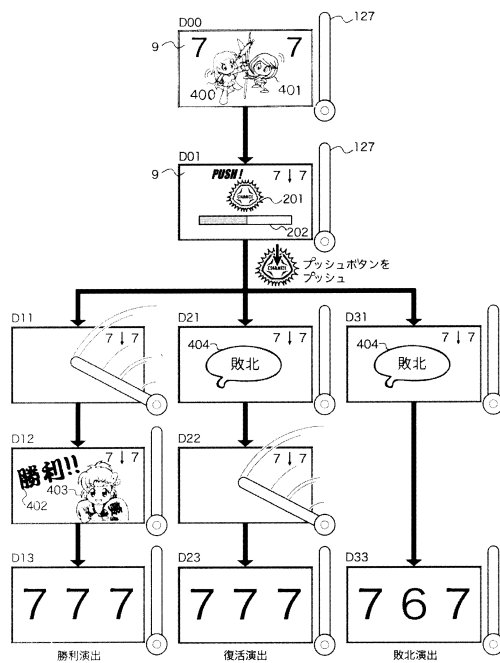
【図 57】



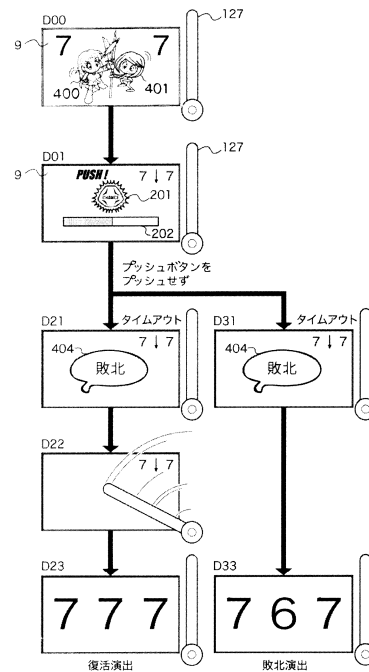
【図 58】



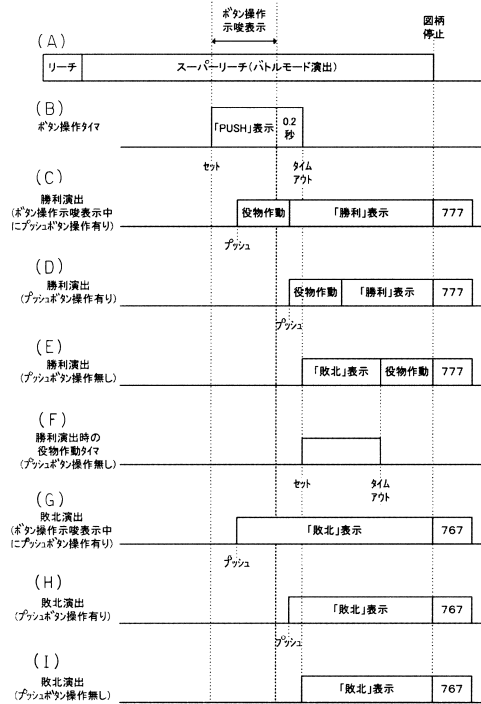
【図 59】



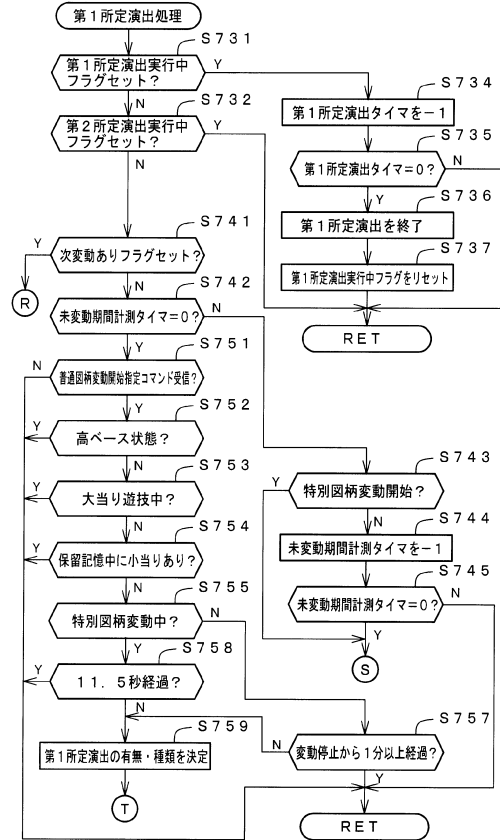
【図 60】



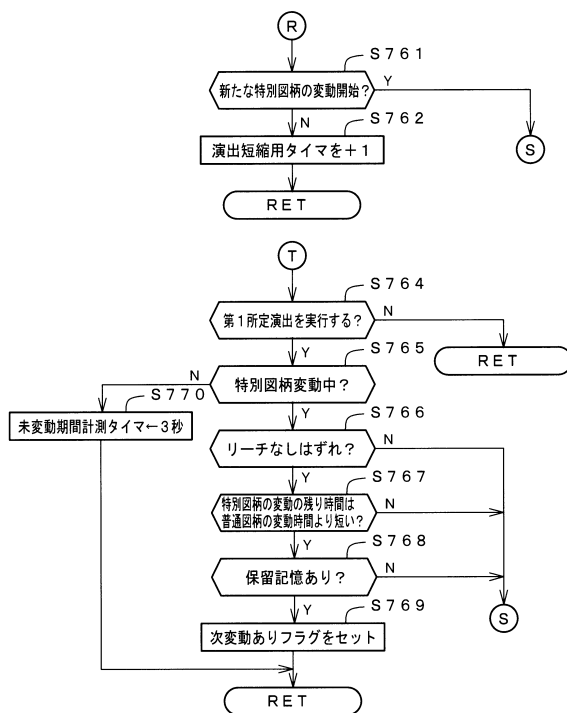
【図 6 1】



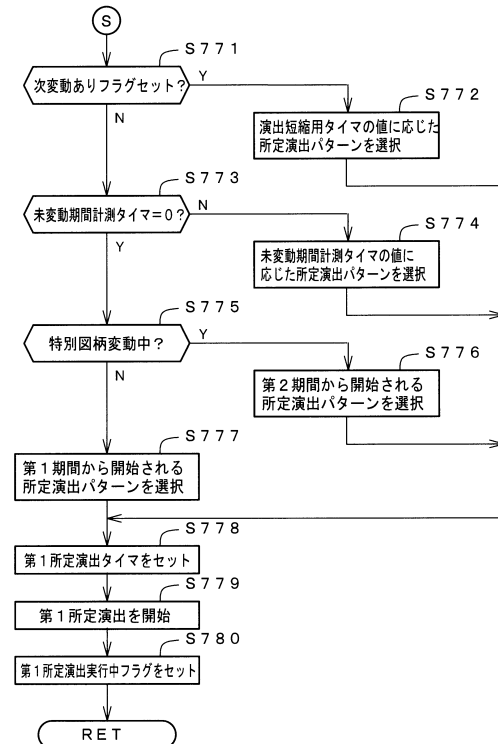
【図 6 2】



【図 6 3】



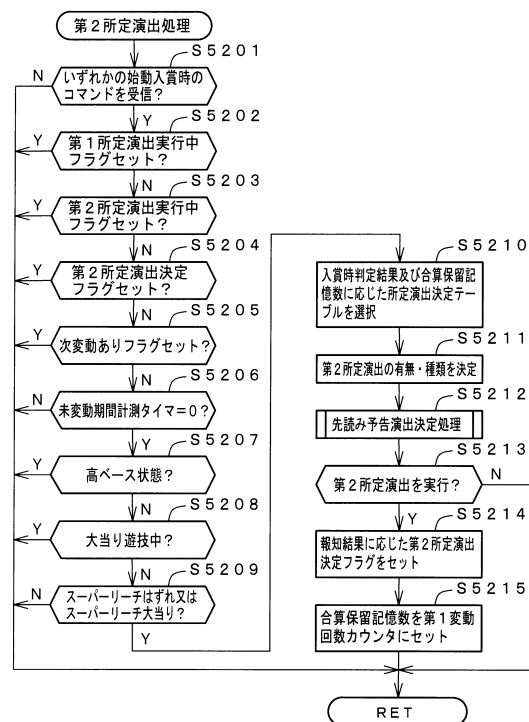
【図 6 4】



【图 6 5】

	所定演出なし	所定演出(×)	所定演出(O)	演出位置指定の有無	表の裏
果ては園内を巡回表示する音源	平均値数：90	平均値数：10	-	-	演出位置指定の有無
音源が園内を巡回するのはずいぶん遅い	平均値数：90	平均値数：10	-	-	演出位置指定の有無
音源が園内を巡回するのはかなり遅い	平均値数：10	平均値数：70	平均値数：20	-	演出位置指定の有無

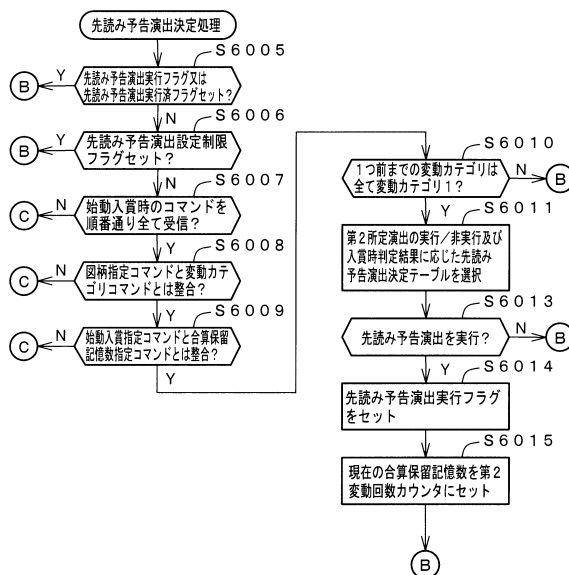
【図 6 6】



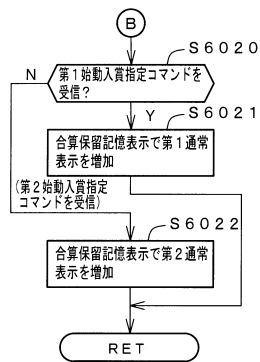
【图 6 7】

入賞判定結果	合算保証記憶数	所定減出しなし	所定減出 (×)	所定減出 (チャンス)	所定減出 (激熱)
スーパードラゴン	1	判定値数: 20	判定値数: 10	判定値数: 60	判定値数: 10
	2	判定値数: 40	判定値数: 10	判定値数: 40	判定値数: 10
	3	判定値数: 60	判定値数: 10	判定値数: 25	判定値数: 5
	4以上	判定値数: 80	判定値数: 10	判定値数: 10	—
	1	判定値数: 80	判定値数: 10	判定値数: 10	—
スーパードラゴン大当り	2	判定値数: 60	判定値数: 10	判定値数: 25	判定値数: 5
	3	判定値数: 40	判定値数: 10	判定値数: 40	判定値数: 10
	4以上	判定値数: 20	判定値数: 10	判定値数: 10	判定値数: 60

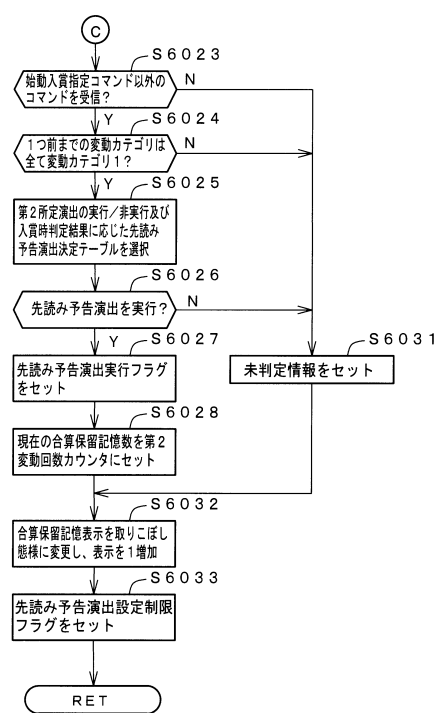
【图 6 8】



【図 69】



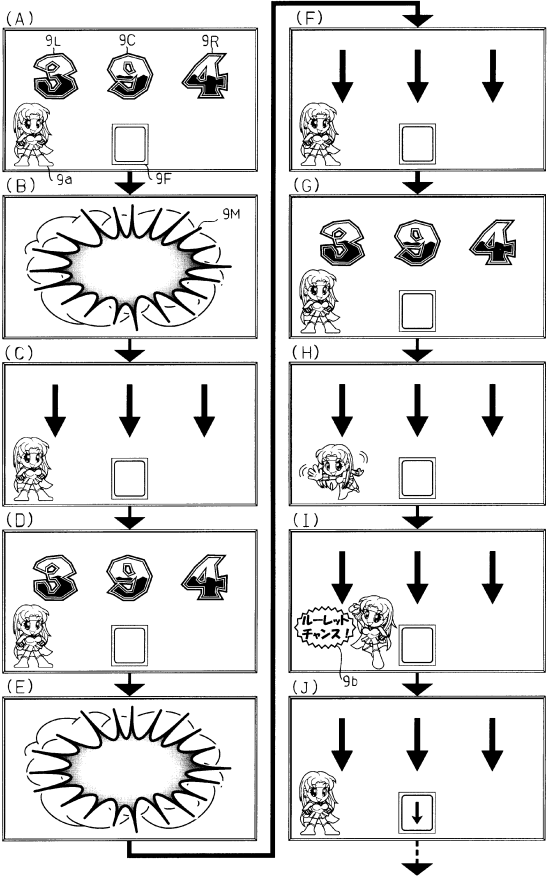
【図 70】



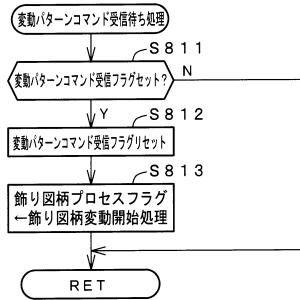
【図 71】

入賞時判定結果	第2所定演出	先読み予告演出する	先読み予告出しない
ボタン演出リーチ (ノーマルPA2-1~PA2-4)	実行する	判定値数：80	判定値数：20
	実行しない	判定値数：60	判定値数：40
スーパーリーチ	実行する	判定値数：70	判定値数：30
	実行しない	判定値数：50	判定値数：50
その他	実行する	判定値数：30	判定値数：70
	実行しない	判定値数：10	判定値数：90

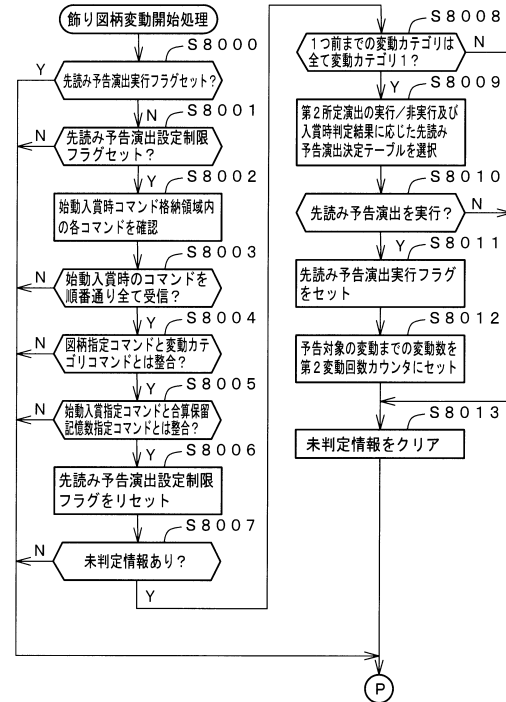
【図 72】



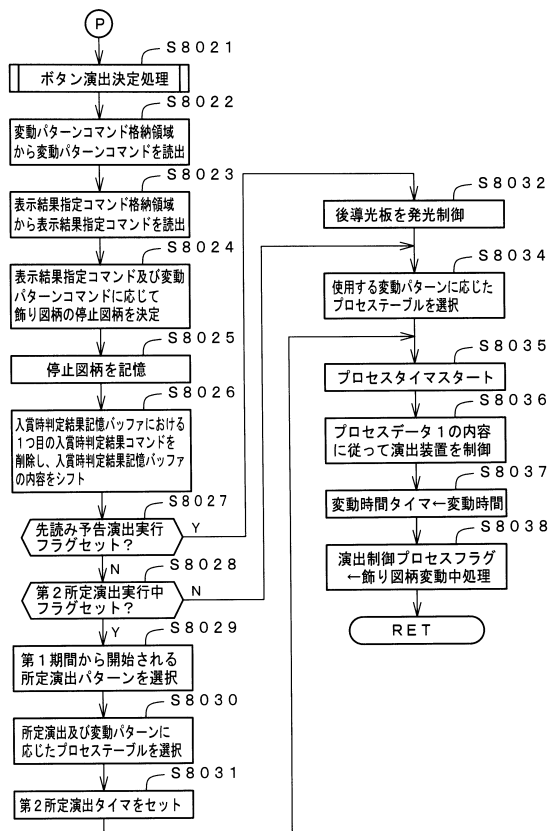
【図 7 3】



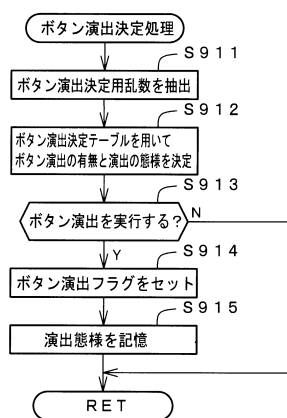
【図 7 4】



【図 7 5】



【図 7 6】



【図 7 7】

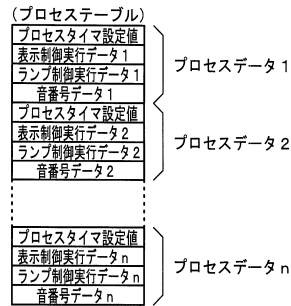
入賞時判定結果	ボタン演出の態様（役物作動演出の態様）		
	敗北演出	復活演出	勝利演出
はずれ	1～21	22～28	—
大当たり	—	1～14	15～28

(はずれの場合には、復活演出後ははずれ)

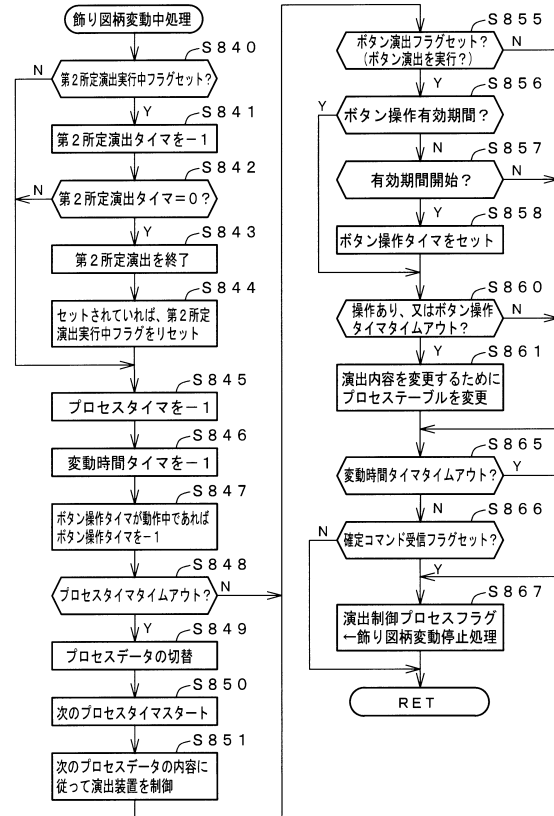
【図 78】

表示結果指定コマンド	停止図柄組合せの種類	左中右停止図柄
はずれ指定 (リーチなし)	はずれ図柄	左右不一致
はずれ指定 (リーチあり)		左右のみ一致
確変大当り (15R、10R、2R)	大当り図柄	左中右の揃い
突然確変大当り ／小当り	突然確変大当り図柄 (小当り図柄)	135

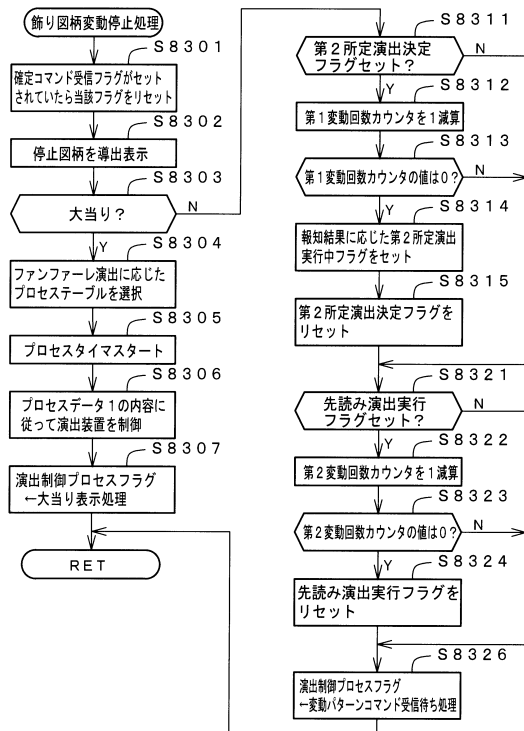
【図 79】



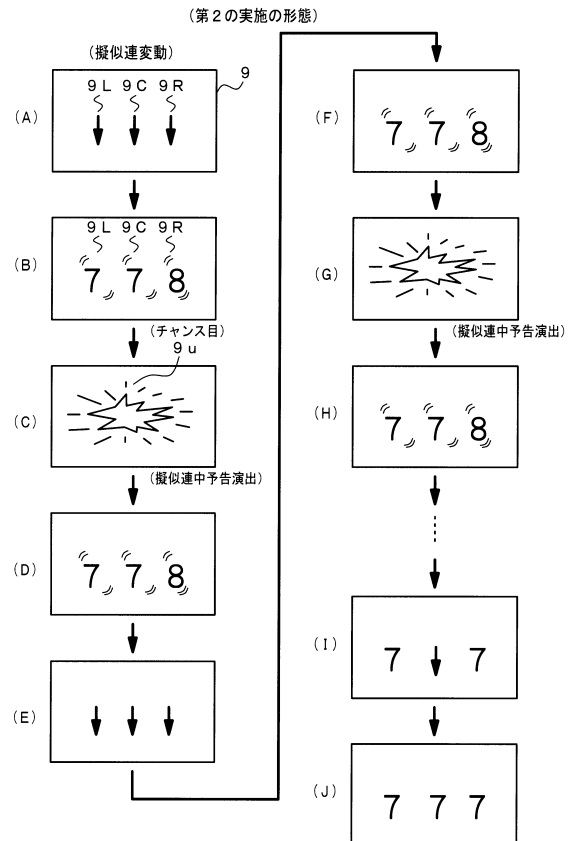
【図 80】



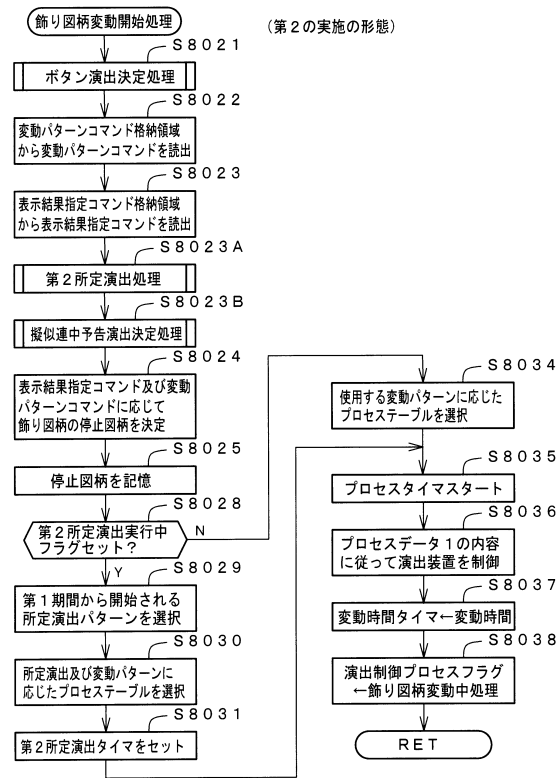
【図 81】



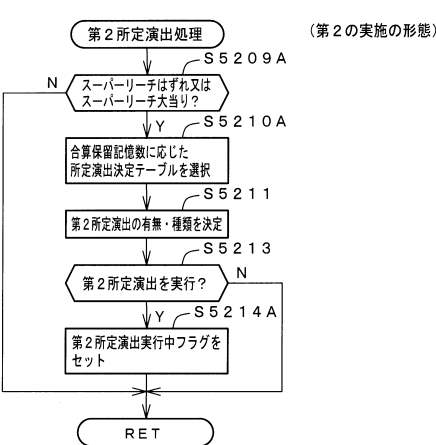
【図 82】



【図 8 3】



【図 8 4】

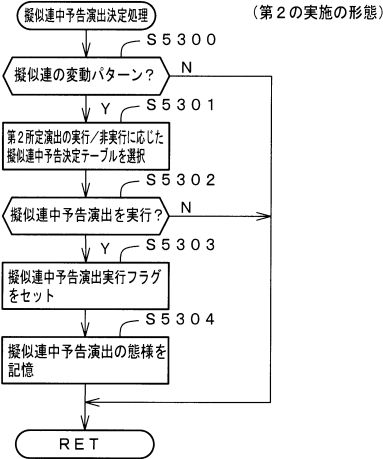


【図 8 5】

(第2の実施の形態)

変動パターン	合算保留記憶数	所定演出なし	所定演出 (x)	所定演出 (チャンス)	所定演出 (激熱)
スーパーリーチはズレ	1	判定値数: 20	判定値数: 10	判定値数: 60	判定値数: 10
	2	判定値数: 40	判定値数: 10	判定値数: 40	判定値数: 10
	3	判定値数: 60	判定値数: 10	判定値数: 25	判定値数: 5
	4以上	判定値数: 80	判定値数: 10	判定値数: 10	-
スーパーリーチ大当り	1	判定値数: 80	判定値数: 10	判定値数: 10	-
	2	判定値数: 60	判定値数: 10	判定値数: 25	判定値数: 5
	3	判定値数: 40	判定値数: 10	判定値数: 40	判定値数: 10
	4以上	判定値数: 20	判定値数: 10	判定値数: 10	判定値数: 60

【図 8 6】

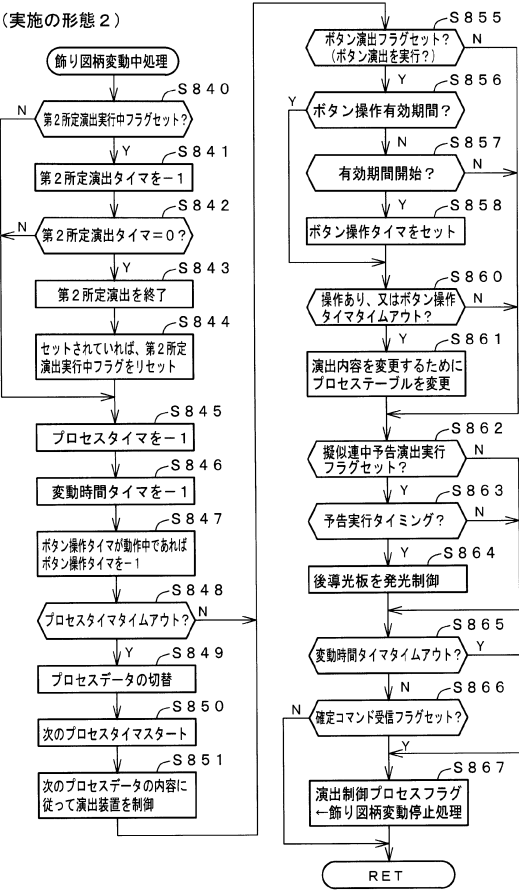


【図 87】

(第2の実施の形態)

第2所定演出 実行する	再演出3回目に演出終了	再演出2.3回目に演出終了	再演出3回目に演出終了
	判定値数: 40	判定値数: 20	判定値数: 20
	判定値数: 90	判定値数: 5	判定値数: 5
再演出3回 実行しない	再演出3回目に演出終了	再演出3回目に演出終了	再演出3回目に演出終了
	判定値数: 40	判定値数: 20	判定値数: 20
	判定値数: 90	判定値数: 5	判定値数: 5
再演出3回 実行しない	再演出3回目に演出終了	再演出3回目に演出終了	再演出3回目に演出終了
	判定値数: 40	判定値数: 20	判定値数: 20
	判定値数: 90	判定値数: 5	判定値数: 5

【図 88】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2011-019578 (JP, A)
特開2013-000299 (JP, A)
特開2012-249813 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02